

ヒラマ1,,ヒラマン書

ヒラマ1,*-A,ニーファイ人の記録。ニーファイ人の戦争と不和と謀叛の記事。キリスト降臨前の多くの聖い予言者の予言。多くのレーマン人改心の記事。レーマン人の義しいことならびにニーファイ人の罪惡と憎むべき行いの記事。以上はヒラマンの子であるヒラマンの作った記録と

ヒラマ1,*-A-1,この2代目平綿の子孫が作った記録とに由り、キリスト降臨の時に及ぶ。これらの様々の記事を合せてヒラマン書と呼ぶ。

ヒラマ1,,ヒラマン書 第1章

ヒラマ1,*-*,ペホーランの息子ら裁判職を得ようとして争う。2代目のペホーラン、キシクメンのために殺される。ニーファイ人の謀叛人、コリアントメル。ゼラヘムラ市、占領されて取り返される。

ヒラマ1,1,ニーファイの民を治める判事治世40年目の始め、ニーファイ人の中に重大な事件が起った。

ヒラマ1,2,ペホーランはすでに亡くなって世の人々が必ず行く道を行ったから、ペホーランの息子たちは誰が裁判の職をつぐ権利を持つかについて兄弟の中で烈しく争いをした。

ヒラマ1,3,このように裁判の職を争って国民の中にもこのことについて争いを起こさせた兄弟の名はペホーラン、パアンカン、パクメナイと言った。

ヒラマ1,4,初代ペホーランの息子はこの3人だけではない(多くの息子があつた)。しかし、裁判の職を争ったのはこの3人だけであつて、この3人だけであつて、この3人のために国民はついに分裂して3つの党ができた。

ヒラマ1,5,しかしながら、ペホーランは民の投票によってニーファイの民の大判事兼統治者にされた。

ヒラマ1,6,この時パクメナイは裁判の職が得られないことを知って国民の大多数と一致したが、

ヒラマ1,7,これは反してパアンカイと、パアンカイを自分らの統治者にしたいと願う連中とは非常に怒った。そこでパアンカイはこの機を捕えてその連中にへつらい同じ国の民に叛かせようとした。

ヒラマ1,8,しかし、パアンカイは捕らえられて国民の賛成同意を得た裁判の上、謀叛を起して国家の自由を破ろうとした者であると認められて死刑に処せられた。

ヒラマ1,9,ところが、パアンカイを自分らの統治者にしたいと思った連中はパアンカイが死刑にされたことを知って非常に怒り、キシクメンと言う男をペホーランの裁判所へやってペホーランが裁判をしている所をその場で殺させた。

ヒラマ1,10,ペホーランの家来たちはキシクメンを追いかけたが、キシクメンの逃げ足が早くて誰も追いつけなかった。

ヒラマ1,11,キシクメンは自分を裁判所へやった者たちの所へ逃げたが、かれらは皆キシクメンがペホーランを暗殺したことを誰にも知らせないと言う誓いを、その永遠の造り主によって立てた。

ヒラマ1,12,これによって、キシクメンはペホーランを殺す時に姿を変えていたからニーファイの民に知られなかった。キシクメンとキシクメンに誓いを立てた連中は人に見つけられないように国民の中に雑っていたが、見つけられた者はみな殺された。

ヒラマ1,13,さてパクメナイは国民の投票で選ばれ、その兄弟ペホーランの後をついで国民の大判事兼統治者になった。これはパクメナイが当然受けるはずの任命であつた。このような事件はみな判事治世の40年目に怒ったが、これでこの年は終った。

ヒラマ1,14,判事治世の41年目、レーマン人はすでに大軍を集めて剣、太刀、弓矢をこれに持たせ、かぶとをかぶらせ、胸当てとあらゆる楯とを持たせて武装をさせた。

ヒラマ1,15,やがて、かれらはニーファイ人と戦をするためにまたやってきた。その司令長官はコリアントメルと言ってゼラヘムラの子孫であつたが、かれはニーファイ人に叛いて国を去った者であつて体力と勢いとに富んでいる男であつた。

ヒラマ1,16,それであるから、アモロンの子でレーマン人の王であるツバロツはコリアントメルを見て、これは勢いのある男だからその大きな勢力と智恵とによって充分ニーファイ人と戦えると思い、この男をやってニーファイ人に勝りたいものだと考えた。

ヒラマ1,17,そこでツバロツは、レーマン人に怒りの心を起させて兵隊をつくり、コリアントメルを司令長官としてニーファイ人と戦うためにゼラヘムラの地へ進軍させた。

ヒラマ1,18,ニーファイ人は、このように政府部内に不和と困難があつたために、またレーマン人が大きな都のゼラヘムラ市を攻めるために思い切つて組の中央まで侵入してくることはないだろうと思つていたので、ゼラヘムラの地に充分の兵を置かなかつた。

ヒラマ1,19,コリアントメルの大軍を率いてゼラヘムラ市の人々を攻めたが、レーマン人の進軍が非常に速かつたからニーファイ人は兵を集めるひまがなかつた。

ヒラマ1,20,それでコリアントメルは都の門に居つた番兵を切り倒して全軍が市内に侵入し、手むかう者をみな殺して都の全体を占領した。

ヒラマ1,21,大判事パクメナイはコリアントメルから逃げて都の石垣まで行つたが、そこでコリアントメルに撃たれて死

んだ。これがバクメナイの最後であった。

ヒラマ1,22,コリアントメルは、ゼラヘムラ市をすでに占領したことと、ニーファイ人があるいは逃げ、あるいは殺され、あるいは捕えられ、あるいは牢屋に入れられたことと、自分がもはや国中で1番堅固な所を落し入れたことを見て、大いに勇み立ってこんどは全国を統一する

ヒラマ1,22-1,出かけようとした。

ヒラマ1,23,それで、かれはゼラヘムラの地に長くは留らずに、大軍を率いてバウンテフル市の方へ進んだが、これは剣を以て道を切り開き北の地方を占領するためであった。

ヒラマ1,24,コリアントメルは、ニーファイ人の軍の主力が国の中央に居ると思ったので、ニーファイ人が小さな隊に集るひまがないように急いで道を進み、ニーファイ人の小さな隊を襲ってはこれを倒した。

ヒラマ1,25,しかしコリアントメルがこのように国の中央部を通ったから、ニーファイ人の死者が非常に多かったがこれはかえってモロナイハにとって利益となった。

ヒラマ1,26,なぜならば、モロナイハはレーマン人が国の中央まで思い切って侵入してくる勇氣はなく、このたびも前のように国境の都市を攻めるで4あろうと思って、国境の方に強い軍隊を置いて固く守らせておいた。

ヒラマ1,27,ところがレーマン人はモロナイハの望み通には恐れず、すでに国の中央部まで侵入して大きな都ゼラヘムラ市を占領し、国の最も繁華な所を過ぎて行きながら、男、女、子供の差別なく残酷に民を殺し、しきりに多くの都市と多くのとりでを占領した。

ヒラマ1,28,モロナイハはこの状況を見る否や、直ちに敵がバウンテフルの地へ達する前にその進路を断ち切ろうとして、リーハイに1つの軍隊をつけてこれをつかわした。

ヒラマ1,29,リーハイの軍は進んで敵がバウンテフルの地へ行かない中にその進路を断ち切ってこれと戦ったから、敵は逃げてゼラヘムラの地を指して引き返した。

ヒラマ1,30,しかし、モロナイハは敵の退路を立ててこれと戦ったところ、非常に残酷な戦となり、多くの兵が殺されてコリアントメルもその市街を戦死者の中に横えた。

ヒラマ1,31,レーマン人は4方からニーファイ人にかこまれて、北へも南へも東へも逃げるができなかった。

ヒラマ1,32,このように懲り案と目るはレーマン人をニーファイ人とニーファイ人との間にはさまれたから、レーマン人はニーファイ人の手に落ちコリアントメルは殺されてしまったのである。そこでレーマン人はニーファイ人に降参した。

ヒラマ1,33,モロナイハはゼラヘムラ市を取り返し、とりこになっていたレーマン人を無事に何ごともなく国の外へ出してやった。

ヒラマ1,34,これで判事治世の41年目は終わった。

ヒラマ2,,ヒラマン書 第2章

ヒラマ2,*-*,2代目ヒラマン、大判事に任ぜられる。キシクメン殺される。秘密結社。ガデアントン強盗。

ヒラマ2,1,判事治世の42年目に、モロナイハはすでにニーファイ人とレーマン人との間に平和を回復していたが、裁判の職をつぐ者がなかった。それであるから、誰がこの裁判の職をつぐかについてまた争いが民の中に起った。

ヒラマ2,2,その結果ついに初代ヒラマンの子であるヒラマンが、国民の大多数に選ばれて裁判職に任ぜられた。

ヒラマ2,3,しかし、ペホーランを暗殺したあのキシクメンはヒラマンも殺そうと計り、キシクメンの悪事を誰にも洩らさないと言った連中がその後だてとなった。

ヒラマ2,4,ここにガデアントンと言う1人の男があつて、非常に口賢い者で秘密に人殺しと強盗とを行うことが巧みであつたから、かれはキシクメン団の首領となった。

ヒラマ2,5,ガデアントンは、その味方の者とキシクメンとにこびへつらい、もしも自分を大判事にしてくれるならばかれらに権力を与えて民を司どる官吏にしてやると約束をした。そこでキシクメンはヒラマンを殺そうとし、

ヒラマ2,6,その目的を遂げようと裁判所へ行つたところ、ヒラマンの家来の1人が夜姿を変えて出てきて、ヒラマンを殺そうとする連中の計ごとを知っていたから、

ヒラマ2,7,キシクメンに出逢うとかれに合図をした。そこでキシクメンは自分のしようとする目的をこの家来に話し、ヒラマンを殺すために裁判の席へつれて行つてくれと言つた。

ヒラマ2,8,ヒラマンの家来はキシクメンの心の中をすっかり聞きとつて、キシクメンに殺意のあることと、その結社の目的は暗殺、強盗を行い、権力を奪いとるにあること(これがすなわちこの結社の陰謀と主意である)を知り、裁判の席へ一しょに行こうとキシクメンに言つた。

ヒラマ2,9,キシクメンはこれを聞いて非常に喜んだ。それは、これで自分の志が遂げられると思ったからである。しかし2人がつれだつて裁判の席へ行く途中、ヒラマンの家来はキシクメンの胸を心臓までも刺したから、キシクメンはうめき声さえ立てずに倒れて死んだ。そこでこ

ヒラマ2,9-1,走つて行つて、自分が見たこと、聞いた言、行つたことをくわしくヒラマンに話した。

ヒラマ2,10,ヒラマンはこれを聞いて、強盗と暗殺を行うあの連中を国法に照して死刑に処するため、人をつかわし

て捕えさせようとした。

ヒラマ2,11,しかし、ガデアントンハキシクメンが帰ってこないのを見て、これは自分の身が危いと思い、その味方をつれて間道から国を去り荒野の中へ逃げて行った。それであるから、ヒラマンがこの連中を捕えるためにつかわした人がまだ来ない中行方知れずになってしまった

ヒラマ2,12,このガデアントンのことは、後からもっとくわしく述べる。これでニーファイの民を治める判事治世の42年目が過ぎた。

ヒラマ2,13,knoガデアントンがニーファイの民の国を顛覆し、国民をほとんど全滅させたことは本書の終りになって明らかとなる。

ヒラマ2,14,この本書の終りとはヒラマン書の終りの方の文ではない。私が短くまとめて書いたことをみなのせているニーファイ版の終りの文を指すのである。

ヒラマ3,,ヒラマン書 第3章

ヒラマ3,*-*,北方の地へさらに移民が行われる。大きな湖がある地、セメントの建築物。多くの記録を誌す。ヒラマンの息子のニーファイがそのあとをつぐ。

ヒラマ3,1,判事治世の43年目には、教会の中にいささか慢心がきざしたために国民の間に多少の紛争が起ったが、この紛争は43年目の終りにしずまった。このほかにはニーファイの民の中の不和もなかった。

ヒラマ3,2,44年目にも国民の間に不和が起らず、45年目にもかくべつの争いがなかった。

ヒラマ3,3,ところが46年目になると不和がひどくなって謀叛が多く起り、ゼラヘムラの地を去って北の地へ移住する国民が非常に多くなった。

ヒラマ3,4,この人たちは長居旅路を経て、ついに多くの大きな湖と多くの川がある地方へきた。

ヒラマ3,5,そしてかれらは、以前にその地方に住んでいた多くの人々のために荒されず樹木がなくなっていない所々へひろがった。

ヒラマ3,6,この地方には耳目の乏しい所があったが、そのほかには欠乏していなかった。しかし以前その所に住んだ人々の滅亡がひどかったので荒廢地と言ったのである。

ヒラマ3,7,北方の地には木材が少なかったから、ここへ移り住んだ者たちはセメントを使って家を建てて住んだ。

ヒラマ3,8,ニーファイはその入口がますますふえひろがって、南方の地から北方の地へ移り、南の海から北の海に、西の海から東の海に全地の面を占めるようになった。

ヒラマ3,9,北方の地に居って者たちは、天幕やセメントの家に住んでいたが、後から家屋、都市、神殿、会堂、聖堂およびあらゆる建物を建てるのに入用な木材を手に入れるために、その地上に生えるあらゆる木を大きく成長させた。

ヒラマ3,10,北方の地には樹木が非常に少なかったから、南方の地の人は船によって多くの木材を北方の地へ送った。

ヒラマ3,11,それで北の地の人々は木材とセメントで多くの都市を建設することができた。

ヒラマ3,12,アンモンの民の中にはレーマン人の血筋の者で北の地へ移住した者が多かった。

ヒラマ3,13,ニーファイ人の中で多くの人々は民の記録を多く作つたが、その記録はくわしい大部の記録である。

ヒラマ3,14,しかし本經典の中にはこの民の行いの100分の1さえものせることができない。レーマン人の事、ニーファイ人の事、この両つの民の戦争、不和、謀叛、伝道、予言航海の業、神殿と会堂と聖堂の建築、善事、悪事、人殺し、強盗、掠奪、あらゆる憎むべき行い、あら

ヒラマ3,14-1,みだらな行いなどは一々經典にのせることができない。

ヒラマ3,15,しかし多くの書とあらゆる記録があつて、これらは主としてニーファイ人が記録したものである。

ヒラマ3,16,ニーファイ人が罪の淵に沈んで殺され、持物を奪われ、追い立てられ、追い殺され、ここかしこの地へ散らされることなどがあつて、もはやニーファイ人と言われないまでレーマン人と雑って、よこしま、野蛮、猛悪となり実際にレーマン人となつてしまった時まで、以

ヒラマ3,16-1,代々ニーファイ人に伝わった。

ヒラマ3,17,さて、再び私の書くべき記事へ帰ろう。北の地へ移住した者について書いたことは、ニーファイの民の中にひどい不和、騒動、戦争、謀叛などがあつてからのことである。

ヒラマ3,18,判事治世46年目は終った。

ヒラマ3,19,47年目にも、48年目にも国内にはまだ烈しい不和があつた。

ヒラマ3,20,しかし、ヒラマンは正義かつ公平に裁判の職を務め、慎んで神の律法と裁決と命令とを守り、たえず神のみことにかなう事を行い、その父にならつて道をふみ行つたから地に於て栄えた。

ヒラマ3,21,ヒラマンには2人の息子があつて、兄をニーファイと呼び弟をリーハイと呼んだが、どちらも成長するにつれて主を畏れかしこむ道を学んだ。

ヒラマ3,22,ニーファイの民を治める判事治世の38年目の末、ニーファイ人の内乱と不和とはややしずまった。

ヒラマ3,23,判事治世の49年目、強盜ガデアントンが国の中で人口の多い所々に組織した秘密結社を除いては、国中平和を妨げる者はひきつずきなかった。そのころ、政府の司たちはこの秘密結社があることを知らなかったの、これを亡ぼして国外に追いはらうことをしなかった

ヒラマ3,24,同じ年に、教会は非常に栄え何1,000人と言う人々が教会に加わって、すでに悔改めをしたしとして、バプテスマを受けた。

ヒラマ3,25,それであるから、教会の隆盛と民が受けた祝福は、大祭司たちや教師たちまでも、みな非常に驚かすにはおられないほど大きなものであった。

ヒラマ3,26,主の御業の栄えたことは、何万人にさえものぼる数の人々がバプテスマを受けて神の教会に入ったくらいであった。

ヒラマ3,27,これによって考えるに、主はすべてまごころからその聖い御名を呼び求める者に憐みを垂れたもうことが明らかである。

ヒラマ3,28,また、神の御子イエス・キリストの御名を信ずるすべての者のために、天の門が開いていることが明らかである。

ヒラマ3,29,そればかりでなく、また神の御言葉は生命があり力があって、悪魔の狡猾な謀ごと、わな、誘惑をことごとく破り、罪人を引き込むために備えてあるあの永遠の不幸の淵を安らかに渡る真直ぐで狭い道へキリストを頼る者を導く。この神の御言葉を受け入れる心のある者

ヒラマ3,29-1,これを受け入れることができるのは明らかである。

ヒラマ3,30,すなわちこの神の御言葉は、この者の“霊の結合体”すなわち不死不滅となった“霊の結合体”がアブラハム、イサク、ヤコブおよび私たちのすべての聖い先祖と共に天の王国に於て席につき、いつまでもそこを去らないように、これを神の右に導くことが明らかである

ヒラマ3,31,この年に、ゼラヘムラの地とそのまわりの地とニーファイ人の住む国の全体とはたえず喜びに満ちていた。

ヒラマ3,32,49年目の終りまででなく、判事治世の50年目も平和と大きな喜びとが続き、

ヒラマ3,33,判事治世の51年目も教会に起り始めた慢心のほかには平和を妨げるものはなかった。この慢心が神の教会に起り始めたと言ったが、本当は神の教会の中でなくて、自分から神の教会に属していると唱える人々の心の中に起ったのである。

ヒラマ3,34,これらの人々の慢心はようやく増長して多くの同胞兄弟を苦しめるようになった。これは大きな悪事であって、国民の中の謙遜な人たちに烈しい迫害と多くの艱難とを蒙らせた。

ヒラマ3,35,しかし謙遜な人たちはたびたび断食して祈り、ますますへりくだっていいよ固くキリストを信仰したから、喜びと慰めとがその心に満ち、その胸は聖く神聖になった。このようなきよめはこれらの人がその心を全く神に従わせたからできたのである。

ヒラマ3,36,52年目には、国民の心に生じたひどい高慢を除いては平安を妨げるものなしにその年は暮れた。この慢心は、民が地上で大いに富み栄えたから起ったのであって、日に日に増長した。

ヒラマ3,37,判事治世の53年目にヒラマンが亡くなってその長男のニーファイがあとをついで国を治め始めた。ニーファイは正義かつ公平に裁判の職を務め、神の命令を守り、その父にならって道をふみ行った。

ヒラマ4,,ヒラマン書 第4章

ヒラマ4,*-*,レーマン人、再びゼラヘムラの地へ侵入する。ゼラヘムラ市占領される。ニーファイ人、バウンテフルの地へ追いこまれる。モロナイハ、道を固め守る。罪悪によって弱められ、ニーファイ人はもはや勝つことができない。

ヒラマ4,1,54年目に、教会に多くの争いが起り、民の間にも不和が起って互に多くの血を流した。

ヒラマ4,2,謀叛人らはあるいは殺され、あるいは国外に追いはらわれたが、追いはらわれた者たちはレーマン人の王の所へ行った。

ヒラマ4,3,そしてレーマン人を扇動してニーファイ人と戦わせようとした。しかし、レーマン人は非常に恐れて謀叛人らの言うことを聞こうとしなかった。

ヒラマ4,4,判事治世の56年目にも、ニーファイ人から別れてレーマン人に加わった謀叛人があって、前に別れた謀叛人らと一しょになり、今度は首尾よくレーマン人を扇動してニーファイ人に対して怒りを抱かせる目的を達した。そして、その年中レーマン人は戦の準備をした。

ヒラマ4,5,57年目に、レーマン人はニーファイ人と戦うために出てきてニーファイ人を殺し、ついに判事治世の58年目にゼラヘムラの地と、バウンテフルの地に近い地方に至る一切の地とを占領した。

ヒラマ4,6,モロナイハの全軍とニーファイ人とはバウンテフルの地へ追いこまれたが、

ヒラマ4,7,ここでかれらは西の海から東の海に至る地の守りを固めてレーマン人に対する備えをした。このように北も地を守るためにニーファイ人が守りを固めて兵を置いた所に於て、東の海から西の海までのへだたりはニーファイ

人が1日で行ける道のりであった。

ヒラマ4,8,このように、謀叛人であるニーファイ人はレーマン人の大軍の援助を得て、南の地にあるニーファイ人の所有地をみな奪い取ったこれらはみな判事治世の58年目と59年目に起ったことであった。

ヒラマ4,9,判事治世の60年目、モロナイハはその軍隊を以てレーマン人に占領された多くの都市と土地とを取り返し、

ヒラマ4,10,判事治世の61年目にはその全体の所有地を半分ほど取り返した。

ヒラマ4,11,もしもニーファイ人自身の中で行われた悪事と憎むべき行いがなかったならば、かれらはこの大損害と殺戮とは逢わなかったであろう。この悪事と憎むべき行いとは、神の教会に属していると自分で称する人々の中にもあったが、

ヒラマ4,12,ニーファイの民のこの損害と殺戮とを受けたのは、その心が高慢で大きな富をもち、貧しい人たちを圧迫し、飢えている者に食を与えず、はだかである者に着る者を与えず、謙遜な同胞の顔を打ち、聖い物を嘲り笑い、予言者と啓示の“みたま”を否定し、人を殺し、略

ヒラマ4,12-1,偽を言い、強盗を行い、姦淫を犯し、ひどい争闘をし、どっそうしてニーファイの地へ行ってレーマン人に加わったからである。

ヒラマ4,13,ニーファイの民は恐ろしい悪事を行い、自分の力を誇って大言を吐いたから、自分の力意外に頼るものがない有様に捨てておかれた。従って栄えることができずに悩まされ、苦しめられ、その所有地のほとんど全部を失うまでレーマン人に追いはられた。

ヒラマ4,14,モロナイハは人民の罪惡を憂い、さまざまのことを説いてこれを戒めたが、ヒラマンの2人の息子ニーファイとリーハイもまた多くのことを民に宣べ、民が悪事と罪とを悔い改めない場合に受ける報いについていろいろのことを予言した。

ヒラマ4,15,これを聞いて民はついに悔い改めたから、再び栄えるようになった。

ヒラマ4,16,モロナイハは、民が悔い改めたのを見ると、大胆にもこれを率いてここからかしこへ、この都市からかの都市へと行って、とうとうその所有地の半分と全国の半分とを取り返すことができた。

ヒラマ4,17,これで判事治世の61年目は終った。

ヒラマ4,18,判事治世の62年目にモロナイハはレーマン人がまだ占領している所を取り返すことができなかった。

ヒラマ4,19,それであるから、ニーファイ人はその所有する残りの地を取り返す考えをすてた。レーマン人の数がニーファイ人のとても勝てないほどに多かったから、モロナイハはこれまでに取り返した所だけを守り固めるのに全軍を用いた。

ヒラマ4,20,ニーファイ人はレーマン人の数が多いのを見て、これに破られて踏みつけられ、殺され、亡ぼされはしないかと非常におそれて、

ヒラマ4,21,アルマの予言とモーサヤも言葉とを思い出し、これによって自分らがかたくなで神の命令をないがしろにしたこと、

ヒラマ4,22,また国法すなわち主がモーサヤに命じて国民のために立てさせたもうた国法を曲げ、これを足の下に踏みじったこと、またその国法が早くも乱れて自分らは悪人になり、むしろレーマン人のような悪人に鳴ったことを認めた。

ヒラマ4,23,かれらが罪惡を犯したために教会は弱くなりかけた。教会員は予言の“みたま”と啓示の“みたま”を信じないようになったから、神の裁きは今にもかれらに下ろうとしていた。

ヒラマ4,24,かれらは同胞であるレーマン人と同じように薄弱になって、主の“みたま”がもはや自分らを守りたまわないことを覚った。まことに主の“みたま”は清くない殿に宿りたまわないから、すでにニーファイ人から去ってしまったのである。

ヒラマ4,25,かれらは無信仰と恐ろしい罪惡の有様に陥ったから、主はもはやその奇跡的なたぐいがない力でかれらを守りたまわなかった。それであるから、かれらはレーマン人の数が自分たちよりもはるかに多いのを見て、その神である主に固くすがるなければ必ず亡びるにちがいない

ヒラマ4,25-1,認めた。

ヒラマ4,26,なぜならば、1人のレーマン人はその力が1人のニーファイ人に劣らないことを知っていたからである。このようにしてニーファイ人は非常な罪惡に陥り、多くの都市を経ないうちにその罪のために弱くなってしまった。

ヒラマ5,,ヒラマン書 第5章

ヒラマ5,*-*,ニーファイ、セゾーラムに裁判の職をゆずる。ニーファイその兄弟のリーハイと共に伝道に献身する。驚嘆すべき示現。改心したレーマン人らが、征服されたニーファイ人の地を回復する。

ヒラマ5,1,この年ニーファイは、セゾーラムと言う人に裁判の職をゆずった。

ヒラマ5,2,これは、ニーファイ人の国法と政治とはみな人民の投票できめられたが、そのころ悪につく人の数が善につく人の数よりも多かったから、国法が乱れて腐敗し国民が亡びようとしていたからである。

ヒラマ5,3,これだけではない。ニーファイ人はかたくなな民であったから、国法もしくは正義の道をそのまま失効すると亡びるほかにはなかったからである。

ヒラマ5,4,それで、ニーファイは国民の罪惡にあぐんで裁判の職をゆずり、神の道を宣べ伝えることに余勢を捧げようと決心をした。その兄弟のリーハイもまた同じことを決心した。

ヒラマ5,5,この2人はその父篋万我自分らに話した言葉を思い出したが、父は2人に、

ヒラマ5,6,"私の子らよ。私はお前たちが忘れずに神の命令を守りこれを民に伝えることを望む。私はエルサレムの地からきた私たちの先祖の名をお前らに与えた。このわけはお前らが自分の名前を思うたびに先祖のことも思わせ、先祖を思うたびに先祖の行いもまた思わせ、先祖の

ヒラマ5,6-1,思うたびにその行いの善かったことが言伝えにも記録にもこっているのを知らせるためである。

ヒラマ5,7,それであるから、わが子らよ。私はお前たちに、先祖について言い伝えられ書き伝えられたと同じことが、お前たちについても言い伝えられ書き伝えられるように善い事をしてもらいたい。

ヒラマ5,8,私の子らよ。このほかに私がお前たちに望むことがある。それはお前たちが大言を吐こうとして善い事をするのではなくて、お前たちがいつまでもなくならない永遠の宝を自分のために天に貯えるよう、すなわちあの貴い賜である永遠の生命を得るために善い事をするこ

ヒラマ5,8-1,私たちの先祖はすでに永遠の生命を受けているように思われる。

ヒラマ5,9,わが子らよ。ベンジャミン王がその民に話した言葉を忘れるな。この世に降臨して身代りの贖罪をなしたもうはずのイエス・キリストによらなければ、人が依り頼んで救われる道も方法もない、またキリストは依の人々を贖うために降臨したもうことを忘れるな。

ヒラマ5,10,アミュレクがアモナイハ市でゼーブロムに告げた言葉を忘れるな。その時アミュレクはゼーブロムに告げて、主キリストはその民を贖うために必ず降臨したもうが、民を罪のあるままには贖いたまわらない。その罪から民を贖うために降臨したもうと言った。

ヒラマ5,11,もしも人々が悔い改めるならば、主はこれをその罪から贖う権威と能力とを御父から授かりたもう。それであるから、主は悔改めの条件を示して教えるためにその使たちを世の人々につかわしたもうた。悔改めの条件は、すべてこれを守る人々を贖い主の権能の及ぶ範囲

ヒラマ5,11-1,その人々に救いを得させる。

ヒラマ5,12,さてわが子らよ。お前たちは神の御子キリストである私たちの贖い主の岩を基にしなくてはならないことを忘れるな。贖い主の岩を基にするならば、悪魔がその大風を吹かせて柱のように立つつむじ風をまき起すとき、また悪魔の雹と暴風雨とがお前らを打つとき、悪魔は

ヒラマ5,12-1,打ち勝って不幸の淵と永遠の悲慘にお前たちをひき落す能力はない。なぜならば、お前らの立つ岩は堅固であって人がその上に立つと倒れることのできない基であるからである"と言った。

ヒラマ5,13,以上はヒラマンがその子らに教えた言葉である。ヒラマンはこのほかにまだ書いてない多くの事も、すでに書いてある多くの事もその子らに教えた。

ヒラマ5,14,子らは父の言葉を忘れず、神の命令に服従して、ニーファイの全国民に神の道を教えて伝えるために出て言ったが、まずバウンテフル市へ行き、

ヒラマ5,15,つぎにギド市に行き、ギド市からミュレク市に移り、

ヒラマ5,16,この市かの市と経めぐって、ついに南の地方に居るニーファイの民の中へ行って方々を訪ね、その後ゼラヘムラの地にも行ってレーマン人の間で道を伝えた。

ヒラマ5,17,かれらは偉大な能力を奮って道を説いたので、ニーファイ人から別れて去った謀叛人を多数説き破った。そこでこの連中は出てきて各々その罪を告白し、すでに悔い改めたしるしとしてバプテスマを受け、これまでニーファイ人に加えた害を一切つぐなうためにすぐとニ

ヒラマ5,17-1,ニーファイ人の中へ帰って行った。

ヒラマ5,18,ニーファイとリーハイは伝道に必要な権能と威勢とを与えられ、また言うべきことも示されたから、大きな権能と威勢とを以てレーマン人に道を宣べた。

ヒラマ5,19,それでレーマン人らは大いに驚いて感化を受け、そのころゼラヘムラの地ならびにそのまわりには、すでに悔い改めたしるしとしてバプテスマを受け、その先祖の言い伝えが悪いと認めるようになった者が8,000人あった。

ヒラマ5,20,ニーファイとリーハイはそこからニーファイの地へ行こうとして出発したが、

ヒラマ5,21,レーマンの1軍に捕まって牢屋へ入れられた。その牢屋と言うのは、リムハイの家来たちがアンモンとその兄弟たちを入れた牢屋と同じものであった。

ヒラマ5,22,ニーファイとリーハイは食物もなしに多くの日を牢屋の中で送ったが、人々が2人を出して殺すために牢屋の中へ入ったところ、

ヒラマ5,23,ニーファイとリーハイとが火のようなものに取り巻かれているのが見えたから、自分らの身が焼かれはせ

ぬかと思って、2人に手を触れる勇気が出なかった。ところが、ニーファイとリーハイとは火の中にも少しもやけどをしなかった。

ヒラマ5,24,2人は火の柱にとりまかれていながら少しも焼けないばかりか、

ヒラマ5,25,レーマン人が思い切ってこの2人に手を触れまたは近づくことができず、また驚いても何も言えずあつげにとられて立っているのを見て勇気を出し、

ヒラマ5,26,立ち上がって人々に“恐れるな。見よ、この不思議を汝らにあらわしたのは神である。汝らがわれらを捕えて殺せないのはこの不思議によっても明らかである”と言った。

ヒラマ5,27,2人がこう言うや否やたちまち地が烈しく震い、牢屋の壁が地に倒れるばかりにゆり動いたが、それでも倒れはしなかった。牢屋の中に居た者たちは、レーマン人と謀叛人であるニーファイ人とであったが、

ヒラマ5,28,どちらも黒雲のようなもので囲まれたので容易ならぬ恐怖におそわれた。

ヒラマ5,29,その時1つの声が黒雲の上にあるかのように聞こえて“悔い改めよ、悔い改めよ。汝らに良き音ずれを伝えるため、わが汝らにつかわしたるわが僕らを亡ぼさんとするのを止めよ”と命じて言った。

ヒラマ5,30,人々がこの声を聞くと、それは雷の劣でもなくまた大きな騒しい音でもなくて、全くやさしくささやくような静かな声であったが、人々の心の底まで貫いた。

ヒラマ5,31,その声がやさしかったにもかかわらず、地が再び激しくふるい、牢屋の壁は地似通れるばかりにゆり動き、かれらを囲む黒雲はかれらの上を去らなかつた。

ヒラマ5,32,すると見よ、再び同じ声で“天国は近きにあれば悔い改めよ、悔い改めよ。わが僕らを亡ぼさんとするのを止めよ”と命ずるのが聞えたが、またまた地が震い、壁がゆれ動いた。

ヒラマ5,33,それから3度目にまた同じ声がして人間の出せない不思議な言葉が聞こえたが、壁がまたまたゆり動き、地は割れるばかりに振動した。

ヒラマ5,34,レーマン人は黒雲に囲まれていたので逃げるができず、また恐怖のために動くこともできなかつた。

ヒラマ5,35,このレーマン人の中にニーファイ人の血筋のものが1人あった。この者は前に神の教会に属していたが、今はもはや教会から離れていた。

ヒラマ5,36,かれがふりかえって黒雲をすかして見るとニーファイとリーハイとの顔が見え、どちらも天使の顔のように非常に光り輝いて、2人の目に見える何者かと天を仰いで話し合っている様子であった。

ヒラマ5,37,かれが群がっている人々もまたふりかえって見よとよばわったので、群衆は力づいてふりかえって見るとニーファイとリーハイとの顔が見えた。

ヒラマ5,38,そこでかの者に“これは一体何のことか。この2人は誰と話し合っているのか”と問うと、

ヒラマ5,39,かれはその名をアミナダブと言ったが、アミナダブはこの時群衆に“2人は神の使と語り合っているのだ”と答えた。

ヒラマ5,40,それで、レーマン人がアミナダブに“私らがどうするとこの黒雲が私らの上を離れて去るだろうか”と聞くと、

ヒラマ5,41,アミナダブはこれに答えて“悔い改めて、アルマ、アミュレク、ゼズロムが教えたキリストを信ずることができるようまで先刻聞えたあの声に祈らなくてはならぬ。そうすればこの黒雲はまわりから離れ去る”と言った。

ヒラマ5,42,そこでレーマン人らはみな地をふるわせたあの声を出した御方に祈りはじめ、黒雲が離れ去るまで祈りつづけた。

ヒラマ5,43,やがて身のまわりを見まわすと、黒雲はもはや離れ去って自分らを囲んでいなかったが、見よ、このたびは1同のこらず火の柱にとりまかれていることを覚った。

ヒラマ5,44,ニーファイとリーハイもこの群衆の中に居た。かれらはみなとりかこまれてあたかも焰をあげる火の中に居るようであったが、火は少しもかれらを焼かずまた牢屋の壁に燃えつくこともなかつたので、1同はみな栄光の溢れる、口に言い表せない喜びに満たされた。

ヒラマ5,45,見よ、神の聖い“みたま”が天をくだって群衆の心に入ったから、かれらは皆胸に火が満ちて暖まる心持ちがして不可思議な言葉を語り出すことができた。

ヒラマ5,46,するとまたささやくような優しい声がして、

ヒラマ5,47,“心を安んぜよ。汝らは創世の前ゆおり在りわが深く愛する子を信ずる故、心を安んぜよ”と仰せになるのが聞えた。

ヒラマ5,48,群衆はこれを聞いて声がどこから来るかと仰いで見ると、天の開くのが見え、天使らが天くだってかれらに恵を施した。

ヒラマ5,49,これらのことを見たり聞いたりした者が約300人あった。この者たちは怪しまず疑わずに巡って行ってこれを伝えて弘めようと命ぜられた。

ヒラマ5,50,よって、かれらは出て行って民に教えを伝え、その見聞した一切のことをまわりの各所に宣べ弘めたから、この証拠が偉大で確実であるためにレーマン人の大半はこの事を信ずるようになった。

ヒラマ5,51-52,そしてこれを信じた者たちは皆その武器をなげ捨て、その怨みを棄て、その先祖の言伝えをすて、かれらが占領した土地をニーファイ人に返した。

ヒラマ6,,ヒラマン書 第6章

ヒラマ6,*-*、レーマン人、宣教師をニーファイ人に送る。平和と自由が全地に満ちた。リーハイの地とミュレクの地、セゾーラムとその息子が殺される。ガデアントン強盗、政府を取る。

ヒラマ6,1,判事治世の62年目の中に、すでにこれらの事はみな行われてレーマン人は多くはもはや義人となった。かれらの信仰は堅固でその行いは確実であったから、その義はニーファイ人の義よりも勝っていた。

ヒラマ6,2,ところが見よ、多くのニーファイ人は早くもかたくなになって、悔改めをせず、甚しくよこしまになったから、神の道を拒み、また自分らに伝わった説教も予言もことごとくこれを拒んだ。

ヒラマ6,3,しかし、教会員たちはレーマン人が改心をしたことと、レーマン人の中に神の教会がたったことのために一方ならず喜んだ。そしてこのレーマン人らと教会の会員たちとは愛交わって共に喜びまことに幸福であった。

ヒラマ6,4,多くのレーマン人はゼラヘムラの地へやってきて、自分らが改心して次第をニーファイ人に話し、信仰をしなくてはならぬこと、悔改めをしなくてはならぬことをかれらに勧めたが、

ヒラマ6,5,多くのレーマン人は非常な権能と威勢とを以て説教して、多くのニーファイ人を低くへりくだらせ、神と子羊(キリスト)との謙遜な信者とした。

ヒラマ6,6,多くのレーマン人は北方の地へ行き、ニーファイとリーハイも国民に道を宣べるために北方の地へ行った。このようにして63年目は過ぎ去った。

ヒラマ6,7,見よ、全地はことごとく平和であったから、ニーファイ人はニーファイ人の所とレーマン人の所とを問わず、どこへでも自由に自分の行きたい所へ行けた。

ヒラマ6,8,レーマン人もまた同様で、レーマン人の所とニーファイ人の所とを問わず、どこへでも自由に自分の行き隊所へ行けた。このようにして両国民は自由に交通し合い、思う通りに売り買いして利益を得た。

ヒラマ6,9,それで、レーマン人もニーファイ人も共に非常に富んで、南の地にも北の地にも金、銀およびあらゆる貴金属を豊かに持っていた。

ヒラマ6,10,そして南の地はこれをリーハイと名づけ、北の地はゼデキヤの子の名をとってこれをミュレクと名づけた。これは主がミュレクを北の地へ導き、リーハイを南の地へ導きたもうたからである。

ヒラマ6,11,この両地にはあらゆる金、銀および貴い鉱物があってこのいろいろな鉱物を清れんし、これを珍らしい形に細工をする人々もあったから、国民は富むようになった。

ヒラマ6,12,かれらは北の方でも南の方でも豊かに穀物を作り、北の地でも南の地でも一方ならず栄え、人口がふえて地上で非常に強いものとなり、多くの牛の群、羊の群および肥えた家畜を飼った。

ヒラマ6,13,この国の女は労働をして紡績に従事し、はだかを覆うために細いリンネルの糸であらゆる織物を造り、またほかのあらゆる織物を造った。このようにして64年目はおだやかに過ぎた。

ヒラマ6,14,65年目にも大きな喜びと平和とがあり、将来起ることについて説教と予言が多く行われた。このようにして65年目も過ぎて行行った。

ヒラマ6,15,容? 判事治世の66年目、セドーラムは裁判の席についていたとき何者かに暗殺された。また同じ年に民がセゾーラムの後任にしたセゾーラムの息子もまた暗殺された。これで66年目は終った。

ヒラマ6,16,67年目の始め、国民はまた非常に悪くなり始めた。

ヒラマ6,17,それは国民が長い間主から浮世の富を与えられて、扇動をされて怒ったり戦ったり人を殺したりすることはなかったから、その富に執着して互いに自分の地位を高めるために利益を貪るようになり、それがためによりやく暗殺、強盗、掠奪をし始めたからである。

ヒラマ6,18,このような暗殺と掠奪を行なった者たちは、すなわちキシクメンとガデアントンとの始めた結社であったが、ニーファイ人の中にさえもガデアントン結社の連中が多く居て、悪い方のレーマン人の中にはもっと多く居た。そして、この結社はガデアントン強盗殺人団と呼ば

ヒラマ6,19,大判事セゾーラムとその息子が裁判の席についていたとき、これを暗殺したのはこの連中であつたが、これを捕えることはできなかった。

ヒラマ6,20,レーマン人は自分の同国人の中に強盗があつたことを知って非常に心を痛め、これを地上から亡ぼしてしまおうと、できる限りのあらゆる方法を尽した。

ヒラマ6,21,しかしニーファイ人の大部分は、サタンにその心を扇動されたのでこの強盗の結社に入り、どのように困難な場合に於ても、人殺し、掠奪、盗みをしたために罰を受けないよう、互いにかくまって守ろうと言う誓約を立てた。

ヒラマ6,22,この強盗団には、誓いを立てた仲間を見分けるために秘密の合図と秘密の言葉とがあり、その仲間がどのような罪惡を犯してもほかの同類すなわち誓いを立ててこの結社に属した者から危害を受けない定めであった。

ヒラマ6,23,それでその国の法律とその神の律法に叛いて暗殺、掠奪、盗み、みだらな行い、あるいはあらゆる罪惡

を容易に犯すことができた。

ヒラマ6,24,この結社に属している者は、誰であってもその結社が行う悪事と憎むべき行いとをほかに洩すときは必ず裁判をされる定めであったが、これは国法による裁判ではなくて、ただガデアントンとキンクメンとが起したこの悪い結社の条例による裁判であった。

ヒラマ6,25,見よ、この結社が秘密にする誓いの言葉と約定の方法こそ、これを公にしたなら国民の滅亡を招きはしないかと思って、世の中の人に示してはならないとアルマがその息子に言いつけたあの秘密の誓いの言葉と約定の方法である。

ヒラマ6,26,しかし、見よ。ガデアントンとヒラマンに授けられたあの歴史の中からこの秘密の誓いの言葉と約定の方法を学んだのではない。私たちの始祖をそそのかして禁断の実を食べさせたあの悪魔がこの考えをガデアントンの心の中に起させたのである。

ヒラマ6,27,この同じ悪魔はカインと謀って、弟のアベルを殺してもその罪が公然とは知られないと言ってカインをいざなった。その時以来、悪魔はカインやその同類と計ごとを立てたのである。

ヒラマ6,28,この同じ悪魔はまた天に届くほど高い塔を建てようと言う考えを世の人の心に起させ、その塔の所からこの地へやって来た者たちをいざなって悪事と憎むべき行いとをこの地の全体に弘めさせ、ついにここに居た民をことごとく亡ぼしてこれを永遠の地獄へひきおとした

ヒラマ6,29,この悪魔はまた、ガデアントンにもっと悪事と暗殺とをつづけて行うことを考えさせ、また人間が造られたときから今に至るまでこのような悪事を世の中に行わせた。

ヒラマ6,30,あらゆる罪の源はこの悪魔である。かれは世の人心を支配する力に従って代々悪事と暗殺とを行わせ、その陰謀と誓いの言葉と約定の方法と恐ろしい悪を行う策とを代々伝えさせた。

ヒラマ6,31,見よ、そのころこの悪魔はすでによくニーファイ人の心を支配していたから、ニーファイ人は非常に悪くなり、その大部分は義の道を離れて神の命令を足の下に踏みつけ、よこしまであって自分らの欲をほしいままにし、自分らのために金や銀で偶像を刻んで建てた。

ヒラマ6,32,このようないろいろの罪はみなまだ多くの年が経たないうちに起ったが、その大部分はニーファイの民を治める判事治世67年目に起ったことである。

ヒラマ6,33,68年目にもニーファイ人の罪がますますひどくなったから、義人らはこれを非常に憂い悲しんだ。

ヒラマ6,34,これによって見ると、ニーファイ人がますます信仰を失って、その罪と憎むべき行いとがいよいよひどくなるにひきかえ、レーマン人はその神を知る知識がますます加わり、神の律法と命令とを守って神の前に誠実正直に暮したことが明かである。

ヒラマ6,35,それだけでなく、ニーファイ人が罪惡におちいってその心がかたくなであるにより、主の“みたま”がようやくかれらから離れ去り、

ヒラマ6,36,レーマン人が容易に甘んじて主の道を信ずるから、主がますますその“みたま”を授けたもうたことが明かである。

ヒラマ6,37,レーマン人はガデアントン強盗団の連中を搜索して、その中のひとときわ悪い者たちに神の道を宣べ伝えたから、レーマン人の中にはこの強盗団が全くそのあとを絶った。

ヒラマ6,38,これに反してニーファイ人は、この強盗団の中でひとときわ悪い者たちを始めとし団全体を助力して維持したから、この結社はニーファイ人の全国にはびこり、義人の大部分さえも誘惑して結社のすることを賛成させ、結社が掠め取った物を配分し、一しょに暗殺を行わせ

ヒラマ16,38-1,秘密結社に入らせた。

ヒラマ16,39,このようにしてこの強盗団は政府の支配権を全部奪いとり、貧しい者、柔和な者、神に従う謙遜な者たちを足の下に踏みつけ、かれらを撃ち、かれらを裂き、かれらの願いを拒んだ。

ヒラマ16,40,これによって見ても、ニーファイ人がすでに恐ろしい状態におちいり、永遠の滅亡に陥ろうとしていたことが明かである。

ヒラマ16,41,これでニーファイの民を治める判事治世68年目は終わった。

ヒラマ7,*-A,ヒラマンの子であるニーファイの予言

ヒラマ7,*-A,神はニーファイの民に、もしその悪事を悔い改めないならば怒ってことごとく亡ぼしてしまうぞとおびやかしたもう。神はニーファイの民に禍を下したまい、ニーファイの民悔い改めて神に立ち帰る。レーマン人であるサムエル、ニーファイ人に予言をする。第7章から

ヒラマ7,*-A-1,至る。

ヒラマ7,,ヒラマン書 第7章

ヒラマ7,*-*,ニーファイ、北方の地の民にしりぞけられてゼラヘムラへ帰る。ニーファイ、自分の庭にある塔の上から神に祈って群衆に語る。

ヒラマ7,1,ニーファイ人を治める判事治世の69年目に、ヒラマンの子であるニーファイは北方の地からゼラヘムラの

地へ帰ってきた。

ヒラマ7,2,ニーファイは、それまで北方の地に住む民の間をめぐってあるいて、神の道を民に宣べ伝え多くの予言をした。

ヒラマ7,3,ところが、この民はニーファイの説く道をことごとく信じなかったから、ニーファイはもはやその中にとどまっておれずに、とうとう生れ故郷へ帰ってきたが、

ヒラマ7,4,今や国民が恐ろしい罪惡の状態にあることと、ガデアントン団の強盜たちが、国を支配する権能を奪いとって、もろもろの判事の職を占めているのを見た。この強盜たちは神の命令を棄てて神の前に少しも善を行わず、正義を以て人をあつかわなかった。

ヒラマ7,5,かれらはまた引つづいて政府の最も重要な地位を占め、ほしいままに国を支配し心の欲するままにふるまい、浮世の利益と誉とを求め、更にたやすく姦淫、強盜、人殺しなどを行い、自分らの欲望を遂げるために義人を義しいから罪ありとし、罪惡と悪人とかからは金銭を

ヒラマ7,5-1,受け取ってこれを罰しないで放してやった。

ヒラマ7,6,多くの年もたたないうちにこの恐ろしい罪惡がニーファイ人の中で行われた。ニーファイはこの有様を見て胸を痛み心に苦しみ悲しんで叫んで言った。

ヒラマ7,7,"ああ、私の先祖ニーファイがエルサレムの地から出てきたその昔に私も生きていたならよかったものを。私もニーファイとしよに約束の地に居て喜んだものを。その時ニーファイの民は容易く勧めに従い、神の命令を確く守り、罪惡に誘われることは遅く、主の御言

ヒラマ7,7-1,行うことは早かった。

ヒラマ7,8,その時私がもしも生きていたならば、同胞の義しい有様を見て必ず喜びが心に満ちたことであろう。

ヒラマ7,9,ところが見よ、今私は生きて同胞の罪惡を見、憂いと悲しみが私の心に満ちる生涯となってしまう"と。

ヒラマ7,10,ニーファイは、ゼラヘムラ市第1の市場へ行く大通りに近い自分の庭の門の傍に立つ塔の上にひれ伏していた。

ヒラマ7,11,その時ある人々がここを通りかかって、ニーファイが塔の上で全身全霊をかたむけて神に祈っているのを見、すぐに走って行ってこのことを市民に知らせたので、市民は民の罪惡のためにこれほどまでにニーファイが悲しんでいるわけを知ろうとして、大勢が塔に集って

ヒラマ7,12,そこでニーファイは立ち上がって群っている人々を見、

ヒラマ7,13,これらの人々に語り出して言った"あなたたちはどう言うわけでここへ集ってきたか。あなたたちは自分の悪事を私から聞こうとして集ってきたか。

ヒラマ7,14,または、あなたたちの罪惡のために私の心に満ちている非常な憂いと悲しみとについて、私が私の神に全身全霊をかたむけて祈るために塔にのぼっているのを見て集ってきたか。

ヒラマ7,15,私が悲しみ歎いているから、いるから、あなたたちは集って驚いている。驚くのはまことに当然である。あなたたちは墮落をしてこれほどまでに強く悪魔に自分の心を支配させているから、私が悲しみ歎くを見て驚くのは当然なことである。

ヒラマ7,16,あなたたちは、自分の身も霊も永遠の不幸悲惨な境涯におとし入れようとしている者の誘惑にどうして負けているのか。

ヒラマ7,17,悔い改めよ、悔い改めよ。どうしてあなたたちは亡びようとしているか。立ち帰れ、あなたたちの神であるしよに立ち帰れ。神があなたたちを棄てたもうたのはなぜであるか。

ヒラマ7,18,あなたたちが心をかたくなにして善い羊飼いの声を聞かず、善い羊飼いにあなたたちを怒らせたからである。

ヒラマ7,19,ごらん、あなたたちがもしも悔い改めなかったならば、主はあなたたちを集めず、かえってまき散らして犬や野獸の餌になさるであろう。

ヒラマ7,20,ああ、あなたたちは自分が神に救われたその日になぜ神を忘れたか。

ヒラマ7,21,これは利益を得て世の人々に誉められ、金銀を得んがためである。まことにあなたたちは浮世の富と空しいものに執着し、これを手に入れようとして人殺し、掠奪、盗みを行い、隣りの人に対して偽り証を立て、あらゆる悪事をする。

ヒラマ7,22,それであるから、悔い改めないならば禍があなたたちにふりかかるであろう。悔い改めないならば、この大きな都も、また私たちが持っている地にあるあらゆる大きな都会もみな占領をされて、その中にあなたたちの居場所がなくなるであろう。主は今まで敵を防ぐ力

ヒラマ7,22-1,あなたたちに与えたもうたが、これからはもう与えたまわない。

ヒラマ7,23,主が仰せになった'悪人が己が罪を悔い改めずわが言葉に聞き従う者にあらざば、われは他の者に現わすよりもさらに多くの力をこの者に現わすまじ'と。それであるから、私の兄弟たちよ。あなたたちが悔い改めないなら、レーマン人の方があなたたちより幸福である

ヒラマ7,23-1,ことを知ってほしい。

ヒラマ7,24,レーマン人はあなたたちが受けているような大きな知識に対して罪を犯していないから、あなたたちよりも義しい。それであるから、主はレーマン人に憐みを垂れたもうて、汝らが悔い改めないで全く亡びてしまったあとまでもレーマン人を生き永らえさせ、その子孫を

ヒラマ7,24-1,ふやさせたもう。

ヒラマ7,25,あなたたちは、自分らの中に起ったあの大きな悪い結社を持っているから禍である。あなたたちはあの結社、すなわちガデアントンが起したあの秘密結社に加わっている。

ヒラマ7,26,あなたたちの心の中につける傲慢があるから禍があなたたちにふりかかる。あなたたちは非常に大きな富を持っているからと言って、この傲慢を法外に高ぶらせている。

ヒラマ7,27,あなたたちは、まことに自身の罪惡と憎むべき行いがあるから禍である。

ヒラマ7,28,あなたたちが悔い改めなければ必ず亡びてしまい、自身が持っている土地さえもかすめ取られてあなたたちは地上から亡ぼしてしまわれる。

ヒラマ7,29,ごらん、私は自分でこのことを知っているのではない。それであるから、これらのことが確に起ると言うのは私1箇の考えではない、主なる神がことごとくこれを私に示したもうたから、私はそれが本当であることを知り、それが将来必ず起ることを証する”と。

ヒラマ8,,ヒラマン書 第8章

ヒラマ8,*-*、ニーファイの話、つづく。腐敗した判事たち、空しく人民を誘ってニーファイに反対をさせる。ニーファイ、靈感によって大判事が殺されることを声明する。

ヒラマ8,1,ニーファイが以上のように言い終ったとき、その場に居合せたガデアントンの秘密結社に属する判事らは、怒ってニーファイに反対し人民に向って大声で”汝らはなぜこの者を捕えて、その犯した罪の罰を受けさせるために引いてこないのか。

ヒラマ8,2,なぜ汝らはこの者の顔を見、またこの者が国民と国法とをのしるのを聞きながら、何もしないのか”と言った。

ヒラマ8,3,ニーファイは人民の国法が腐敗しているのを群衆に話し、またここに掛けない多くのことを話したが、神の命に背くことは1つも言わなかった。

ヒラマ8,4,ところが、ニーファイはそこに居合せた判事らが秘密に犯した悪事を明らかに話したから、判事らは起った。しかし、かれらはもしニーファイを捕えたなら、人民がやかましく反対して騒ぐといけないと思い、思い切ってニーファイを捕えなかった。

ヒラマ8,5,それでかれらは声を上げて群衆に”お前たちはどうしてこの者にわれらをのしらせて見ているのか。見よ、かれはこの全国の民は罪があると言ってその滅亡を宣告し、またわれらの大きな都市もみなわれらから掠め取られ、その中にわれらの居場所もないようになる

ヒラマ8,5-1,言っておる。

ヒラマ8,6,しかし、われらはこのようにことがあるはずがないことを知っている。われらは強くわれらの都市は大きいから敵は決してわれらに割ことはできない”と言った。

ヒラマ8,7,このように判事たちは人民を扇動してニーファイに対する怒りを起させ、人民の中に争いを生じさせた。争うが生じたのは”この人は良い人である。われわれがもし悔い改めないと必ずこの人の言葉通りになるであろう。この人に手をかけてはならない。

ヒラマ8,8,われらは、この人がわれらの罪惡について正しい証をしていることをよく知っている。従ってこの人がわれらに証をしたことの裁きはことごとくわれらが受けなくてはならない。われらの罪惡は多い。この人はわれらの罪惡を知っていると同様に、われらの受けるあらゆる

ヒラマ8,8-1,みな知っている。

ヒラマ8,9,見よ、この人がもし予言者でなかったならば、われらの罪惡について証をすることはできなかったであろう”と叫ぶ人々もあったからである。

ヒラマ8,10,そこで、ニーファイを殺そうとした者たちも恐れてニーファイに手をかけることはできなかった。よってニーファイは群衆の中に幾人か自分に好意をよせている者があってそのほかの人々が恐れている様子を見て、また人々に話しかけた。

ヒラマ8,11,ニーファイは、もっと群衆に話さなければならないと感じて言った”私の兄弟たちよ。神は紅海の水を打ってこれを右と左へ分ける力をモーセと言う一人の人に与えたもうた。それで、私たちの先祖であるイスラエル人は乾いている陸を歩いて海を通り過ぎたが、そのあ

ヒラマ8,11-1,海の水はもとのところへかえり、エジプト人の軍隊を呑みこんでことごとくこれを溺らせてしまったことは、あなたたちが読んだではないか。

ヒラマ8,12,ごらん、もし神が本当にこのような大きな力をモーセに与えたもうたならば、あなたたちはなぜ互いに争

って、悔改めをしないとあなたたちに下るはずの裁きを知る力を神が自分に与えたことはないと言っているのか。
ヒラマ8,13,あなたたちは私の言葉を否定するばかりでなく、また私たちの先祖が宣べたすべての言葉と、前に言うような大きな力を与えられたモーセの言葉、すなわちモーセがメシヤの降臨について告げた言葉も否定するのである。

ヒラマ8,14,モーセは神の御子が降臨したもう証拠を立てたではないか。モーセが荒野に於て黄銅の蛇を上げたように、後に降臨なさる御方もまた上げられたもうと言うことと、

ヒラマ8,15,およそこの黄銅の蛇を見る者はみな命が助かるように、およそ信仰と悔いる精神とを以て神の御子に頼る者はあの永遠の生命を受けると言うことは、モーセがこれを証拠立てた。

ヒラマ8,16,このような証拠を立てたのはひとりモーセだけではなくて、その時からさかのぼってアブラハムの時代に至る聖い予言者たちもまた皆これを証した。

ヒラマ8,17,アブラハムも神の御子の降臨を先見し、喜びに満たされて楽しんだ。

ヒラマ8,18,私は明らかに言う。これらのことを知っていたのはアブラハムだけではなくて、アブラハムの時代より前にも神の神権、すなわち神の御子の神権に召された人々が少なくなかったが、その人々もまたこれらのことを知っていた。このように人々が神の神権に立てられたわけ

ヒラマ8,18-1,神の御子が降臨したもう時より数千年も前の人々に贖救がこれらの人々にも与えられると言うことを示すためであった。

ヒラマ8,19,私はアブラハムの時代の後にも、これらのことを証した予言者が多かったことをあなたたちに知らせたいと思う。予言者ゼノスは勇敢に証拠立てたが、これがために殺されてしまった。

ヒラマ8,20,またゼノク、イザヤス、イザヤ、エレミヤも証を立てた。(エレミヤはすなわちエルサレムの破壊を予言した予言者である)。エルサレムがエレミヤの言った通りに亡ばされたことは私たちが知っている。それであるから、エレミヤが予言した通りに神の御子がどうして

ヒラマ8,20-1,まわらないことがあるだろうか。

ヒラマ8,21,今あなたたちは、エルサレムが破壊された事実を否定しようとするか。また、あなたたちはゼデキヤの息子たちがミュレクのほかにみな殺された事実をそうでないと言うか。ゼデキヤの子孫がエルサレムの地から追われて、今私たちと一しょに居ることはあなたたちが認め

ヒラマ8,21-1,事実ではないか。見よ、こればかりではない。

ヒラマ8,22,私たちの先祖のリーハイも前に言ったことを証したためにエルサレムから追われた。またニーファイやその時から今日までの先祖たちもほとんどみなキリストが降臨したもうことを前以て証し、来るはずのキリストの日を待ち設けて喜んだ。

ヒラマ8,23,キリストは神であって、今私たちの先祖と一しょにまします。キリストは、自分によって贖い救われることを私たちの先祖に閉めしもうたから、先祖は将来起ることにキリストに栄光を帰し、キリストを崇めた。

ヒラマ8,24,今あなたたちはすでに以上のことを知っているから、自分を偽らなければこれを否定することはできない。それであるから、あなたたちは自分の知っている証拠がこれほど多いにもかかわらず、なお以上のことをみな否定しているから、この点に於て罪を犯している。天

ヒラマ8,24-1,万物も地にある万物も、以上のことが確であるとあなたたちに証明をしている。

ヒラマ8,25,しかし、あなたたちはすでに真理を否定し、あなたたちの聖い神に背いた。そして今に至っても錆び腐るものなく、汚れたものが入ってこない天に自分の宝を蓄えようとせず、かえって裁判の日に受けなくてはならぬ責苦を積み重ねている。

ヒラマ8,26,あなたたちは今に至ってもなお人殺し、みだらな行い、悪事を重ねて永遠の亡びにおちいる用意をしている。もし悔い改めないと、このような亡びはすぐあなたたちにやってくる。

ヒラマ8,27,いや、滅亡はすでにあなたたちの門口のところへ来ている。裁判所へ行ってみよ。今あなたたちの大判事は暗殺せられ、血まみれになって倒れている。かれは裁判職を取ろうとしている自分の兄弟に暗殺をされた。

ヒラマ8,28,この2人の兄弟は、いずれもガデアントンと人の身も霊も亡ぼそうとする悪魔とがあなたたちの中に作ったあの秘密結社に属している者たちである”と。

ヒラマ9,,ヒラマン書 第9章

ヒラマ9,*-*,ニーファイの言葉、証明される。大判事で死んでいることを発見される。ニーファイと5人の者たち訴えられる。無罪が証明される。暗殺者、わかる。

ヒラマ9,1,ニーファイがこれらのことを話すと、群衆の中から5人の者が裁判所へ走って行ったが、その途中で互いに、

ヒラマ9,2,”この男は予言者であって神がこのような不思議なことをわれらに予言をせよとこの男に言われたかどうか、すぐに本当のことが解るだろう。しかし、神がこのように善げをせよと言われたとは信じない。またこの男が予言者であるとも信じない。しかし、この男が大判

ヒラマ9,2-1,言ったことが事実であって、大判事が本当に死んでいるとしたら、われわれは、この男が言ったほかの事も本当であると信じよう”と話し合った。

ヒラマ9,3,そして5人は力かぎり走って言って裁判所へ入って行って見ると、大判事は地に倒れて血まみれになっていた。

ヒラマ9,4,5人の者はこれを見るや非常に驚きおそれて地に倒れた。それは今までかれらはニーファイが大判事について言ったことを信じなかったからである。

ヒラマ9,5,しかし、かれらは今や事実の有様を見てこれを信じ、ニーファイの言った裁きが全部国民にふりかかりはせぬかと恐れおののいて地に倒れたのである。

ヒラマ9,6,さて、大判事の兄弟は秘密の計ごとを以て大判事を刺し殺して逃げて行ったが、大判事の家来たちは暗殺が行われるやすぐ走って行ってこのことを民に知らせたから暗殺の大騒ぎが起った。

ヒラマ9,7,そこで人民は裁判所へ集ってきたところ、地に倒れている5人の者を見て非常に驚いた。

ヒラマ9,8,ここへ来た人々は、ニーファイの庭に集っていた群衆のことは何にも知らなかったから、互いに”この男たちが大判事を暗殺したが、神に打ち倒されたので逃げるができなかったのだ”と言って、

ヒラマ9,9,すぐにこの5人を捕えてしばりあげこれを牢屋の中へ入れて、大判事が殺され暗殺者は捕えられて牢屋に入れられたと言う布告をひろく出した。

ヒラマ9,10,そして、その翌日、暗殺された大判事の葬式を行おうとすると、人民は哀悼と断食のために集った。

ヒラマ9,11,このとき、ニーファイの庭に居合せてニーファイの言葉を聞いていた判事たちもまた葬式に集ってきたが、

ヒラマ9,12,そばに居た人々に”大判事が死んだかどうか知るために裁判所へ遣わした5人の者は今どこに居るか”とたずねたから、人々は”私たちは、あなたたちが遣わしたと言う5人の者は知らないが、暗殺人である5人の者共は牢屋に入れた”と答えた。

ヒラマ9,13,そこで判事たちは、その5人の者共を引き出してもらいたいと行っただけで、5人は判事たちの前に引き出された。ところが、見よ、この5人は本当に判事たちが遣わした5人の者共であった。そこで判事たちはこの出来事について5人に問いたずねたところ、5人は自分

ヒラマ9,13-7,したことをくわしく物語って、

ヒラマ9,14,”私たちは走って裁判所へ行ったところが、ニーファイの言った通りの有様を見て驚きのあまり地に倒れた。そして正気にかえてみると牢屋の中に入れられて居った。

ヒラマ9,15,大判事の暗殺は誰がしたことか知らない。私たちはあなたらの命令によって走って言って見ると、大判事はもはやニーファイの言った通り死んでいた。私たちよの知っていることはこれだけである”と言った。

ヒラマ9,16,そこで判事たちはこの事がらを人民に説明し、ニーファイを訴えて言った”このニーファイと言う者は誰かと約束をして大判事を殺させたに違いない。かれがそうしたのは、われわれにそのことを語り、われわれを感化して自分の信ずる教えを信じさせ、そして神に選ば

ヒラマ9,16-1,者である、予言者である、偉大な者であるとへめられるためである。

ヒラマ9,17,見よ、われわれはニーファイを見つけてこれを捕えその罪を白状させて、大判事を殺した真の犯人が誰であるかを告げさせよう”と。

ヒラマ9,18,そして大判事の葬式を行った日にこの5人の者を釈放してやったが、この5人は判事たちがニーファイについて言った言葉のために、判事たちをいさめて1人1人と論じついにかれらをみな説き破った。

ヒラマ9,19,ところが判事たちはそれでもニーファイを捕えてこれをしばり、群衆の前に引いてこさせていろいろな尋問を行い、前後不そろいのことを岩瀬手ニーファイの死刑に処する口実を求めた。

ヒラマ9,20,そしてニーファイに向って言った”汝は共謀者である。この暗殺を行った者は誰であるか。さあ、暗殺人の名をあげて自分お罪を白状せよ。見よ、汝に金銭を与える。このほかに汝がもしも暗殺人の名を告げ、この者が汝と結んだ約束を洩らしたならば、汝の命も助けて

ヒラマ9,21,ニーファイはこれを聞いて言った”ああお前たち愚な者、心の汚れたもの、盲目な者、かたくなな者たちよ。お前たちは自分の神である主がいつまでもお前たちの悪事をつづけることを許しておきたもうかを知っているか。

ヒラマ9,22,お前たちが今悔い改めないと、すぐにも来ようとしている大きな破壊に逢って泣き叫ばなくてはならない。

ヒラマ9,23,お前たちは、私がある人と約束をして、この人にわれつらの大判事シゾーラムを暗殺させたと訴えているが、お前たちが私を訴える原因は、私がお前たちの悪事と憎むべき行いを知っていることをお前たちに証明をするために、この暗殺をお前たちに知らせたことにあ

ヒラマ9,24,私がこれを知らせたからお前たちは私を訴えて私が人と約束をしてこの暗殺をさせたと述べている。すなわち私がこのしるしをお前たちに示したからお前たちは私を怒って殺そうとしている。

ヒラマ9,25,見よ、私はもう1つのしるしをお前たちに示して、このしるしを見てもまだお前たちが私を亡ぼそうと
かどうかを見よう。

ヒラマ9,26,私は明らかに言う。シゾーラムの兄弟セアンタンの家へ言って次のことを聞け、

ヒラマ9,27,'予言者と自称するあのニーファイ、すなわちこの民についてこのよにいろいろの禍を予言するニーフ
アイが汝と約束をし、汝がその約束を果たして兄弟のシゾーラムを暗殺したか'と。

ヒラマ9,28,するとかれはそうでないと答える。

ヒラマ9,29,その時お前たちは重ねて'それなら汝1人でその兄弟を暗殺したのか'と聞け、

ヒラマ9,30,するとセアンタンはおそれおののいて答える言葉を知らないけれども、ついにそうではないと答え、驚い
たふりをして自分は断然潔白であると言う。

ヒラマ9,31,しかしお前たちはセアンタンの身体を調べてみよ、そうするとかれの着物のすそには血がついている。

ヒラマ9,32,これを見たらすかさず言え'この血はどこから来たか。この血は汝の兄弟の血であることが解っているで
はないか'と。

ヒラマ9,33,これを聞くと、かれはふるえてその顔色は死んだ者のようにまっさおになる。

ヒラマ9,34,そこでお前たちは言え'汝がそのようにふるえてまっさおになるところを見ると、汝がやったに違いない'
と。

ヒラマ9,35,こうなるとかれはますます恐れてもはや包みかくさず兄弟を暗殺したと白状をする。

ヒラマ9,36,そればかりでなくセアンタンは、私ニーファイは神の力によって示されたでなければ暗殺のことは少しも
知ってはいないとお前たちに言う。ここに於てお前たちは、私ニーファイが真つすぐな義しい人間であって神から
つかわされた者であることを知るのである"と。

ヒラマ9,37,そこで判事たちは行ってニーファイがせよと言った通りにしたところ、ニーファイの言ったことは本当であ
った。セアンタンはニーファイの言葉の通り始めは自分でないと行っていたが、とうとうニーファイの言った通りに白
状した。

ヒラマ9,38,このように取り調べた末、セアンタンが当の暗殺人であることが十分に証明させたからあの5人の者とニ
ーファイとは釈放された。

ヒラマ9,39,ニーファイ人であってニーファイの言葉を信じた者であり、またあの5人の者が立てた証拠によって信じ
た者もあった。あの5人は牢屋の中に居た安打に関心をして信者となった。

ヒラマ9,40,国民の中にはニーファイは予言者であると言う者もあり、

ヒラマ9,41,また、かれは1人の神である。神でなくてはこれらのことを知ってはいまい。かれはわれわれの胸の中ま
で見通してこれを告げ、またいろいろのことも告げ、また大判事を暗殺した真犯人をわれわれに知らせたのである
と言う者もあった。

ヒラマ10,,ヒラマン書 第10章

ヒラマ10,*-*、ニーファイ、大きな能力を与えると云う約束を賜わって主に慰められる。ニーファイ、悔改めを宣べ伝
え、今にも来る裁きを告げて罪人を戒める。

ヒラマ10,1,これで群衆はついに分離し、人々は互に別れてここかしこへそれぞれの帰り道を帰って行ったが、かれ
らの中に立っていたニーファイは今やただ1人のこった。

ヒラマ10,2,そこでニーファイも自分の家を指して歩きながら、主が自分に示したもうたことをつくづくと考えた。

ヒラマ10,3,すなわち、ニーファイ人と言う国民の罪惡、その秘密の惡事、人殺し掠奪そのほかあらゆる惡事を考え
てかれは非常に心が重くなった。そこで道を歩きながら考えている中に1つの声がかれに聞えて言った。

ヒラマ10,4,"ニーファイよ、汝はその為したることのためにさいわいなり。われが汝に授けし言葉を汝がうまずたゆま
ずこお民に宣べ伝えたことをわれは知れり。汝はこの民をおそれず自分の命を惜しまずにわがこころの通り行わ
んとし、わが命令を守らんとせり。

ヒラマ10,5,汝はこのように強き忍耐を以てこれを為したるにより、われはいつまでも汝を祝福し、言葉と行いと信仰
と働きとに於て汝を強くして偉大なる者となさん。また汝の望み通り何事にもわれは汝のためにこれをかなえん。
そは、汝はわがこころにかなわざることを願わざ

ヒラマ10,6,見よ、汝はニーファイなり、われは神なり、汝はこの民の間に働く権能を持ち、この民の罪惡の大小に応
じてあるいは飢饉、あるいは疫病、あるいは破壊をこの地に及ぼすことを得。われはわが使たちの前にてこれを汝
に誓う。

ヒラマ10,7,われは汝に権能を与う。この権能によりて、汝が地に於て結ぶことは何ごとにも天に於て結ばれ、地
に於て解くことは何ごとにも天に於て解かる。かくのごとく汝はこの民の中に於て働く權威と能力とを有すべし。

ヒラマ10,8,されば、汝もしもこの神殿に向いて2つに裂けよと言わば、その通りとなる。

ヒラマ10,9,この山に向いて崩れて平になれと言わば、その通りとなる。

ヒラマ10,10,神この民を打ちたもうと言わば、その通りとなる。

ヒラマ10,11,今われは汝に行きてこの民に告げよと命ず。すなわち全能の主なる神は汝ら悔い改めずば全滅するまで打たるべし'と宣えりと”。

ヒラマ10,12,主がこれらのことをニーファイに告げたもうと、ニーファイは立ち止まって自分の家へ帰らずに、国のここかしこに集っている大勢の人々の所へ行き、民が悔い改めないを受けなくてはならない滅亡について主が自分に仰せになった言葉を伝え始めた。

ヒラマ10,13,ニーファイが大判事の暗殺を民に示したあの大きな奇跡があったにも関わらず、民はその心をかたくなにして主の道に聞き従わなかった。

ヒラマ10,14,そこでニーファイは主の御言葉を民に宣べ伝えて”主は宣う。汝ら悔い改めずば全滅するまで打たるべし”と言った。

ヒラマ10,15,しかし、ニーファイがこの言葉を宣べ伝えてからも、民はまだその心をかたくなにしてニーファイの言葉に聞き従わず、かえってニーファイをののしり、その上に牢屋へ入れるためにニーファイを捕えようとした。

ヒラマ10,16,しかし見よ、神の力がニーファイと共にあったから、ニーファイは”みたま”に引かれて悪意のある人々の所からはかへ連れて行かれたので、民はニーファイを捕えて牢屋に入れることができなかった。

ヒラマ10,17,ニーファイはこのように”みたま”に満たされ、出て行って群衆から群衆へと神の言葉を宣べ伝えた。そしてこの働きはニーファイ自身がすべてのものに神の言葉をのべ国民全体に伝えられるまでつづけられた。

ヒラマ10,18,ところが民はニーファイの言葉に聞き従わず、不和がその間に起ったから、人民は分裂して剣を以て殺し合うようになった。

ヒラマ10,19,これでニーファイの民を治める判事治世の71年目は過ぎ去った。

ヒラマ11,,ヒラマン書 第11章

ヒラマ11,*-*,大飢饉起る。民が主に立ち帰り再び繁栄する。不和争闘が起る。ガデアントン強盗団再び起る。

ヒラマ11,1,判事治世の72年目に不和がいよいよ増大して全国いたる所ニーファイの全国民の中に戦が始まった。

ヒラマ11,2,このような戦争、破壊罪惡をひきつづき行わせたのは、まことにあの強盗秘密結社であったが、この戦はその年の始めから73年目の終りにかけて2年間つづいた。

ヒラマ11,3,そこで73年目にニーファイは主に祈って言った。

ヒラマ11,4,”主よこの民が剣にて亡ぶることを許したもうな。むしろ民にその神なる主を思い起こさしむるために、この地に飢饉が起したまえ。おそらく民は悔い改めて主に立ち返らん。”と。

ヒラマ11,5,そうすると本当にニーファイが祈った通りになった。その地に大飢饉があつてニーファイ人の全国民はみなこの飢饉に逢い、74年目にも飢饉がつづいて剣のために亡びるのは免かれたが飢饉のためにひどい滅亡を受けた。

ヒラマ11,6,この滅亡は75年目の始めからその終りまでつづいて、土はのろわれて乾き、穀物は実るはずの時節がきても実らず、ニーファイ人の国もレーマン人の国も全地ことごとくのろわれて、ひととき悪い民の間には何千人と言う死人があつた。

ヒラマ11,7,人民は自分らが飢饉のためにまさに全滅をしようとするのを見ると、その神である主を思い起し、またニーファイの言葉を思い返すようになった。

ヒラマ11,8,そこでとうとう民はその高等判事らと司たちとに次のようなことをニーファイに通じて欲しいと言った”私たちは汝が神の みこころにかなう人であることを知っている。それであるから、願わくはわれわれの滅亡について汝が予言したことがみな起らないように、われ

ヒラマ11,8-1,神である主にこの飢饉を止めたまわんことを祈りたまえ”と。

ヒラマ11,9,判事たちは民が願った通りをニーファイに通じたが、ニーファイは民がすでに悔い改めて粗末な服を身にまといてへり下っているのを見、再び主に祈って言った。

ヒラマ11,10,”主よ、見たまえ、この民は悔い改めたり。かれらはその中よりすでにガデアントン強盗団を追い払いたれば、その結社はもはやなくなり、その秘密の計ごとは地の中に埋めて隠れたり。

ヒラマ11,11,主よ、この民はへりくだりたれば、主の御怒りを解きてすでに亡ぼしたもうたるあの悪人らの滅亡を以て満足し主の怒りをなだめたまえ。

ヒラマ11,12,主よ、主の怒り、まことに主の激しき怒りを解きてこの地を悩すこの飢饉を止めたまえ。

ヒラマ11,13,主よ、わが祈りを聞きたもうて祈りの通り地上に雨を降らせ、実るべき時期には実をならせたまえ。

ヒラマ11,14,主よ、われが剣の禍が終るよう飢饉を生ぜしめたまえと祈りしとき、主はわが願いを聞き届けたまえり。また主はこの民もし悔い改むるならばその命を助けん'と仰せたまえば、われは主が今もなおわが願いを聞き届けたもうことを知る。

ヒラマ11,15,ああ主よ、民が自分に下りし飢饉、悪疫、破壊のために悔い改めたることは主がこれを見たもう。

ヒラマ11,16,今、主よ、主の怒りを解きて民がこれより主に事うるならば、主は御誓いの通りかれらを祝福することを叶わせたもうべし”と。

ヒラマ11,17,そこで76年目に主はその怒りを解いて地上に雨を降らせたもうたから、木の実のなる時節には木の実がなり、穀物の実る時節には穀物が実った。

ヒラマ11,18,それであるから民は喜び楽しんで神を崇め全地は喜びに満ちた。従って民はもうニーファイを殺そうとはせず、かえってニーファイは偉大な予言者である、神から大きな権能と威勢とを授かった神のみこころにかなう人であるとしてかれを尊んだ。

ヒラマ11,19,見よ、ニーファイの兄弟であるリーハイは義を行うことについては少しもニーファイに劣らなかった。

ヒラマ11,20,それでニーファイの民はこのようにしてまた地上に栄え、荒れ果てた所をみな恢復し、人口がふえて北の地方にも南の地方にも西の海から東の海に至るまで全地の面を覆うようになった。

ヒラマ11,21,さて76年目はおだやかに終り、77年目もおだやかに始まった。そして教会は全地にひろがって、ニーファイ人もレーマン人もその大部分が教会に属して國中まことにおだやかであった。これで77年目は暮れて行った。

ヒラマ11,22,78年目は予言者らの宣べた教義の中で23の点について僅ばかりの論争があっただけで、そのほかみなおだやかであった。

ヒラマ11,23,79年目には多くの争闘が起ったが、ニーファイ、リーハイおよびその同僚である多くの人々が毎日多くの啓示を受けて教義の本当の意味を悟っていたから、民に教えを説いてその年の内に民の争いをしずめた。

ヒラマ11,24,ニーファイの民を治める判事治世の80年目には、数年前にニーファイの民から別れてレーマン人と一しょになり、自分からレーマン人と呼んだ数人の謀叛人が居り、またレーマン人の正統の子孫であってこの謀叛人に扇動せられてニーファイ人を怒るようになった幾人か

ヒラマ11,24-1,居ったが、これらの者は共になって同胞である兄弟を攻め始めた。

ヒラマ11,25,この者共は人殺しと掠奪を行って山の奥、荒野の中そのほか秘密の場所へ逃げて捕えられないように隠れるのを常としていたが、日々この仲間に加わる謀叛人があったから毎日その数がふえ、

ヒラマ11,26,多くの年もたたないのに極めて強大な強盗団になったが、ついにガデアントンの陰謀をことごとく探り求めてこれを見破り、ガデアントン流の強盗となった。

ヒラマ11,27,この強盗はニーファイ人とレーマン人とをさんざんに荒しまわった。

ヒラマ11,28,そこでこのような暴行を止めさせることがぜひ必要であったから、この強盗団を探し出してこれを亡ぼすために、強い兵士から成る1軍隊を野と山とに送り出した。

ヒラマ11,29,ところが、この軍隊は同じ年の内に自国へ追い返された。このような有様でニーファイの民を治める判事治世の80年目は過ぎて行った。

ヒラマ11,30,81年目の始めに、兵はあの強盗団と戦うために再び出て行ってこれを多く殺したが兵もまた大損害を受けた。

ヒラマ11,31,こう言うわけで、山野にはびこる強盗の数がまことに多かったから、兵は野山を出て再び帰国するほかはなかった。

ヒラマ11,32,これでこの年は暮れて行ったが、強盗はいよいよその数がふえて強大となり、ニーファイ人の全軍とレーマン人の全軍とが聯合した大軍を物ともせず全地の住民を非常に恐れさせた。

ヒラマ11,33,それはこの強盗が国のここかしこに侵入して甚しい破壊を行い、多くの民を殺し、あるいは多くの者なかんずく女子供をとりこにして荒野へつれ去ったからである。

ヒラマ11,34,そこで民は自分らの罪惡のために受けたこの大きな災難にはげまされて、その神である主を再び思うようになった。

ヒラマ11,35,このような有様で判事治世の81年目は過ぎて行った。

ヒラマ11,36,82年目になると、民はまたその神である主を忘れ始めて、83年目にはますますその罪惡に耽り、84年目になってもその行いを改めなかった。

ヒラマ11,37,そして85年目には民の慢心がますます甚しくなり、悪事に悪事を重ねて再び滅亡に陥ろうとしていた。

ヒラマ11,38,このようにして85年目が終わった。

ヒラマ12,,ヒラマン書 第12章

ヒラマ12,*-*,世の人の心は変り易いが、神は恵み深く力がありたもう。悔い改める者はさいわいである。人間はその行為に応じて裁きを受けること。

ヒラマ12,1,これを以て見るに、世の中の人々は二心で変り易いことが明らかである。また主がその限りない大きな恵みを以て、主を信頼する者を恵んで栄えさせたもうことも明らかである。

ヒラマ12,2,また主がその民を栄えさせその農作物、家畜、金、銀およびあらゆる貴い製作物、あらゆる貴い天然物とを豊にし、民の命を助けてこれを敵の手から救い、民に敵が戦をいどまないように敵の心を和げたもうことも明らかである。一言で言うと、主はその民の福利のため

ヒラマ12,2-1,すべての事をなしたもうが、同時に民は安楽で隆盛を極めていたためにその心をかたくなにし、その神である主を忘れて聖者を足にふみにじることも明らかである。

ヒラマ12,3,また主がいろいろの艱難でその民をこらし、死と恐怖と飢饉とあらゆる禍禍を受けさせたまわないと、民は主を思わないことも明らかである。

ヒラマ12,4,ああ世の中の人々は、いかにも愚であってその心が空しく、心に悪意を抱き、よこしまであって容易に悪を行い、善を行うことには冷淡であって容易に悪魔の言葉に従い、浮世の空しいものに執着しているではないか。

ヒラマ12,5,ああ、世の中の人々はいかにもおごり高ぶってたやすく大言を吐き、もろもろの罪を犯すが、かれらはその神である主を思いその訓えに耳を傾け、智恵の道をふむのがおそいではないか。

ヒラマ12,6,人は自分らを造りたもうたその神である主が大きな恵みと憐みとを自分らに与えたもうたのに、神が自分らを治めてその支配者になりたもうたことを好まず、神の訓えをないがしろにし、また神が自分の案内者となりたもうたのを好まない。

ヒラマ12,7,ああ、世の人はいかにも甚しく空しいではないか。まことに世の人は塵にさえも劣るものである。

ヒラマ12,8,なぜならば塵は私の大きな永遠の神の命令に従ってここかしこに動き、地は神の命令に従って裂ける。

ヒラマ12,9,岡と山は神の御声によってふるい動き、

ヒラマ12,10,神の御声の能力のためにくだかれて平原のように平になる。

ヒラマ12,11,また神の御声の能力で全地は振動し、

ヒラマ12,12,地の基は中心までもゆれる。

ヒラマ12,13,そればかりでなく、神が動けと大地にのたまえば、大地はすなわち動き、

ヒラマ12,14,昼の幾時間が長くなるため逆に動けと大地にのたまえば、大地はすなわち逆に動く。

ヒラマ12,15,このように大地は神の命じたもう通りに逆に動き、太陽はじっとしているように見える。太陽の動かないのは事実である。動くのは太陽ではなくて確に大地である。

ヒラマ12,16,神がもしも大海の水に乾けとのたまえば、すなわちその水が乾く。

ヒラマ12,17,またもしこの山に向って“山よ上って移り、あの都会の上に落ちてこれを埋めよ”とのたまえばすなわちその通りになる。

ヒラマ12,18,人がもし宝を地中に埋めて隠してから“これを隠したものは罪悪がある故、この宝はのろわれよ”と主がのたまえば、すなわちその宝がのろわれる。

ヒラマ12,19,またもし宝に向って“この宝は今よりいつまでも見出す人のなきようにのろわれよ”とのたまえば、誰1人永久に得ることができない。

ヒラマ12,20,主がもし人に向って“汝は罪悪がある故に永久にのろわれよ”とのたまえば、その通りになる。

ヒラマ12,21,またもし“汝は罪悪がある故にわが前より追い払われよ”とのたまえば、すなわちその通りになる。

ヒラマ12,22,主が“わが前より追い払われよ”とのたもう者は罪悪を行う者である。その者は禍であって救われない。それであるから、人に救いを得させるために悔改めの道が立てて示してある。

ヒラマ12,23,それであるから、悔い改めてその神である主の御声に聞き従う者は救いを得るからさいわいである。

ヒラマ12,24,願わくは、神がその完全な大きな道を以て、人に悔改めと善とを行うことを得させて、それぞれの行いに従ってその善い行いに応ずる報いを受けさせたまわんことを。

ヒラマ12,25,私はすべての人々が救われることを望んでいる。しかし読む所によると、あの大きな日には追い出されて主の前からしりぞけられる者もあると言っている。

ヒラマ12,26,かれらは永遠の不幸な境涯に置かれる。このようにして“善を行いし者は永遠の生命を受け、悪を行いし者は永遠に断ち切られる”と言う言葉は事実となる。正にその通りである。アーメン。

ヒラマ13,*-*,レーマン人であるサムエルがニーフアイ人に述べる予言。第13章から第15章に至る。

ヒラマ13,,ヒラマン書 第13章

ヒラマ13,*-*,サムエル、市の城壁からその予言を宣べる。正義の剣、4代目の人々に落ちる。義しいためにニーフアイ人の都市、破壊から免れる。のろわれる土地。失せ易い宝。

ヒラマ13,1,86年目、ニーフアイ人は相変わらず恐ろしい悪事をつづけて行ったが、これに反してレーマン人は慎んでモーセの律法に従い堅く神の命令を守った。

ヒラマ13,2,この年にサムエルと言う1レーマン人がゼラヘムラの地へやってきて住民に訓えを説き始め、悔改めをせよと長い間民にすすめたが、人々がこれを追い出したからサムエルは自分の国へ帰ろうとした。

ヒラマ13,3,ところが主の御声がサムエルに聞えて、またゼラヘムラへ戻って行って心に浮かぶことは何でもゼラヘムラの地方の民に予言をせよと仰せになった。

ヒラマ13,4,しかし、市民はサムエルに都の内へ入ることを許さなかったから、サムエルは都の城壁の上へのぼり、手を伸べて主がその心に授けたもうたすべての予言を大きな声を出して言った。

ヒラマ13,5,“ごらん、私はレーマン人でサムエルと言う者である。私は主が私の心に授けたもうたことを今宣べ伝える。

主は次のようにこの民に言えと私の心に命じたもうた。すなわち、正義の剣はこの民の頭の上にかかっている。今から400年たたない内にその剣はこの民の上に

ヒラマ13,6,また恐ろしい滅亡がこの民を待っていてそれは必ず来る。それであるから、悔改めをイエス・キリストすなわち必ず世の中に降臨して多くの艱難に逢い、その同胞を贖うために身代りとなって殺されたもうたはずの主イエス・キリストを信ずる意外にこの民を救う方法は

ヒラマ13,7,主の使者はこのことを私に示し、また私の心に喜びを与える音ずれを受けさせるよう、これをあなたたちに宣べ伝えるためにつかわされたが、あなたたちは私を迎えずまた私を信じなかった。

ヒラマ13,8,それであるから、主は次のように仰せになった'もしもニーファイ人悔い改めずば、その心がかたくなるためにわれはわが言葉とわが"みたま"とをかれらより取り去り、もはやかれらを赦さずその同胞の心を扇動してかれらに反対をさせ、

ヒラマ13,9,400年たたぬ内にかれらを撃たしめん。剣、飢饉、疫病、

ヒラマ13,10,そのほかわが激しき怒りをかれらに下さん。それ故に、今より4代目の者にて汝らの敵となる者の中には、生き永らえて何らの全滅するを見る者あらん。汝ら悔い改めずばこのこと必ずばこのこと必ず来る。汝らをことごとく亡ぼす者は今より4代目の者たちなり'と。

ヒラマ13,11,しかし、あなたたちが悔い改めて自分の神である主に立ち帰るならば主はわが怒りを解こうと仰せになっている。また主は仰せになる'悔い改めてわれに立ち帰る者はさいわいなり。されど悔い改めざる者は禍なり。

ヒラマ13,12,この広大なる都ゼラヘムラは禍なり。その今助かれるは義人のためなり。まことにこの大いなる都は禍なり。そは多くの人々、すなわちこの都に住む民の大部分がこの後われに対してその心をかたくなにすることをわれあらかじめ知ればなり。

ヒラマ13,13,されど、悔い改むる者はわれこれを救うによりてさいわいなり。見よ、この大いなる都に住める義人なりせば、われは天より火をこの都の上に降らせて焼き払うものを。

ヒラマ13,14,この都の今破壊をまねかれて助かれるは義人のあるためなり。されど後になりて汝ら義人をここより追い出す時来らん。汝らの亡ぶる用意はその時に全かるべし。実に、この大いなる都はその中に行わるる罪惡と憎むべき行いとのために禍なり。

ヒラマ13,15,またギデオン市も、その中に行わるる罪惡と憎むべき行いとのために禍なり。

ヒラマ13,16,ニーファイ人が所有する地の一切の都市も、またその中に行わるる罪惡と憎むべき行いとのために禍なり'と。

ヒラマ13,17,また万群の主は宣う'この地はそこに住む民と住む民の罪惡および憎むべき行いとのためにのろわれ'と。

ヒラマ13,18,われらの大いなる真の神、万群の主はまた宣う'およそ地の中にその宝を埋めて隠す者もしも義人にあらずば、またその宝を主に託して埋めて隠すにあらずば、地の受くる大いなるのろいあるために後にその宝を見出すことを得ざるべし。

ヒラマ13,19,人その宝を埋めて隠すときにはこれをわれに託せわれに託さずしてこれを埋め隠す者はのろわる。義人以外にその宝を隠してわれに託する者なればなり。されば、宝を埋めて隠しこれをわれに託さざる者もその宝も共にのろわる。また地の受くるのろいあるために、後に

ヒラマ13,19-1,その宝を見出すことを得ざるべし。

ヒラマ13,20,人々はその心富に執着する故に、その宝を隠して貯うる日来るべし。されど人々はその心富に執着して宝をわれに託して隠さざる故に、人々敵より逃ぐる時にわれはその宝を移して知れざる所にこれを隠さん。しかし人々もその宝も共にのろわれ、その時人々は撃たる

ヒラマ13,21,あなたたちこの大きな都の人々よ。私の言葉を聞け。主が仰せになった言葉を聞け。すなわち、あなたたちはその富のためにのろわれる。またあなたたちはとみに執着して、富をあなたたちに授けたお方の言葉に聞き従わないからその富もまたのろわれる。

ヒラマ13,22,あなたたちは自分の神である主から与えられた物に対して神に感謝をせずに、いつも富のことばかり思っている。あなたたちの心は主に近づかず、非常な高慢に満されて大きなことを言い、ますます誇り高ぶって嫉妬、鬭争、遺恨、迫害、殺人そのほかあらゆる罪惡を犯

ヒラマ13,22-1,なっている。

ヒラマ13,23,それであるから、主なる神はあなたたちの罪惡のために地もあなたたちのもっている富ものろいたもうた。

ヒラマ13,24,まことにこの民は禍である。なぜならば今あなたたちは昔の人のように予言者たちを追い出し、これを嘲り笑い、これに石をうちつけ、これを殺し、またこれにあらゆる悪い事をしている。

ヒラマ13,25,そして、あなたたちは話すときに、'われわれがもし先祖の時代に生きていたならば、予言者らを殺し、予言者らに石をうちつけ、これを追い出すようなことはしなかったであろうに'と言っているが、

ヒラマ13,26,実際に予言者があなたたちの中にきて、あなたたちの罪と悪事とを証する主の言葉を宣べると、あなたたちはこの予言者を怒って追い出し、その上この予言者を殺すあらゆる手段をめぐらし、この予言者があなたたちの行いは悪いと証をすると、かれは偽りの予言者であ

ヒラマ13,26-1,ある、悪魔から来た者であると言う。これは主が確にますように確であるから、あなたたちは昔の日たちよりもさらに悪い。

ヒラマ13,27,ところが、ある人があなたたちの中へ来て‘これこれをしてても罪にならない。これこれをしてても罰を受けない。心のままに誇り高ぶってほしいままを行え’とすすめると、あなたたちはこの人を迎えて予言者であると言い、

ヒラマ13,28,この人を崇めて、自分の持物と金銀とを割いて与え、価の高い衣を着せ、この人があなたたちにへつらって万事よろしいと言うによって決してこの人を避難しない。

ヒラマ13,29,罪深いよこしまな時代の人々よ。強情でかたくなな民よ。主がいつまで赦しておきたもうと思っているのか。あなたたちはいつまで甘んじて愚な盲目の案内者に導かれているのか。あなたたちはいつまで光よりも暗やみのほうを好んで選ぶのか。

ヒラマ13,30,あなたたちに対する主の怒りはすでに激しくなってあなたたちの罪悪のために主はすでにこの地をのろいたもうた。

ヒラマ13,31,この後主はあなたたちの富ものろいたもうて、その富が失われ易くなり保てない時がくる。従って、あなたたちが貧に苦しむ時にその富が保てず、

ヒラマ13,32,主に歎願をするであろうが、その時がまだ来ない中に破壊がすでにやってきてあなたたちの滅亡がきまってしまうから、歎願をしててもむだである。万群の主が仰せになるように、その日あなたたちは烈しく泣き叫び悲しみに暮れて言う。

ヒラマ13,33,‘ああ、私はさきに悔い改めて、予言者を殺し、予言者に石をうちつけ、または予言者を追い出さなければよかったものを。私たちの神である主が富を授けたもうた日に神を忘れなければよかったものを。神を忘れていなかったならば、私たちの富は失われ易くはならな

ヒラマ13,33-1,あろうに、今はその富が無くなってしまっている。

ヒラマ13,34,私たちがここに道具を置くと明日はもう無くなっている。戦おうとして剣を探す時には剣が無くなっている。

ヒラマ13,35,私たちは宝をかくしておいたが、地の受けたのろいのために失われてしまった。

ヒラマ13,36,ああ、私たちは主の御言葉が伝わってきた日に悔い改めたらよかったものを。地は早くものろわれ、すべての物は失われ易くなってこれを保てない。

ヒラマ13,37,私たちは悪鬼にかこまれ、私たちの身も霊も亡ぼそうとしている悪魔の使者たちに取り巻かれている。私たちの犯した罪悪はまことに大きい。主よ、私たちから汝の怒りを取り去ることを叶えたまえ’とはその日にあなたたちの言う言葉であろう。

ヒラマ13,38,しかし、その時がまだこない中にあなたたちの試しの時はすでに過ぎ去って、あなたたちが自分の救いを受ける日はぐずぐずしている間に永久になくなってしまい、あなたたちの亡びはきまってしまう。それは、あなたたちがその時までいたずらに生涯を送って手に入

ヒラマ13,38-1,このできない幸福を求め、罪悪をしながら幸福を求めたが、このような行いは私たちの偉大な永遠の頭の性格たる義にそむくからである。

ヒラマ13,39,ああ、この国の民よ。願わくはあなたたちが私の言葉に聞き従わんことを。私は主の怒りがあなたたちを離れ去り、あなたたちが悔い改めて救われることを祈る”と。

ヒラマ14,,ヒラマン書 第14章

ヒラマ14,*-*,レーマン人、サムエル、キリストのことを予言する。キリストの降誕に関するしるしは5年以内に示されること。キリストの死のしるしも予言される。

ヒラマ14,1,レーマン人サムエルは、このほかに書き記すことのできない多くのことを予言したが、

ヒラマ14,2,ここにサムエルが都の人々に言ったことがある。かれは”ごらん、私は1つのしるしをあなたたちに知らせる。今からもう5年たつと、実に神の御子(イエス・キリスト)はその御名を信ずる一切の者を贖うために来りたもう。

ヒラマ14,3,その降臨の時のしるしとして私は次の事をあなたたちに知らせる。ごらん、いくつかの大きな光が空に出て、神の御子が降りたもう前の夜は暗がなくてあたかも昼のようになる。

ヒラマ14,4,そこで2昼1夜の間、あたかも1日のように明るくて夜の暗さが無い。これはすなわちあなたたちにとって1つのしるしになる。あなたたちは日の出も日の入りも知り2昼1夜があることを知っていても、夜の暗くならないのを確に知るであろう。これこそ神の御子が降

ヒラマ14,4-1,前夜に現われることである。

ヒラマ14,5,またあなたたちが見たこともない不思議な新しい星も現われるが、これもまたあなたたちにとってしるしになる。

ヒラマ14,6,そればかりでなくまた多くのしるしと不思議とが空に現われ、
ヒラマ14,7,それを見てあなたたちはみな驚ろき怪しんで地に倒れるであろう。
ヒラマ14,8,神の御子を信ずる者はみな永遠の生命を受ける。
ヒラマ14,9,私が来てこのことをあなたたちに宣べまた予言をするのは、主がその使者をつかわして私に命じたもうたことであって、主はまた'悔い改めて主の道を備えよとこの民に勧めよ'と仰せになった。
ヒラマ14,10,しかし私がレーマン人であるから、また主が私に命じたもうた言葉を告げたところそれがひどくあなたたちに当たったから、あなたたちは私を怒って私を事そうとし、すでに1度私を追い出した。
ヒラマ14,11,しかしあなたたちは私の言うことを聞かなくてはならない。私はあなたたちの罪悪のために今やあなたたちに下ろうとしている神の裁きと、悔改めの条件と、
ヒラマ14,12,始めから万物を造った御方であるイエス・キリストの降臨と、降臨のしるしとをあなたたちに知らせ、以てキリストの御名を信じさせるためにこの都の城壁の上へのぼった。
ヒラマ14,13,あなたたちがもしキリストの御名を信ずるならば、ことごとく自分の罪を悔め改めるであろう。悔い改めるならば、すなわちキリストの功德によって罪の赦しを得られる。
ヒラマ14,14,私はまたもう1つのしるしをあなたたちに知らせよう。それはキリストの死のしるしである。
ヒラマ14,15,キリストは救いを来すために必ず死にたもう。キリストが死にたもうのは、死者を復活させてこれによって人々を主の御前に帰らせるために必要であって、またキリストの義務である。
ヒラマ14,16,キリストの死は復活を生じ、第1の死すなわちあの霊の死からあらゆる人類を贖って救う。第1の死と言うのは、あらゆる人類はアダムの墮落によって主の御前から追い出された故に、肉体の上からもまた霊の上からも死んだと見なされるからである。
ヒラマ14,17,しかしキリストの復活はあらゆる人類を贖い救ってこれを主の前に帰らせ、
ヒラマ14,18,また悔改めの条件を果す、すなわち悔い改める者は誰も切り倒されて火の中に投げ入れられない、しかし悔い改めない者は誰でも切り倒されて火の中に投げ入れられ、義しいことから切り離される有様となるから再び霊の死を受ける。これがすなわち第2の死である。
ヒラマ14,19,それであるから、あなたたちは悔い改めよ、悔い改めよ、悔い改めなければこれらのことを知りながらこれを行わないから罪があるとされ、この第2の死を受けるようになる。
ヒラマ14,20,前に私が話した1つのしるし、すなわちキリストの死のしるしについて述べると、キリストが死にたもう火に太陽は暗くなってあなたたちに光を出さない。月も星もまたその通りである。キリストが死にたもう時刻からそのよみがえりたもう時刻まで3日の間この地の面
ヒラマ14,21,キリストの霊がその肉体を離れる時刻から長い間にわたって、雷が鳴り電光がひらめき地の震動して、あなたたちが知っているように今は大体1つになっている割れ目のない岩、すなわち地の面にある岩も地の中にある岩も共に裂け砕け、
ヒラマ14,22,それからいつまでも地の面にも地の中にもこれらの岩はひびや割れ目ができたまま存在する。
ヒラマ14,23,また恐ろしい大風が吹き起り、多くの山は平原のように低くなり、今平原と言われている多くの所は非常に高い山となり、
ヒラマ14,24,多くの会堂は破壊され、多くの都市は荒れはて、
ヒラマ14,25,多くの墓が開かれてその死者を出し、多くの聖徒はよみがえって多くの人々に現われる。
ヒラマ14,26,天使はこのようなことを私に告げたもうた。すなわち長い間、雷が鳴り電光がきらめき、
ヒラマ14,27,雷、電、大風がうちつづく間に前に言ったようなことが起って3日の間闇黒が全地を覆うと。
ヒラマ14,28,天使はまた私に、多くの人々がすべてこの地の面にこのしるしと不思議とが現われることを信ずるよう、また人々に不信仰のあるわけがないように、これらのことよりもさらに驚くべきことが多くの人に現われる。
ヒラマ14,29,このようなしるしと不思議とが現われるのは、信ずる者に救いを与え信じない者に正義の裁きを与えるためであって、また信じない者の受ける裁きはかれらが自分でこの裁きを招いたと言えるためであると言いたもうた。
ヒラマ14,30,それであるから記憶せよ、私の兄弟たちよ。およそ亡びる者は自分から亡び、悪を行う者は自分で悪を行う。なぜならば神はあなたたちに知識を与えて自由な者になしたもうから、あなたたちは自由であって、思うままを行うことを許されているからである。
ヒラマ14,31,また神は善悪をわきまえる智恵と、生命か死かを選ぶ権利とをあなたたちに与えたもうているから、善いことをして善い報いを受けるのも、また悪いことをして悪い報いを受けるのも共にあなたたちの自由であることをよくよく記憶せよ”。

ヒラマ15,,ヒラマン書 第15章

ヒラマ15,*-*、レーマン人、サムエル警めの言葉をつづける。かれの民の残りの者、護られて助かる。悔い改めない
とニーファイ人は全滅すること。

ヒラマ15,1,さて、わが愛する兄弟らよ、あなたたちに告げる。あなたたちが今悔い改めないとその言えは荒れはてて、

ヒラマ15,2,あなたたちの妻は子供に乳を飲ませる時泣き悲しむであろう。あなたたちが逃げようとしても逃げる所がないからである。身持ち女は体が重くて逃げられないからふみにじられ、そのまま捨てられて死ぬから禍である。

ヒラマ15,3,ニーファイの民と呼ばれるこの国民は、自分たちに現れるいろいろなるし不思議とを見て悔い改めなければ禍である。かつてニーファイの民は主が選びたもうた民であって、主はまことにこの民を愛したこの民をこらしめたもうた。主はニーファイの民を愛したも

ヒラマ15,3-1,かれらが罪を犯すたびにこれをこらしめらもうた。

ヒラマ15,4,これに反してレーマン人は、その先祖からの言伝えが悪かったからその行いがいつも悪かった。それで主はレーマン人を憎みたもうたが、今はニーファイ人が道を伝えたによってレーマン人にも救いが来た。主がレーマン人の存在を長くしたもうたのは、ついにレーマン

ヒラマ15,4-1,救おうと言うみこころにほかならない。

ヒラマ15,5,今やレーマン人の大部分はその義務をつくして神の前に慎み、モーセの律法に従って神の命令と律法と裁決とを守る。これをあなたたちは知って欲しい。

ヒラマ15,6,今やレーマン人の大部分はこの通り行つて、ほかの兄弟たちにも真理を知らせようとしてたゆまない努力をしているから、毎日その数に加わる者が多い。

ヒラマ15,7,真理を悟り、先祖から来た言伝えが悪くて憎むべきことを認め、聖文すなわち誌された聖い予言者らの予言を信ずるすべてのレーマン人は、その予言によって主を信じて悔い改め、その信仰と悔改めによってかれらの心を新にされたことをあなたたちは親しく見て知って

ヒラマ15,8,すなわち、以上のようなすべてのレーマン人は、その信仰が堅固で自分たちを自由にした自由の道を確く守っていることを、あなたたちは親しく知っている。

ヒラマ15,9,このレーマン人は、その武器を埋めて、またこれを執るなら罪になることを恐れて武器を執らない。これもまたあなたたちの知っていることである。かれらはその敵にふみにじられて殺されることがあっても、キリストを信ずる信仰のために決して剣をふるって敵を撃と

ヒラマ15,9-1,しない。それであるから、かれらが実に罪を犯すことを畏れているのが明らかである。

ヒラマ15,10,かれらは忠実にその信ずるところの道を守り、また1度教えを受けて悟ったことは堅くこれに従うから、かれらの中に悪事があったにもかかわらず、主はかれらを祝福して長く存在させたもうであろう。

ヒラマ15,11,かれらがたとえ無信仰となっても、私たちの先祖と予言者イノスとそのほか多くの予言者が、私たちの兄弟であるレーマン人に再び真理を元通り悟らせる業について予言をしたことが成就する時まで、主はレーマン人の存在を延したもう。

ヒラマ15,12,末日になると私たちの兄弟であるレーマン人が主の約束を受けることができるようになっているから、たとえかれらがいろいろの艱難に逢い、地上に於てあちらこちらへ追い出され、狩り立てられ打ち散らされて逃げる所がなくなっても、主はかれらに憐みを垂れたもう

ヒラマ15,13,これはレーマン人がその贖い主であって偉大なもことの羊飼である御子(イエス・キリスト)を知る知識、すなわち進の知識を受けてその羊飼の羊の中に数えられると言う予言に正しくなっている。

ヒラマ15,14,それであるから、あなたたちが悔い改めない、レーマン人はかえってあなたたちよりも幸福であろう。

ヒラマ15,15,先祖から来た言伝えのために無信仰になってレーマン人が、もしもあなたたちに現われたような多くの偉大な業を見せられていたならば、決して再び無信仰は陥らなかったであろう。これはあなたたちに解ることである。

ヒラマ15,16,主は、レーマン人をことごとく亡ぼさず、わが好しと思う日にかれらをまたわれに立ち帰らずべし、と仰せになった。

ヒラマ15,17,主はまたニーファイ人について、もしもニーファイ人悔改めをせず、また慎みてわがこころを守らずば、われはすでにかれらの中にて大いなる業をなすにも関らず、かれらn無信仰なる故にのこらずこれを亡ぼすべし、主の生きて在ることの確なるごとくこれらの現わる

ヒラマ15,17-1,確なり、と仰せになった”と言った。

ヒラマ16,,ヒラマン書 第16章

ヒラマ16,*-*,ニーファイ人の中、キリストの教会に加わった者もある。大多数はサムエルの証を否定する。人民、サムエルを襲ってしぼろうとする。サムエル、逃げて故国へ帰る。さらに伝道をつづける。懷疑説多く行われる。

ヒラマ16,1,レーマン人であるサムエルが、都の城壁の上で語ったことを聞いた者は少くなかった。そしておよそサムエルの言葉を信じた者たちはみな出て行ってニーファイを佐賀市求めたが、ニーファイの居る所がわかった時に、かれらは自分の罪をみな否定せずに告白し、主の御

ヒラマ16,1-1,来るためにバプテスマを受けたいと願った。

ヒラマ16,2,1方、サムエルの言葉を信じない者たちはサムエルに腹を立てて、城壁の上に立っているかれに石を投げつける者があり、また矢を射かける者も多かったが、主の“みたま”がサムエルと共にいましたから投げた石も射かけた矢もかれには当らなかった。

ヒラマ16,3,反対者らがどのようにしても、石も矢もサムエルに当てることができないのを見ると、さらに多くの人々はサムエルの言葉を信じ、バプテスマを受けようとしてニーファイの所へ行った。

ヒラマ16,4,この人たちがニーファイの所へ行ったのは、その時ニーファイがバプテスマを施し、予言をし、訓えを説き、悔い改めよと民に勧め、また民がキリストの速に來りたもうことを知るようにいろいろのしりしと不思議とを示し奇跡を行っていたからである。

ヒラマ16,5,ニーファイはまた近い将来に必ず起ることを民に語った。これは、それらの事が起る時になると、民に信仰を与えるために前以てこれらの事を知らせたことを民に思い起させるためであった。それであるから、サムエルの言葉を信じた者はみなバプテスマを受けるために

ヒラマ16,5-1,ニーファイの所へ行き、悔い改めてかれらの罪を告白した。

ヒラマ16,6,しかし人民の大部分はサムエルの言葉を信じなかったから、サムエルに石を投げつけても矢を射かけても当たらないのを見ると、その司たちによばわって“こいつをつかまえてしばれ。こいつには悪鬼がついている。われらの石も矢も悪鬼の能力であたらないのだ。こい

ヒラマ16,6-1,つかまえてしばって追いはらえ”と言った。

ヒラマ16,7,そこで司たちが出て行って捕らえようとする、サムエルは城壁から身をおどらせて飛びおり、その地方から故国へ逃げて帰り、自分と同じ国の民に教えを説き予言をし始めた。

ヒラマ16,8,それから2度とニーファイ人の所へは行かなかったが、人民の有様はこのようなものであった。

ヒラマ16,9,これでニーファイの民を治める判事治世の86年目は過ぎ去った。

ヒラマ16,10,判事治世の87年目もこのようにして過ぎ去ったが、民の大部分は傲慢と悪事とをつづけ、神の前に慎む者はごく少部分であった。

ヒラマ16,11,判事治世の88年目もこのような有様であったが、

ヒラマ16,12,判事治世の89年目、民はますます悪事に耽り、いよいよ神の命令に背くことをした。このほかにはこの年の民の有様にさして変りはなかった。

ヒラマ16,13,判事治世の90年目になると、いろいろの大きなしりしと不思議とが民に現われ、予言者たちの予言したことがようやく事実になり始めた。

ヒラマ16,14,そして天使たちが聖い人々に現われ、非常に喜ばしい音づれを宣べ伝えたから、この年になって聖文に言っていることも事実になり始めた。

ヒラマ16,15,それでも、民の中で信仰の最も強い人々を除くほか、ニーファイ人とレーマン人とを問わずみなその心をかたくなにし、自分の智恵と力だけをたのんで言った。

ヒラマ16,16,“このように多くの事の中で、かれらがよく言い当てたこともいくらかあるが、予言をしたあの大きな不思議が1つのこらず事実になるはずがないことはよく解っている”と。

ヒラマ16,17,このようにして民は互いに論争をして言った。

ヒラマ16,18,“キリストと言うような者が来る道理がない。もしもこのような人が降臨し、予言のように神の子であり天地の父であるならば、なぜエルサレムの人々に現われるようにわれわれにも現われないのか。

ヒラマ16,19,なぜその人はエルサレムの国で現われるようにこの国にも現れないのか。

ヒラマ16,20,キリストにかかわる説は、われわれの間に起るのではなくて、われわれの知らない遠い国に起るはずの1つの大きな不思議をわれわれに信じさせるために、われわれの先祖が伝えた悪い言伝えにすぎないことがよく解っている。それで、この大きな不思議はわれわれの知

ヒラマ16,20-1,遠い国で起るのであるから、われわれは実際にこの目で見て本当か偽かを知ることができない。従ってかれらはこの説でわれわれを欺くことができる。

ヒラマ16,21,またわれわれがかれらに教えを仰ぐから、かれらはわれわれを奴隸として服従させその命令に従わせるために、悪魔のたくみまたは魔法を以てわれわれに解らない大きな奇跡を行い、そしてわれわれを欺くのであるこのようにして、もしかれらに服従をするならば、われ

ヒラマ16,21-1,生涯欺かれるであろう”と。

ヒラマ16,22,民はこのほかにまだ空しく愚であることを多く心に考えている。まことにサタンは民を扇動してたえず悪事を行わせ、その心を善い事と将来起ることとに対してかたくなにするため、全地をめぐって偽りの説を弘め不和をひき起したからこれによって民は大いに乱れた。

ヒラマ16,23,主の民の間に現われたしりしや不思議や、民自身が行った多くの奇跡があつたにもかかわらず、サタンは全地に於て強く人々の心を司どるようになった。

ヒラマ16,24,このような有様でニーファイの民を治める判事治世の90年目は暮れて行った。

ヒラマ16,25,これでヒラマン書は終る。ヒラマン書はヒラマンとその息子たちが作った記録によって書かれた。

3ニ-1,*-*,,ニーファイ第3書

3ニ-1,*-*,,ヒラマンの子であるニーファイ、その子であるニーファイの書

3ニ-1,*-*,,ヒラマンはアルマの子であるヒラマンの子である。アルマはアルマの子であつて、リーハイの子であるニーファイの裔である。このリーハイはユダヤ国の応ゼデキヤの代の第1年にエルサレムを去つた者である。

3ニ-1,,ニーファイ第3章 第1章

3ニ-1,*-*,,ヒラマンの子、ニーファイ、土地を去る。救い主降誕のしるしが示される。反対の結果が現われる。再びガデアントン強盗団のこと。

3ニ-1,1,91年目は早くも去つた。この時はリーハイがエルサレムを出てからちょうど600年に当り、ラコニーアスが国の大判事兼統治者をしていた年であつた。

3ニ-1,2,この時ヒラマンの子のニーファイは真鍮版とそれまで保存されて伝わっていたすべての記録と、リーハイがエルサレムを出てこのかた神聖に保存されていた物をすべてその長男のニーファイに委ねゼラヘムラの地を出て行ってしまったが、

3ニ-1,3,どこへ行ったか誰もその行方を知らなかった。それで、その子のニーファイは父に代っていろいろの歴史を保存しこの民の記録も書きついだ。

3ニ-1,4,92年目の始めに、前よりもさらに大きなしるしと奇跡とが民に現われ、予言者たちの言つた予言はますます事実となつて現われた。

3ニ-1,5,しかし、ある人々はレーマン人であるサムエルの予言が成就する時はすでに過ぎていていると言ひ、

3ニ-1,6,はらからを嘲り笑つて“見よ、成就すべき時はすでに過ぎていているのにサムエルの予言はまだ事実となつて現われない。それであるから、お前たちがこの予言を嬉しがつて信ずるのはむだである”と言つた。

3ニ-1,7,このようにして、かれらは全国いたるところにひどい騒ぎを起した。そこで信仰のある者は、予言をされた事が何かして現われないことになりはしないかと思つて事情に悲しく思い始めた。

3ニ-1,8,しかし、かれらは2昼1夜の間暗やみがなくてただ昼のような1日になることを固く信じて待ち設け、自分たちの信仰が空しいものでなかつたことを確めようとした。

3ニ-1,9,また信仰をしない連中は日を特に定めて、予言者サムエルの予言したしるしが現われなかつたならば、この伝説を信ずる者たちをみな殺すことにした。

3ニ-1,10,ニーファイの子のニーファイは、その民が企てているこの悪事を知ると心に非常な憂いをおぼえて、

3ニ-1,11,出て行って地に伏しその兄弟たちのために、すなわち先祖から來た言伝えを信ずるために殺されようとする人たちのために熱心に自分の神に祈つた。

3ニ-1,12,ニーファイが終日熱心に祈りを捧げたから(イエス・キリスト)の御声がニーファイに聞えて、

3ニ-1,13,“頭をあげよ。元気を出せ。予言の成就する時は近づきたり。今夜そのしるし現わるべし。われはわが聖き予言者らの口を借りて言い伝えたるすべての事を必ず成就せしむることを世の人々に証明せんために明日世の中に來らん。

3ニ-1,14,われが自分の民の所に来たるは、われが世の始めよりこのかた世の中の人々に示したるすべての事を成就し、御父のこころも子のこころも行ふためなり。われは神の力にて身ごもりたる故に音痴chのこころを行ひ、またわれは肉体をもつ故に子のこころを行ふ。見よ、時

3ニ-1,14-1,今夜そのしるしを現わすべし”と仰せになった。

3ニ-1,15,ニーファイの受けたこの言葉は言われた通り本当に事実となった。すなわち、日が入つても暗くならず、夜になつても暗くならなかつたので民は驚いた。

3ニ-1,16,予言者たちの言葉を信じなかつた多くの人々は、これを信ずる人々を殺そうとして企てた大きな策が今は破れてしまつたことを認めたので地に倒れて死んだようになった。予言の通りにしるしがすでに現われたので、

3ニ-1,17,民は神の御子(イエス・キリスト)が間もなく現われたもうに違いないことを悟つた。要するに北の地にも南の地にも西の境から東の境にわたつて、人々は皆驚いて地に倒れた。

3ニ-1,18,かれらは予言者たちが長年の間これらのことについて証をしていたことを知り、また予言をされたしるしが早くも現われたことを知つて、自分たちが罪を犯しておりまた信仰を以ていないから恐れおののいた。

3ニ-1,19,その夜は1晩中少しも暗やみがなく真昼のように明るかつた。その翌朝、太陽はいつもの通り規則正しくのぼつたが、このしるしによって民は主(イエス・キリスト)の降誕したもう日であることを知つた。

3ニ-1,20,このようにして、あらゆる事がみな予言者たちが言つた通りに成就した。

3ニ-1,21,また予言のように1つの新しい星が現われた。

3ニ-1,22,しかしその時以後サタンは民の心をかたくなにして、民が見たこのようなしるしと不思議とを信じないように偽りを民の間に弘めたが、この偽りと欺偽があつたにもかかわらず大部分の民は信仰をして主に立ち歸つた。

3ニ-1,23,ニーファイと多くの人々とは民の間を経めぐつて民が悔い改めたしるしにバプテスマを施したが、このバ

プテスマによって罪の大きな赦しがあった。このようにして民はまた国内に平和を保つようになった。

3ー1,24,数人の者が教えを説き聖文から論じて、モーセの律法を守る必要はすでにないことを証明しようとしたほかに何も争いがなかったが、この数人の者は聖文の意味がよく解っていなかったからその説くところは誤っていた。

3ー1,25,しかし、この数人の者はやがて心を改めて自分の誤りを認めた。それはモーセの律法がまだその目的を達してその効用がないようになっては居ないことと、この律法が1言1句の裔にいたるまでみなその目的に達しなければならないことと、みなその目的を達しない内は

3ー1,25-1,といえども不用にならないことなどを教えられたからである。それであるから、異なった意見を立てる者はこの年にその誤りを認めてかれらの罪を告白した。

3ー1,26,92年目に、すべての聖い予言者が予言をしたように本当にしるしが現われ、喜ばしい音ずれが民に告げられた。こうして92年目は終わった。

3ー1,27,93年目もまた、あの山に住んで全地を横行していたガデアントン強盗団の事件があっただけでおだやかにすんだ。この強盗の立てこもっている所と隠れ場所とは堅固であって人民はこれに勝つことができなかった。従って強盗はたびたび人殺しをし、民の中でひどい殺

3ー1,28,94年目に、強盗の所へ逃げて行ってその仲間となって謀叛人がニーファイ人の中に多数あったから強盗の数が大いにふえた。これは国を去らずにのこっていた忠実なニーファイ人を非常に悲しめた。

3ー1,29,またレーマン人も、その子供らの中にすでに青年に達して独立するようになってから、あるゾーラム人たちの偽りと甘い言葉にさそわれてガデアントン強盗団の仲間にも多数加わった者があるから非常に憂い悲しんだ。

3ー1,30,レーマン人はその若い者たちの罪悪のため、このように苦しんでその信仰と義とはますます衰えて行った。

3ー2,,ニーファイ第3書 第2章

3ー2,1,95年目の同じ状態で過ぎて行っただが、民はようやくその見たり聞いたりしたしるしや不思議を忘れて、天からのしるしや不思議を驚くことがいよいよ少くなり、とうとうその性質はかたくなに心は暗くなって見たり聞いたりした一切のことを信じないようになった。

3ー2,2,すなわち、かれらはその見たり聞いたりしたことが、民の心を欺いて誘うために人間と悪魔の力とでなされたと言う愚な考えを心に起した。このようにしてサタンはまたも民の心を司どりその目を暗まして、キリストにかかわる教えは愚であって無益なものであると言う

3ー2,2-1,信じさせた。

3ー2,3,そこで民の罪悪と憎むべき行いとはますます甚しくなり、もはやしるしと不思議が現れることを信じなかった。サタンは人の中へ行ってその心をまどわし、人々を誘って地上に甚しい悪事を行わせた。

3ー2,4,このような有様で96年目、98年目および99年目と過ぎて行っただ。

3ー2,5,今やニーファイの民を治めたモーサヤ王の時代からすでに100年たち、

3ー2,6,リーハイがエルサレムを出てから609年過ぎ、

3ー2,7,キリストがこの世に降りたもうと言って予言者たちが知らせたしるしが現われてから9年を経た。

3ー2,8,今やニーファイ人はしるしが現われた時、すなわちキリスト降誕の日から新しい紀元を開いた。そこで9年を経たと言うのである。

3ー2,9,いろいろの歴史を預かっているニーファイの父ニーファイは、ゼラヘムラの地を出たまま帰らなかったの、ひろく國中を探したがその行方は知れなかった。

3ー2,10,さて民は自分らが多くの説教と予言とを聞いたにもかかわらず、相変らずその罪悪を行っただ。これで10年目は過ぎつづいて11年目も過ぎたが、この年の間罪悪が行われた。

3ー2,11,13年目にはガデアントン流の強盗の数が非常にふえて多くの人を殺し多くの都市を荒し、残酷な殺戮を多く全地に行っただから、ニーファイ人もレーマン人も共に強盗に対して武装をせねばならなくなり、全地に戦争と不和が起っただ。

3ー2,12,心を改めて主を信仰するようになったすべてのレーマン人は、その同胞であるニーファイ人と聯合してその命を安全に保ち、その女子供を護り、その権利と教会の特権と独立自由とを守るために、ガデアントン流の強盗に対抗して武器を執らなくてはならぬようになった

3ー2,13,そして、13年目がまだ終わらない中に、非常に激しくなっただこの戦のためにニーファイ人は全滅せんばかりの有様となっただ。

3ー2,14,ニーファイ人と聯合をしたレーマン人はニーファイ人の中に数えられ、

3ー2,15,そののろいが除き去られてニーファイ人のような白い皮膚となっただ。

3ー2,16,その青年と女子とは非常に白く美しくなっただ、ニーファイ人の中に数えられまたニーファイ人と呼ばれた。これで13年目は終わっただ。

3ニ-2,17,14年目が始まっても、ニーファイの民と強盗団との戦はひきつづいて止まらずますます激しくなった。しかし、ニーファイの民は多少強盗に勝ってこれをニーファイの民の所有地から山や隠れ場所へ追い返した。

3ニ-2,18,これで14年目が終わったが、15年目にはこの強盗共がまたもニーファイの民を攻めようとして襲来した。ところがこのたびはニーファイの民の中に罪悪や多くの闘争謀叛などがあったため、ガデアントン流の強盗はたびたびニーファイの民にうち勝った。

3ニ-2,19,このような有様で15年目が暮れたが、民はこのように多くの艱難に逢い、その上い滅亡の剣が頭の上にかかっていた。かれらはまことにその悪事のために滅亡の剣に打ち倒されようとする危い場合に臨んでいた。

3ニ-3,,ニーファイ第3書 第3章

3ニ-3,*-,国の統治者ラコニアス、強盗団の首領ギデアンハイから手紙を受け取る。降服を要求される。ラコニアス、降服の要求を無視して防衛を備えをする。

3ニ-3,1,キリスト降誕紀元第16年目に、国の統治者ラコニアスは強盗団の首領でその支配者をしている者から手紙を受け取った。その手紙には次のように述べてあった。

3ニ-3,2,"国のいと貴い統治者ラコニアスよ。われは汝にこの手紙を送り、汝も汝の臣民も共に自己の権利と自由と思うところを確乎として確く守ることを大いに賞めたたえる。汝らは自分で'わが自由'と言い、'わが所有'と言い、また'わが国'と言うもんを守るに当っ

3ニ-3,2-1,あたかも神の手に助けられるかのように堅固である。

3ニ-3,3,しかし、いと貴いラコニアスよ。汝らがわが指揮する多数の勇士に向って抵抗することができると、愚にもまた無益にも考えているのはあわれなる次第である。今やわが勇士はすでに武装をし、ニーファイ人の所へ出陣してかれらを亡ぼせと言うわが命令を待ちわびて

3ニ-3,4,われはすでにわが勇士を戦場で試験して、その何者にも負けない精神を知り、また汝らがかれらに加えた多くの不正があるために、かれらは汝らに対して永久に消えぬ怨みを抱いていることを知っている。従って、一たびかれらが汝らを襲えば、汝らは必ず全滅させられ

3ニ-3,5,それであるから、われは汝らが自分で正しいと思う道を決く守ることと、戦場に於ける汝の気高い精神に感じて汝の福利を思うから、この手紙を書いて手づからこれを封じ汝にこれを送る。

3ニ-3,6,汝らはわが味方の刃にかかって亡びるよりは、むしろ汝らの都市、汝らが所有する土地および汝らの持物をこごとくわが味方に譲りわたす方がよい。われは汝らにそうしてもらいたいためにこの手紙を送る。

3ニ-3,7,要するに、われは汝らにわれらに負けてわれらと聯合し、われらの秘密の仕事をよく覚えて奴隷となれと言うのではない。われらの味方すなわちわれらと同様の者になって、われらの一切の持物を共有する団員になってほしいと言うのである。

3ニ-3,8,汝らがこのようにすれば、われは誓いを立てて汝らが亡ぼされないことを保証する。もしならないならば、われが来月命令を下してわが軍を汝らに向って進軍させることは誓って確である。わが兵が進むならば、汝らの命を助けることなく汝らを殺し、剣を下して汝らを

3ニ-3,8-1,させるであろう。

3ニ-3,9,見よ、われはギデアンハイと言ってガデアントン秘密結社の支配者である。本結社とその行いは全量であってその紀元は古く、代々伝わってわれらに至っている。これはわれがよく知っているところである。

3ニ-3,10,ラコニアスよ。われはこの手紙を汝に送り、汝らが血を流さずにその所有する土地と持物とを譲りわたし、わが味方である本団員が、正当に持っているはずの権利と政權とを元通り再び持つようになることを要求する。汝らはわが団員が正当に持っているはずの政權を

3ニ-3,10-1,許さなかった。その悪事のためにかれらは汝らと分れたのである。従って、汝らがもしここにあげた要求に応じないならば、われは団員が受けた不正な取り扱いに対してその仇を汝らに返す決心である。われはギデアンハイである"と。

3ニ-3,11,この書面を受け取るとラコニアスは、ギデアンハイがニーファイ人の所有している土地を譲りわたせと要求し、国民をおびやかして仇を返すと言ったその心の大胆さに驚いた。なぜならば不正の取り扱いを受けたとギデアンハイが言った者たちは、自分から謀叛をして

3ニ-3,11-1,よこしまな憎むべき強盗の群に加わったことによって、自分たち自身を不正に取り扱った以外に、ほかからなんらの不正な取り扱いを受けなかったからである。

3ニ-3,12,しかし、統治者ラコニアスは義しい人であって強盗の要求と脅迫とを恐れなかったから、強盗団の支配者であるギデアンハイの手紙に耳もかさず、強盗らが出陣して国民を攻めてくる前に主が自分らに力を与えたもうよう民に祈りをさせ、

3ニ-3,13,また全国の民にふれを出して、土地を除くほか女子供、家畜そのほか一切の所有物を一箇所集めよと言った。

3ニ-3,14,かれはこのようにして集った者のまわりにとりでを築いてこれを堅固に片目させ、昼も夜もかれらを強盗

から守るためにニーファイ人の軍とニーファイ人の中に数えられるレーマン人の軍とを置いた。

3ニ-3,15,そうしてラコニアスは民に告げて言った“お前たちは自分のした悪事を一切悔い改めて主に歎願しなければ、どうしてもこのガデアントン強盗団の手から救われることはできない。これは主が生きてましますように確なことである”と。

3ニ-3,16,ラコニアスの言葉と予言には不思議な大きい力があつたから、民はみな怖れを生じてラコニアスの命令通り力の限りを尽した。

3ニ-3,17,強盗の軍勢が野の法から攻めてくる時、ラコニアスはニーファイ人の兵を指揮するためにニーファイ人の各軍にみな司令官を任命したが、

3ニ-3,18,すべての司令官の首領に立ってニーファイ人の聯合軍の司令長官となる者も任命された。この人はその名をギドギドーナイと言ったが、

3ニ-3,19,ニーファイ人は民が罪惡に沈んでいる時のほか、啓示と予言の“みたま”を有つ人を司令長官に任命するのがその習わしであつた。従つてこのギドギドーナイは民の中の大予言者であつた。大判事もまたそうであつた。

3ニ-3,20,このとき民はギドギドーナイに言った“主に祈りたまえ。われわれが山と野に進んで行って強盗を襲い、かれらの領内でこれを亡ぼすようになしたまえ”と。

3ニ-3,21,ところが、ギドギドーナイは答えて言った“主はそうすることを許したまわない。われわれがもしも強盗へ攻めて行くならば、主がわれわれを強盗の手にわたしたもうであろう。それであるから、われわれはわが国の中央で準備をととのえ、あらゆる軍勢を集めよう。強

3ニ-3,21-1,行かないで、むしろ強盗がせめてきて戦う時を待つことにしよう。そうすれば、主が生きてましますように確に主は強盗をわれわれの手に授けたもうにちがいない”と。

3ニ-3,22,第17年の末にラコニアスのふれはすでに全国いたるところに及び、民はその馬、車、あらゆる家畜、穀類そのほか一切の持物を携えてあるいは幾千人づつ進んできて定められた土地へ行き、ついにみな敵を防ぎ守るために定められた土地に集合した。

3ニ-3,23,民が集合する所と定めてあつた土地はゼラヘムラの地とバウンテフルの地であつた。すなわち、それはゼラヘムラの地からバウンテフルの地とデソレションの地との教会に至る土地であつた。

3ニ-3,24,そして、ニーファイ人と呼ばれる民が何万人となくここへ集つた。さて、ラコニアスが民を南の地に集めたのは、北の地に大きなろいが下つたからである。

3ニ-3,25,民はここに於て敵を防ぐために自分らのまわりを固め、一かたまりになって同じ土地に住んだが、ラコニアスの言った言葉を忘れずにこれを恐れて自分らの犯した一切の罪を悔い改め、自分の神である主に祈りを捧げ、敵が攻めてきて戦う時に神が自分らを救いたもう

3ニ-3,25-1,願つた。

3ニ-3,26,民はまたその敵のために非常に心を痛めたが、ギドギドーナイは民にあらゆる武器を造らせ、また自分が教えた流儀のよろいと楯とで身を固めさせた。

3ニ-4,,ニーファイ第3書 第4章

3ニ-4,*-*,強盗勢、敗北してその首領殺される。首領のあとをついだゼムナライハ絞首刑に処せられる。ギドギドーナイ勢の勇敢なこと。

3ニ-4,1,第18年の末に、あの強盗の軍勢はすでに戦の備えをして岡、山、野原そのとりでならびにその隠れ場所から出撃して、南の地でも北の地でもニーファイ人が捨ててきた一切の土地と都市とを占領することになった。

3ニ-4,2,ところがニーファイ人が捨てて行つた土地には、野の取りも獣もなくて野へ行かなければ強盗らの食べる獲物はなかつた。

3ニ-4,3,それであるから、強盗らは野に居なければ食物がないので生きて行くことができなかった。それは、ニーファイ人がすでにその羊の群と牛の群と一切の持物とを集めて、その土地を荒らしてしまった後に一かたまりとなつたからである。

3ニ-4,4,それで強盗らはニーファイ人と公然戦争をする以外には、掠奪をして食物を手に入れる道はなかつた。しかもニーファイ人は一かたまりになってその数が多く、必ず7年間命がつなげるように食糧、馬、牛およびあらゆる家畜を集めていた。ニーファイ人は7年間命をつ

3ニ-4,4-1,その間に強盗を全体の土地から亡ぼしてしまおうと思つていた。このような有様で第18年は終つた。

3ニ-4,5,第19年に、ギデアンハイは出て行ってニーファイ人と戦うことは必要であると考えた。それはその味方が掠奪、強盗、人殺しなどをするほかに生きて行く道がなく、

3ニ-4,6,またあちらこちらへ散らばって行って穀物を作つたなら、ニーファイ人が自分らを襲つて殺しはしないかと思つたから、思い切つて穀物も作る勇氣もなかつたからである。そこで、ギデアンハイはその年の内に出て行ってニーファイ人と戦えと言う命令をその軍勢に下し

3ー4,7,そこで6月に強盗の軍勢が攻めよせたので、その戦が始まった日は非常に恐ろしい日であった。強盗勢は強盗の装いをして、その腰には血で染めた小羊の皮をまとい、その頭は毛をそってかぶとをかぶっていた。すなわち、ギデアンハイの軍勢は血で染めた皮衣を着てい

3ー4,7-1,非常に恐ろしい姿をしていた。

3ー4,8,ニーファイ人の軍は、ギデアンハイの軍の恐ろしい姿を見るとみな地に伏して自分らの神である主に歎願をして、自分らの命を助け自分らの身を敵の手から救いたまえと祈りを捧げた。

3ー4,9,ギデアンハイの軍はこの有様を見ると、これはニーファイ人が自分の軍勢の恐ろしい姿を見て恐怖のあまり倒れたのであると思い非常に喜んで大きな叫び声をあげたが、

3ー4,10,それはぬか喜びであった。ニーファイ人は強盗らを恐れたのではなくて、ただ自分らの神を畏れて神に守りを祈り求めているだけであった。ギデアンハイの軍がニーファイ人に襲いかかった時、ニーファイ人はすでに敵を迎えて戦う準備を終っていたから、主から受けた

3ー4,10-1,敵と戦い始めた。

3ー4,11,戦は6月に始まったが、それは激しい恐ろしい戦であってこのように恐ろしい第殺戮はまことにリーハイがエルサレムを去ってこのかた、その子孫である国民の中に1度もあったことがない。

3ー4,12,ニーファイ人はギデアンハイのおびやかしかや誓いをものともせず敵と戦って勝ったので強盗勢は退いた。

3ー4,13,ギドギドナーイは軍に命を下して、強盗勢を野の境まで追撃せよ、途中でニーファイ人の手に落ちる敵の命を許すなど行ったから、ニーファイ人は敵を野の境まで追撃し、また力の及ぶ限りこれを殺してギドギドナーイの命令を果たした。

3ー4,14,ギデアンハイは勇しく立って戦ったが、1たび逃げ出すやニーファイ人の兵に追いかけられた。この時ギデアンハイは逃げたが激しく戦って疲れていたからとうとう追いつかれて殺されてしまった。これが強盗ギデアンハイの最後である。

3ー4,15,そこでニーファイ人の軍はその要害の地へ帰ってきた。この第19年は過ぎ去ったが、強盗勢はまた出てきて戦わず第20年にも出撃しなかった。

3ー4,16,第21年には強盗勢は出てきて戦わなかったけれども、四方から近づいてニーファイの民をとりかこもうとした。かれらは、ニーファイの民とその畑との間に立って四方からこれをとりかこみ、その出入り道をふさいだらば意のままにニーファイの民を負かすことがで

3ー4,16-1,考えたからである。

3ー4,17,ところで強盗勢はこのたびゼムナライハと言う者をその支配者に任じた。従って包囲をさせたのはこのゼムナライハである。

3ー4,18,しかし見よ、この包囲はかえってニーファイ人にとって利益であった。ニーファイ人の貯えた食糧は豊であって、ニーファイ人が苦しまでその包囲をつずけることは強盗どもにできなかった。

3ー4,19,強盗どもは食糧に乏しく野でとった肉のほかに命をつなぐものはなかったからである。

3ー4,20,そして野の鳥獣までも少なくなったから、かれらはまさに飢死をするばかりであった。

3ー4,21,その上、ニーファイ人は夜となく昼となくたえず出撃して敵を襲い、その度毎にあるいは何千人あるいは何万人と強盗どもを殺した。

3ー4,22,それであるから、ゼムナライハの兵は夜昼大きな損害を受けるによって、ニーファイ人を負かすことを断念したいと思うようになった。

3ー4,23,そこでゼムナライハは兵に命令して、包囲を解いて北の地の最も遠い所へ進軍せよと言った。

3ー4,24,ところがギドギドナーイは敵の企図を知り、また敵が食糧の乏しいためと、受けた大きな殺戮とのために弱っていることを知ったから、夜その軍勢をつかわして敵の退路を断ち切り、退路に軍勢を置いた。

3ー4,25,兵は夜の中にこの軍略によって間道を進み強盗勢の前へ出たから、あくる日強盗勢が進軍し始めると、かれらは正面からも背面からもニーファイの軍に攻められた。

3ー4,26,そして、南方に居た強盗勢もその退路を断ち切られた。以上はみなギドギドナーイの命令に従って行われたことである。

3ー4,27,これによって、何千人と言う強盗どもはニーファイ人に降参をしてとりこになったが、とりこにならなかったほかの強盗どもは殺された。

3ー4,28,そして、司令長官であったゼムナライハは捕らえられて木の上からつるされ区切をくくられて死んだ。かれを絞首刑に処してから、ニーファイ人はその木を地に切り倒して大声によばわって言った。

3ー4,29,"この後権力を貪り秘密結社によって国民を殺そうとするすべての者たちが、今われらがこの1人を地に倒したように国民によって地に倒されるよう、願わくは主よ、この国民をその義であるままにまた心の聖きままに守りたまえ"と。

3ニ-4,30,ニーファイ人は喜んで再び声をそろえてよばわって言った。“アブラハム、イサク、ヤコブの神よ、願わくはこの国民が神に護りを祈り求める中は、これを義であるままに守りたまえ”と。

3ニ-4,31,また神が大きな恵を垂れてもうて、自分らを敵の手に落ちないように守りたまうたので、一同歌い出して神を讃美した。

3ニ-4,32,かれらは“いと高き神にホザナ”と叫び、また“全能の主なると高き神の御名を讃美し奉る”とよばわった。

3ニ-4,33,かれらは神が大きな恵みを垂れて敵の手からかれらを救いたもうたから、多くの涙を流すほどの喜びが胸に満ちた。そしてかれらは、このように永遠の亡びから救いだされたのは、自分たちがすでに悔い改めてへりくだったことによるのを覚った。

3ニ-5,,ニーファイ第3書 第5章

3ニ-5,*-*、ニーファイ人、悔い改めて悪事を止めようとする。モルモンの自己に関する記事と、かれの書き誌した版に関する記事。イスラエル人の集合を今1度ほのめかす。

3ニ-5,1,ニーファイ人の中にあつて予言をしたすべての聖い予言者の言葉は、少しでもこれを疑う者が1人もなかった。かれらはその言葉が必ず事実になることを知り、

3ニ-5,2,また予言者たちの言葉通り多くのしるしが現われているから、すでにキリストが確に降誕したもうていることを知り、またすでに事実になっていることがあるので一切のことが予言通りになることを知っていたから、

3ニ-5,3,かれらの罪や憎むべき行いやみだらな行いをことごとく捨てて夜昼熱心に神に仕えた。

3ニ-5,4,さてニーファイ人は、殺されなかった強盗どもを1人も逃がさずみなとりこにしてこれを牢屋に入れ、神の道をこれに宣べ伝えた。そして、その罪を悔い改めて2度と人殺しをしないと誓いを立てた者はみなこれを放つてやった。

3ニ-5,5,しかし、誓いを立てず、たえず暗殺の心を抱いている者、またその同胞をおびやかす者たちはみなこれを罪ありとし、国法に照して罰を与えた。

3ニ-5,6,このようにしてニーファイ人は、おびただしい罪惡を犯し甚しく多くの殺人をしたあのよこしまで憎むべき秘密結社をことごとく亡ぼしてしまった。

3ニ-5,7,これで第22年、23年、24年、25年は過ぎ去った。すでに過ぎ去ったこの25年の間には、

3ニ-5,8,ある人の目に偉大であるまたは驚嘆すべきであると思える出来事が多く起つたが、それにもかかわらず、その出来事をみなこの經典に入れてのせることはできない。この經典には25年の間にあの数多い民の間に行われたことの100分の1ものせることができない。

3ニ-5,9,しかし見よ、この人民のした事をみなの方の設ける記録がほかにある。そして、その中に短いけれども真実な記録をニーファイがのせている。

3ニ-5,10,それであるから私は、このニーファイ版と言う版に刻んで記してあるニーファイの記録に従ってその出来事を記す。

3ニ-5,11,私が自分で刻むこの記録は、これを自分の手で作った版の上に刻んで記すのである。

3ニ-5,12,私の名はモルモンと言う。これは人民が罪惡を犯した後にアルマが始めて人民の間に教会を立てたモルモンの地の名をとって名づけられたのである。

3ニ-5,13,私は神の御子イエス・キリストの弟子の1人であつて、キリストの民に永遠の生命を得させるために、キリストの道を宣べ伝える役目をキリストから委ねられた者である。

3ニ-5,14,すでに死んだ聖い者たちの祈りがその信仰の通りになるために、私が過去にあつたことを神のみこころに従って記録することは大切である。

3ニ-5,15,すなわちリーハイがエルサレムを去ってから現今に至るまでのことを簡単に記録する。

3ニ-5,16,そこで私は、まず私が生まれる時までのことを私の前に生きていた人々の記録から取って書き記し、

3ニ-5,17,次に私が生れてから、私が親しく見たことを記録する。

3ニ-5,18,それであるから、私が作る記録が正しくて真実であることは私がよく知っている。それにもかかわらず、私たちの言葉では書きつくし難いことが多くある。

3ニ-5,19,さて、これで私は自分のことを言うのを止めて、私が生まれないさきのことを書きつづけよう。

3ニ-5,20,私はモルモンと言って、リーハイの正統の子孫である。私が当然わが神でありわが救い主であるイエス・キリストを讃美しなくてはならないのは、イエスが私たちの先祖をエルサレムの地からつれ出し、(イエス、およびイエスがエルサレムから伴いたもうた者もほかに

3ニ-5,20-1,つれ出されたことを知っている者はなかった)また私と私の民との身も霊も救われるほどの知識を授けたもうたことである。

3ニ-5,21,神はまことにヤコブの言えを恵み、またヨセフの子孫に憐みを垂れたもうた。

3ニ-5,22,またリーハイの子孫も、かれらが神の命令を守るからその約束の通りに祝福して榮えさせたもうた。

3ニ-5,23,神は確にヨセフの子孫の残っている1部に、また再び自分らの神である主のことを知らせたもう。
3ニ-5,24,また残って全地の面に散らされたヤコブの子孫をことごとく世界の4方から集めたもう。これは主が生きてましますように確なことである。
3ニ-5,25,神はこれまでにヤコブの全家と誓約を結びたもうた。その誓約は神のみこころにかなう時に果されるものである。その時になって神はすでにヤコブの全家に立てたもうた誓約のことをまた再びかれらに知らせたもう。
3ニ-5,26,そこでかれらは自分らの贖い主で神の御子であるイエス・キリストを知り、世界の4方から集められて、自分らが散った時に追い出された自分の土地へ帰る。これが事実になることは、主が生きてましますように確なことである。アーメン。
3ニ-6,,ニ-ファイ第3書 第6章
3ニ-6,*-*,,ニ-ファイの民、栄える。富と、高慢と、階級の差別がつついて起る。不和のために教会が分裂する。暗黒の行い。
3ニ-6,1,第26年に、ニ-ファイ人は各々その妻子、羊、牛、馬およびあらゆる家畜と持物を携えて、みなもと住んだ土地へ帰った。
3ニ-6,2,ニ-ファイ人はまだその食糧を食い尽くしてしまっていなかったから、残っているあらゆる穀物、金、銀および一切の貴重品を携えて北方の地の南北にも南方ほ地の南北にも各々もと住んだ地方であるそれぞれの住所へ帰った。
3ニ-6,3,そして平和を保誓いを立てたが、ひきつずきレーマン人になりたいと言う強盗どもには自分で働いて支えることができるよう、その数の多い少いによって地面を分け与えた。このようにして全国に平和が確立した。
3ニ-6,4,従って国民は再び栄えて偉大な者となり始めた。さて第26年、27年は過ぎ去って全国には秩序が善く保たれ、国法はすでに公平と正義に基づいて定められて居った。
3ニ-6,5,それであるから、国内の人民が罪惡に陥ることさえなければ、その繁栄がつづくのを妨げるものは1つもなかった。
3ニ-6,6,国内にこの大きな平和を確立した者こそギドギド-ナイと大判事ラコニアスと任命されて司となった者たちである。
3ニ-6,7,多くの都市が新しく建てられ、多くの古い都市が修理され、
3ニ-6,8,都市から都市へ、地方から地方へ、また所から所へ行く多くの街道が開通された。
3ニ-6,9,このように国民はいつも平和で大28年が終った。
3ニ-6,10,ところが第29年になると、国民の中に多少の争いが起り、中には非常にトンでいるから高ぶって大言を吐く者があり、ついにひどい迫害をさえ起すようになった。
3ニ-6,11,国の中には商人が多くあり、また法律業者や官吏も多くあって、
3ニ-6,12,民はついにその財産と学問を治める便宜の多少とによって階級に差別をつけ始めた。国民の中のある者は貧乏のために学問がなく、また他の者は富があるから多くの学問を修めた。
3ニ-6,13,また高ぶる者とへりくだる者があり、ある者はののしる者にののしり返し、また他の者はののしり、迫害そのほかあらゆる苦難を受けてもこれにののしりを返さず、神の御前にへりくだって悔い改める心を持った。
3ニ-6,14,このように全国に大きな不平等ができてそのために教会はつぶれ始めた。まことに第30年になると心を改めて真の教えを信仰する僅のレーマン人の教会を除いて、全国の教会はみなつぶれてしまった。この僅のレーマン人は信仰堅固で少しも動かず、喜んで全く熱心に
3ニ-6,14-1,守ったから決して教会を去らなかつた。
3ニ-6,15,このような悪事が国民の中に起ったのはすなわちサタンが民の心を先導してあらゆる悪事をさせ、高ぶらせ、その心を誘って権力と威勢と財産とこの世の空しいものを食らせることに非常に力があつたからである。
3ニ-6,16,このようにサタンが民の心をまどわし、民にあらゆる悪事をさせたから民が平安を楽しんだのは僅に数年に過ぎなかつた。
3ニ-6,17,それで、第30年の始めころ、民はすでに長い間悪魔の誘惑に身を委ねて、悪魔の意のままにここかしこへ誘われ、悪魔の望む悪事は何事でもこれを行い、まことに恐ろしい罪の境涯に居た。
3ニ-6,18,民は知らずに罪を犯したのではない、自分らに関する神のみこころはどうに教えられてよく知っていたのであるから、民はことさら神に背いたのである。
3ニ-6,19,そのころはラコニアスの息子であるラコニアスの時代であつた。息子のラコニアスがその年に父ラコニアスの位をついで国民を治めて居たからである。
3ニ-6,20,このラコニアスの時代には天から啓示を受けた人々が現われて全国の人々へつかかわされ、その間に立って教えを説き、また民の罪惡や悪事について大胆に証をし、さらに主がその民のために設けたもう贖救に関しても証をした。言いかえると、キリストの復活について
3ニ-6,20-1,証をしたキリストの死とその苦しみについても証をした。

3ー6,21,さて国民の中にはこれらのことを証した人々を烈しく怒る者が多かったが、これら怒った者たちは主として高等判事らとさきに大祭司の職または法律業者の職にあった者たちである。当時法律業者であった者たちもみな以上のことを証した人々を怒った。

3ー6,22,しかし法律業者でも判事でもまた大祭司でも、国の統治者が宣告文に署名をする前に人を死刑に処する権力はなかった。

3ー6,23,それにもかかわらず、キリストに関することについて大胆に証をしたあの人々の中には、判事たちに捕らえられて人知れず殺された者が少なかったが、人知れず殺されたのであるから、その死刑が行われてから国の統治者は初めてこれを知った。

3ー6,24,しかし、国の統治者の許可を得ないで人を死刑に処することは国法に叛くことであるから、

3ー6,25,国法に叛いて主の予言者たちに死刑を言いわたした右の判事らを、ゼラヘムラの地に居た国の統治者に訴えた者がある。

3ー6,26,そこでこの判事らは捕えられ、国民の賛成によって制定された国法に照らしてその罪を裁かれるため大判事の前に引き出された。

3ー6,27,ところが右の判事たちには多くの朋友親族があったが、この時ほかの大部分の法律業者や大祭司らが集って、国法に依る裁判を受けることになっていた判事たちにつながる親族と結托し、

3ー6,28,互に誓いを立てた。その誓いは悪魔があらゆる義に敵対する結社を起すために示し与えたものであって、昔の人々の立てた誓いと同じものである。

3ー6,29,すなわち、当時の者たちもまた主の民たちに反対して結托しこれを亡ぼすと言う誓いを立て、またあの人殺しの罪がある者たちを、国法が加えようとしている刑の執行から救い出そうとする誓いを立てた。

3ー6,30,この者たちは、国法と国民の権利に反抗して統治者を殺し、国に応を立てて国家の自由を取ってしまい人民を王たちに服従させることを互いに誓った。

3ー7,,ニーフアイ第3書 第7章

3ー7,*-*,大判事殺され、政府転覆する。国家分裂。ヤコブ王。ニーフアイの強力な伝道。

3ー7,1,しかし、私はかれらがその国に王を立てられなかったことを示そう。著解を立てた者たちは、第30年に全国を治める大判事がその裁判の席についている時これを暗殺した。

3ー7,2,そこで国民は分裂して、おのおのその家族と親戚と朋友とで党を結んだからついに国の政府を破壊した。

3ー7,3,そして党毎にこれを治める首領を立てた。このようにして国民はいくつかの党に別れて党毎にその首領があった。

3ー7,4,党を結んだ人々の中には、大きな家族と多くの親戚と多くの朋友とを持たない者はなかったから、これらの党は非常に大きなものとなった。

3ー7,5,さてこのような出来事はあったけれども、まだ国民の中に戦は起らなかった。この悪事はみな国民がサタンの力にその身をゆだねたから起ったことである。

3ー7,6,予言者らを殺した者たちの朋友親戚から成る秘密結社のために政府の条例は破壊され、

3ー7,7,また国の中に大きな不和が起った。それがために、かつて最も義しかった人たちさえも大部分悪くなって、義しい人は僅かになった。

3ー7,8,このようにしてまだ6年もたたないのに、民の大半は早くも義を捨ててもとの有様に返った。これは、犬おのが吐きたる物に帰り来り、豚身を洗いてまた泥の中に転ぶと言った有様である。

3ー7,9,このように甚しい悪事を国民にもらした秘密結社の者たちは、集り合ってヤコブという人をその首領に立てて、

3ー7,10,これをその王と呼んだ。そこでヤコブはその悪い徒党の王になったが、ヤコブはイエスのことを証した。予言者たちを訴えてこれを苦しめた者どもの中で最も熱心な1人であった。

3ー7,11,しかし、ヤコブの味方の数は同盟をした党の数よりも劣っていた。これらの党は同盟をしたと言っても各党の法度はその党の首領がこれを定めていて、これらはみな同じく義を守らない者共でありながら互に敵意をもっていた。しかし、政府を転覆する誓いを立てた者共

3ー7,11-1,念では一致していた。

3ー7,12,従ってヤコブは味方よりも敵方が数の多いことを見ると、自分とが徒党の王であるからその味方に命令を下し、かれらが国の1番北の方へ逃げて行ってそこで自分たちのために王国を建て、また謀叛人が来て徒党に加わるから(ヤコブはその味方にへつらって謀叛人が多

3ー7,12-1,と信じさせた)自分たちが同盟の党と戦える力ができるまでそこに住めと言ったところ、かれの味方はそのようにした。

3ー7,13,かれらは非常に速に進んで行ったから、遠く国民の手の届かない所へ行ってしまうとてその進路を断ち

切ることができなかった。こうして第30年は終わったが、ニーファイの民の有様はまことにこのようであった。

3ニ-7,14,第31年目には、民はすでに分離して各々その家族、親戚、朋友で党を結んだが互いに戦争はしないと言う条件があった。ところがこれらの党は各々その首領の意のままに組織されたので、法律と政治とについて互に一致していなかった。しかしこの党を侵してはならぬ

3ニ-7,14-1,非常にきびしいおきてを立てたので、ある程度国の平和を保った。国は平和であったが、かれらはみなその心を自分らの神である主から遠ざけ、石でもって予言者たちを撃ち、これを自分らの追いはらった。

3ニ-7,15,さてニーファイは天使たちの音信に接し、主の御声を聞き、天使たちを見てその見証者となり、前以てキリストの教えと導きに関わることを知る能力を与えられ、また民が義の道を速に離れて罪惡と憎むべき行いとに帰る所を目撃して、

3ニ-7,16,民の性質がかたくなであることとその心が暗いことを嘆いていたので、その年の中に民の間へ出て行って主イエス・キリストを信ずる信仰によって悔改めと罪の赦しとが得られることを勇敢に証をする働きを始めた。

3ニ-7,17,ニーファイは民に多くの事を教え導いたが、それをみな書きつくすことはできない。また1部分額田とて満足しにくいから、本経には全然これを記さない。ニーファイは威勢と大きな権能とを以て教えと導きを与えた。

3ニ-7,18,またニーファイは、民よりもすぐれて大きな能力があったから、民はこれに腹を立てた。しかし、ニーファイがその主イエス・キリストを信ずる信仰齒非常に深くまた固かったから、天使たちが毎日ニーファイに導きと恵とを与え、これによって民はどうしてもニーファ

3ニ-7,18-1,信じないわけには行かなかった。

3ニ-7,19,ニーファイは、イエスの御名によって悪鬼と汚れた霊とを追い出し、その上民のために石で打ち殺された自分の兄弟を蘇生させたが、

3ニ-7,20,民はこの奇跡を目撃して、ニーファイに能力があると言うので腹を立てた。しかしニーファイはまたイエスの御名によって民の目の前でさらに多くの奇跡を行った。

3ニ-7,21,第31年は過ぎ去った。そしてすでに心を改めて主を信ずるようになった者は僅だけであったが、この僅の者たちは自分らが信じているイエス・キリストにある神の能力とその“みたま”とを受けたことを本当にほかの民に告げて証をした。

3ニ-7,22,悪鬼を追い出された者、病を医された者および身体の弱い所を強くされた者は、神の“みたま”の働きを受けて医されたことをまことにほかの民に告げて証をし、また自分で不思議なしるしを示し、民の中で多少の奇跡を行った。

3ニ-7,23,このようにして第32年も終わった。そして第33年の始めにニーファイは民に向って声をあげ悔改めと罪の赦しとを説いた。

3ニ-7,24,私はあなたたちに、悔改めをした者は全部水でバプテスマを受けたいと言うことを記憶して居てもらいたい。

3ニ-7,25,そこでニーファイは数人の者を召して按手礼を施し、これらの人を神権の職に任じた。このようにしたのは、すでに悔改めをしてこれらの人の所へくる人々にみな水のバプテスマを施すことができるためである。このバプテスマは、これを受ける人々がすでに悔改めをし

3ニ-7,25-1,赦しを受けたことを神と人とに示し、また証明するものとして施される儀式である。

3ニ-7,26,この年の始め、すでに悔改めをした証拠にバプテスマを受ける者が多かった。このようにして、この年の大半は暮れて行った。

3ニ-8,,ニーファイ第3書 第8章

3ニ-8,*-* ,キリストの十字架、予言されたしるしによって証明される。大風、地震、旋風、火事、恐ろしい大破壊。3日間の暗。

3ニ-8,1,さて私たちの年代記を書く人は義しい人であって、イエス・キリストの御名によって本当にいろいろの奇跡を行った。悪から全く清められるのでなければ、イエスの御名によって奇跡を行える人はない。私たちはその年代記によって、この人の書く年代記の真実であるこ

3ニ-8,2,そこで私たちの年代を計るこの人に誤りさえなければ、すでに第33年は暮れてしまった。

3ニ-8,3,従って民はレーマン人である予言者サムエルの予言したしるし、すなわち3日の間地の面に暗やみがつずく時をしきりに待つようになった。

3ニ-8,4,そしてすでに多くのしるしが現われたにもかかわらず、民の中には大きな疑いを抱く者と烈しく言う争う者とがあった。

3ニ-8,5,第34年1月4日、いまだかつて全地にあったこともないすさまじい嵐が起った。

3ニ-8,6,恐ろしい大風と恐ろしい雷とがあったために全地はまさに裂けるばかりに振動した。

3ニ-8,7,また全地にかつてなかったほどの激しい、空も裂けるほどの電光があった。

3ニ-8,8,ゼラヘムラ市は火を發し、

3ー8,9,モロナイ市は海の深みに沈んでその住民は溺れ、
3ー8,10,土が上げられてモロナイハ市の上に落ちたので、この年のあった所に大きな山ができた。
3ー8,11,南方の地には恐ろしい大破壊があったが、
3ー8,12,北方の地には更に恐ろしくて更に大きな破壊があった。全地は大風、旋風、雷、電光および全地が激しく振動するために地の全面が変わって、
3ー8,13,街道は破壊され、平らな道はそこなわれ、多くの平地は高低を生じた。
3ー8,14,沈んでしまった名高い大都会も多くあり、焼けてしまった都会も多くあり、また家屋が地に倒れ、住民が死に、住む所が荒れ果てるまで振動した都会も多くあった。
3ー8,15,残った都会もあったけれども、それさえも大きな災害を蒙ってその中の人々は多く死んだ。
3ー8,16,また旋風のために吹きさらわれた者たちもあったが、どこへさらわれて行ったかは誰も知らず、人はただ吹きさらわれたことだけを知っていた。
3ー8,17,このように大風、雷、電光および地の震動によって、地の全面はその形が変わった。
3ー8,18,岩は裂けて地の全面に砕けたので、この時から地のどこに於ても岩は岩片となり、割れ目ができたままにあるのである。
3ー8,19,雷、電光、嵐、大風および地の震動が止んでから(これらのものはおよそ3時間ほどつづいた。これより長くつづいたと言う人もあったが、このように大きな恐ろしいことはみなおよそ3時間津髄他)見よ、それから地の面が暗黒になって、
3ー8,20,地はことごとく暗黒となったが、この暗黒の霧はまだ亡びなかった人がこれに触れると感ずるほどに深かった。
3ー8,21,この暗黒の霧のために光があることができず、ろうそくもたいまつも火をつけることができず、よくよく乾かした薪でも火をつけることができなかつたから光が少しもなかつた。
3ー8,22,それで、地の面を覆う暗黒の霧が深いから火の光も、火も、かすかな光も、日も、月も、星もすべて何の光も見えなかつた。
3ー8,23,このような暗黒は少しの光もなく3日の間つづいて、すべての民の中にたえずひどい悲しみと歎きと泣き叫ぶ声とがあつて、民はその上に襲ってきた暗やみと大きな破壊とのために甚しくうめいた。
3ー8,24,そしてある所では民が“この大きな恐ろしい時が来ない前に悔い改めておけばよかったものを。悔い改めておいたならば、わが兄弟たちは命を助けられて大きな都ゼラヘムラで焼け死ななかつたものを”と泣き叫ぶのが聞えた。
3ー8,25,またほかの所では民が“この大きな恐ろしい時が来ない前に、悔改めをして予言者らを殺さず、石でこれを撃たず、また追い出さなければよかったものを。このようなことをしなかつたならば、われらの母や美しい娘や息子たちは命を助けられて、大きな都モロナイハ市
3ー8,25-1,埋めにされることはなかつたものを”と泣き叫んでひどく悲しむ声が聞えた。このように、民の歎きとうめきとはまことに甚しいまた恐ろしいものであつた。
3ー9,,ニーファイ第3書 第9章
3ー9,*-* ,神の声、禍の程度とその禍の原因とを宣べたもう。モーセの律法、その目的を達する。真にへりくだつた心と悔いる精神とをぎせいとして捧げる者は受け入れられること。
3ー9,1,ところで、地のすべての人々に聞こえる声があつて次のように言いたもうた。
3ー9,2,“禍なるかな。禍なるかな。この民は禍なるかな。全世界の人々悔い改めずば禍なり、わが民の中にて美しき男子と女子とが死にし故に悪魔は笑いその使者たちは共にたのしみ喜び。されどこの美しき男子と女子の亡びたるは、かれら自身と憎むべき行いの結果なり。
3ー9,3,見よ、われは大いなる都ゼラヘムラとその住民とを焼き払わせ、
3ー9,4,大いなる都モロナイ死を海の深見に沈めてその住民を共に溺れさせたり。
3ー9,5,また予言者らと聖徒らの血の叫びが、われにモロナイハ市の住民をもはや訴ふることのなきように、大いなる都モロナイハ市をその住民と共に土もて覆いかぶせ、その悪事と憎むべき行いとをわが目の前より隠したり。
3ー9,6,またギルガルお沈めその住民を共に地中深く悔させたり。
3ー9,7,またオナイハ市と共にその住民を、モークム市と共にその住民を、エルサレム市と共にその住民を地の中に埋めさせたり。敷かして、而して、予言者らと聖徒らの血の叫びが、われにこれらの年の住民をもはや訴ふることのなきように、都市の跡に水を上り来させて住民
3ー9,7-1,憎むべき行いとをわが目の前より隠したり。
3ー9,8,またガデアンダイ市、ガデオムナ市、ヤコブ市およびギムギムノ市を埋めて、その跡を岡や民とし、予言者らと聖徒らの血の叫びがわれにこれらの都市の住民をもはや訴ふることのなきように、その住民も共に血の中に埋めてその悪事と憎むべき行いとをわが目の前より

3ー9,9,さらにまた、ヤコブ王の民の住みたる大いなる都ヤコブガツ市をその住民が罪惡と惡事とを為したるために焼き払わせたり。ヤコブガツ市の住民の惡事は、その住民の中に生じたる暗殺と秘密結社のために全世界のいかなる惡事よりも甚だしかりき。わが民の平和を破り

3ー9,9-1,転覆したる者こそヤコブガツ市の民なる故に、予言者らと聖徒らの血の叫びがもはやわれに聞えてこの民を訴うることなきよう、われはかれらを焼きはらいてわが目の前より亡ぼせり。

3ー9,10,またレーマン市、ジョシ市、ガド市およびキンクメン市とを、これらの中の住民と共に焼き払わせたり。なんとなれば、かれらは予言者たちを追い出し、またわれがかれらにその罪惡と憎むべき行いとをいさめんためにつかわしたる者たちを石にて撃てり。

3ー9,11,かく予言者たちとわれがつかわしたる者たちをことごとく追い出したれば、その中に1人の義人も残らざりき。すなわちわれは、かれらの中につかわしたる予言者らと聖徒らの血の叫びが地の中より聞えてかれらを訴うることのなきように、火を降してこれらの都市の人

3ー9,11-1,亡ぼし、かれらの罪惡と憎むべき行いとをわが目の前より隠したり。

3ー9,12,なおこのほかに、この地の住民の罪惡および憎むべき行いありたれば、この地とそこに住む民ともろもろの大いなる破壊を及ぼしたるなり。

3ー9,13,さてこれらの亡びたる者よりも義しきが故に命を助けられたるすべての者どもよ。われが汝らを医すを得るために、汝らは今われに立ち帰りて罪を悔いまた心を改めざるか。

3ー9,14,まことにわれ汝らに告げん。もしわれに來たらば永遠の生命を得。見よ、われは憐み深きてを何らに向いて宣べたれば、すべてわれに來る者はわれこれを迎うる故に幸福なり。

3ー9,15,見よ、われは神の子イエス・キリストなり。われは天地とそこにある万物を造れり。われは最初より御父と共に在りき。而して今、われは御父に在り、御父はわれにまします、御父はすでにわれによりてその御名をわれにまします、御父はすでにわれによりてその御名

3ー9,15-1,示したまへり。

3ー9,16,われは、わが民のところへ降りしが、わが民はわれを受け容れざりき。すなわち、われが來ることを示す聖文はすでに事実となりたり。

3ー9,17,われは、およそわれを受け容れたる者にみな神の子となる權能を与えしが、この後わが名を信ずる一切の者にもまたこれと同じ權能を与ふべし。そは、われによりて贖いと救いは來り、またわれによりてモーセの律法はその目的を達して効用なきものとなりたればなり。

3ー9,18,われは世の光にしてまた世の生命なり。われはアルパにしてオメガなり。始めにして終りなり。

3ー9,19,これより後、汝らの血を流すことを以てわれにいけにえを供うべからず。われはもはや汝らのもろもろのいけにえと火祭とを正統なるものとして受け容さざればこれらを廃めよ。

3ー9,20,これより後、犠牲としてわれに捧ぐべきものは、真にへりくだる心と悔いる精神なり。およそ真にへりくだる心と悔いる精神とを抱きてわれに來る者は、われこの者にみな火と聖靈とを以てバプテスマを施さん。かかるバプテスマは、レーマン人改心をしたる時に、われ

3ー9,20-1,抱きし信仰に應じてわれがかれらに施したる火と聖靈によるバプテスマと同じ。その時レーマン人は、この火と聖靈によるバプテスマを受けたることを覺らざりき。

3ー9,21,われがこの世に來れるは、世の人に贖いと救いとを与え、また世の人を罪より救うためなり。

3ー9,22,この故に、悔い改めて幼児のごとくわれに來る者は、われことごとくこれを受け容るべし。かかる者はすでに神の王国に居る者と同じなればなり。見よ、われはかれらのために1度わが生命を捨てて、また生命を得たり。故に、世界の隅々に至る者たちよ。悔改めをなし

3ー9,22-1,われに來りて救いを受けよ”と。

3ー10,,ニーフアイ第3書 第10章

3ー10,*-*,全地が静かであったこと。再び天から声が聞える。暗黒の霧が晴れる。民の中、一きわ義しい者たちのみが救われる。

3ー10,1,さて、この血の人々はみな右の言葉を聞いてその証をして。そしてこの言葉が終ったときに、全地は長い間静かであった。

3ー10,2,それは、民があまりの驚きにその失った親族のことを悼んで泣き叫ぶのをやめたからである。それであるから、長い間全地は静かであった。

3ー10,3,ところが、再び声が聞えてきた。民はみなこの声を聞いてその証をしたが、その声は次のように言いたもうた。

3ー10,4,”破壊されたるこれらの大都會の住民なるヤコブの子孫、すなわちイスラエルの家に属する者よ。雌鳥がその雛を翼の下に集むるごとくに、われは幾度汝らを集めて養いしことぞ。

3ー10,5,さらにまた、雌鳥がその雛を翼の下に集むるごとくに、われは幾度汝らを集めんと望みしことぞ。イスラ

エルの家に属したる民にして亡びたる者たち、すなわちこの血にて亡びたる者たちと、エルサレムに住めるイスラエル家の者たちよ。雌鳥がその雛を集むるごとく

3ニ-10,5-1,幾度汝らを集めんと望みしことぞ。されど汝らは集めらるるを好まざりき。

3ニ-10,6,われがその命を助けたるイスラエル家の者たちよ。汝らが真心より悔い改めてわれに立ち帰らば、雌鳥がその雛を翼の下に集むるごとく、われはこの後幾度にも汝らを集めん。

3ニ-10,7,イスラエル家よ。もしも汝らかくのごとくせずば、汝らの住む所はわれが汝らの先祖に立てたる誓約の成るまで荒れ果ててあるべし”と。

3ニ-10,8,民は以上の言葉を聞いた後、再びその親族と朋友の死を悼んで泣き叫ぶようになった。

3ニ-10,9,このような有様で3日経ったが、朝になると暗黒は地面を離れ去って地の震うことは止み、岩の裂けることは止まり、恐ろしいうめきは静まり、すべての騒々しい音は消えてしまった。

3ニ-10,10,そして地はその裂け目がつぎ合さって震わないようになったから、命を助けられた者たちの悲しみと歎きとうめきも止んで、その歎きは喜びとなりその悲しみは自分らの贖い主である主イエス・キリストを讃美した感謝をすることになった。

3ニ-10,11,このようにして予言者たちの述べた聖文はここまで成就した。

3ニ-10,12,この時、命を助けられた者たちは、民の中で最も正しい者たちで予言者らを受け入れ、石でこれを撃たず、また聖徒らの血を流さなかった者たちである。

3ニ-10,13,これらの者は命を助けられて地の中に沈んで埋まることなく、海の深みに溺れることもなく、焼け死ぬこともなく、押しつぶされて死ぬこともなく、旋風のために吹きさらされることもなく、烟の霧または暗黒の霧のために息が絶えることもなかった。

3ニ-10,14,さてこれを読む者は、よくその意味を会得せよ。聖文を持っている者はよくそれを研究して、以上に述べてある火と烟と大風と旋風と、人や財産を落し入れて埋める地の裂け目とによって起った死と破壊は、みな多くの聖い予言者らの予言の通りに起ってその予言を成就

3ニ-10,14-1,あるかどうかを調べて見よ。

3ニ-10,15,見よ、あなたたちに告げる。キリスト降臨の時に起るこれらのことを予言してから、その予言のために殺された予言者が多くある。

3ニ-10,16,予言者ゼノスと予言者ゼノクは、その子孫に残っている者であるわれわれのことを特に予言したから、右のことも確に予言をした。

3ニ-10,17,われわれの先祖ヤコブはヨセフの子孫で1部残っている者たちのことを予言したが、見よ、われわれはヨセフの子孫で1部残っている者たちではないか。また、われわれのことを予言する言葉は、われわれの先祖リーハイがエルサレムから持ってきたあの真鍮版に刻んで

3ニ-10,17-1,あるではないか。

3ニ-10,18,第34年の末に、命を助けられたニーファイの民、および命を助けられた者でもとレーマン人と呼ばれた人々が、大きな恵を受けてその頭の上に大きな祝福を授けられたことを、私はあなたたちに知らせたい。従ってキリストは天に上りたもうてから、すぐにこれらの人

3ニ-10,18-1,現われたまい、

3ニ-10,19,自分の体をかれらに示して祝福を施したもうた。しかしキリストが教えと導きを与えたもうた記事は後にのせるから、今はこれで私の言葉を終りにする。

3ニ-11,*-*,多くの民がバウンテフルの地に集った時、イエス・キリストがニーファイの民に現われて導きと恵とを与えたもう。イエス・キリストがニーファイの民に現われたもうた次第は次の記す通りである。第11章より第26章に至る。

3ニ-11,,ニーファイ第3書 第11章

3ニ-11,*-*,永遠の御父がキリストはわが子なりと言いたもう。復活したキリスト現われたもう。群衆、1人1人キリストの傷に触れることを許される。バプテスマの洋式を規定する。争闘と論争禁ぜられる。岩なるキリスト。

3ニ-11,1,バウンテフルの地にある神殿のまわりには、大勢のニーファイの民が集って共に怪しみ驚きまた共にあの大きな不思議な変化を示し合い、

3ニ-11,2,すでにその死のしるしが現われたイエス・キリストについて話し合った。

3ニ-11,3,民がこのように話し合っていた時に、天から出てくるような声が聞こえたが、群衆はこれが何を言ってくるか解らなかったのであたりを見まわした。この声は荒々しい声でもなく、また高い声でもなかったが、小さな声でありながらもこれを聞いた者たちの骨の髄までつ

3ニ-11,3-1,あつてかれらは全身ことごとくふるえおののいた。この声はまことにかれらの中心にまで浸みわたり心が燃えるような感じを与えた。

3ニ-11,4,かれらは再びこの声を聞いたが、それが何を言っているか解らなかった。

3ー11,5,さて、この声は3度まで聞こえたが、かれらはこのたびはよく聞き分けるように心を注いで声のする方向へ目を向け、その声が出てくる天をじっと眺めた。

3ー11,6,すると3度目にはその声の意味が解った。その声は、

3ー11,7,"わが喜ぶ愛子を見よ。われはこれに由りてすでにわが名の栄光を示しぬ。わが愛子に聞け"とかれらに仰せになっていた。

3ー11,8,群衆はそN意味が解ってまた天を仰ぐと、天から1人の男の方が降りたもうのが見えた。このお方は白い衣を召して、降ってきて群衆の中に立ちたもうた。群衆の目はみなこのお方の上に注がれたが、互いに物を言う勇気がなかった。みなは自分らに現われたこのお方を

3ー11,8-1,であると思ったが、そのお方が降りたもうたわけは知らなかった。

3ー11,9,時にそのお方は手を伸して群衆に話しかけて仰せになった。

3ー11,10,"見よ、われはイエス・キリストなり、予言者らがこの由に来ると証をしたるその者なり。

3ー11,11,2-内容? われは世の光にしてまた由の生命なり。われは御父がわれに授けたまいしかの苦き杯をすでに飲み、由の人の罪をわが身に引き受けて御父の栄光を示したり。世の人の罪をわが身に引き受けることに於て、われは最初よりすべて御父のみこころに従えり"と。

3ー11,12,イエス・キリストがこの言葉を言いたもうと群がっていた一切の者は、キリストが昇天してから自分らに現われたもうと言う予言が自分たちの間に伝えられていたことを思い出して地にひれ伏した。

3ー11,13,その時主は群衆に向って言いたもうた。

3ー11,14,"汝らわが肋にそのてをさし入れ、わが手足にある釘あとに触れて、われがイスラエルの神にして全世界の神なること、またわれが世の人の罪を負うて1度殺されたるを知るために起ちてわれに近づけ"と。

3ー11,15,そこで群がっている人々は近よってそのてをイエスの肋にさし入れ、またイエスの手足にある釘あとに触れた。かれらは、1人1人みなイエスに近よってこれをなし、各々みな目で見、手で触れて、この御方が予言者たちによってこの世に来る誌されたお方であることを

3ー11,15-1,また証をすることができた。

3ー11,16,人は各々みな近よって親しくこれを見、親しくこれに触れたからみな一せいによばわって、

3ー11,17,"ホザナよ。いと高き神の皆を讃美す"と言い、イエスの足下にひれ伏してイエスを拝した。

3ー11,18,イエスはニーフアイを呼んで(ニーフアイは群衆の中に居た)ここへ来よと言いたまい、

3ー11,19,ニーフアイが起って行ってイエスの御前にひれ父子そお御足に口つけをすると、

3ー11,20,イエスはニーフアイに立てと言いたもうたので、ニーフアイは身を起してイエスの前に立った。

3ー11,21,するとイエスはニーフアイに仰せになった"われは汝に権能を与う。われが再び天に昇りし後、汝はこの権能を以てこの民にバプテスマを施せ"と。

3ー11,22,イエスはまたほかの者たちも召してこれらにも前と同様のことを言い、バプテスマを施す権能を与えたもうた。それから、権能を受けた者たちに教えて宣うた"汝らは次の方法を以てバプテスマを施さざるばかりず。よりて、この儀式につきては今後再び論争するばかり

3ー11,23,まことにわれ汝らに告ぐ、汝らの言葉によりてその罪を悔い改め、わが名によりてバプテスマを受けんと願う一切の人々に、汝らは次の方法を以てバプテスマを施さざるべからず。すなわち汝ら降り行きて水の中に立ちわが名によりてかれらにバプテスマを施せ。

3ー11,24,その時に用いる言葉は次のごとし。まずバプテスマを受くる者の名を呼びて、

3ー11,25,次に'われはイエス・キリストより権能を受けたれば、天父と御子と聖霊との御名に由りて汝にバプテスマを施す、アーメン'と言え。

3ー11,26,それよりその者を水の中に沈め、沈め終りて再び水より上れ。

3ー11,27,わが名によりてバプテスマを施すには右の方法を以て行わざるばかりず。何となれば、われまことに汝らに告ぐ、御父と子と聖霊とは1つの神会を成す。われは父にあり、父はわれにありて、われと父とは1つの神会の中にあり。

3ー11,28,され、われが今汝らに命じたる通り、汝らはかくバプテスマを施せ。而して、これまで行いしごとき論争はこの後これをなすべからず。またわが教義の何れの点につきてもまたこれまで行いしごとく論争すべからず。

3ー11,29,まことに、まことに汝らに告ぐ、争いを好む心ある者はわれに属く者にあらずして悪魔い属くものなり。悪魔は争いを生む親にして、人々の心を先導して互に怒り争わしむる者なり。

3ー11,30,見よ、人々の心を煽動して互に怒り争わしむるときはわが教義にあらず。わが教義はかくのご如き怒りと争いとを止めよと言うものなり。

3ー11,31,見よ、まことに、まことに汝らに告ぐ、われはこれよりわが教義を汝らに宣べ伝えんと欲す。

3ー11,32,すなわち、次に述べるはわが教義なれど、わが教義は御父がわれに授けたまいしものなり。われは御父のことを証し、御父はわがことを証したまい、また聖霊は御父とわれのことを証したもう。われは御父が世界いた

る所の人々に悔い改むべきことと、われを信ずべき

3ニ11,32-1,命じたもうことを証す。

3ニ11,33,ゆえにわれを信じてバプテスマを受ける者は誰にても救わるべし。かかる者は神の王国に住むことを得る者なり。

3ニ11,34,われを信ぜ、バプテスマを受けざる者は救われず。

3ニ11,35,まことに汝らに告ぐ、こはわが教義なり。われは御父より授かりし通り証を立つ。故にわれを信ずる者は御父もまた信ずるなり。御父はその人に火と聖霊とを与えてわがことを証したもう。

3ニ11,36,かくのごとく御父がわがことを証したもうのみならず、聖霊はその人に御父のこともわがことも証したもう。御父とわれと聖霊とは1つなればなり。

3ニ11,37,また汝らに告ぐ、汝ら悔い改めて幼児のごとくになり、わが成によりてバプテスマを受けざるばかり。しからずば決して右の恵を受くることを得ず。

3ニ11,38,さらにまた汝らに告ぐ、汝らは悔い改め、わが名によりてバプテスマを受け、幼児のごとくにならざるばかり。しからずば、とうてい神の王国に住むことを得ず。

3ニ11,39,まことに、まことに汝らに告ぐ、これわが教義なり。故にこれに基を置くものはわが岩の上に基を置くなれば、地獄の門はこれらの者に勝つことを得ず。

3ニ11,40,これより過ぐることもまたこれに及ばざることを宣べてイエス・キリストの教義なりと言う者はすべて悪魔より出る者にして、わが岩の上に基を置かず砂の上に基を置くにより、地獄の門は常に開き、大水出で風吹きてその者たちに当る時かれらを引き入れん。

3ニ11,41,されば、この民の中に出て行きてわが告げたることをあまねく地の隅々まで宣べ弘めよ”と。

3ニ12,,ニーフアイ第3書 第12章

3ニ12,*-*,ニーフアイ人に教えたもうた救い主の教え。イエス・キリスト、12弟子を召して任命したもう。イエス・キリスト、群衆に説きたもう。山の上の説教を再び説きたもう。マタイ伝第5章と比べよ。

3ニ12,1,イエスは、これらのことをニーフアイと召されたほかの者たち(召されてバプテスマを施す権能と威勢とを授けられた者の数は12人である)とに命じたもうてから、群衆に向い手を伸して仰せになった”もし汝らの中より選り出して汝らを教え導く者とし、汝らの僕と

3ニ12,1-1,この12人の言葉に聞き従うならばさいわいなり。われは水をもって汝らにバプテスマを施す権能をこの12人の者に授けたり。汝らが水にてバプテスマを受けたる後、われは火と聖霊とによるバプテスマを汝らに施す。されば、汝らもしもわれを見、またわれが神なる

3ニ12,1-1-1,知りて後われを信じてバプテスマを浮くるならばさいわいなり。

3ニ12,2,また汝らわれを見てわれが神なることを証する時、汝らの証を信ずる者たちはなおさいわいなり。汝らの言葉を信じ、ひくくへりくだりてバプテスマを浮くる者たちは火と聖霊とを授けられて罪の赦しを受ける故にまことにさいわいなり。

3ニ12,3,へりくだりたる心にてわれに来る者たちはその住むべき所天の王国なるが故にさいわいなり。

3ニ12,4,すべて悲しむ者は慰めを受くべき故にさいわいなり。

3ニ12,5,柔和なる者たちは地を受けつぐべき故にさいわいなり。

3ニ12,6,すべて義を渴望する者は聖霊に満さるべき故にさいわいなり。

3ニ12,7,憐み深き者たちは憐みを受くべき故にさいわいなり。

3ニ12,8,すべて心の清き者は神を見ることを得べき故にさいわいなり。

3ニ12,9,すべて和解を求むる者は神の子と呼べるべき故にさいわいなり。

3ニ12,10,すべてわが名のために迫害を受くる者はその住むべき所天の王国なるが故にさいわいなり。

3ニ12,11,わがために人々汝らをののしり迫害をし、汝らに就き偽りてさまざまの悪しきことを訴うる時汝らさいわいなり。

3ニ12,12,何となれば、汝ら後に天に於て受くる善き報い大きければ大いに喜び楽しむべければなり。汝らより前の予言者たちも汝らと同じく迫害せられたり。

3ニ12,13,まことに汝らに嗣ぐ、われは汝らを世の塩のごとき者とすれど、塩もし塩気を失わば、何を以て世に塩の味をつくることを得べきか。その塩気をなくしたる塩はもはや何の役にも立たず、ただ捨てられて人々に踏みつけらるのみ。

3ニ12,14,まことに、まことに汝らに告ぐ、われは汝らをのこ民の光となす。山の上にある町はそれを隠すことを得ず。

3ニ12,15,そもそも、人はろうそくをともしてこれを升にて覆うことあらんや。むしろ、これを燭台に立てて家の中にある者をみな照らすなり。

3ニ12,16,故に、この民が汝らの善き行いを見て天にまします汝らの父を崇むるに至るよう、汝らはこの民の前に

自分たちの光を輝かせよ。

3ニ12,17,われが律法または予言者の予言を亡ぼすために来たりと思うなかれ。われが来るは、律法の目的を達せしめ予言を成就せしめんためなり。

3ニ12,18,まことに汝らに告ぐ、律法は一言半句にても亡ぼしたところなし。ただ、われによりてことごとくその目的を達してすでにその効用なくなりたるのみ。

3ニ12,19,見よ、われは汝らがわれを信じ、自分の罪を悔い改め、また真にへりくだりたる心と悔いる精神とを以てわれに来れと言う御父の律法と命令とを今汝らに伝えれば、汝らはすでに目の前にこの命令を有てり。而して、古き律法はもはやその目的を達して効用なきものと

3ニ12,20,われに來りて救いを得よ。まことにわれ汝らに告ぐ、われが今汝らに下したるこの命令を守らずば、決して天の王国に入るを得ず。

3ニ12,21,昔の人々が、汝ら人を殺すべからず、人を殺す者は神の裁きを受くと言えるは汝らすでに聞きしところにして、また汝らの目の前に書き記されたり。

3ニ12,22,されど、汝らに告ぐ、その兄弟を怒る者さえも神の裁きを受くべし。その兄弟に‘やくざ者’と言ってこれをのしる者は裁判官の前に引かれん。また‘愚者よ’とその兄弟に言う者は地獄の火に投げ入れられん。

3ニ12,23,故に、汝らがもしわれに来る時、またはわれに來らんと欲する時、その兄弟に汝らを訴うる心のあるを思い出さば、

3ニ12,24,まず行きてその兄弟と和ぎ、それより真心を以てわれに来れ。さらば、われは汝らを受け容るべし。

3ニ12,25,汝らが己に敵対する者と共に居る内に早くこれと仲直りせえよ。しかせずば、かれはいつか汝らを訴えて汝らを牢屋に入れしむることあらん。

3ニ12,26,まことに、まことに汝らにつぐ、牢屋に入れられたる時汝らは1セナインをものこらず金を出して償わざればそこより決して出ること能わず。而して、牢屋に居る間に1セナインにても払い得るか。否、決して払い得べからず。

3ニ12,27,見よ、昔の人々は汝ら姦淫すべからずと記せり。されど、われ汝らに告ぐ、情欲を抱きて女を見る者は心の中すでに姦淫したるなり。

3ニ12,28,されど、われ汝らに告ぐ、情欲を抱きて女を見る者は心の中すでに姦淫したるなり。

3ニ12,29,われ汝らに命ず。汝ら慎みてかくのごとき情欲を己が心に抱かざるようにせよ。

3ニ12,30,汝はかくのごとき情欲を抑えてその十字架を負う方、地獄に投げこまるよりも勝れり。

3ニ12,31,また、妻を出す者は離縁状を渡せと記されたり。

3ニ12,32,されど、まことに、まことに汝らに告ぐ、妻に不貞ある意外の利用にて妻を出す者は、妻に姦淫をなしむるなり。また出されたるこの女をめとる者も姦淫の罪を犯すなり。

3ニ12,33,また、汝ら偽りの誓いを立つるべからず、その誓いは主に対して果すべしと記せり。

3ニ12,34,されど、まことにまことに汝らに告ぐ、汝ら一切誓いを立つるべからず。天は神の玉座なれば、これを指して誓うべからず。

3ニ12,35,地は神の足台なれば、これを指して誓うべからず。

3ニ12,36,汝らは神の毛一筋さえこれを黒くすることも白くすることも能わざれば、頭を指して誓うべからず。

3ニ12,37,汝らの言葉を然り、然り、否、否とせよ。これ以上に出る言葉の結果は悪し。

3ニ12,38,目には目を償い、歯には歯を償えと記されたり。

3ニ12,39,されど、われ汝らに告ぐ、悪を以て悪に手向うべからず。もし汝らの右の頬を打つ者あらば、左の頬もこれに向けよ。

3ニ12,40,汝らを法廷に訴えて汝らの下着を取らんとする者には、汝らの上着をも与えよ。

3ニ12,41,汝らを強いて己れと共に1里行かせんとする者あらば、これと共に2里行け。

3ニ12,42,汝らに物を乞う人に物を与え、物を借りんと欲する者をことわるな。

3ニ12,43,汝ら、その隣人を愛して敵を憎めと記されたり。

3ニ12,44,されど、われ汝らに告ぐ、敵を愛し、のろう者を祝福し、憎む者に善を為し、汝らをないがしろにして責め苦しむる者のために祈れ。

3ニ12,45,汝らかくして天にまします汝らの父の乞とならんためなり。天の父は悪しき者の上いも良き者の上にもひとしく太陽をのぼらせたまえばなり。

3ニ12,46,そもそも、昔律法にありしことは、みなわれに由りてことごとくその目的を達してすでにその効用終りたれば、

3ニ12,47,かの古きことはみなすでに廃せられ、すべてのことはみな新しくなりたり。

3ニ12,48,故に、われまたは天にまします汝らの父が完全なるごとく、汝らまた完全とならんことを”。

3ニ-13,,ニ-ファイ第3書 第13章

3ニ-13,*-*,救い主ニ-ファイ人に対する教え(つずき)。12人に対する救い主の命令。マタイ伝第6章と比べよ。

3ニ-13,1,"われまことに、まことに汝らに告ぐ、汝ら貧しき者に施物をなすべし。されど、つつしみて人に見らるるようにとて人前にて施物をする事なかれ。しからずば、汝ら天にまします汝らの父より善き報いを受くるに足らず、

3ニ-13,2,すなわち、施物をする時には、自分の前にてラッパを吹くがごときことを為す事なかれ。かくのごときとは偽善人たちが人より賞められんために、会堂や町にて為すことなり。まことに汝らに告ぐ、その偽善者らはその行いに争闘する報いを受く。

3ニ-13,3,汝らは施物をする時、右のての為すことが左のてに知れざるように、

3ニ-13,4,これをひそかにせよ。さらば、ひそかに見たもう汝らの父は公に善き報いを賜わらん。

3ニ-13,5,また、汝ら祈る時に偽善者のごとく祈るなかれ。偽善者らは人に見えるように会堂の中や町かどに立ちて祈ることを好む。まことに汝らに告ぐ、かれらはその行いに相当する報いを受く。

3ニ-13,6,汝らが祈る時には己れ1人の部屋に入り、戸を閉ぢて、隠れたるところにまします汝らの父に祈れ。されば、ひそかに見たもう汝らの父は公に善き報いを賜わらん。

3ニ-13,7,また祈る時に、邪心を拝む者のごとく空しき言葉をくり返すなかれ。かれらは言葉の数多きために聞き入れらるべしと思う。

3ニ-13,8,されば、これらの者のごとくすることなかれ。汝らの父は汝らが願わざる先に、そのなくてかなわざるものを知りたもう。

3ニ-13,9,故に、汝らは次のごとく祈れ。'天にましますわれらの父よ、御名を崇め奉る。

3ニ-13,10,御旨の天に成し遂げらるる如く地にもこれを成し遂げたまえ。

3ニ-13,11,われらに対して罪を犯す者をわれらの赦す如くわれらの罪をも赦したまえ。

3ニ-13,12,われらを誘惑に逢わせず悪より救い出したまえ。

3ニ-13,13,主権と威勢と栄光とは永遠にこれを汝に帰し奉る。アーメン'と。

3ニ-13,14,汝らもし人の罪を赦さば、汝らの天の御父もまた汝らの罪を赦したもうべし。

3ニ-13,15,されど、汝らもし人の罪を赦さずば、汝らの父もまた汝らのつみを赦したまわじ。

3ニ-13,16,また汝らは断食をする時、偽善者らがするごとき苦し気なる顔つきをするなかれ。偽善者らは断食せることを人に知らせんとて顔かたちをわざと悪くす。まことに汝らに告ぐ、かれらはその行いに相当する報いを受く。

3ニ-13,17,されど、汝らは断食をする時、己れの頭に油を塗り、顔を洗え。

3ニ-13,18,そは断食せることの人の目に知れずして、ひそかに見たもう汝らの父に知られんためなり。

3ニ-13,19,されば、ひそかに見たもう汝らの父は、公に善き報いを賜わらんべし。

3ニ-13,20,しみ食い、さび腐り、盗人押し入れて盗む世の中に、己れのために宝を貯うなかれ。

3ニ-13,21,しみ食わず、さび腐らず、盗人押し入て盗みもせざる天に、己れのために宝を貯えよ。

3ニ-13,22,汝らの宝のある所に汝らの心もまたあるべければなり。

3ニ-13,23,身体の光は目なり。故に、もし汝らの目が正しければからだ中に光は満つ。

3ニ-13,24,されど、汝らの目正しからずば、からだ中に暗は満つ。もしも汝らの中なる光暗とならば、その暗さはいかにも大いならずや。

3ニ-13,25,誰もよく2人の主に兼ね使うことを得ず。そは1人を憎みてほかの1人を愛し、1人に忠義をつくしてほかの1人を見くびるべければなり。故に、汝らは神と富とに兼ね事うること能わず"と。

3ニ-13,26,イエスは右のことを述べたもうてから、すでに選ぴたもうた12人に向つて次のように仰せになった"われが宣べたる言葉を忘るな。われがこの民を教え導くために選ぴたる者はすなわち汝らなり。わが汝らに告ぐ、汝らはその命をつなぐために何を食い何を飲まんとて

3ニ-13,26-1,わづらうことなかれ。その身体に何を着んとて思いわづらうことなかれ。命は飲食よりも貴からずや。また身体は衣服よりも貴からずや。

3ニ-13,27,空の鳥を見よ。蒔くことも借り入ることも倉に貯うことをも為さざれど、汝らの天の御父はかれらに食を与えたもう。汝らは鳥よりもはるかに勝れる者にあらずや。

3ニ-13,28,汝らの中誰か、ただ考うるのみにてよく身のけを1キュビト高くのばすことを得んや。

3ニ-13,29,また何故着物のことを思いわづらうか。野の百合を見てそれがいかにして育つかを思え。そは働きもせず、ソロモンの栄華のきわみの時だにも、その装いはこの百合の話1つにも及ばざりき。

3ニ-13,30,故に神が今日ありて明日は炉の投げ入れらるる野の草をさえかくのごとく装いたもうならば、汝らの信仰不足せざる限り、汝らもそのごとく装いたまわん。

3ニ-13,31,されば汝ら何を食い、何を飲み、何を着んとて思いわづらうなかれ。

3ニ-13,32,天の御父は汝らにかくのごときものなくてはならぬことを既にすでに知りたもう。

3ニ-13,33,まず神の王国と神の義を追い求めよ。然すれば、なくてはならぬものはことごとく汝らに賜わるべし。
3ニ-13,34,汝ら、明日のことを思いわずらうなかれ。明日のことは明日になりてこれを思え。1日の長さは、1日の苦労のみにて充分なり”と。

3ニ-14,,ニーフアイ第3書 第14章

3ニ-14,*-*,救い主の説教(つずき)。さらに群衆に戒めを与えたもう。マタイ伝第7章と比べよ。

3ニ-14,1,イエスはこれらのことを仰せになってから、また群衆に向って言いたもうた”まことに、まことに汝らに告ぐ。汝らは己れがさばかれざるために、ほかの人をさばくことなかれ。

3ニ-14,2,なるとなれば、汝らは人をさばくごとく己れもまたさばかれ、また汝らが人に与うる物をはかると同じ升にて己れの受くるものもはかるばければなり。

3ニ-14,3,何故に兄弟の目にある小さきほりを見れど、同時に己れの目にある梁のことを考えざるか。

3ニ-14,4,己れの目に梁がある時、何して兄弟に向い’汝の目よりほりを取らせよ’と言うことができようぞ。

3ニ-14,5,偽善者よ、まず己れの目より梁を取りのけよ。さらば、はっきりと見ることを得て、兄弟の目よりほりを取りのぞくことを得ん。

3ニ-14,6,聖きものを犬に与うるな。また汝らの真珠を豚に投げ与うるな。おそらくこれを足伸したに踏みつけ、向い来りて汝らにかみつくべし。

3ニ-14,7,求めよ、さらば求むるものを与えらる。たずねよ、さらばたずぬるものを見出す。門を叩け、さらば開かる。

3ニ-14,8,求むる者はみなその求むるものを与えられ、たずぬる者は見出し、門を叩く人は開るなり。

3ニ-14,9,汝らの中にて、その子がパンを求むる時に石を与うる者あらんや。

3ニ-14,10,魚を欲しがる時に蛇を与うる者あらんや。

3ニ-14,11,汝らは悪しき者なるに、なお己れの子供らには善きものを与うるほどの知識ありとせば、まして天にいます汝らの父は己れに願う者に善き者を賜わざらんや。

3ニ-14,12,すべて汝らが他人をして自分に為さしめんとすることは、汝らまずその通り他人にせよ。これすなわち律法にしてまた予言者の道なり。

3ニ-14,13,狭き門より入れ。亡びに行く門は大きく道は広くしてそこより入る者多く、

3ニ-14,14,永遠の生命へ行く門はせまくしてその道は細くこれを見出す者少きが故なり。

3ニ-14,15,にせの予言者に用心せよ。かれらは羊のごとき姿をして汝に來れども、心の中は荒き狼なり。

3ニ-14,16,汝らはその実によりてかれらを知る。人はいばらより葡萄を取るや。あざみよりいちじくを取るや。

3ニ-14,17,これと同じく善き実を結べども、悪しき木は悪しき実を結ぶなり。

3ニ-14,18,善き木は悪しき実を結ぶを得ず、悪しき木は善き実を結ぶを得ず。

3ニ-14,19,善き実を結ばざる木はみな切りて火の中に投げこまる。

3ニ-14,20,故に、汝らはその実によりてかれらを見わくることを得べし。

3ニ-14,21,われに主よ、主よと言う者のことごとくが天国に入り得るにあらず。天にましますわが父のみこころを行う者のみ天国に入り得るなり。

3ニ-14,22,その日には多くの者’主よ、主よ、われらは汝の名によりて予言をし、汝の名によりて悪鬼を追い出し、汝の名にゆおりてもろもろの不思議なる技をなしたるにあらずや’とわれに言うべし。

3ニ-14,23,されど、その時われはその者にはっきりと答えて’われは汝らを少しも知らず。罪惡を行う者よ、わが前を去れ’と言わん。

3ニ-14,24,故に、われが告ぐるこれらのことを聞き、これらを行うすべての者を岩の上に家を建てたる賢き人にたとえん。

3ニ-14,25,雨降り、大水出で、風吹きて、賢き人の建てたる家に当りしが、家は岩の上に建ちたれば倒れざりき。

3ニ-14,26,またわれの告ぐるこれらのことを聞き、これらを行わずすべての者を砂の上に家を建てたる愚なる人にたとえん。

3ニ-14,27,雨降り、大水出で、風吹きて、愚なる人の建てたる家に当りたればその家倒れてその倒れ方甚しかりき”と。

3ニ-15,,ニーフアイ第3書 第15章

3ニ-15,*-*,モーセの律法、その目的を達して廃せられる。”律法を授けた者”が律法の目的を成就する。別の羊群の羊。

3ニ-15,1,イエスは上のことを言い終つて群衆を見廻し、さて仰せになった”見よ、われはわが父のもとに上りし前に教えたることを今汝らにもこれを聞かせたり。よりて、われが告げたるこれらの言葉を忘れずに行う者はわれ終りの日にこれを救いあげん”と。

3ニ15,2,しかしイエスがこれを仰せになったとき、イエスは群衆の中に自分の言ったことを不思議に思い、またイエスはモーセの律法をどうなさる気かと怪しんでいる者があることに気がつかれた。この者たちは、古い事がすでに廃されてすべてのことが新しくなっていると言う

3ニ15,2-1,意味が解らなかつたから、

3ニ15,3,イエスはかれらに向って“われが、古き事すでに廃されてすべてのこと新しくなりたりと言ひしことを不思議に思うなかれ。

3ニ15,4,汝らに告ぐ、モーセに授けられし律法は、もはやその目的を達して効用のなきものとなりぬ。

3ニ15,5,律法を授けたる者、またわが民なるイスラエル人と誓約を結びたる者はすなわちわれなり。それ故に、モーセの律法はわれによりてその目的を達して効用のなきものとなりたり。われは律法の目的を達するために来りたるによりて律法は終るなり。

3ニ15,6,見よ、われは予言者たちの予言を亡ぼすものにあらず。われによりて、事実とならざりしすべての予言は今後必ず事実となるべし。

3ニ15,7,われは古き事すでに廃されたりと言ひしが、かく言いても、将来起るはずのことにつきて言われたる予言を亡ぼすものにあらず。

3ニ15,8,われがわが民と結びたる誓約は、いまだことごとくは履行されてあらずといえども、モーセに授けたる律法はわれによりてその効用なくなり終りぬ。

3ニ15,9,見よ、われは律法にしてまた光なり。われにすがりて終りまで堪え忍べ。然すれば汝らは必ず生く。終りまで忍ぶ者にわれは永遠の生命を与えらるなり。

3ニ15,10,われはすでに汝らに誠命を与えればこれを守れ。律法も予言者たちもまことにわれのことを証するものなるにより、わが誠命を守ることはすなわち律法と予言者の道にかなうことなり”と。

3ニ15,11,イエスはこのように群衆に仰せになってから、自分が選びたもうた12人の者に仰せになった。

3ニ15,12,“汝らはわが弟子にして、ヨセフの家の残れる子孫なるこの民の光なり。

3ニ15,13,この地は汝らの受けつぐ地にして、御父これを汝らに与えたまへり。

3ニ15,14,されど、このことをエルサレムに居る汝らの兄弟たちに知らせよとの命は、御父いまだかつてわれに下したまわす。

3ニ15,15,また、御父がエルサレムの地よりほかへ導きたまえるイスラエルの家のほかの氏族のことも、エルサレムに居る者たちに知らせよと御父のわれに命じたまいしこともなし。

3ニ15,16,されど、御父がエルサレムに居る者たちに知らせよとわれに命じたまいしこと1つあり。

3ニ15,17,そはすなわち、われはこの群にあらざるほかの羊を有つ。われはかれらも集め来らざるべからず。かれらは必ずわが声を聞きて知るべし。されば、ただ1つの群と1つの牧者とのみあるに至るべしと言うことなり。

3ニ15,18,さて、エルサレムの人々はその心がたくなにして信仰足らざりし故に、わが言葉を解せざりき。故にこのことにつきてはもはやかれらに何も言うなかれとの命を御父より受けたりき。

3ニ15,19,されど、今御父よりさらに命令をたまわりしによりわれは汝らに言い伝うることあり、すなわち、汝らはエルサレムに居る人々最悪を犯したるによりてかれらより分けられたり。かれらが汝らのことを知らざるは、かれらに罪悪ある故なり。

3ニ15,20,まことにわれ汝らに告ぐ、御父はエルサレムの人々よりわれがさきに告げたるほかの氏族を離れたまいしが、エルサレムの人々は己れらに罪悪がある故にその氏族のことも知らざるなり。

3ニ15,21,まことに汝らに告ぐ“われはこの群にあらざるほかの羊を有つ。われはかれらも集め来らざるべからず。かれらは必ずわが声を聞き手知るべし。さればただ1つの群とただ1つの牧者とのみあるに至るべし”とわれが言いたるそのほかの羊とはすなわち汝らのことなり。

3ニ15,22,されど、エルサレムの人々はわれが言ひしこの言葉の意味を解せず、ほかの羊と言うは異邦人のことならんと思ひしが、こはかれらの伝道によりて初めて異邦人が心を改めて信仰するに至ることを知らざりし故なり。

3ニ15,23,われが“かれらは必ずわが声を聞き手知るべし”と言ひし意味は、エルサレムの人々に解らざりき。いかなる時にも異邦人は直接わが声を聞かずと言うことと、また聖霊によらざればわれ自らは異邦人に現われずと言うことはエルサレムの人々に解せられざりき。

3ニ15,24,しかし見よ、汝らはわが声を聞きまたわれを見る。すなわち汝らはわが羊にして、御父がわれに与えたまいし者の中に数えらるなり”。

3ニ16,,ニーフアイ第3書 第16章

3ニ16,*-*,なお救い主の声を菊別の羊の群があること。信ずる異邦人の授かる祝福。福音を拒む者の状態。予言者イザヤの言葉を引きたもう。

3ニ16,1,“まことに、まことに汝らに告ぐ、われはこの地にも有らず、エルサレムの地にも有らず、またわれがこれまでに行きて教え導きし地の近所にも有らざるほかの羊を有つ。

3ニ-16,2,その羊はいまだわが声を聞きたることもなく、われがかれらに現われしこともなし。

3ニ-16,3,されど、ついにただ1つの群とただ1つの群とただ1つの牧者のみあるに至るために、われがこの羊にも行きて、われらがわが声を聞き、わが羊の中に数えらるるようにせよとの命を御父より受けたるによりて、われは行きでかれらに現れん。

3ニ-16,4,さればわれがここを去りて後、今言いし言葉を記せと汝らに命ず。こはエルサレムに在りてわれを見、われが導きと恵みを与えたる間われと共に在りしわが民が、もしm汝らのことおよびいまだ知らざるほかの氏族のことを、聖霊によりて教えたもうようわが名によりて

3ニ-16,4-1,願わざる時には、汝らの書き記すこの言葉が保存されて異邦人に伝わり、エルサレムに住む民の不信仰なるが故に世界の全面に散らさるるエルサレムの民の残りの子孫が、すでに完全なる福音を知る異邦人に助けられてわが群に入る、すなわちエルサレムの民の残りの子

3ニ-16,4-1-1,贖い主なるわれを知るようにならんためなり。

3ニ-16,5,その時になりて、われはエルサレムの民の子孫を世界の隅々より集め、また御父がイスラエルの家のすべての民に立てたまひし誓約を果さん。

3ニ-16,6,われと御父のことを異邦人に証する聖霊によりて、われを信じ聖霊を信ずる異邦人は、その信仰ある故にさいわいなり。

3ニ-16,7,見よ、御父は言いたまえり。イスラエルの家よ、汝らは不信仰なるにひきかえて異邦人はイエス・キリストを信ず。されば末の日に異邦人は真理を授けらるるにより、わが教えも完全に知るに至る。

3ニ-16,8,されど汝ら禍なり。と異邦人の中にて信ぜざる者どもに御父は宣えり。異邦人はこの地に来りてイスラエルの家につながるわが民を散らし、己れらの中よりこれを追い出し、足の下にこれを踏みにじるにもかかわらず、

3ニ-16,9,御父が異邦人を憐みたまひ、イスラエルの家につながるわが民を裁きたもうによりてその後、われ汝らに告ぐ、われはまたわが民を打ち悩まして殺さしめ、異邦人の中より追い出させ、また異邦人にも憎ましめて異邦人のわらいぐさとならせその口の端にかからしめん。

3ニ-16,10,御父は汝らに家とわれに命じたまえり。すなわちもし言本陣がわが具悔いんに対して罪を犯し、ほかのあらゆる民あるいは全世界の人々にもまして心おごり、あらゆる偽り、欺偽、悪事、偽善、人殺し、祭司の売教、みだらなる行いまた秘密の憎むべき行いなどをして、

3ニ-16,10-1,わが完全なる福音を拒む時あらば、御父の言いたまひしごとく'われは完全なる福音を異邦人の中より取り去り、

3ニ-16,11,而して、わが民なるイスラエルの家に立てたる誓約を果して、わが福音をわが民なるイスラエルの家に伝えん。

3ニ-16,12,またイスラエルの家よ。その時われは異邦人がもはや汝らを治むる権能なきことを明らかに汝らに示し、われが汝らに立てたる誓約を果すによりて汝らはわが福音を完全なるままに知るに至るべし。

3ニ-16,13,されど、もし異邦人悔い改めてわれに立ち帰るならば、わが民なるイスラエルの家の中に数えらるるべし。

3ニ-16,14,またイスラエルの家に属するわが民が、異邦人の間を通りすぎて異邦人を踏みにじることを許さざるべし。

3ニ-16,15,されど、もし異邦人われに立ち帰らず、わが声を聞かざるときには、イスラエルの家なるわが民をして異邦人の間を通りすぎまた足の下にふみにじらしむべし。その時異邦人は塩気を失ひしごとく益に立たずなりて、そとに捨てられ、イスラエルの家なるわが民の足の下

3ニ-16,15-1,ふみにじらるるほかなきなり'と、こは御父が汝らに宣べよとわれに命じたまひし言葉なり。

3ニ-16,16,まことにまことに、汝らに告ぐ、御父はこの地を受け嗣ぎの地としてこの民に与えよとわれに命じたまえり。

3ニ-16,17,その時予言者イザヤの宣べたる言葉は事実となりて現わる。イザヤは言えり。

3ニ-16,18,'主がシオンを回復したもう時、汝の番人らはこころを1つにし、声をそろえて高らかに歌わん。

3ニ-16,19,エルサレムの荒れすたれたる所よ、主はその民を慰めエルサレムを贖いて回復したまいし故、喜びて共に歌え。

3ニ-16,20,主はその聖き能力を万国の民の目に現わしたまいし故、世界の隅々の人々までことごとく神の与えたもう救いを必ず見るべし'と”。

3ニ-17,,ニ-ファイ第3書 第17章

3ニ-17,*-* ,救い主の誠命(つずき)。失われた支族。救い主、病んでいる者を医し、幼児を祝福したもう。不思議な感激的光景。

3ニ-17,1,イエスはこう言ってまた群衆を見まわし、さらにつずけて仰せになった”見よ、われが汝らを去る時近づけり。

3ニ-17,2,汝らは理解力弱く、御父が今汝らに説き伝えよとわれに命じたまいし教えが、ことごとく汝らに了解されざることを明らかなり。

3ニ-17,3,されば、汝らは各々その住居に帰りて後、われがこれまで汝らに語りしことをよくよく考えて、汝らの理解できるように、また明日教えを聞く準備をするために、わが名によりて御父に祈るべし。われは明日再び汝らのところに來らん。

3ニ-17,4,今われは御父のもとに上り、また失われて行方の知れざるイスラエルの支族のところへ行きてわが身をかれらにも現わさざるべからず。その支族は御父がこれを導きたまいし故にその居るところをよく知りたもう。故に御父には行方不明にあらざるなり”と。

3ニ-17,5,イエスはこう言いたもうてから、もう1度群衆を見まわしてごらんになると、群衆は涙を流してイエスに今しばらく自分らと共に居りたまえと言わんばかりにイエスをじっと眺めていた。

3ニ-17,6,そこでイエスはかれらに向ってまた”見よ、わが胸は汝らに対する憐みにて溢るるばかりなり。

3ニ-17,7,汝らの中にて今病める者あるか。その者たちをここに連れ來れ。汝らの中にて足なえ、めくら、びっこ、かたわ、らい病人、痿えたる者、つんば、またはいかなる病にてもあれ悩める者は、その者たちをここに連れ來れ。われは汝らを憐み、汝らに対する慈悲の心にて溢

3ニ-17,7-1,ばかりなれば、これらの者を医さんとす。

3ニ-17,8,われがエルサレムに住む汝らの兄弟に現わしたと同じことを汝らにも現わさんことを汝らの欲すること見てとらる。またわれは、汝らの信仰われが汝らを充分医すに足ると認む”と仰せになった。

3ニ-17,9,イエスがこう仰せになると、群衆は1同してその中にある病人、悩んでいる者、あしなえ、めくら、おし、またはどのような病気であれ悩んでいる者たちをつれてイエスのみもとに近よってきたから、イエスはその來た順序に従ってみなこれを医したもうた。

3ニ-17,10,それで病を医された者も健康な者も、みなイエスの足もとに伏してイエスを拝んだ。そして群衆を押しわけて出ることのできた日禿びとは、みなイエスの足に口をつけて涙でイエスの足をぬらした。

3ニ-17,11,それからイエスは人々にその小さい子たちを連れて來よと仰せになった。

3ニ-17,12,そこで人々はその小さい子たちを連れて來てイエスをとりまいて地上にすわらせた。イエスはその真中に立っていたもうた。群衆は子供たちをみなイエスのところへ連れてくるまで道をあけていたが、

3ニ-17,13,子供たちはみな連れてくるとイエスはその真中に立ちたもうて、群衆に地へひざまずけと仰せになった。

3ニ-17,14,群衆が地へひざまずくとイエスは心の中でうめいて”父よ、われはイスラエルの家に属する者の罪惡のために悲しむ”と言い、

3ニ-17,15,こう言って自らも地にひざまずいて御父に祈りたもうた。その祈りは書くことができないが群衆の中でこれを來いた者たちは次のように証を立てた。

3ニ-17,16,”私たちが見たり聞いたりしたイエスの御父に対するお祈りは、人の目がまだ見ず、耳がまだ聞かないほど偉大で驚嘆すべきものである。

3ニ-17,17,これを口で言いあらわせる者もなく、筆で書きあらわせる者もなく、また人間の心で創造できぬほど偉大で驚嘆すべきものである。イエスが私たちのために御父に祈って居りたもうのを聞いたとき、私たちの心に満ちた喜びは人間の創造ができないものである”と。

3ニ-17,18,さて、イエスは御父に祈ってしまうと立ち上りたもうたが、群衆は喜びのあまり疲れてしまった。

3ニ-17,19,しかし、イエスがかれらに言って起てと命じたもうと、

3ニ-17,20,かれらは直ちに地から起ち上った。ここに於てイエスは”汝らはその信仰の故にさいわいなり。見よ、今わが喜びは満ち溢れたり”とかれらに言って、

3ニ-17,21,涙を流したもうた。これは群衆が親しく見て証をするところである。イエスはそれからかれらの小さい子供たちを1人1人近よせてこれに祝福を与え、かれらのために御父に祈りたもうた。

3ニ-17,22,そしてこれをしてしまうとまた涙を流したもうた。

3ニ-17,23,イエスが群衆に”汝らの子供たちを見よ”と仰せになったから、

3ニ-17,24,群衆がこれを見ようと顔を上げる時天を仰いで見ると、天が開けて天使らが火の中に取り巻かれているような有様で天降り、子供たちを取りかこんだので子供たちもまた火に取りかこまれ、天使らは子供たちに祝福を与えた。

3ニ-17,25,群衆はこれおw見てその証をしたが、1同1人のこらず実際に見また聞いたのであるからその証の眞実であることを自ら知っていた。その数は男も女も子供も入れて約2、500人であった。

3ニ-18,,ニ-ファイ第3書 第18章

3ニ-18,*-*,パンと葡萄液の聖餐をニ-ファイ人の中に制定したもう。祈りの必要を強調したもう。聖靈を授ける権能を与えたもう。

3ー18,1,さて、イエスは弟子たちに自分のところへパンと葡萄液とを持って来よと仰せになった。
3ー18,2,弟子たちがこれを持って来ようとして出て行った間に、イエスは群衆に向って地に坐れと言いたもうた。
3ー18,3,そして、弟子たちがパンを葡萄液とを持ってくると、イエスはパンをとってこれを裂き、また祝福して弟子たちに与え、これを食えと仰せになった。
3ー18,4,弟子たちがこのパンを食べて(みたまに)満されると、イエスはこれを群衆にも与えよと言いたもうた。
3ー18,5,そこで群衆もこれを食べて(みたまに)満されると、イエスはその弟子たちに仰せになった”汝らの中1人選ばれて按手札により聖任さる。われはその1人にパンを裂き、これを祝してわが教会の会員すなわち信じてわが名によりてバプテスマを受けたるすべての者たち
3ー18,5-1,与えしめんために相当の権能をかれに授けん。
3ー18,6,今われはパンを裂きこれを祝して汝らに与えたるが、汝らも常にかくのごとくこの儀式を行わざるばかり。
3ー18,7,これをわれが汝らに現わしたるわが体の記念に行え。さらば、汝らはこの儀式によりてたえずわれを記念すると言う証明を御父になすを得ん。もし汝らがたえずわれを記念せば、わが”みたま”必ず汝らと共に在らん”と。
3ー18,8,イエスはこれを弟子たちに仰せになってから、弟子たちに杯の葡萄液を飲めと言ひ、また群衆にも与えて飲ませよと言いたもうた。
3ー18,9,弟子たちはイエスが言いたもうたように葡萄液を飲んで(みたま)満され、また群衆に与えんと群衆もまたこれを飲んで(みたま)満された。
3ー18,10,弟子たちがこの儀式を為し終ると、イエスはかれらに仰せになった”汝らは今為したるこのことのためにさいわいなり。かくするはわが命令を守ることにして、この儀式によりて汝らは、われが汝らに命じたることを喜びて行うと言うことを御父に証明するなり。
3ー18,11,この儀式は、悔い改めてわが名によりてバプテスマを受けたる一切の者たちに汝らが常に授くるものにして、またわれが汝らのために流したるわが血の記念に行うべきものなり。而して、これによりて汝らは、汝らがたえずわれを記念すると言うことを御父に証明するなり
3ー18,11-1,もしわれをたえず記念せば、わが”みたま”必ず汝らと共に在らん。
3ー18,12,さてわれは、以上われが命じたることをなせと汝らに言う。汝らもし常に以上われが命じたることを守らばわが岩の上にその基を置くによりてさいわいなり。
3ー18,13,汝らの中、これに過ぎたることまたこれに及ばざることをなす者たしは、わが岩の上に基を置かず、かえりて砂の上い基を置きたる故、雨降り、大水出で、風吹きてかれらに当りなばかれらは必ず倒れん。而して地獄の間はかくのごとき者どもを今にも引き入れんとして
3ー18,14,汝らは、わが命じたることを守らばさいわいなり。わが命じたることは、すなわち御父がわれに汝らに伝えよと言いたまえることなり。
3ー18,15,われ、まことにまことに汝らに告ぐ、汝らは悪魔に誘いまどわされてそのとりことならぬよう、たえず目を覚まして祈らざるべからず。
3ー18,16,われが汝らの中に在りて祈りし如く、汝らもまた悔い改めてわが名によりてバプテスマを受けたるわが民、すなわちわが教会の会員の中に在りて祈れ。われは光なり。われは汝らのためにすでに模範を示しぬ”と。
3ー18,17,イエスは以上のことをその弟子たちに告げてから、また群衆に向って言いたもうた。
3ー18,18,”われ、まことにまことに汝らに告ぐ、汝らは誘惑に負けざるよう、たえず目を覚まして祈らざるべからず。そはサタンが汝らを支配して妻のごとくふるわんと欲すればなり。
3ー18,19,されば汝らはわが名によりてたえず御父に祈らざるべからず。
3ー18,20,而して、汝らが必ず受くと信じて、わが名によりて御父に乞い求むるものは、その正当なるものなる限り、すべて汝らに与えらる。
3ー18,21,汝らの妻子が祝福を受くるよう、たえずわが名によりて家族の祈りを御父に捧げよ。
3ー18,22,汝らたびたび集会をせよ。集会をする時には、何人にてても会に出席することを禁ぜずして集りに来ることを許し、
3ー18,23,その者たちのために祈りて、決してこれを追い出すべからず。その者たちたびたび汝らの集りに来りなば、汝らはこれがためわが名によりて御父に祈るべきなり。
3ー18,24,されど、汝らの光が輝きて世の中を照らすために、汝らの光を高くかかげよ。汝らが高くかかぐる光とは、すなわちわれなり。とりもなおさず汝らが見るわが行いなり。見よ、われが御父に祈りしことは、汝らがすでにこれを見て証をなしたることなり。
3ー18,25,しかのみならず、われは汝らの中の誰にも出て行けと言わずして、むしろ汝らにてを触れしめまた目にて見するためにわれに近づけと言えり。これも汝らが親しく見たところなり。ゆえに、汝らはかくのごとく世の中の

人々になさざるべからず。この命に叛く者は誰に

3ー18,25-1,甘んじて誘惑を招く者なり”と。

3ー18,26,イエスはこうに仰せになってから、また選びたもうた弟子たちにその目を向けて仰せになった。

3ー18,27,”われまことに汝らに告ぐ、われは汝らに今1つの誠めを与えんとす。これを汝らに与えたる後、われはわが父がすでに与えたまいしほかの命令を成しとぐるために、わが父のみもとに帰らざるべからず。

3ー18,28,われが今汝らに与うる誠めは、わが肉(のしるしなるパン)と血(のしるしなる葡萄液)とをわかち与うるときに、誰にてもこれを飲みまた食う資格なしと汝らの認むる者あらば、その者にこれを飲みまた食うことを許すべからず、と言うことなり。

3ー18,29,わが肉(のしるしなるパン)を食ひ、またわが血(のしるしなる葡萄液)を飲む資格なき者がこれを食ひかつ飲むとせば、かくすることによりてその者は身も霊も空く割れざることになるなり。よりて、ある人がわが肉(のしるしなるパン)を食ひ、わが血(のしるしなる

3ー18,29-1,を飲む資格なりと汝ら認むるならば、その人の食うことも飲むことも禁ずべし。

3ー18,30,されど、汝らはかくのごとき人を汝らの中より追い出さずしてこれに道を教え、わが成によりてその人のため御父に祈れ。後にその人悔い改めてわが成によりてバプテスマを受けるならば、汝らはその人を受け入れてわが肉(のしるしなるパン)とわが血(のしるしなる

3ー18,30-1,とを与えよ。

3ー18,31,されど、その人悔い改めざるときには、その人がわが民を亡ぼすことのなきように、これをわが民の中に数うべからず。われはわが羊を知り、わが羊はわがものとして数えられたり。

3ー18,32,されど悔い改めざる者にてても、これを汝らの会堂や礼拝堂より追い出すべからず。何となれば、汝らはかくのごとき者にひきつずき道を伝うる義務あればなり。かれらは悔い改めて真心よりわれに立ち帰るやも知れ難し。真心を以てわれに立ち帰らば、われはかれらを赦

3ー18,32-1,また汝らはかれらを救いに導く者となる。

3ー18,33,御父が罪ありと認めたもう者は禍なれば、汝らは罪ある者となされざるよう、われが汝らに命じたる以上のことを守れ。

3ー18,34,われがこの命令を汝らに下すは、さきに汝らの間に起りしごとき論争を止めさせんためなり。汝らもし今後再び遁走をなさざればさいわいなり。

3ー18,35,さて、汝らのために必要なれば、われは今御父のもとにのぼる”と。

3ー18,36,イエスはこう言ってしまうと、選びたもうた弟子たち1人1人全部に手を置きながら何ごとかを仰せになったが、

3ー18,37,その御言葉は群衆に聞えなかったから、かれらはその証をすることができなかった。しかし、弟子たちは証を立てて、イエスが聖霊をほかの人に与える権能を自分らに授けたもうたと言った。ここに書いてあることが真実であることを私は後に本書で明らかにする。

3ー18,38,イエスがその弟子たちにみな手を置きたもうた後、雲が出てきて群衆を覆ったからかれらはイエスを見ることができなかった。

3ー18,39,群衆が雲に覆われている中に、イエスはかれらを離れて天に昇りたもうた。弟子たちはイエスがまた天に昇りたもうたことを見てその証をした。

3ー19,,ニーフアイ第3書 第19章

3ー19,*-*,ニーフアイ人の12弟子の名。12弟子のバプテスマ。聖霊を与えられる。イエス・キリスト再び天降りたもう。口に尽し難い熱烈な祈り。

3ー19,1,イエスが天に昇りたもうと群衆は散り散りになり、男はみな各々その妻子を連れて家へ帰った。

3ー19,2,さて、群衆がすでにイエスを見たことと、イエスが群衆に道を伝えたもうたことと、イエスが明日もまたかれらに現われたもうと言うことは、日が暗くならない中にすぐと4方へ告げ知らされた。

3ー19,3,かれらはその夜一晩中イエスのことをあまねく告げ知らせた。そして民へ使の者を出したから非常に多くの者は、あくる日にイエスが群衆に現われたもう所へ早く集れるよう、一晩中忙しく働いて用意をした。

3ー19,4,あくる日民が集っている時に、ニーフアイとニーフアイが死から蘇生させたその兄弟であるマトナイハとクメンと、クメノンハイとシェムノンとジョナスとゼデキヤとイザヤとは進み出て群衆の中に立った。以上はイエスが選びたもうた12人の弟子の名前である。

3ー19,5,この時、群衆の数が多かったからこれを12組に分け、

3ー19,6,12人の弟子がこれに教えを伝え、これを地にひざまずかせてイエスの名によって御父に祈りをさせた。

3ー19,7,そして弟子たちもイエスの名によって御父に祈ったが、祈り終ると起って群衆に道を伝えた。

3ー19,8,かれらはイエスが仰せになったその言葉を、イエスが仰せなつたと少しも違わず群衆に宣べ伝えた。それから再びひざまずいてイエスの名によって御父に祈り、

3ー19,9,かれらが切に望むこと、すなわち聖霊をかれらに与えたもうことをねがった。
3ー19,10,そして祈り終ると水際に下って行ったが、群衆もこれについて行った。
3ー19,11,ここでニーフアイは水の中へ入りバプテスマを受けた。
3ー19,12,それから、水の中から出てほかの者たちにバプテスマを施し始め、イエスが選ぴたもうた弟子たちにみなバプテスマを施した。
3ー19,13,かれらがみなバプテスマを受けて水の中から出た多岐に聖霊がその上に管逢ったから、かれらは聖霊と火とに満され、
3ー19,14,また天から下った火のようなものに取り巻かれた。これは群衆が実際に見て証をしたところである。天使らもまた天から降って弟子たちに導きと恵みを施した。
3ー19,15,天使らがこのように弟子たちに導きと恵みを与えた間に、イエスも天から降って弟子たちの間に立ちかれらに導きと恵みを与えたもうた。
3ー19,16,それから、イエスは群衆に言葉をかけて地にひざまずくようにと言いたまい、また自分の弟子たちにも地へひざまずくように言いたもうた。
3ー19,17,かれらがみな地にひざまずいた時、イエスはさらにその弟子たちに祈れと仰せになったので、
3ー19,18,弟子たちは祈り始めてイエスをわが主、わが神となえてイエスに祈りを捧げた。
3ー19,19,そこでイエスはかれあの真中を去って少しはなれた所へ行き、自分もまた地にひざまずいて祈りたもうた。
3ー19,20,"父よ、父はわが選ぴたる者共に聖霊を与えたまいし故われは感謝す。われがかれらを世より選ぴ出したるはかれらがわれを信ずるによる。
3ー19,21,父よ、ねがわくはわが弟子たちの宣べ伝うる言葉を信ずるすべての者共に聖霊を与えたまわんことを。
3ー19,22,また父よ、父がこの選ぴたる者共にすでに聖霊を与えたまいしはかれらがわれを信ずるによる。かれらが今われに祈るところ父に聞ゆる故に、父はかれらが確にわれを信ずることを明らかに知たまわん。かれらがかくわれに祈るは、われがかれらと共に居る故なり。
3ー19,23,さて父よ、割れ箱のでしたちのために祈る。またかれらの言葉を信ずるすべての者のためにも祈る。それはこれらの者がわれを信じて父がわれにいますが如くこれらの者がわれに在り、われらが1つとならんためなり"と。
3ー19,24,イエスはこのように御父に祈ってその弟子たちの所へ帰りたもうて見ると、かれらはまだひきつずいてやめずにイエスに祈りを捧げていた。かれらはことさらに言葉を多くしたのではない、祈るべきことを教えられているいろの願いがその心に道ていたからひきつずき祈
3ー19,24-1,祈っていたのである。
3ー19,25,それで弟子たちがイエスに祈りを捧げている間、イエスはかれらを祝福し、これをにこやかに見ておりたもうた。これと同時にイエスの御顔から出た光が弟子たちを照らしたので、かれらの顔もイエスの御顔と御衣のように白くなったが、その白さはどのような白さにも
3ー19,25-1,白く、まことにこれほど白いものは世界中にないほどであった。
3ー19,26,イエスは"祈りをつづけよ"と仰せになったが、実はかれらはまだ祈りを止めていなかった。
3ー19,27,イエスは、またややかれらから離れて地に伏し、ふたたび父に祈って仰せになった。
3ー19,28,"父よ、わが選ぴたる者共をその信仰のために清めたまいし故、われ父に感謝す。われはかれらのために祈る。またわれが選ぴたる者共がわれによりて清められたる如く、かれらの言葉を信ずる者共もその信仰のためにわれによりて清められんことを祈る。
3ー19,29,地千代、われは世のために祈らず、ただその信仰の厚き故に父が世の中より選ぴ出してわれに加えたまえる者共のために祈り、かれらがわれによりて清められんことと、また父がわれにいます如くわれもかれらに在りてかれらと1つになり、かれらによりてわが栄光を示
3ー19,29-1,願う"と。
3ー19,30,イエスがこのように祈ってまたその弟子たちに近づいて見たもうと、かれらはたえず熱心にイエスに祈りを捧げていた。そこでイエスはまたにこやかにかれらを見たもうと、かれらはイエスのように白く見えた。
3ー19,31,イエスはいま1度、ややはなれた所へ言って御父に祈りたもうた。
3ー19,32,しかし、その祈りの言葉は人の口で言い表せず、また人の筆で書き記せないものであった。
3ー19,33,しかも群衆は実際これを聞きまたその証をした。かれらはその心が開かれて光に照らされたから、イエスの祈りの言葉を心で理解した。
3ー19,34,この言葉は人間の言葉で言い表せず書き記せないほど偉大でまた驚嘆すべきものであった。
3ー19,35,イエスは祈り終ってまた弟子たちの所へ帰ってきて仰せになった"われはユダヤ人の中にてかほど大いなる信仰を見たることなし。されば、われはユダヤ人の信仰足らざるため、汝らに現したるこの大いなる奇跡をか

れらに現わすこと能わざりき。

3ニ-19,36,われ、まことに汝らに告ぐ、ユダヤ人の中には汝らの見たるとき大いなることを見し者、また汝らの聞きたるとき大いなることを聞きし者1人もなし”と。

3ニ-20,,ニ-ファイ第3書 第20章

3ニ-20,*-*、パンと葡萄液が奇跡的に与えられて再び群衆にわかられた。ヤコブの残りの子孫、救い主、自分はモーセの如しと示された予言者であると言いたもう。多くの予言者の言葉を引きたもう。

3ニ-20,1,イエスは群衆と弟子たちに、祈りをやめよと言いたもうたが、しかし汝ら心の中にて祈ることはこれをやめるなど言いたもうた。

3ニ-20,2,そこで立ち上れと仰せになると、かれらはみな立ち上がった。

3ニ-20,3,すると、イエスはまたパンを裂いてこれを祝して弟子たちに食べさせたもうた。

3ニ-20,4,弟子たちが食べ終ると、イエスは弟子たちにパンを裂いて群衆に与えよと仰せになった。

3ニ-20,5,そして、弟子たちがパンを群衆に与えると、イエスは弟子たちに葡萄液を飲ませ、群衆にもこれを与えよと弟子たちに仰せになった。

3ニ-20,6,さて見よ、弟子たちも群衆も誰1人パンと葡萄液とを以てきていなかったが、

3ニ-20,7,イエスは本当にパンと葡萄液とを皆の者に与えて仰せになった。

3ニ-20,8,”このパンを食う者はわが体(のしるし)を食いてその身も霊も養い。この葡萄液を飲む者はわが血(のしるし)を飲んでその身も霊も養うにより、その身も霊も飢え渴くことなく、常に飽きてあらん”と。

3ニ-20,9,群衆はみなパンを食べ葡萄液を飲むと”みたま”に満され、1同声をそろえて皆が見たイエス、皆が聞いたイエスを崇めた。

3ニ-20,10,群衆一同がイエスを崇めると、イエスはかれらに”見よ、われは御父がイスラエルの子孫なるこの民につきてわれに授けたまいし命令を今果さんとす。

3ニ-20,11,イザヤ音場は書き記されて汝らの前にあり。汝らこれを研究せよ。われがさきに汝らに向い’イザヤの言葉の真実となるべき時に’と言ひしことは汝らにまだ記憶するところなり。

3ニ-20,12,われ汝らに告ぐ、言座やの言葉事実となる時は、御父がすでにその民なるイスラエルの家と結びたまひし誓約実行さるる時なり。

3ニ-20,13,その時になりて、世界のここかしこに散らされたるイスラエルの子孫たちは東西南北より集められ、かれらを贖いたまいしその神なる主を知るに至るべし。

3ニ-20,14,われがこの地を汝らに与えて汝らの受け嗣ぎの地となすは御父の命令なり。

3ニ-20,15,汝らに告ぐ。異邦人わが民を散らしたる後、その受くべき恵みを受けたる後もし悔い改めずば、

3ニ-20,16,ヤコブの家の残りの子孫なる汝らは異邦人の所に行きてその中にあるべし。異邦人の数は多けれど、汝らはかれらの中にありてあたかも森の獣の中に在る獅子のごとくまた羊の群の中に在る若き獅子のごときものとなる。若き獅子は羊の群の中を通り過ぐるときこれを踏

3ニ-20,16-1,にじりまたこれを食い裂く、而してこの群を救い得るもの誰もなし。

3ニ-20,17,汝らのては汝らに反抗する者の上に落ち、汝らの敵はことごとく亡びん。

3ニ-20,18,人のその麦束を打ち場むるごとくに、われはわが民を集めん。

3ニ-20,19,われはまた、御父の誓約を受けたるわが民の角を鉄とし、そのひずめを真鍮とす。故に汝ら多くの民をうち砕くべし。而してわれはその多くの民の所得をとりてこれを主に捧げ、その所有する物をとりてこれを全世界の主に納めん。見よ、これをなす者はすなわちわれなり

3ニ-20,20,御父は宣う’その火にわが正義の剣、異邦人の上にかかるべければ、異邦人より成る国民すべて悔い改めずんばこの剣はかれらの上い落ちん’と。

3ニ-20,21,われはわが民なるイスラエルの家を回復し、

3ニ-20,22,またわれがこの地に居る民の先祖なるヤコブと結びし誓約をことごとく果すため、汝らの子孫してこの地を治むる者としていつまでも住まわせこの地を新エルサレムとなさん。また天の権と力とはこの民の中にあり、われもまた汝らの中に在るべし。

3ニ-20,23,見よ、モーセの言葉に’汝らの神なる主は、汝らの兄弟の中よりわれの如き1人の予言者を汝らのために起したもう。かれの汝らに語るところは何事にてもあれ汝らことごとくこれを聞くべし。この予言者に聞かざる者はことごとく民の中より断ち切らるべし’とあり。

3ニ-20,23-1,モーセがかくの如くあらかじめ示したる予言者とはすなわちわれなり。

3ニ-20,24,まことに汝らに告ぐ、サムエルの前に来りし予言者たち、およびサムエルの後に予言をしたるすべての者たちは皆われのことを証せり。

3ニ-20,25,汝らは予言者らの子孫なり。イスラエル家に属する者共なり。また御父はアブラハムに’汝によりて世界の眷族なり。また御父はアブラハムに’汝の子孫によりて世界の眷族にとことく祝福を受くべし’と言ひて汝らの

先祖と誓約を結びたまひしが汝らはその誓約に

3ニ-20,25-1,共なり。

3ニ-20,26,御父はわれを建ててまず汝らに遣わしたまへり。こはわれに汝らをして各々その罪惡より遠ざからしめ汝らに恵みを与えしむるためにして、また汝らが誓約にあずかる者共なるが故なり。

3ニ-20,27,汝らが恵みを受けてより御父は'汝の子孫により世界の眷族ことごとく祝福を受くべし'と仰せになりてアブラハムに立てたまひし誓約を果すためわれによりて異邦人に聖靈を授けたもう。異邦人はかように聖靈を授けらるるためどの民にもまさりて強くなり、わが民な

3ニ-20,27-1,イスラエルの家を散らし、

3ニ-20,28,またこの地の民を責め苦しむるものとなるべし。されどかれらがわが完全なる福音を受けてより、もしわれに対してその心を頑なにする時あらば'われはかれらの罪惡を各々に報ゆべし'と言う御父の言葉と、

3ニ-20,29,'その時われはかつてわが民に立てたる誓約を果すべし。その誓約はわが心にかなう時にわが民を集めて、その先祖の所有せし土地、すなわち永遠にかれらに約束したる地なるエルサレムの地をかれらの受け嗣ぎの地としてかれらに復すと言うことなり'と言う御父の言

3ニ-20,29-1,成就すべし。

3ニ-20,30,而してイスラエルの家の人々の福音を完全なるまま宣べ伝うる時将来にあり。

3ニ-20,31,その時かれらはわれを信じ、われが神の子、イエス・キリストなることを認め、わが名によりて御父に祈るべし。

3ニ-20,32,その時、かれらの万人らは心を1つにし、声をそろえて高らかに歌わん。

3ニ-20,33,またその時御父は再びかれらを集め受け嗣ぎの地としてエルサレムをかれらに与えたもう。

3ニ-20,34,その時来たらばかれらは喜びを押うる能わず。エルサレムの荒れすたれたところよ。御父がその民をなぐさめ、エルサレムを贖いてこれを回復したまいし故に共に歌を唱え。

3ニ-20,35,御父はその聖き力を万国の民の目に現したまいし故に、世界の隅々までことごとく御父の与えたもう救いを見る。御父とわれとは1つの神会をなす。

3ニ-20,36,されば記されたることは成就すべし。そは次のごとし。'目覚めよ、また目覚めよ。シオンよ、汝の力を添えよ。聖き都エルサレムよ。汝の美しき衣を着よ。割礼を受けざる者と汚れたるものとは今より後再び汝に入るべからざればなり。

3ニ-20,37,エルサレムよ、塵より立ち上りて身のあくたを払い去れ。身を起して座せよ。シオンの捕らわれたる娘よ。汝の首にまとえる縄を解け。

3ニ-20,38,主は"汝らは空しく己が身を売りしが、今は金銭によらずして贖わるべし"と言いたまへばなり'。

3ニ-20,39,まことに汝らに告ぐ。その集る日になりて、わが民はわが名を知り。また命を下す者がわれなることも知るによりて、

3ニ-20,40,かれらは言うべし'良き音ずれをわれらにもたらし、平和を布き、われらに善の良き音ずれをもたらしして救いを宣べ弘め、またシオンに向いて"汝の神治めたもう"と告ぐる者の足は山の上にいと美しきかな'と。

3ニ-20,41,かくし叫びの声は聞えわたりて'去れ、汝らよ去れ。その所を出でされ。不潔なるものにたずさわることなかれ。その中より出で去れ。主の器を持つ者よ、清くあれ。

3ニ-20,42,されど主は汝らの前に行き、またイスラエルの神は汝らの後ろにましますべければ汝ら急ぎて行くべからず、また逃げて行くべからず、また逃げて行くべからず。

3ニ-20,43,見よ、わが僕は慎みてふるまうべし。高められほめそやされて甚だ高き所へ登るべし。

3ニ-20,44,多くの者汝を見て驚きし如く(その顔かたちは他の人よりもそこなわれ、その身の形は人の子よりも傷つけられたれば)、

3ニ-20,45,かれもまた多くの国民を驚かすべし。王たちはいまだかつて教えられざることを見、いまだかつて聞かざることを考うるに至るべければ、わが僕の前に口をつぐむべし'と。

3ニ-20,46,まことに、まことに汝らに告ぐ、これらのことはみな御父がわれに命じたまいしごとくに成就す。かくて御父がその民に立てたまひし誓約は果されて、エルサレムは再びわが民の住むところとなり。かれらの受けつぐ地となるべし'と。

3ニ-21,,ニ-ファイ第3書 第21章

3ニ-21,*-*,御父の御業を始まるし。悔い改める異邦人の光榮ある将来。悔い改めない者は罪ありと定められることの予言。新エルサレム。

3ニ-21,1,"まことに汝らに告ぐ、これらのことの成就せんとするとき、すなわち、われがわが民なるイスラエルの家をその長く散らされたる有様より救いてこれを集め、またその中にわがシオンを建設せんとする時を汝らに知らしめんために、われは汝らにしるしを示さん。

3ニ-21,2,そのしるしは次の如し。まことに、われ汝らに告ぐ、われが今汝らに告ぐるこれらのことと、ならびにこの

後、われ自らと御父が汝らに与えたもう聖霊の能力とによりて汝らに告ぐることとを異邦人に知らせて、以て異邦人が散らすはずのわが民たりヤコブの家の子孫な

3ニ-21,2-1,この民のことを異邦人に知らす時に、

3ニ-21,3,言い換うれば、御父が以上のことを異邦人に知らせたまい、それより父が以上のことを汝らの子孫に異邦人より伝えたもう時には、

3ニ-21,4,聖霊がその民なるイスラエルの家い立てたまいし誓約が行わるるために、また異邦人を経て以上のことが汝らの子孫に伝わるために、異邦人がこの地に置かれて御父の能力によりて自由の国民となることは御父のみこころなるが故に、

3ニ-21,5,また以上のことと、将来汝らの中に行わるることが、異邦人を経てその時すでに罪惡を犯して不信仰におち入りし汝らの子孫に伝わる時には、

3ニ-21,6,御父はその権能を異邦人に示したもうために、また異邦人がその心をかたくなにせず時異邦人が悔い改めてわれに立ち帰ることと、わが名によりてバプテスマを受くることと、わが教義の真意とを明らかに悟りて以てわが民なるイスラエルの家の中に数えらるるように

3ニ-21,6-1,したもうために、異邦人を経て以上のことを汝らの子孫に示さるることが肝要なりと認めたもう故に、

3ニ-21,7,以上のこと怒りて汝らの子孫がこれを知り始むる時は、その時が、御父がそのイスラエルの家にゆかりある者に立てたまいし誓約を果したもう御業のすでに始まりたることを知るために汝らの子孫に与えらるるしるしなり。

3ニ-21,8,御父がイスラエルの家に立てたもうた誓約を果したもう日来る時には、王たちはいまだかつて教えられざることを見、いまだかつて聞かざることを考うるに至る故にその口をつぐむべし。

3ニ-21,9,何となれば、その時御父はわれのために世の人の中に於て驚嘆すべき大事業をなしたもう。而してその事業を世の人に宣べまた証する1人の男あれども、なおこの事業を信ぜざる者もあるべし。

3ニ-21,10,見よ、その1人の男なるわが僕の命はわがての中に守らるる故に、世の人がかれを傷つくることありともかれにうち勝つこと能わざるべし。われはこの僕を医して以てわが賢きこと惡魔の巧みよりもまされるを世の人に示さん。

3ニ-21,11,されば御父はわれイエス・キリストの言葉を異邦人に宣べ伝うる権能をその1人の僕に授け、さてこの僕によりてわが言葉を異邦人に伝えたもう。その時わが言葉を信ぜざる者はみなわが誓約を受けたる民の中より断ち切らる。(このことはモーセの予言したる通り事実

3ニ-21,11-1,なるべし)。

3ニ-21,12,而してヤコブの残りの子孫なるわが民は、異邦人の中にてあたかも森の獣の中にある獅子のごとくまた羊の群の中にある若き獅子のごときものとなる。獅子は羊の群の中を通り過ぐればこれを踏みじりまた食い裂く。誰もこの群を救い得る者なし。

3ニ-21,13,ヤコブの残りの子孫のてはかれらに反抗する者の上に落ち、またその敵はことごとく亡びん。

3ニ-21,14,異邦人は悔い改めずば禍なり。何となれば、御父が次のごとく言いたまえばなり'その時われは汝の中より軍馬を取り去り、汝の兵車をこわし、

3ニ-21,15,その国の都会を亡ぼし、その要害をことごとくくずし、

3ニ-21,16,汝の手より魔術を取り去りて、もはや汝の中に占者のあることながらしめ、

3ニ-21,17,また汝の刻みし一切の像を取り除き、その立像を汝の中より取り払うべければ、汝は己れの手をもて造りしものを礼拝せざるに至らん。

3ニ-21,18,またわれは汝の住む地よりその林を抜き去り、かくて汝の都会を亡ぼすべし。

3ニ-21,19,虚言、欺偽、嫉妬、争鬭、祭司の偽善売教、およびみだらなる行いはことごとくそのあとを絶つべし。

3ニ-21,20,その日われは、悔い改めずわが愛子に來らざる一切の者共をわが民なるイスラエルの家の中より断ち切りて、

3ニ-21,21,異教徒に及ぼす如く厳しき報いと烈しき怒りとをこれに及ぼさん。これはかれらのいまだかつて聞きしことなきほどのものなるべし'と。

3ニ-21,22,されど、もしも異邦人悔い改めてわが言葉を聞き、その心をかたくなにせず時は、われはかれらの中にわが教会を立てん。而してかれらは誓約にあずかり、またわれが受け嗣ぎの地としてこの地を与えたるヤコブの家の残りの子孫なるこの国民の中に数えられ、

3ニ-21,23,さらにまたわが民なるヤコブの残りの子孫と、将来集るはずのイスラエルの家の者たちことごとくとを助けて共に新しき都を建つべし。この新しき都は新エルサレムと呼ばれん。

3ニ-21,24,それより異邦人は善世界に散りしわが民が新エルサレムに集ることを得よう、これを助くべし。

3ニ-21,25,その時、天の権と力とはかれらに下りて、われも親しくかれらの中に在らん。

3ニ-21,26,その時、すなわちこの民の残りの子孫に福音を伝え始むる時を以て御父の事業は始まる。われまことに汝らに告ぐ、その日來らば散らされたわが民の中にも、また御父がエルサレムよりほかの所へ導きたもうたる行方

の知れざる支族の中にも御父の事業始るべし。

3ニ-21,27,言い換うれば、散らされたるわが民をわがもとに立ち帰らせ、わが名によりて御父に祈る道を備えしむるための事業は、散らされるわが民の所にて御父が始めたもう。

3ニ-21,28,さてまた御父の民に受け嗣ぎの地へ集まらしむる道を備うる事業は、万国の民の中にて御父が始めたもう。

3ニ-21,29,されば、御父の民は万国より出で来れど、急ぎて出で来ることもなくまた逃げて来ることもなし。そは御父が「われは汝らの前に行きまた汝らの後ろに在るべし」と仰せになりし故なり”。

3ニ-22,,ニ-ファイ第3書 第22章

3ニ-22,*-*,救い主、さらに予言者イザヤの言葉を引きたもう。イザヤ書第54章と比べよ。

3ニ-22,1,”さて、記されたる言葉はその時成就す。その言葉は次の如し、‘子を生まざる女よ歌い出せ。産の苦しみを知らざる者よ、声をあげてよばわれ。主は言いたもう、夫のある者の子よりも、捨てられて頼るところのなき者の子の方多しと。

3ニ-22,2,汝は天幕を張る所を広くし、汝の住む所の捲を大きくせよ。ひかえ目なくその縄を長くしそのくいを強くせよ。

3ニ-22,3,汝は右にも左にもあふれ出で、その子孫は異邦人の地をつぎて荒すたれたる都市をも住むべき所となる故なり。

3ニ-22,4,汝は恥を感ずることなきが故に恐るな。汝ははずかしめられざるによりあわてふためくな。汝は若きときの恥を忘れ、若き時のはずかしめを思い出さず、またやもめなりし時の恥辱を再びおぼえざるべし。

3ニ-22,5,汝の造り主は汝の夫にしてその名は万軍の主、汝の贖い主はイスラエルの聖者にして全世界の神となえらる。

3ニ-22,6,汝の神は言いたもう”主はあたかも捨てられて心に悲しむ女のごとく、またとつぎて出されたる時なお都市若き妻なりし者のごとくに汝らと呼び集めたまえり”と。

3ニ-22,7,また汝の贖い主なる主は言いたもう”われはしばらく汝をすてしが、今は大いなる憐みを以て汝を集めん。

3ニ-22,8,われはいささか怒りてしばらく汝よりわが顔を隠せしがいつまでも尽きぬ情を以て汝を憐む。

3ニ-22,9,こはノアの時の洪水のごとし。ノアの時の洪水再び地を覆うこと必ずなしと誓いしが、そのごとくにわれは汝を怒らずと誓約せり。

3ニ-22,10,山は去り岡は移れども、わが名覚めは汝を離れず、われが民に立てたる誓約も汝を離れず”と汝を憐む主は言いたもう。

3ニ-22,11,”大風に吹き動かされて苦しみを受け、慰めを得ざる者よ。われは美しき色にて汝の石を敷き、サーファイルにて汝の基礎をすえ、

3ニ-22,12,めのう石にて汝の窓をつくり、カルボンクルにて汝の門をつくり、汝の境をことごとく宝石にてつくる。

3ニ-22,13,汝の子らはみな主に関わる教えを授けられ、大いなる平和を受く。

3ニ-22,14,汝は義を以て堅く立ち、恐るることなきが故にしいたげより遠ざかる。また恐怖汝に近づかざればこれに逢わざるべし。

3ニ-22,15,されど、世の人はわが力によらず必ず汝に反抗して団結すべけれど、かくするものはみな汝のために破られて亡ぶべし。

3ニ-22,16,見よ、火を吹き起してその技に必要なる道具を造る鍛冶は、われが造りし者なり。またわれは、破壊する者も破壊をなさしむ。

3ニ-22,17,されど汝に反抗せんとして造る武器は1つも役に立たず。すべて汝を訴えて裁かんとする口は汝に言い破らる。こはすなわち主の僕らの受くる職福なり。またわれより受くる義なり”と、主は宣う”。

3ニ-23,,ニ-ファイ第3書 第23章

3ニ-23,*-*,ニ-ファイの記録にのせてない所を書き加えよと、救い主が命じたもう。レーマン人サムエルの予言がつけ加えられる。

3ニ-23,1,”見よ、まことに汝らに告ぐ。汝らはこれらの聖文を研究せざるべからず。われは汝らにこれらの聖文を熱心に研究せよと命ず。イザヤの言葉は、まことに偉大なる価値あり。

3ニ-23,2,イザヤは、イスラエルの家に属せるわが民につきて一切のことを語りし故に、イザヤが異邦人にも話かくるべからざるはもとよりなり。

3ニ-23,3,イザヤの予言ことごとくはその通り事実となりたらずとも、将来必ずことごとく事実となるべし。

3ニ-23,4,されば、汝らもわが言葉に心を留めてわれがすでに汝らに告げたることを書き記せ。さらば、それらのことは御父のみこころのままにまた御父の定めたもう時に異邦人に伝わり行くべし。

3ニ-23,5,わが言葉に聞き従い、悔い改めてバプテスマを受くる者はみな救われん。これらのことを証する予言者

多ければ、予言者たちの言葉を研究せよ”と。

3ニ-23,6,イエスは以上のことを言い終り、またニーフアイ人がすでに受けた聖文をことごとく説き明してから”われは汝らがいまだ持たざる別の聖文を隠ことを汝らに望む”と仰せになって、

3ニ-23,7,ニーフアイは向い”汝らの造りし記録をもち来りて見せよ”と命じたもうた。

3ニ-23,8,そこでニーフアイがいろいろの記録をもってきてイエスの御前に置くと、イエスはこれを見てその弟子たちにたずねたもうた。

3ニ-23,9,”われまことに汝らに告ぐ、われはレーマン人なるわが僕サムエルの命令を与えたり。その命令は、御父われによりてその御名の栄光を示したもう日に多くの聖徒死者の中よりよみがえりて多くの人々に現われ、これに導きと恵を与うと言うことを、この民に予言してそ

3ニ-23,9-1,その証をなせと言うことなり。されど如何に、その予言は事実となりしにあらざるや”と。

3ニ-23,10,そこで弟子たちは答えて”主よ、サムエルは今主が仰せになりたる通り予言して、その予言はすでにみな事実になれり”と申し上げた。

3ニ-23,11,するとイエスはまた問うて”さらば、多くの聖徒よみがえりて多くの人々に現われ、これに導きと恵を与えしことを書かざるは何故か”と仰せになった。

3ニ-23,12,そこでニーフアイはまだこれを書き記していないことを思い起した。

3ニ-23,13,そしてイエスがこのことも書きしるしておけと言いたもうたのでイエスの言葉のように記録をした。

3ニ-23,14,さてイエスはニーフアイ人が造った聖文をことごとく1つに合せて説き明したことを民に言い伝えよと弟子たちに命じたもうた。

3ニ-24,,ニーフアイ第3書 第24章

3ニ-24,*-* ,ニーフアイ人に与えられたマラキ言葉。什分の一と捧物の律法。マラキ書第3章と比べよ。

3ニ-24,1,またイエスは御父がマラキに授けたもうた言葉であって、今自分がその弟子たちに伝えようと言葉を掛けと言うこともその弟子たちに命じたもうた。そして、弟子たちがこれを書いてしまうと、イエスはその説明をなしたもうた。その言葉は次のようである”御父はマラ

3ニ-24,1-1,宣えり。見よ、万群の主はかく言う。われはわが使者をつかわす。この使者はわが前に道を備えん。されば、汝らの求むる主、すなわち汝らの喜ぶ誓約の使者はたちまちその神殿に来るべし。かれは必ず来る。

3ニ-24,2,されど、かれの来る時によく堪え得る物は誰ぞ。かれの現わるる時によく立ち得る物は誰ぞ。かれは金を吹きわくる物の火のごとく、布さらしの灰汁のごとし。

3ニ-24,3,かれは銀を吹きわけて清むる物のごとく坐してレビの子孫を清め、これを金銀のごとく清めてかれらに義しく主に捧物を捧げしむべし。

3ニ-24,4,されば、ユダとエルサレムとの捧物は昔と同じく、また過ぎ去りし年と同じく主に喜ばれん。

3ニ-24,5,而して、われは裁判をなすために汝らに近づき、魔法を使う物と、姦淫をなす物と、偽りの誓いを立つる物と、俸給につきて雇人を悩め、やもめとみなしごとをしいたげ、他国の物をしりぞけてわれをおそれざる者とに対してきびしくまた速に明しを立つと万群の主は言

3ニ-24,6,われは主なり、われは変わるることなき故にヤコブの子孫なる汝らが亡ぶることなし。

3ニ-24,7,汝らはその先祖の時代よりわが律法を離れて守らざりしが、今われに立ち帰れ、さらばわれ汝らに帰らんと、万群の主は言う。されど汝らは、何に於て主に立ち帰るべきかとたずぬ。

3ニ-24,8,見よ、人は神の物を盗まんや。されど、汝らはすでにわが物を盗めり。しかも汝らは、何に於てわれらは神の物を盗みしやとたずぬ。その什分の一と捧物とに於てなり。

3ニ-24,9,汝らはのろいを以てのろわる。汝ら全国の民はわが物を盗みし故なり。

3ニ-24,10,われ家に食物あらしめんために、什分の一をことごとくわが倉に持ち来りてわれを例見よ。われが汝らに天の窓を開きて容るる所なきほどのあふるる恵みを汝らに与うか与えざるかを見よ。

3ニ-24,11,もし汝らが什分の一をことごとく持ち来らば、われは食い荒す者を汝らのためにふせぎ、汝らの畑の作物を食い荒すことを止むべし。また汝らの葡萄の木をして熟せざる内にその実を落とさしめざるべし。万群の主はかく言う。

3ニ-24,12,かくして、汝らの地は楽しき地となる故に、万国の民は汝らをさいわいなる者と言わん。

3ニ-24,13,汝らは激しき言葉もてわれに逆らいしが汝に逆らいて何を言いしか”と言う。

3ニ-24,14,見よ、汝らは”神に仕うるは空しきことなり。われらがこれまで神の律法を守り、また万群の主の前にへりくだりて歩きたるは何の益かあらん。

3ニ-24,15,今われらは誇り高ぶる者を幸福なり言う。悪を行う者は栄ゆるのみならず、神を試みてすら罰を受けず”と言う。

3ニ-24,16,そのとき、主を畏れし者は互いにたびたび語り合いたれば、主は耳を傾けてその話を聞き、主を畏れてその名を尊びし衆Nたちの行いを記念する書は誌されて主の前に置かれたり。

3ニ-24,17,万群の主は言う。われが、わが宝石となる者を選びて集むる時、われをおそれてわが名を尊びし者たちをわが味方とし、人が己れに仕うる息子の命を助くるごとくわれはその者たちの命を助けん。

3ニ-24,18,その時こそ汝らは立ち帰りて義人と悪人との区別、神に仕うる者と仕えざる者との区別を知るを得ん”。

3ニ-25,,ニーフアイ第3書 第25章

3ニ-25,*-*,マラキの予言(つずき)。エライジャとその使命。主の大いなる恐ろしい日。マラキ書第4章と比べよ。

3ニ-25,1,”また万群の主は言う。見よ、炉のごとくに焼くる日来らん。その日には誇り高ぶる一切の者と、悪を行う一切の者とはわらのごとなり、来るべきその日のために根も枝ものこらず焼きつくされん。

3ニ-25,2,されどわが名を畏る汝らには義の御子(イエス・キリスト)医す能力を有ちてあらわれ来る。されば、汝らは出でつつがなくおりに飼わるる小牛のごとく育ち、

3ニ-25,3,悪人を足の下に踏みつけん。われがこれらの事をなす日に、悪人齒汝らの足の下に灰のごとき者となる故なり。

3ニ-25,4,われがホレブ於てイスラエルの全家のために、わが僕なるモーセに授けたる律法と法令と裁決とを思い出せ。

3ニ-25,5,さて見よ、主の大いなる恐ろしき日の来る前に、われは予言者エライジャを汝らの所につかわす。

3ニ-25,6,エライジャは先祖の心にその子らのことを思わせ、子らの心にその先祖のことを思わせん。こはわれが来りてのろいを以て全世界を撃たざらんためなり”。

3ニ-26,,ニーフアイ第3書 第26章

3ニ-26,*-*,救い主、最初からのあらゆることの意味を説き明したもう。幼児の口から述べる驚嘆すべきこと。弟子たちの働き。

3ニ-26,1,イエスはこれらのことを述べてから、その意味を群衆に説き明し、また事の大小の区別なくあらゆる事をかれらに説きたもうた。

3ニ-26,2,そしてイエスは”御父は、汝らがさきに持たざりしこの聖文を汝らに示せとわれに宣えり。この聖文を未来の人々に伝うるは御父のみこころなればなり”と言いたまい、

3ニ-26,3,また最初から、イエスがその栄光を具えて再びこの世に降りたもう時に至るまでのこと、言いかえると最初から大いなる終りの日、すなわち武士とが酷熱で溶かされ、大地の巻もののように巻かれ、天地がともになくなる日、

3ニ-26,4,すなわち、あらゆる人々、あらゆる血族、あらゆる国民、あらゆる国言葉の民が各々その行いの善悪に応じて裁判を受けるために神の御前に立つ大いなる終りの日になるまでこの大地の上に起る一切の事を告げてこれを明らかに説きたもうた。

3ニ-26,5,この大いなる終りの日に、人はもしもその行いが善ければ、よみがえって永遠の生命を受け、その行いが悪ければよみがえって永遠に断ち切られる。すなわち、善の始めよりも先にすでにましましたキリストの慈愛と正義公平とによって、1方には1種のものがあり、他

3ニ-26,5-1,他種のものがあって互いに対応している。

3ニ-26,6,イエスが本当に民に教えたもうたことは、その100分の1さえも本經典にのせることができないが、

3ニ-26,7,それらのことの大半はニーフアイ版に刻んでのせてある。

3ニ-26,8,私がこれに書いたのは、イエスが民に教えたもうたことの幾分かだけである。これをここに書いたのは、この言葉がイエスの告げたもうた通りに異邦人のてを経てまたこの民に伝えられるためである。

3ニ-26,9,この民が始めこの幾分かを授けられるのは、かれらの信仰の厚いか薄井かを試みるのに必要である。もしかれらがこの幾分かを信ずるならば、これより以上に大きなことをかれらに示そう。

3ニ-26,10,しかし、かれらがこの幾分かも信じなければ、これ以上に大きなことは伝えられずに、かれらは罪ありとされるのである。

3ニ-26,11,見よ、ニーフアイ版に刻んであることをみな写そうと思ったが、主はこれを禁じて”われはわが民の信仰を試みん”と仰せになった。

3ニ-26,12,それで、私モルモンは主が書けと言いたもうたことだけを書き記すから、私はこれで説明の言葉を終り、主が書けと言いたもうたことを書きつづける。

3ニ-26,13,さて私はあなたたちに次のことを知って欲しいと思う。イエスは本当に3日の間民に教えを伝えたもうたが、その後たびたび民に現われてたびたびパンを裂きこれを祝して民に与えたもうた。

3ニ-26,14,さきに言った群衆の子供たちにも、イエスは導きと恵みとを授け、物を言う力を与えたもうたので、子供たちはその親に向って驚嘆すべき偉大なことを告げ始めたが、その告げたことはイエスが親しく民に教えたもうたことよりも勝っているほどであった。

3ニ-26,15,イエスは昇天したもうてから、また2度目に群衆に現われ、その中の病んでいる者をみな医し、あしな

えを医し、めくらの目を開け、つんぼの耳を聞けるようにし、群衆の中でいろいろの病気をなおし、また1人の男を死から蘇生させて、イエスの持つて居りたもう権と

3ニ-26,15-1,群衆に現わしてからまた天に昇って御父のもとへ行きたもうた。

3ニ-26,16,そのあくる日、多くの民は群がり集って今言った子供たちを見、またその言うことを聞いた。まことに乳飲み児さえも物を言う能力を得て驚嘆すべきことを言い出したが、それらのこは誰も書いてはならぬと止められた。

3ニ-26,17,イエスが選ぴたもうた弟子たちは、その時から自分のところへくる者にみな教えを説き、これにバプテスマを施すことを始めた。そしてイエスの御名によってバプテスマを受けた者たちはみな聖霊に満された。

3ニ-26,18,この者たちの中には書くのをとめられた口に言い表し難い多くのことを見たり聞いたりした者が多くあった。

3ニ-26,19,またこれらの者は互いに教え、互いに奉仕して、一切の物を共有してお互い同士を義しく取り扱い、

3ニ-26,20,また何事でもイエスの命令なざる通りにした。

3ニ-26,21,そしてイエスの御名によりバプテスマを受けた者たちの団体はキリストの教会と呼ばれた。

3ニ-27,,ニ-ファイ第3書 第27章

3ニ-27,*-* ,イエス・キリスト、自らの教会に銘々したもう。すべてのことは御父が書き誌したもう。人間はさまざまの記録に従って裁判を受ける。

3ニ-27,1,イエスの弟子たちは旅をして歩いて、それまでに見たり聞いたりしたことを宣べ伝え、またイエスの御名によってバプテスマを施した。この弟子たちは、ある日のこと集って熱心に祈りと断食とをしていたが、

3ニ-27,2,イエスの御名によって御父に祈りを捧げたところ、イエスがまた現われてからの中に立ちたまい”汝らは何をわれより与えられんと願うや”と仰せになった。

3ニ-27,3,そこで弟子たちは答えて”主よ、この教会の名は何と言ったらよいか、これを私たちに教えたまえ。それはこれについて民の間に論争がある故に”と言った。

3ニ-27,4,するとイエスは弟子たちに答えて言いたもうた”われまことに汝らに告ぐ、民がこのことにつきてつぶやき争うは何故ぞ。

3ニ-27,5,かれらは”汝らキリストの名を受くべし”と言う聖文を読まざるか。キリストとはわが名にして、終りの日に汝らはこの名にて呼ばるべきなり。

3ニ-27,6,さて、わが名を受けて終りまで堪え忍ぶ者は、終りの日になりて必ず救わるべし。

3ニ-27,7,されば、何事にてもわが名によりてなさざるばかりず。故に教会にはわが名をつけ、また御父がわがために教会を祝福したもうよう、わが名によりて御父に祈れ。

3ニ-27,8,わが名をつけざるものはいかでわが教会ならんや。教会にもしもモーセの名をつけたらばそはモーセの教会なり。あるいはまたある人の名をつけたらばそはある人の教会なり。もしわが名をつけて、わが福音を基となさらば、そはわが教会なり。

3ニ-27,9,われまことに汝らに告ぐ。汝らはわが福音を基となる故に、何事にても名をつくるものはわが名前をつけよ。故に、教会のために御父に祈るときこれをわが名によりて祈らば、御父は汝らの祈りを聞き届けたもう。

3ニ-27,10,さらにまた教会もしもわが福音に基けるときは、御父は教会に於てその御業を現わしたもう。

3ニ-27,11,されど教会もしもわが福音に基かば、しばらくの間その技を喜ぶことあらんも、次第に終りの日近づき来りて、これらは切り倒され、1度入らば2度と出る能わざる日の中に投げこまれん。

3ニ-27,12,これらは自らのなしたる行いの報いを受く。切り倒さるはその行いの悪きによる。よりてわれがすでに汝らに告げたることを記憶せよ。

3ニ-27,13,見よ、われはすでにわが福音を汝らに授けたるが、その福音を言い換れば次のごとし、まずわが父われをつかわしたまいたれば、われは父のみこころを行わんとてこの世に来れり。

3ニ-27,14,わが父のわれをつかわしたまいしは、われが十字架にかけられて、後にあらゆる人々をわれに引きよせがためなり。また人がわれを十字架に上げたる故に、今度は御父が世の中の人を必ずひき上げて、これを各々の行いの善悪に応じて裁判するためにわが前に立たせたも

3ニ-27,15,われが十字架にかけられたるはこのわけなり。すなわち、われは御父の権能によりてあらゆる人間をわれに引きよせ、それぞれの行いによりて裁判をなす。

3ニ-27,16,悔い改めてわが名によりてバプテスマを受くる者は聖霊に満さる。またその者が終りまで忍ばば、われが世の中の人々のを裁判する日、御父の前にてこれを罪無き者とせん。

3ニ-27,17,終りまで忍ばざる者は、また切り倒されて火の中へ投げこまるべし。その者は御父の正義が要求するによりて、いつまでも火の中より出ることを得ず。

3ニ-27,18,こはすなわち御父が世の人々に告げたまいし言葉にして、御父は必ずこれを成就したもう。御父は偽ることなく、その告げたまいし言葉をことごとく実現させたもう。

3ニ-27,19,そもそも清からざるものは御父の王国に入ることを得ず。信仰をし、すべての罪を悔い改め、終りまで

誠をつくし、以てわが血によりてその衣を洗いし者のほかには御父の安息に入り得る者なし。

3ニ-27,20,さて、世界の隅々に至る者たちよ。汝らは聖霊を受けて聖められ、また終りの日にわが前に罪なしとせられんために今悔い改め、われに来てわが名によりてバプテスマを受けよ。これ汝らに与うる命令なり。

3ニ-27,21,われまことに、まことに汝らに告ぐ、以上はわが福音なり。わが教会に於てなすべきことは、汝らすでによく知れり。すなわち、汝らが見たるわが行いを汝らもせよ。これらのことは汝らも行ふべきことなればなり。

3ニ-27,22,汝らその通り行わば、終りの日に高くあげらるる故に汝らはさいわいなり。

3ニ-27,23,汝らが見聞きしたることは、禁ぜられたるもののほかみな記録せよ。

3ニ-27,24,これまで民のなしたることを記録したるが、その如く今度もこの民の為すことを記録せよ。

3ニ-27,25,すでに造られたる記録およびこの後作らるる記録によりてこの民は裁判せらるべし。これらの記録によりてこの民の行い明らかに人に知らるる故なり。

3ニ-27,26,見よ、御父はすべてのことを書き誌したもう。それ故に、このさまさまの記録によりて世の人々は裁判を受くべし。

3ニ-27,27,ここに汝らの知るべきことあり。すなわち汝らはわれが汝らに委ぬべき正義の裁判によりてこの民を裁判する者となるべきゆえに、汝らはいかなる人物にてあるべきか。まことに汝らはわれと同じ人物ならざるべからず。3ニ-27,28,さて、われは今御父のもとへ行くべきが、われまことに汝らに告ぐ、およそ汝らがわが名によりて御父に願ひ求むるものは汝らに与えらる。

3ニ-27,29,すなわち、乞求めよ、さらば求むるものを与えらる。門を叩け、さらば汝らのために門は開かる。何とならば、乞ひ求むる者はみなその求むるものを与えられ、門を叩く人には門を開かるべければなり。

3ニ-27,30,われが汝らとこの時代の人々に感ずる喜びは大なる喜びにて満ちあふる。御父もすべての聖き天使もみなひとしく汝らとこの時代の人々とのために喜びたもう。そは1人もその中に断ち切らるる者のなき故なり。

3ニ-27,31,されど、今言いたることは誤りなく了解せんことを欲す。わが言葉は今現に生けるこの時代の人々の中には1人も断ち切らるる者なしと言うことにして、われが喜びにあふるるのはこの時代の人々のみなり。

3ニ-27,32,しかも今より4代目の者たちにつきてはわが心憂いあり。そはかれらが“滅亡びの子”のごとくサタンに誘いまどわされて、金銀ならびに虫の食うものと盗人押し入れて盗むものにと替えてわれを売るべければなり。その時われは各々その行いに報いて必ずこれを裁くべ

3ニ-27,33,イエスはこう言ってから、その弟子たちに向って仰せになった“永遠の生命に行く道は細く、その門は狭くしてこれを見出す者は少し。死に至る道は広くその門も広し。而して誰も働くこと能わざる夜のごとき暗やみの境涯来るまで、この死に至る道を旅する者多し。汝

3ニ-27,33-1,門より入れ”。

3ニ-28,,ニ-ファイ第3書 第28章

3ニ-28,*-*,12弟子の1人1人、その心の願ひを聞き届けられる。3人の選ばれた弟子、主が栄光を具えて降りたもうまで地上にとどまる。3人の者驚嘆すべき顛れが起る。3人の者、死も禍も力を及ぼすことのできない者とされる。

3ニ-28,1,イエスはこう言ってからその弟子たちに向って“われが御父の所へ昇りて後、汝らはわれに何をせられんことを願うか”と一人一人にたずねたもうた。

3ニ-28,2,弟子たちはただ3人の者を除くほかどれもみな“われが人生相当の年を重ねて死ぬ時がくると汝がその王国にまします所へ早く昇れるように、汝がわれらに任命したもうた教会の務めがその時に終ることを願いたてまつる”と答えた。

3ニ-28,3,するとイエスはこれに答えて“汝らにかかることをわれに願うによりてさいわいなり。さらば汝ら72才とならば、わが王国のわがもとへ来りて、われと共に安息につけ”と言いたもうた。

3ニ-28,4,それから、ほかの3人の弟子たちに向って“われが御父の所へ昇りて後、われが何を為さば汝らの願ひにかなうや”とたずねたもうた。

3ニ-28,5,すると3人の者は思い切ってその願ひをイエスに言えず、心の中に苦しんだ。

3ニ-28,6,すると、イエスは3人の者に向って“見よ、われは汝らが心に思うことを知る。汝らは、ユダヤ人がわれを十字架にかけし前、われが福音を伝えし間にわれと共にありしわが愛するヨハネがわれに願ひしと同じことを心に願う。

3ニ-28,7,故に汝らはひときわさいわいなり。何とならば汝らはいつまでも死の味わいを知らず、またわれが天の権と力とをたずさえわが栄光を具えて降る時には、一切の事御父のみこころのごとくに成就すれど、その時になるまで汝らは生き永らえ、その間に御父が世の人に為し

3ニ-28,7-1,すべての事を見るべき故なり。

3ニ-28,8,また汝らは決して死の苦痛を感せず、われがわが栄光を具えて来る時に、汝らはまったく間に、その死すべき肉体を持つ者より不死不滅の者に変られ、必ずわが父の王国に入りて祝福を受くべし。

3ニ-28,9,またこの肉体をもちて生き永らう間にも苦痛を覚え、また世の中の人の罪惡につきて憂い悲しむ以外には何の憂いも悲しみもなかるべし。汝らは世界の存在する間人々をわれの所へつれ来らんと望みたれば、われは以上のごとき恵みを汝らに与えん。

3ニ-28,10,されば、汝らは喜びに満ちあふれてわが父の王国に座を占め、御父がわれに完全なる喜びを与えたもうたごとく、汝らの喜びもまた完全なるべし。また汝らはわれと同じ者になるべし。われは御父と同じ者なり。われと御父とは1つの神会を為す。

3ニ-28,11,聖靈は御父とわれとのことを証し、われの故に御父より世の人に与えらるるなり”と仰せになった。

3ニ-28,12,イエスはこう言って、この世に生きのこるはずの3人を除いてほかの弟子たちに、1人1人イエスの指を触れてから立ち去りたもうた。

3ニ-28,13,ここに於て、天が開けて3人の弟子は天に上げられ、筆にも言葉にも尽せぬことを見聞きた。

3ニ-28,14,ところが3人の者はこの見聞きたことを口に出すなと止められた。実はこのことを口に出す力を与えられなかった。

3ニ-28,15,3人の者が天で見たり聞いたりした時に、3人はその肉体のままであったか、または肉体を離れていたか、かれら自身はこれを知らなかったが、神の者が見えるためには自分たちの身が変ったように、すなわちその肉体が不死不滅の状態になったように感じた。

3ニ-28,16,この3人は著場に於て教えを宣べ伝えたが、その天に於て見たり聞いたりしたことは、天で受けた命令があるからこのことを伝えなかった。

3ニ-28,17,この3人はその身の変った日から、死ななくてはならぬ者であったか不死の者であったか私はこれを知らない。

3ニ-28,18,私がこの3人について知っているだけを言うと、伝えられた歴史によれば、この3人は地の面をめぐって民に道を宣べ伝えた。そしてすべてその道を信ずる者にバプテスマを施してこれを教会に加えたが、この時バプテスマを施された者はみな聖靈を受けた。

3ニ-28,19,またこの3人の者は教会に属していない者たちのために牢屋へ入れられた。しかしこの牢屋は裂く砕けて3人を閉じこめることができなかった。

3ニ-28,20,また3人は地の中に埋められた。しかし、かれらが神の言葉をもって地に命ずると、神の能力によって地の中から救い出された。それであるから、3人を閉じこめるほど堅固な穴を掘ることはできなかった。

3ニ-28,21,3人は3度まで炉の中へ入れられたが何の害を受けなかった。

3ニ-28,22,また2度まで猛獣のおりへ入れられたが、あたかも子供が乳を呑む小羊と遊ぶように猛獣と遊んで何の害も受けなかった。

3ニ-28,23,このように3人がニューファイの全国民の中を経めぐって、その地のいたる所の民にキリストの福音を宣べ伝えたから、民は心を改めて主を信じキリストの教会に加わった。このように、その時代の人々はイエスの言葉通りに恵みを受けた。

3ニ-28,24,さて、私モルモンはこのことを書きしるすことをしばらくやめよう。

3ニ-28,25,見よ、私はいつまでも死の味を知らぬあの3人の名前を書こうとしたが、主がこれを書くなと言いたもうたから、その名前は世の人々に示すべきではないと認めてこれを書かない。

3ニ-28,26,しかし、私はかれらに逢ったことがある、またかれらが私に導きと恵みとを授けたこともある。

3ニ-28,27,この3人はいつか異邦人の中に行くにちがいないが、異邦人はかれらを知らぬであろう。

3ニ-28,28,ユダヤ人の所へも行くが、ユダヤ人もかれらを知らぬであろう。

3ニ-28,29,主のみこころにかなう時になると、この3人はその望みを遂げるためと、自分らのもつ神の賜である感化の力によって、あの散り散りになったイスラエルのすべての支族およびあらゆる国民、あらゆる血族、あらゆる国言葉の民、およびあらゆる人々に導きと恵みとを施

3ニ-28,29-1,その中から多くの者をイエスの所へ導くことができる。

3ニ-28,30,この3人は神の使のようであって、この3人の者がイエスの御名によって御父に祈って願うときには、心のままに誰にでも現われることができる。

3ニ-28,31,それであるから、あらゆる人間が必ずキリストの法廷に立たねばならぬあの大きな未来の日がこない内に、この3人の者は驚嘆すべき大事業をする。

3ニ-28,32,裁判の日がくる前に、かれらは異邦人の中にもまた驚嘆すべき大業をする。

3ニ-28,33,あなたたちが、もしキリストが為したもうた驚嘆すべき業を皆のせているすべての聖文をもっているなら、以上宣べたことが必ず事実になることをキリストの御言葉によって知ると私は思う。

3ニ-28,34,イエスの御言葉と、イエスを選びたもうて世につかわされた人々の言葉に聞き従わない者は禍である。イエスの御言葉とそのつかわしたもうた人々の言葉とを受け容れない者は、イエスも受け容れないのであるから、終りの日にイエスはこのような者を受け容れたまわな

3ニ-28,35,このような者はむしろ生れない方がよかった。このような者が、怒りを起したもうた神の裁きをのがれることができると思うか。この神は世に救いを来らせるために、1度世の人の足の下にふみつけられることを甘んじたもうた。

3ニ-28,36,さきに私は、イエスを選びたもうた者、すなわち天に上げられたあの3人の者について、かれらが清められて、死ななくてはならぬ者から不死不滅の者になったかどうか知らないと言った。

3ニ-28,37,しかしそれを書いてから、主に祈ってたずねたところ、もし3人の弟子の体に或る喧嘩がなければ、かれらはついに死ななくてはならないと教えたもうた。

3ニ-28,38,すなわち3人が死なないようにその体に変化があつて、その変化によって3人は世の中にある罪悪のためでなければ、苦痛も悲しみも感じないようになった。

3ニ-28,39,しかし、この変化は終りの日に体に起るはずの変化に匹敵するものではなかった。ただかれらがその肉体のまま清められて聖なる者になっただけの変化であるが、サタンはかれらに勝てず、また誘惑ができず、地上のどのような力もこの3人には効がなかった。

3ニ-28,40,キリストが裁判をなしたもう日までこの有様で生き永え、さてその裁判の日になるとな大きな変化を受けて御父の王国に迎え入れられ、いつまでもその国を出ることなく、永久に神と共に天に住むのである。

3ニ-29,,ニ-ファイ第3書 第29章

3ニ-29,*-*,主の言葉と御業をあなたを戒めるモルモンの言葉。

3ニ-29,1,ごらん、あなたたちによく言うておく。主我その言葉のようにこの記録を異邦人にわたしたもう時に、御父がイスラエル人が受け嗣ぎの地へ集められることについてかれらに立てたもうた誓約は、すでに事実となり始めたとすることをあなたたちは知るであろう。

3ニ-29,2,また聖い予言者たちが宣べた主の御言葉はみな必ず事実になると言うことも知るであろう。その時あなたたちは、主がイスラエル人に来ることを延したもうていると言えるわけがない。

3ニ-29,3,また、すでに言われた予言を空しいと心の中に思うわけもない。主はイスラエル之家に属している自分の民に立てたもうた誓約を忘れずに、必ずこの誓約を果たしたもうからである。

3ニ-29,4,あなたたちはこれらの予言があなたたち民の中で事実になり始めるのを見るとき、もはや主の御業を侮ってはならない。ごらん、主は主の正義の剣を右のてに持ちたまひ、あなたたちがその日になってもしも主の御業を侮るならば、すぐにその剣をあなたたちの上に落し

3ニ-29,4-1,からである。

3ニ-29,5,主の御業を侮る者は禍である。またキリストとその御業とを否定する者は禍である。

3ニ-29,6,主が与えたもう啓示を否定して“主はもはや啓示と予言と聖霊の賜と意語を語ることと、病を医すことと、聖霊の能力とを用いたまわらない”と言う者は禍である。

3ニ-29,7,その時に、利益を得るために“イエス・キリストによって行われる奇跡のあるはずがない”と言う者は、キリストが仰せになったように憐みを受けることのできない“滅亡の子”のようになるから禍である。

3ニ-29,8,またその時は、もはやユダヤ人やイスラエル之家のどの残りの子孫もあざけったり侮ったりしてはならない。主はこれらの者に立てたもうた誓約を忘れずに、すべてかれらに誓いたもうたことを成し遂げたもうからである。

3ニ-29,9,それであるから、あなたたちは主の右手をその左手に蛙ことができると思つてはならない。また主がすでにイスラエル之家に立てたもうた誓約を裁判をしてことごとく果たしたもうことを溜められると思つてはならない。

3ニ-30,,ニ-ファイ第3書 第30章

3ニ-30,*-*,モルモン、異邦人に向つて悔改めを呼びかける。

3ニ-30,1,異邦人よ。耳を傾けて聞け。生ける神の御子イエス・キリストの御言葉、すなわちイエス・キリストがあなたたちについて書き記せと仰せになった御言葉を聞け。

3ニ-30,2,その御言葉は次の通りである。“すべての異邦人よ。汝らはその罪の赦しを得、聖霊に満され、イスラエル之家に属するわが民の中に数えられるよう、そのよこしまなる道を離れ、悪事、虚言、欺偽、みだらなる行い、秘密の憎むべき行い、邪神の礼拝、人殺し、祭司の

3ニ-30,2-1,嫉妬、鬭争、もろもろの罪悪およびもろもろの憎むべき行いを悔い改めてわれに來り、わが名によりてバプテスマを受けよ”。

4ニ-1,,ニ-ファイ第4書

4ニ-1,*-*,イエス・キリストの弟子であるニ-ファイ、そのニ-ファイの息子であるニ-ファイの書。

4ニ-1,*-*,ニ-ファイの記録によるニ-ファイの民の記録。

4ニ-1,*-*,キリストの教会榮える。ニ-ファイ人とレーマン人、改心して主を信ずる。一切の物を共有する。200年の義しい世を経て、分裂と墮落起る。エモスとアマロン、随❖氓ノ書きつぐ。

4ニ-1,1,第34年、第35年と過ぎ去つたが、イエスの弟子たちはすでに國中ここかしこにキリストの教会を起しておつた。そして、弟子たちの所へきて真心からその罪を悔い改めた者はみなイエスの御名によってバプテスマを施さ

れて聖霊を受けた。

4ニ-1,2,第36年には、ニーファイ人とレーマン人とを問わず、全地の住民がみな心を改めて主を信ずるようになったので、その間に何の不和争論もなく1人のこらずみな互に正しく扱った。

4ニ-1,3,そればかりでなく、1同は一切の所有物を共有したので富んでいる者と貧しい者との区別もなくて、誰もかれも自由となり天の賜を授けられた。

4ニ-1,4,こうして第37年も過ぎ去ったがその間はひきつづき全国平和であった。

4ニ-1,5,そして、イエスの弟子たちは偉大な驚嘆すべき業を行って病人を医し、死者を蘇生させ、あしなえに歩む力、めくらに見るちから、つんばに聞く力を与え、世の人々の中でいろいろの奇跡を行ったが、イエスの御名によらずには何の奇跡も行わなかった。

4ニ-1,6,このような有様で、第38年、第39年および第40年、第42年を経て過ぎて行った。そして第51年、第52年と過ぎて第59年が終るまでひきつづき変りがなかった。

4ニ-1,7,主は民を地の面で非常に栄えさせたもうたので、民は先に都会が焼けた跡にまた新しい都会を建てて、

4ニ-1,8,大きな都ゼラヘムラさえも復興した。

4ニ-1,9,また陥没して水に覆れてしまった都会が多くあったが、これらの都市は復興ができなかった。

4ニ-1,10,さてニーファイの民は強くなり、その人口は急速に増加して非常に美しくたのしい国民となり、

4ニ-1,11,嫁に行き嫁をもらって、主がかれらと結びたもうた非常に多くの約束の通り恵みを受けた。

4ニ-1,12,そしてもはやモーセの律法に定めてある儀式典礼を守ることなく、かれらの主、かれらの神から受けた誠めに従い、怠らずにたびたび断食と祈りをし、たびたび集会を開いて祈りをしました主の御言葉を聞いた。

4ニ-1,13,こうして全国の民の中に不和がなくイエスの弟子たちの間に大きな奇跡が行われた。

4ニ-1,14,第71年、第72年むしろ第79年、いや今やすでに第100年がたって、イエスを選びたもうた弟子(12人の弟子)は、あの行きのこるはずの3人の弟子のほかみなすでに神のパラダイスへ行った。しかし、新しい弟子たちが選ばれ、死んだ弟子たちの公認として按

4ニ-1,14-1,按手札によって聖任された。そしてまた多くの時代が過ぎ去って行った。

4ニ-1,15,民はその心に神の愛を保っていたから、全国に何ら不和がなかった。

4ニ-1,16,また、嫉妬、争闘、暴動、みだらな行い、虚言、人殺し、および何らみだりがわしい行いがなかったから、まことに神が造りたもうたすべての民の中でこの民ほど幸福な民があるはずがなかった。

4ニ-1,17,強盗も人殺しもなくレーマン人と言う者もどのようなちがった民もなく、みな同じくキリストの子であって、神の王国をつぐ者であった。

4ニ-1,18,主はこの民の一切の業を恵みたもうたので、かれらは本当に幸福な民であった。そして第110年の過ぎ去るまで民は恵みを豊かに与えられまた非常に栄えた。こうしてキリスト降誕紀元後の第1代は過ぎ去って全国どこにも不和がなかった。

4ニ-1,19,さて今行ったことを記録したニーファイは(ニーファイもまたその記録をニーファイ版に刻んだ)亡くなって、その息子のエモスが父のあとを受けてその記録をつづけ、これを父のようにニーファイ版に刻んだ。

4ニ-1,20,エモスあ84年間この記録をつづけたが、その間には国民の中の僅かの者共が教会に叛いて自分からレーマン人と呼んだ事件のほかには何にも平和をみだすことはなかった。しかしこの事件によってまた国の中にレーマン人と言う民が出てきた。

4ニ-1,21,ついにエモスも亡くなって(時はキリスト降誕紀元後代94年であった)その息子のエモス父エモスの後を受けて記録を書きつづ、同じくまたニーファイ版にこれを刻んだ。エモスの刻んだ記録はニーファイの書、すなわち本書の中にある。

4ニ-1,22,さて200年経って第2代の人々は僅だけ生きのこり、ほかは皆亡くなった。

4ニ-1,23,今私モルモンは、この民が大いに殖えてこの地の全面にひろがり、キリストN恵みによって得た反映によって非常に富んだと言うことを知ってもらいたい。

4ニ-1,24,代201年には民の中に高価な衣を着、あらゆる良い真珠とこの世の美しいものを身に飾るようなことをして心に高ぶる有様となった人々があつた。

4ニ-1,25,それで、その時から民はその所有物を共有しないようになった。

4ニ-1,26,民は各々ちがう階級に別れ、利益を得るために自分で教会を立てて真のキリスト教会を否定し始めた。

4ニ-1,27,これによって、第210年が過ぎた時、国中にはすでにいろいろな教会が起つた。すなわち、キリストを知っていると公然言いながら、キリストの福音の大半を否定する多くの教会があつて、あらゆる罪惡を受け容れ、また神聖なものを受ける資格がないから受けてはな

4ニ-1,27-1,言われている者にさえ神聖なものを与えた。

4ニ-1,28,このようにして、この教会は民の中にある悪事により、また民の心を支配するサタンの力で非常に会員の数を増した。

4ニ-1,29,またキリストを否定する今1つの教会も起った。その教会は真のキリスト教会の会員たちが謙遜であるために、また会員たちがキリストを信じているために会員たちを迫害し、また会員たちの中に多くの奇跡が行われるからと言って会員たちをさげすんだ。

4ニ-1,30,そして、あの生きのこって民の中に永らえているイエスの弟子たちをしいたげ、これを牢屋に入れたが、弟子たちにあった神の御言葉の力によって牢屋は裂き砕かれた。そこで弟子たちは牢屋から出てきてまた民の中に多くの大きな奇跡を表わした。

4ニ-1,31,しかし、この多くの奇跡があつたにもかかわらず、民はその心をかたくなにしてその弟子たちを殺そうとした。これはあたかもイエスの予言にたがわず、ユダヤ人がエルサレムでイエスを殺そうとした通りである。

4ニ-1,32,すなわち弟子たちを炉の中へ入れたが、弟子たちは害を受けずに炉の中から出てきた。

4ニ-1,33,猛獣のおりに入れたが、子供が子羊と遊ぶようにかれらは猛獣と遊び、害を受けずにおりの中から出てきた。

4ニ-1,34,それでも、民は多くの祭司と偽りの予言者たちとに誘われて、さまざまの教会を起し、あらゆる悪事を行い、果はその心をかたくなにしてイエスの民らを撃ったけれども、イエスの民らはかれらを撃ちかえすようなことはしなかった。このようにして民は第230年の過

4ニ-1,34-1,過ぎてしまうまで、年を重ねるにつれて無信仰と罪惡におちいった。

4ニ-1,35,そして第231年には国民の中に大きな分裂が出た。

4ニ-1,36,この年にニーファイ人と言う1種の民が起った。この民はキリストを真に信ずる者であつたが、その中にはレーマン人からヤコブ人と呼ばれる者も、ヨセフ人と呼ばれる者も、ゾーラム人と呼ばれる者もあつた。

4ニ-1,37,それで、キリストを真に信じてキリストを真に礼拝した者たちは(その中にあの生きのこっているイエスの3人の弟子たちもあつた)、ニーファイ人、ヤコブ人、ヨセフ人またはゾーラム人と呼ばれた。

4ニ-1,38,そして福音を否定した者たちは、レーマン人、レミュエル人またはイシメル人と呼ばれた。この者たちは知らず知らず信仰がなくなったのではなくて、ことさらにキリストの福音にそむいてその子たちにもキリストの福音を信ずるなと教えた。この者たちの墮落はちょう

4ニ-1,38-1,その先祖が墮落した通りであつたから、

4ニ-1,39,その子たちの墮落もまた最初と同じようにその子の親たちが罪惡と憎むべき行いをしたことによる。そのころの子たちが神を信じ神の教えに従うものたちを憎めと教えられたことは、ちょうどレーマン人が始めからニーファイ人の子孫を憎めと教えられたと同じ様である

4ニ-1,40,さて第244年は過ぎ去って民の有様は以上のものであつた。民の中の悪い者共はいよいよ強くなってその数が神の民の数よりはるかに多く、

4ニ-1,41,意のままになおひきつづいて教会を設け、あらゆる高価な物で教会を華やかに飾った。この状態は第250年まででなく第260年が過ぎるまでもつづいた。

4ニ-1,42,そしてとうとう民の中の悪い物共はガデアントン流の秘密結社とその秘密の誓約まで回復した。

4ニ-1,43,またニーファイの民と言われる民は、自分の大きな富のために心が高ぶり、その同胞であるレーマン人のように虚栄心が強くなり始めた。

4ニ-1,44,この時から、あの弟子たちも世の罪惡について悲しまずには居られなくなった。

4ニ-1,45,第300年が過ぎ去ったころには、ニーファイの民もレーマン人と共に同じようにすでに非常に悪くなつていた。

4ニ-1,46,またガデアントン流の強盗は全国にひろがり、イエスの弟子たちのほかには1人も義人がなかつた。このころ民は金銀を豊かに貯えてあらゆる品を交易していた。

4ニ-1,47,第305年が終わった時(民はなお罪惡に沈んでいた)、エモスは亡くなってその兄弟アマロンが記録を書きついだ。

4ニ-1,48,そして第320年が終わると、アマロンは聖霊に命ぜられて、神聖なもろもろの記録、すなわちキリスト降誕紀元の後第320年まで神聖に保存されて代々伝えられた一切の神聖な記録を秘し隠してしまつたが、

4ニ-1,49,かれらはこのもろもろの記録が主の予言および誓約通りに、再びヤコブの家の残りの子孫に伝わるよう、これを秘めて主に託したのである。これでアマロンの記事は終る。

モルモ1,,モルモン書 第1章

モルモ1,*-*,アマロン、神聖な記録をモルモンに託す。戦争と悪事。あのニーファイ人の3人の弟子たち去る。モルモン、教えを宣べることを禁止される。アビナダイ、およびレーマン人サムエルの予言が成就する。

モルモ1,1,今私モルモンは私が見たり聞いたりしたことを記録し、これを名づけてモルモン書と言う。

モルモ1,2,アマロンが一切の記録を秘し隠してこれを主に託したころ(その時私は10才ぐらいで少々 of 学問を習い始めテイタガ)アマロンは私の所へやってきて”私は汝が真面目な子で觀察の鋭いことをよく知っている。

モルモ1,3,そこで汝に1つたのみがあるが、汝が大きくなって24才くらいになったなら、この国の人々についても汝

が心づいていることを思い起してくれ。そして、アンタムの地にあるシムと言う丘へ行け。その丘に私はこの国民のことを刻んだすべての聖い記録を埋めて隠し、

モルモ1,3-1,託しておいた。

モルモ1,4,見よ、汝は24才の時にただニーファイ版だけは取り出せるが。ほかの記録は隠してある場所にそのままのこしておけ。それから、ニーファイ版の上に汝がすでにこの国の民について心づいていることをみな刻みつけて記録せよ”と言った。

モルモ1,5,私モルモンはニーファイの子孫であったから(私の父の名もまたモルモンと言う)アマロンが私に言ったことをよくおぼえていた。

モルモ1,6,私は11才の時につれたれて南方の地のゼラヘムラまで行った。

モルモ1,7,その時、全国は建物が一ぱいに建っていて人の数は海の砂の数ほどに多かった。

モルモ1,8,ところがその年にニーファイ人とレーマン人との間に戦が始まった。この戦はニーファイ人とヤコブ人とヨセフ人とゾーラム人とから成るニーファイ人と、レーマン人とレミュエル人とイシメル人との間に行われた。

モルモ1,9,レーマン人はレーマン人とレミュエル人とイシメル人とから成るので、この戦はニーファイ人とレーマン人との間で行われたと言う。

モルモ1,10,この戦は、ゼラヘムラの国境でサイドン川のほとりに於て始まった。

モルモ1,11,ニーファイ人の方はすでに3万人を超える兵を集めていて、その年の内に幾度も戦をし、そのたび毎にレーマン人に勝って多くのレーマン人を殺した。

モルモ1,12,そこでレーマン人はその志をすててとうとう全地は平和になった。それから、およそ4年の間は平和がずっといたのでどこにも血を流すようなことはなかった。

モルモ1,13,ところが、全国いたる所に悪事が非常に多く行われたので、主はその愛する弟子たちをよそへ立ち去らせたもうた。また民の罪悪のために奇跡と病の医しとは病み、

モルモ1,14,人々のよこしまと不信仰とのために主の賜である能力は与えられず、聖霊は誰にも与えられなかった。

モルモ1,15,私はもう15才になって真面目な方の性質であったから、主が私を訪れたもうて私はイエスが恵み深くましますことを味って知ることができた。

モルモ1,16,そこで私はこの国の民に神の道を伝えようとしたところ、私の口を塞がれて民に道を伝えることを止められた。なぜならば、民はすでにことさらに神にそむき、あの主に愛せられた弟子たちが民の罪悪のためによそへ移されていたからである。

モルモ1,17,私は民の中にのこっていたが、民の心がかたくなであるために、民に道を伝えることは止められていた。民の心がかたくなであるために、地はかれらに対してのろわれていた。

モルモ1,18,レーマン人の中にあつたガデアントン流の強盗が全国にはびこっていたから、住民はその宝を地の中に埋めて隠したが、主がすでに地をのろいたもうたので隠された宝はなくなり易くなり、宝を保つことも後い地の中から掘り出すこともできなくなった。

モルモ1,19,また魔術、妖術、魔法のたぐいを用いて全地に悪魔の力が行われたから、アビナダイの言ったすべての予言と、レーマン人であるサムエルの予言とは事実となって現われた。

モルモ2,,モルモン書 第2章

モルモ2,*-*,モルモン、ニーファイ人n軍を指揮する。さらにガデアントン強盗について。条約によって、北の地はニーファイ人が占め、南の地はレーマン人がとる。

モルモ2,1,同じ年にニーファイ人とレーマン人とはまた戦をしたが、その時私はまだ年が若かったが身のたけが高かったから、ニーファイの民は私をその全軍の司令長官に任じた。

モルモ2,2,そこで私は16才の時、ニーファイ人の1軍を率い、レーマン人に向って出陣した。これで第326年は終わった。

モルモ2,3,第327年にレーマン人は非常に大きな軍勢を以て私たちに向ってきたので、和隊の兵は怖れおののいて戦う勇気がなく北の方へ逃げ始めたが、

モルモ2,4,アンゴラ死へきてこれを占領し、そこでレーマン人を防ぐ準備をした。私たちは力をつくしてアンゴラ死を固めたがその防禦にもかかわらず、レーマン人は私たちを襲ってこの市から追い出した。

モルモ2,5,その後またダビデの地からも私たちを追い出した。

モルモ2,6,このようにして私の軍は進んで国の西の境界にあつて海に近いヨシュアの地に着いた。

モルモ2,7,そして、わが軍は味方の民を1つの所に置こうとして、力の限り急いで民を集めた。

モルモ2,8,ところが、国の中には強盗とレーマン人とが充ち満ちていて、その上私の味方の民は自分の身にふりかかる大きな滅亡があるにもかかわらず、その悪い行いを悔い改めなかった。従ってニーファイ人もレーマン人も全地に於て殺戮を行い、全地1帯にわたる謀叛があつた

モルモ2,9,ここにレーマン人に1人の王があつてその名をアロンと言った。このアロンは44,000人の兵を以てアロン

を迎え撃ち、ついにこれに勝ったのでアロンは私の前から逃げ去った。これらのことがあって第330年は過ぎて行った。

モルモ2,10,ところでニーファイ人は予言者サムエルの予言したように、ようやくその悪事を後悔して歎くようになった。それは盗みをする者強盗をする者人殺しをする者および魔法、妖術などが国中に充ち満ちて、誰も自分の所有物を安全に持っていることができなくなったからで

モルモ2,11,このような有様であったから全地に悲しみ歎くことが始まった。それは特にニーファイの民の間に甚しかった。

モルモ2,12,私モルモンは、民が主の前で歎き悲しむのを見て心の中でうれしく思った。なぜならば、主は慈愛の情が深く忍耐強く肝要なお方であることを知ったから、主がニーファイ人を憐れみたもうてかれらがまた義人になるであろうと思っていたからである。

モルモ2,13,しかしごらん、私が感じたこの喜びはむだであった。この民の悲しみは神の恵みによって悔改めを生ずるようなものではなかった。むしろ主がかれらのいつでも罪惡を犯して楽しめることを許したまわらないのを悲しむのであって、神の御前から断ち切られた者の悲しみと

モルモ2,14,民は真にへりくだった心と悔いる精神とを以てイエスのもとに来ずに、神をのろって死ぬことを望んだ。しかし、死ぬことを望んだにもかかわらず、また同時に命を取られないように剣をふるって戦った。

モルモ2,15,そこで私は肉体の事でも霊の事でも民を赦しを乞いねがう日はもう過ぎ去ったと認め、また私は民が公然と神に背いたまま幾千人となく切り倒されて肥のように地上につみ重ねられるのを見たから、またまたさきのように憂い悲しんだ。このようにして第344年は過ぎ

モルモ2,16,第345年に、ニーファイ人はレーマン人から逃げ始めたがジェションの地へ着くまでレーマン人に追いかけられた。ジェションの地に着かない内はその退却をやめることができなかった。

モルモ2,17,このジェション市は、アマロンがあのですべての記録が亡びてなくならないためにこれを隠して主に託した所に近い。私はこの戦いがまだ始まらない前に、アマロンの命じた通りその版に新な記事を書き加えた。

モルモ2,18,私はニーファイ版には民のそろそろの罪惡と憎むべき行いとをことこまかに記したが、今書いてこの版にはこのようなことをくわしくのせない。それと言うのは、私が人の行いを見てこれをわきまえる力があるようになってこのかた、ただ罪惡と憎むべき行いだけを絶え

モルモ2,18-1,見てきたからである。

モルモ2,19,私は一生の間、民の罪惡のために悲しみが胸いっぱいになり満ちてまことに不幸である。しかしながら私は終りの日に必ず救いあげられると言うことを知っている。

モルモ2,20,この年にニーファイの民はまたまた敵に追い立てられ狩り立てられた。私たちは北の方へシェムと言う地へくるまでレーマン人に追われた。

モルモ2,21,ここで私たちはシェム市を固め、味方を護って亡びから救うために集められるだけ多くの味方を集めた。

モルモ2,22,第346年に敵は再び私たちの所へ攻めてきた。

モルモ2,23,その時私は味方に話して、かれらはその妻子と家と家庭とを守るために勇しくレーマン人と戦えとしきりにすすめたので、

モルモ2,24,かれらは私の言葉を聞いてややはやされ、今度はレーマン人の前から逃げずに勇敢に防ぎ戦った。

モルモ2,25,私たちは30,000人の軍勢と戦い、敵軍が逃げるまで断乎として勇しく防ぎ戦った。

モルモ2,26,そして敵が退却し始めると、私たちは軍を率いてこれを追いかけさらに合戦をしてまた敵を負した。それにもかかわらず、主の御力は私たちに伴わず、主の“みたま”も私たちの中になかったので、ただ自分の力だけによつて同胞である敵のように弱くなった。

モルモ2,27,私は、私の民にきたこの大きな禍と、民の罪惡と、憎むべき行いとのために非常に心に悲しみを覚えた。しかしごらん、私たちはその所有の地を取り返すまではレーマン人およびガデアントン流の強盗と戦うことをやめなかった。

モルモ2,28,このようにして、第349年は過ぎ去った。第350年に私たちはレーマン人およびガデアントン流の強盗と条約を結び、この条約によってそれぞれの領土の境界を定めた。

モルモ2,29,レーマン人食みなみの地へ行くおの狭い地峡より北の地を私たちの方へゆずり、私たちはレーマン人に南の地の全体をゆずった。

モルモ3,,モルモン書 第3章

モルモ3,*-,ニーファイ人その罪惡をつずける。モルモン、ニーファイ軍の司令長官を辞する。未来の人々にのこすモルモンの教え。イスラエルの家を裁判する12人の弟子。

モルモ3,1,その時から10年以上の間、レーマン人は再び戦をいどまなかったもので、私はこの機会に私の民のニーファイ人を使って将来の戦に備えてその国を固め武器をととのえさせた。

モルモ3,2,さて主が私に“この民に向って‘悔い改めて主に立ち帰り、バプテスマを受け、主の教会を回復すべし。さらば生命助かるべし’と言え”と仰せになった。

モルモ3,3,そこで私はこの民に向ってよばわり、主が仰せになったことを言い伝えたけれども、民はこれまでその命を助けて悔改めの機会を与えたもうたのが主であることを悟らずに、むしろ神である主に対して一層こころをかたくなにしたので、私の伝えた言葉はむだであった。

モルモ3,4,さてこの10年間たってちょうどキリスト降誕紀元の後360年に、レーマン人の王は私に手紙を送ってレーマン人がまたまた私たちと戦うために出陣の準備をしていると言ってきた。

モルモ3,5,そこで私は、私の民にドソレションの地方へ行かせ、南の地へ行くあの狭い地峡の附近、すなわち国境にある町に民を集らせた。

モルモ3,6,私はレーマン人の軍をとどめて、かれらに私たちの所有している土地を少しも取らせまいと、わが軍をその町に置いて力を尽くしてレーマン人を防ぐ備えをした。

モルモ3,7,第361年にレーマン人の軍は私たちと戦うためにデソレション市まで進んできたが、この年私たちが勝ったので敵はその国へ帰った。

モルモ3,8,第362年になって、レーマン人はまたまた攻めてきたが、私たちは再び敵に勝って多くの敵兵を殺しその死体を海へ投げ込んだ。

モルモ3,9,ところが、わが民のニーファイ人はこのように大勝利を得たので、自分の力を誇り始め、また敵に殺された味方の仇を必ず返すと天に向って誓った。

モルモ3,10,よって、敵と戦うために出陣し、敵を地の面から亡ぼしてしまうと、天と神の座とを指して誓った。

モルモ3,11,そこで私モルモンは、この民の罪惡とその憎むべき行いのためにその司令長官の職と首領たる職とをこの際きっぱりことわった。

モルモ3,12,この民がひどい罪惡を犯す者であったにもかかわらず、私はこれまでこの民を導き、たびたびこの民を率いて出陣し、自分に宿る神の愛情を以て一心にこの民を愛し、いつまでも終日心をうち明けて民のために神に祈った。祈っては祈ったが、この民の心がかたくななの

モルモ3,12-1,民の命が助かるとは信じなかった。

モルモ3,13,私はすでに3度までもこの民をその敵の手から救い出している。しかし、かれらはまだその罪を悔い改めず、

モルモ3,14,私たちの救い主である主イエス・キリストが、かれらに禁じたもうたすべてのものを指して誓い、その敵と戦うために出陣をして味方の仇を返すと言った。その時、見よ、主の御声が私に聞こえて仰せになった。

モルモ3,15,“応報の権利はわれにあり。われ報いをなさん。われこの民を救い出したが、かれらなお悔い改めざればこれを地の面より断ち切るべし”と。

モルモ3,16,そこで私は敵と戦うために出て行くことをきっぱりとことわって、ただ主が私に命じたもうた通りにした。すなわち、私は何事にも関係せず、予め未来のことを示した“みたま”の示しの通り、世の中の人に私の見たり聞いたりを告げ知らせてただ立って見てい

モルモ3,16-1,あつた。

モルモ3,17,それであるから、異邦人よ。私はこれらのことをあなたたちに書きのこす。イスラエルの家よ、私はあなたたちがその受け嗣ぎの地へ帰ろうとしてその準備の業を始める時に読めるようにあなたたちにも書きのこす。

モルモ3,18,世界の隅々に至る人々にもまたこれを書きのこす。またイエスがエルサレムの地でその弟子として選びたもうた12人から、各々その行いの善惡に従って裁判を受けるはずのイスラエル12の支族よ。私はあなたたちのためにもこれを書きのこす。

モルモ3,19,また私はこの地に住んでいる民の残りの子孫にもこれを書きのこす。この民はイエスがこの国で選びたもうた12人から裁判を受けるはずの者である。またこの12人はイエスがエルサレムで選びたもうたあの12人から裁判を受けるはずの者である。

モルモ3,20,これらのことは“みたま”が私に示したもう。よって私はあなたたちすべてにこれを書き伝える。私があなたたちに書き伝えるのは、まことにアダムの家に属する全人類が1人のこらずキリストの法廷に出て、各々その行いの善惡に従って裁判を受けなくてはならないこ

モルモ3,20-1,あなたたちに知らせるためと、

モルモ3,21,将来あなたたちが受けるキリストの福音をあなたたちに信じさせるためであり、また主の誓約を受けた民であるユダヤ人に、ユダヤ人が殺したイエスは確にキリストでありまた確に神であることを証した証人、すなわちユダヤ人が実際に見たり聞いたりした証人のほかに

モルモ3,21-1,なおこれと同じことを証する証人を与えるためである。

モルモ3,22,世界の隅々に至る人々世。私がもしあなたたちに教えを宣べて悔改めをさせ、またキリストの法廷に立つ用意をさせることができたならまことに喜ばしい。

モルモ4,,モルモン書 第4章

モルモ4,*-*,ニーファイ人、レーマン人に復讐の戦を始める。ニーファイ人はもはや勝つことができない。神聖な記録をシムの丘から掘り出す。

モルモ4,1,第363年に、ニーファイ人はその軍勢を率いてレーマン人と戦うためにデソレションの地を出た。

モルモ4,2,ところがニーファイ人の軍勢がデソレションの地へ追い返されてまたその疲れをいやさない内に、レーマン人は新手の軍を以てニーファイ人を襲い烈しい戦をしたので、レーマン人はデソレション市を占領して多くのニーファイ人を殺し、また多くの者をとりこにした。

モルモ4,3,この時、ニーファイ人の残りは逃げてテアンクム市へ行きその住民に加わった。テアンクム市は国境に位し、海に近い所にあつてデソレション市にも近かった。

モルモ4,4,ニーファイ人が打ち破られたのは、その軍がレーマン人を攻めるために出て行ったのによる。もし出て行かなかったならば、レーマン人は決してニーファイ人に勝つことができなかったであろう。

モルモ4,5,しかし見よ、悪人は神の裁判から必ずのがれられぬものである。人の心を扇動して血を流させるのは悪人であるから、結局悪人は悪人に罰せられることとなる。

モルモ4,6,さてレーマン人はテアンクム市を攻撃する備えをし、

モルモ4,7,第364年にこれを占領しようとして押しよせてきたが、

モルモ4,8,ニーファイ人の反撃を受けて追い返された。ニーファイ人は、レーマン人を追い払ったのを見てまた自分の力だけを頼って進みデソレション市を取り返した。

モルモ4,9,これらの出来事がみなあつて、ニーファイ人の方にもレーマン人の方にも各々何千人と言う死者を出した。

モルモ4,10,第366年が過ぎてしまうと、レーマン人はまたまたニーファイ人と戦うために出てきた。こうなってもニーファイ人はその罪を悔い改めず、相もかわらずいつも悪事を重ねていた。

モルモ4,11,さてニーファイ人とレーマン人との区別なく全地の民の間に行われた殺戮の恐ろしさ光景は、口にも述べることができず、筆にもつくすことのできないものであつた。民は1人のこらずその心をかたくなにして絶えず流血をたのしみとした。

モルモ4,12,これほどに大きな罪悪はリーハイの子孫の中にこれまであつたことがなく、また主の御言葉によればイスラエルの全家にあつたこともない。

モルモ4,13,さて、レーマン人はその数がニーファイ人よりも多かつたから、デソレション市を落し、

モルモ4,14,次にテアンクム市を目がけて進軍し、そこの住民を市から追いはらい、多くの女子供をとりこにし、それからこのとりこをいけにえとしてその邪心な偶像に供えた。

モルモ4,15,第367年に、ニーファイ人はその女子供がレーマン人のためにいけにえとされたことを烈しく怒って出て行ってレーマン人と戦つたから、またまたレーマン人に勝つてこれを自分らの国から追い出した。

モルモ4,16,このようにして、第375年まで、レーマン人は再びニーファイ人に攻めよせなかったけれども、

モルモ4,17,第374年の中に、その全軍をあげてニーファイ人に向けて出陣した。この時、軍勢の数は非常に多くてこれを数えなかつた。

モルモ4,18,これから後は、ニーファイ人はレーマン人に勝つことができず、ちょうど旭に露が消えるように、レーマン人のために亡ぼされてなくなり始めた。

モルモ4,19,レーマン人はデソレション市に攻めよせてきてこの地でまことに烈しい戦をなし、ニーファイ人を負かしたので、

モルモ4,20,ニーファイ人はまたまたレーマン人の前から逃げてボアズ市へ行った。ボアズ市に着いてから非常に勇気を得てレーマン人は第1の攻撃ではこれに勝つことができなかった。

モルモ4,21,しかし、2度目の攻撃でニーファイ人は追い立てられ、無惨に多く殺されて、その女子供たちは再びいけにえとして邪心の偶像に供えられた。

モルモ4,22,ニーファイ人はまたまたレーマン人の前から逃げ、町からも村からも住民をみな一しょにつれて行った。

モルモ4,23,私、モルモンはレーマン人が今ゆまさに全国を亡ぼそうとする有様を見てシムの丘へ行き、アマロンが隠して主の御手に託した一切の記録を掘り出した。

モルモ5,,モルモン書 第5章

モルモ5,*-*,モルモン、憐みを感じてまたニーファイ人の司令長官となる。レーマン人の数、ニーファイ人はるかに超す、罪惡と虐殺。モルモン、記録を短くまとめる。

モルモ5,1,私はニーファイ人をもう助けないと誓つた誓いを取り消して、またニーファイ人の軍に加わった。そこでニーファイ人は、私がニーファイ人をその苦難から救い出せる者であるとして私をまたその軍の司令長官にした。

モルモ5,2,しかし、ニーファイ人はその悪事を悔い改めず、その造り主にたよらないで自分の命を守るために戦つたから、私はニーファイ人に下る主の裁きを知つてかれらに望みを失つた。

モルモ5,3, 私たちが退いてジェルドン市に居た時にレーマン人が攻めよせてきたが、撃退されてこの時ジェルドン市を占領することができなかった。

モルモ5,4, レーマン人は再び攻めよせてきたが、私たちはよく市をつずけて守った。このジェルドン市のほかにもニーファイ人がよく守りつづけた都市があったから、このころレーマン人はこの堅固な都市のために妨げられて、私たちを越えて進み私たちの国民を亡ぼすことができ

モルモ5,5, しかし私たちがジェルドン市へ退いた時、その途中で住民を連れなくて通り過ぎた所は、レーマン人がみなこれを荒して町も村も都市も焼きはらった。こうして第379年は終った。

モルモ5,6, 第380年、レーマン人はまたまた私たちと戦うために出てきた。私たちは勇ましくこれに向って戦ったが、とうとう支えることができなかった。このたびレーマン人の軍勢は非常に数が多かったのでニーファイ人を足の下にふみにじったからである。

モルモ5,7, そこで私たちはまた逃げた。しかし、ただレーマン人より足の早い者だけは逃げて助かったが、逃げて足のおそい者たちはみな倒されて亡びた。

モルモ5,8, さて、私モルモンは私の目で見たと通りの恐ろしい殺戮の光景を述べて人の心を痛ませたいとはおもわない。しかしこれらの出来事は将来かならず人々に知られ、隠されたことはことごとく公に告げ知らされ、

モルモ5,9, またこれらの出来事はこの国の民の残りの子孫と異邦人ともに知られるに違いない。この異邦人は主の言葉通りこの国の民を散らし、この国の民は異邦人の中にあつて取るに足らぬ者と思われるに違いない。私はこれを知っているから、ただ短くまとめて小さな記録を作る

モルモ5,9-1, 私は受けた命令にそくかないように、またあなたたちがこの国の民が犯した罪惡の記事によってあまりにひどく悲しまないように、思い切って私の見たことをくわしくのせないけれども、

モルモ5,10, 私はこの国の民の子孫と異邦人、すなわち自分らに恵みを与えたもうお方を認めてイスラエルの家を心にかける異邦人ともにこれらの出来事を話すのである。

モルモ5,11, なぜならば、異邦人とこの国の民の子孫とがイスラエルの家の逢った禍と、この国の民の滅亡と、この国の民が悔い改めてイエスの御手に抱えていただくことのできなかったことを悲しむのが私に予めよく解っているからである。

モルモ5,12, また、ヤコブの家の残りの子孫にもこれらのことを書き伝える。しかし、私がこのように記録を作るわけは、罪惡がつずいて行われるならこれがヤコブの子孫に伝わらないことを神が知れたもうからである。それで、私はこのように記録を作つて、主のみこころにかなう

モルモ5,12-1, この記録が世に出るようこれを隠して主の御手に託さなくてはならない。

モルモ5,13, こうするのは私が受けた命令にかなうので、主のみこころにかなう時がくるとこの記録は主の命令通り世に出るにちがいない。

モルモ5,14, 世に出てからは、ユダヤ人の中の信仰のない者たちに伝わって行くが、その理由は3つある。第1は、イエスがキリストである、生ける神の御子であると言うことをユダヤ人に信じさせるため、第2はユダヤ人、むしろイスラエルの全家がことごとく自分たちの神であ

モルモ5,14-1, 与えたもうた受け嗣ぎの地へ、再び元通り集められる事業に関する御父の偉大な永遠のみこころが、その最も愛したもう御子によって成しとげられ、その結果御父の誓約が果されるためである。

モルモ5,15, 第3は、この国の子孫に、異邦人からかれらに伝わってくるはずのキリストの福音をさらによく信じさせるためである。この国の民は後に散り散りとなって、今までの中になかったほど、またレーマン人の中にもなかったほど皮膚の黒いいやらしい汚らしい民となる。こ

モルモ5,15-1, 民が無信仰に陥り邪心を礼拝するからである。

モルモ5,16, ごらん、現在の民は主の“みたま”がすでにかれらを励ますことを止めたまい、その上キリストと神とに交ることができず、天から音ずれを受けずに世に在るから、風に吹き散らされるもみがらのようにあちらこちらへ追いはられるのである。

モルモ5,17, この民はかつて喜ばれる民であつた。キリストはこの民の牧者であつて父なる神も自らこの民を導きたもうた。

モルモ5,18, しかし、今やちょうど風に吹き散らされるもみがらのように、またちょうど帆もいかりも柁もなしに波のまにまに漂う船のように、サタンによってあちらこちらへ誘われる。

モルモ5,19, ごらん、主はこの民がこの国で受けるはずの祝福をとつておいて、この後この国に住むはずの異邦人に与えたもう。

モルモ5,20, 異邦人はこの民を追い散らすにちがいない。しかし、異邦人がこの民を追い散らしてから、主はさきにアブラハムとイスラエルの全家に立てたもうた誓約を忘れることなくこれを果し、

モルモ5,21, また義人がこの民のために主に捧げた祈りを忘れることなくこれに答えたもう。

モルモ5,22, 異邦人よ。その時お前たちがもしも悔い改めてその悪い道から立ち帰らないならば、どうしてよく神の力

の前に倒れずに居ることができよう。

モルモ5,23,ごらん、お前たちは神の御手の中にある。神は全権全能を持ちたもう。また神の大きな命令があるならば、大地も巻物のように巻かれるであろう。

モルモ5,24,それであるから、異邦人よ。悔い改めて神の御前にへりくだれ。へりくだらないならば、神はその正義を以てお前たちを責めたもう、すなわちヤコブの子孫の残りの者が獅子のようにお前たちの中へ入ってきて引き裂くが、その時お前たちを救う者は誰もない。

モルモ6,,モルモン書 第6章

モルモ6,*-*,クモラの丘とそこに埋めた記録。ニーファイ人とレーマン人との最後の戦闘。レーマン人ついに勝つ。ニーファイ人24人だけ生きのこる。

モルモ6,1,さて、私は、わが民であるニーファイ人が滅亡した記事を書いて結びとする。私たちはついにレーマン人の前をのがれた。

モルモ6,2,私モルモンはレーマン人の王に手紙を書いて、私たちがクモラの地の丘に民を集めるまで猶予された。もしそうしてくれるならばクモラの地でレーマン人と戦うことができると言ってやった。

モルモ6,3,するとレーマン人の王は私の求めに応じたので、

モルモ6,4,私たちはクモラの地へ進んでクモラの丘のまわりに天幕を張った。クマラの地は湖と川と泉との多い所であった。私たちはここでレーマン人に勝ちたいと思った。

モルモ6,5,第384年が終わらない前に、民の残りの者を私たちは全部クモラの地へ集めた。

モルモ6,6,私たちが民を一同にしてクモラの地へ集めた時、私モルモンはすでに年をとってこれから始まる戦がわが民の最後の戦闘であることを知り、また私たちの先祖から伝わったあの神聖な記録を(レーマン人は必ずこれを破壊するから)レーマン人のてに落ちないようにせよ

モルモ6,6-1,命ぜられたので、私はニーファイ版を短くまとめたこの記録を作ってから、主が私のてに委ねたもうたもろもろの記録をみなクモラの丘に隠しておいたが、この僅な版は私の息子のモロナイに伝える。

モルモ6,7,さて、私の民とその祭司とはレーマン人の軍が進んでくるのを見た時、すべての悪人の胸に満ちている非常に死を怖れる心を抱いてレーマン人と戦を始める時を待った。

モルモ6,8,レーマン人が私たちに近づくと、私の味方は敵の数が多いから1人のこらず非常な恐れを生じた。

モルモ6,9,レーマン人は剣、弓、矢、まさかりおよびあらゆる武器を以て私たちを襲ったので、

モルモ6,10,私と一しょに居た10,000人の部下はうち倒され、私もまた負傷して兵の間に倒れたが、敵は私を殺さずにそこを通り過ぎた。

モルモ6,11,レーマン人は私の軍の中を通り過ぎて、私をいれて24人(この中に息子のモロナイも居た)を除くほか、私の民をことごとく殺した。そこで私たち24人は生きのこり、その翌日レーマン人が陣営に帰ってクモラの丘の上から見たすと、私が前列として率いた10、

モルモ6,11-1,兵の殺された所も、

モルモ6,12,私の息子モロナイが率いた10,000人の兵が殺された所も見えた。

モルモ6,13,ギドギドーナの指揮した10,000人の兵もギドギドーナと共に死んだ。

モルモ6,14,レーマンとその10,000人の兵と、ギルガルとその10,000人の兵と、リムハとその10,000人の兵と、ジェニーアムとその10,000人の兵と、またカメナイハ、モロナイハ、アンテオーヌム、シェム、とこの6人に属した10,000人づつの兵とは

モルモ6,15,それだけでなく、このほかになお10人の者とこれに属した10,000人づつの兵も剣にかかって死んだ。1言にして言うと、私の民はただ私も一しょに居た24人と南の国々へ逃げた数人と、味方を去ってレーマン人に加わった数人を除いて1人のこらず殺され、こ

モルモ6,15-1,殺した者に葬られず地の面に捨てておかれ、その肉も骨も血もみな朽ち果てて母なる大地に帰るに委せられた。

モルモ6,16,さて私は死んだ私の民のことを悲しみ悼んで全身が引き裂ける思がし、次のように叫んで言った。

モルモ6,17,"美しい者たちよ。お前たちはなぜ主の道を離れたか。美しい者たちよ。お前たちはなぜお前たちを抱えようとして両手をひろげたもうたイエスを拒んだのか。

モルモ6,18,見よ、お前たちはこれさえしなかったならば死ななかつたものを。しかしお前たちはもう真でしまって、私はお前たちの亡いことを悲しみ歎いている。

モルモ6,19,美しい息子よ、娘よ、父母よ、夫婦よ、美しい者共よ。どうしてこのように死んでしまったか。

モルモ6,20,しかし、お前たちはもうこの世を去ったから、私はこの悲しみでお前たちを呼び返すことはできない。

モルモ6,21,しかし、死ななくてはならぬお前たちが不死不滅の者となる日および今朽ちているお前たちの肉体が不朽の体となる日が近い。その日になるとお前たちはそれぞれ行いの善悪に従って裁判を受けるためにキリストの法廷に立たなくてはならない。その時もし義しい者と認

モルモ6,21-1,認められるならば、お前たちより先に死んだ先祖と共に祝福を受ける。

モルモ6,22,ああ、この大きな滅亡がお前たちに来ない内にお前たちは悔い改めたらよかったものを。しかし、お前たちはもう死んでしまって天の永遠の御父はお前たちの有様を知りたもうから、その正義と慈愛とを以てお前たちを処置なさるであろう”と。

モルモ7,,モルモン書 第7章

モルモ7,*-*,モルモン、レーマン人にかれらはイスラエルの家の子孫であると言う。かれらが救われるよう戒めを与える。

モルモ7,1,命が助かったこの民の残りの者に少々話したいことがある。それは神が私の言葉をこれに伝えてその先祖のことを知らせたもうことがあるかも知れぬと思うからである。まことに、イスラエルの家の残りの者よ、よく言うておく。私の告げることは次の通りである。

モルモ7,2,あなたたちは自分がイスラエルの家に属していることを知れ。

モルモ7,3,悔い改めなくてはならぬことと、悔い改めなければ救われないことを知れ。

モルモ7,4,自分の武器を捨てて、人の血を流すことを再び楽しみとしないことと、神の命令が下らなければ再び武器をとってはならないことを知れ。

モルモ7,5,その先祖のことを知り、自分の罪と悪事とをことごとく悔い改めて、イエス・キリストが神の御子であることを信じ、ユダヤ人に殺されたもうたが御父の能力によってよみがえるによって、墓に勝ちたもうたことを信じなくてはならない、この事もよく知れ。イエス・キ

モルモ7,5-1,よって死の苦しみは去り、

モルモ7,6,またイエス・キリストによって死者の復活は来る。この復活によって人はよみがえりその後キリストの法廷に出なくてはならない。

モルモ7,7,キリストは世の人を贖いたもうたから、その贖いによって裁判の日にキリストの御前に出て罪無しとされる者は神の王国に於て神と共に住み、また天唱歌隊に加わって絶え間ない讃美の歌を1つの神会を成したもう御父と御子と聖霊とに唱い奉り、永遠に尽きない幸福の

モルモ7,7-1,居ることができる。

モルモ7,8,それであるから、悔い改めてイエス・キリストの御名によってバプテスマを受け、またキリストの福音を心に捕えよ。福音はこの經典に記されてあなたたちに伝わるだけでなく、ユダヤ人から異邦人に伝わり、異邦人からあなたたちに伝わって行く書物にも記されてある

モルモ7,9,この經典を書き記したのはユダヤ人から伝わるあの書物をあなたたちに信じさせるためである。もしあなたたちがその書物を信ずるならばこの經典も信ずるにちがいない。もしこの經典を信ずるならば、あなたたちの先祖のこと、また神の権能と能力とによって先祖の間

モルモ7,9-1,驚嘆すべき業のことを知り、

モルモ7,10,またあなたたちはヤコブの子孫の残りの者であるから、最初の誓約にあづかる民の中に数えられることも知るようになる。その時あなたたちがもしキリストを信じ、あなたたちの救い主の模範に従って、その命令通りまず水のバプテスマを受け次に火と聖霊とによるバプ

モルモ7,10-1,バプテスマを受けるならば、裁判の日に必ずさいわいを受けるであろう。 アーメン。

モルモ8,,モルモン書 第8章

モルモ8,*-*,モロナイ、父の記録を書きついで結びとする。クモラの血の殺戮の後。モルモンもまた殺される。レーマン人と強盗たち、全国を占領する。モルモンの記録は後世、世に現われる。末日の状態と禍の予言。

モルモ8,1,見よ、私モロナイは父モルモンの記録を書きついで結ぶとする。隠ことは少いけれども、これを書けと父から命令を受けた。

モルモ8,2,そもそもクモラの大激戦の後、すでに南の国々に逃げていたニーファイ人はレーマン人に狩り立てられてとうとう1人のこらず殺された。

モルモ8,3,私の父もまたレーマン人に殺されて、私は1人だけ生き残ったから私の民の悲しい全滅の記事を書かなくてはならない。見よ、国民はすでに亡びてしまったから私は今父に命ぜられたことを果す。レーマン人は私を殺すかも知れないから、

モルモ8,4,私は記録を作ってから地の中に隠しておく。その後私がどうなるかは問う所でない。

モルモ8,5,父はこの記録を作り、目的を書いたが、この版に余地があるなら私もまた目的を書きたいが、その余地もなければ版のあらがねもない。父も一切の親族も戦で殺されたから私は1人のこって友もなく行く所もない。また主が私をいつまで生き永らえさせたもうかもわから

モルモ8,6,見よ、われらの主であり救い主であるお方の降誕からすでに400年経った。

モルモ8,7,レーマン人はわが民のニーファイ人を都市から都市へ、ここからかしこへ狩り立てて1人のこらず殺してしまった。ああ、わが民ニーファイ人の滅亡は大きなことである。まことに大きな驚くべきことである。

モルモ8,8,ニーファイ人を滅亡させたのは主の御手である。見よ、レーマン人も今互いに戦合って、地の全面に殺人と流血が相ついで行われ、この戦はいつ果てるとも知れない。

モルモ8,9,さて私はこれで国民の記事を終りにする。地上にのこっている者はレーマン人と強盗だけであるからである。

モルモ8,10,世の中にはイエスの(3人の)弟子のほかにも真の神を知る者はない。人民の罪惡は、主がこの弟子をもはや人民と共に住ませたまわなかったほど甚しかった。その時まではこの弟子も人民の中に住んでいたが、今はこの地に居るかどうか知っている者はない。

モルモ8,11,しかし、さきに私と父はこの弟子に逢い、弟子たちは私に導きと恵みとを与えた。

モルモ8,12,すべてこの記録を受け容れ、この記録の中に欠点があるからと言ってこれを咎めない者はこの記録に記してあることよりも偉大なことを知るであろう。見よ、私はモロナイである。できるなら、私はあらゆることをあなたたちに教えたいと思う。

モルモ8,13,私はこれでこの民についての話を終りにする。私はモルモンの息子であって私の父はニーファイの子孫である。

モルモ8,14,この記録を隠して主の御手に託する者は私である。この記録ののっている版は主の命令があったために金銭上の価はない。すなわち主は誰も利益を得るためにこの版を手に入れる者があってはならぬと仰せになった。しかし、この版に刻んである記録には大きな価値があ

モルモ8,14-1,後世これを世の人々に現わす者は主の祝福を授かるにちがいない。

モルモ8,15,これを世の人々に現わすことは、ひとえに神に栄光を帰したいと思う心で、または永らく散り散りになっている主の誓約を受けた古代の民の救いを与える心でなくてはならない。ことであると神が思召したもうから、神に権能と力を受けた者でなければこれを世に現

モルモ8,15-1,できない。

モルモ8,16,この記録を世の人々に現わす者はさいわいである。これは神の言葉の通りその隠してある所から公の所へ出るからである。言いかえると、神の権能と力によって地の中から出され、隠れた暗い所から輝いて出て世の人々に知られるからである。

モルモ8,17,もしこの記録の中に足りない所があれば、それは人間の欠点によるものである。しかし、私たちはこの記録に何ら足りない所を見出さない。けれども、神はすべてのことを知ったもうからこの記録を批難する者は慎んでその考えを捨てよ、そうでないとおそらく地獄の火

モルモ8,17-1,入れられるであろう。

モルモ8,18,"われにそれを見せよ。見せなければ汝を打つ"と言う者よ。その口を慎め。慎まないと、主の禁じたもうことを命ずるかも知れないからである。

モルモ8,19,軽々しく裁判をする者はまた同じように軽々しく裁判をされる。人の受ける報いはその行いの善惡によるから打つ者もまた主に打たれるのである。

モルモ8,20,聖文にある誠めを見よ。人は打つべからずまた裁判すべからずとある。それは主が"裁判する権利および応報の権利はわがものなれば、われ報いをなさん"と仰せになるからである。

モルモ8,21,主の御業に対し、また主の誓約を受けた民であるイスラエルの家に対して怒りを起し、争いを起して"われわれは主の業を亡ぼそう。亡ぼせば主はイスラエルの家に立てた誓約を思い出してこれを果すことがないであろう"と言う者は、おそらく切り倒されて火の中に投

モルモ8,21-1,られるであろう。

モルモ8,22,主の誓約がごとく果されるまで、主の永遠のみこころは必ずつづけて行われる。

モルモ8,23,イザヤの予言を研究せよ。私はその数々の予言を書くことはできないが、よく言うておく。私よりさきにこの地に生きていた聖徒らが土の中から叫んで主に乞い求めるにより、主はこれらの者に立てた誓約を思い出してこれを必ず果したもう。このことは主が現在生きて

モルモ8,23-1,ましますように確である。

モルモ8,24,聖徒らの祈りがその兄弟らのために捧げられたことは主が知ったもう。また聖徒らは御名によって山を移らせることができ、主の御名によって地を震い動かせることができ、また主の御言葉の力によって牢屋を地に倒した。その上、主の御言葉が力がかれらと共にあった

モルモ8,24-1,火の炉も猛獣も毒蛇もかれらをそこなうことができなかった。これらのことによって主は聖徒の信仰を知ったもう。

モルモ8,25,なお聖徒らはこの記録を世の人々に現わすことを主に委ねられるあの1人の男のためにも祈りを捧げた。

モルモ8,26,それであるから誰もこの記録は将来現われまいと言うには及ばぬ。必ず現れると主が仰せになったから必ず現われるのである。この記録は主の見てによって将来土の中から現われるはずであるから、誰もその現われる

ことを止めることはできない。この記録が現われるの

モルモ8,26-1,世の人々が奇跡はどうに止めになったと言い張る時であって、それはちょうど人が墓から声を出して物を言うと同じであろう。

モルモ8,27,聖徒らの血が叫んで秘密結社と悪い行いとを主に訴える時にこの記録は現われる。

モルモ8,28,人々が神の権能を認めず、教会は汚れ、会員は心の中で誇り高ぶり、教会の支配者および教師たちはその心に高慢をつのらせて、自分の教会に属する物をさえ嫉むようになる時、ちょうどその時にこの記録が現われる。

モルモ8,29,ほかの国々に火祭と暴風雨と烟の霧とがあるとと言う声が聞こえる時、

モルモ8,30,また所々に戦と戦の噂と地震とがあるとと言う声が聞こえる時にこの記録は現われる。

モルモ8,31,地の面に恐ろしい汚れた行いのある時、すなわち人殺し、強盗、狂言、詐欺みだらな行い。およびさまざまの憎むべき行いがあって、“これをせよ。またあれをせよ。どれをしてもかまわない。終りの日に主は汝のために言い開きをなさるから”と言う者の多くある時に

モルモ8,31-1,現われる。前のようなことを言う者は禍である。かれらは罪の縄目にしばられて苦汁を飲まされるのである。

モルモ8,32,またこの記録は“われに來れ、汝らの金銭と取りかえに汝らの罪を赦すべし”と言う教会が世の中に立てられてある時に現われる。

モルモ8,33,ああ、よこしまでかたくなである悪人たちよ。なぜ利益を得ようとして自分らのために教会を立てたか。なぜ神の聖い言葉を曲げて身も霊も救われないようにするのか。さあ、神が洗えたもうた啓示をしらべてこれを信ぜよ。その啓示の示す時になると右のことはみな事

モルモ8,33-1,なるのである。

モルモ8,34,この記録が汝らの中に現われてから間もなく起るはずの出来事について主は前以て大きな驚嘆すべきことを私に教えたもうた。

モルモ8,35,見よ、私はあなたたちが今日の前にあるかのように話しているが、本当はあなたたちはまだ生れないのである。しかし、イエス・キリストが前以てあなたたちを私に見せたもうたのであなたたちの行いが今私に解るのである。

モルモ8,36,あなたたちが心の中に誇り高ぶることと、あなたたちの中に非常に華やかな衣を着、ねたみ、争い、怨み、迫害し、あらゆる悪い事を起すほどにおごり高ぶっていない者は僅しかないということと、またあなたたちの慢心によって、あなたたちの教会は1つのこらずすで

モルモ8,36-1,果てていると言うことが前以て私に解っている。

モルモ8,37,ごらん、あなたたちは金銭と自分の財産と自分の華やかな衣と自分の教会の華やかな飾り物とを、貧しい人々、病気の人々および悩んでいる人々よりも愛するのである。

モルモ8,38,汚れた人たちよ、偽善者らよ。腐るものに替えて自分の身を売る教師たちよ。なぜあなたたちは神の聖い教師を汚したか。なぜキリストの御名を受けることを恥とするか。永遠の幸福はとこしえに止まない不幸にまさって価値があるのに、なぜあなたたちは世の誉を思っ

モルモ8,38-1,思っこのことを信じないのか。

モルモ8,39,なぜあなたたちは生命のない物を自分の身に飾りながら、飢えている者、貧しい者、はだかである者、病んでいる者、また悩んでいる者たちがあなたたちの前を通り過ぎて行くとき憐まないのか。

モルモ8,40,あなたたちは利益を得ようとして、秘密の憎むべき業を企ててやもめとみなし児とを主の御前に泣かせ、またみなし児の父とやもめの夫にその血が土の中から叫んで仇を返したまえと主にねがい求めるようにした。これはなぜであるか。

モルモ8,41,見よ、応報の剣はあなたたちの上にかかっている。主の聖徒たちの歎願をもはやそのままにしておきたまわないから、聖徒らが亡びた責をあなたたちに負わせてその血の応報をあなたたちに返したもう時は近いのである。

モルモ9,,モルモン書 第9章

モルモ9,*-*,不信者に対するモロナイの戒め。キリストに関するモロナイの証。変体エジプト語と言われるニーファイ人の言語。

モルモ9,1,今私はキリストを信じない人々についても話をする。

モルモ9,2,ごらん、主がこの世に來りたもうてあなたたちに現われたもう時、すなわち大地が巻物のように巻かれ、物質が酷熱で溶かされる時あなたたちは信じないことがあるのか。あなたたちが引かれて神の子羊(イエス・キリスト)の前に立たねばならぬあの大きな日に、あな

モルモ9,2-1,神がないと言うだろうか。

モルモ9,3,あなたたちは、その時までキリストを否定するだろうか。または、その時神の子羊を見るに堪えられるか。

あなたたちは自分に罪のあることを覚りながら、それでもキリストと一しょに住めると思うか。あなたたちは、いつもキリストの律法を濫用した罪を覚ることによ

モルモ9,3-1,全身が裂かれるほど良心に咎められながら、あの聖いお方と一しょに幸福に住めると思うか。

モルモ9,4,よく言うておく。あなたたちが自分の汚れていることを覚りながら聖い正義の神の御前に居る時の悲惨は、地獄にあって神の御前から断ち切られた者たちと一しょに居る時の悲惨よりもひどいであろう。

モルモ9,5,なぜならば、あなたたちが神の前に出る時は自分の生涯の行いを隠せずにありのままの自分を見、また神の栄光とイエス・キリストの聖いことを見るによって、消すことのできない火のような良心が胸に燃え立つからである。

モルモ9,6,それであるから、信仰のない人々よ。主に立ち帰れ。おの大きな終りの日に、あなたたちがすでに子羊(イエス・キリスト)の血によって清められ、罪なく清く美しい潔白な者と認められるため、イエスの御名によってひとえに一生けんめい御父に祈れ。

モルモ9,7,神から授かる啓示を否定し、啓示はもはや廃止されて今は啓示も予言も聖霊の賜も病を医すことも異語を訳することもないと言う人々よ。よく言うておく。

モルモ9,8,これらのことを否定する人々は、キリストの福音を知れず、聖文を読んだこともない。線分を読んでもその意味が解らない。

モルモ9,9,神は昨日も今日も、いつまでも同じにましまして変ることなく、また変ろうとする様子も見えないことは聖文に言うてあるではないか。

モルモ9,10,しかし、あなたたちがもしも変ることがありまた変ろうする様子の見える神を想像しているならば、それは奇跡を行わない神を想像しているのである。

モルモ9,11,しかしごらん、私は奇跡を行いたもう神をあなたたちに教えよう。それはアブラハム、イサク、ヤコブの神であって天と地と天地の中にある万物を造りたもうた神である。

モルモ9,12,この神はアダムを造りたもうた。そしてアダムによって人類の墮落が生じた。人類の墮落があったから父であり子であるイエス・キリストがこの世に来りたもうた。そしてイエス・キリストによって人類の贖いが来たのである。

モルモ9,13,イエス・キリストの爲したもうた人類の贖いによって、人は主の御前に帰ることができる。よって万人が贖い救われるはこれによる。キリストの死は復活を来し、復活は人を永遠の眠りから救う。永遠の眠りはラッパが鳴りひびく時に神の力によって万人がこれから呼び

モルモ9,13-1,そして大小の区別なくあらゆる人々が、みなこの永遠の眠りである肉体の死の縄目から救われ放されるのでここによみがえって神の法廷に立つ。

モルモ9,14,その時みなは聖者の裁判を各々受けて、汚れた者は汚れた有様に、義しい者は義しい有様に、幸福な者は幸福な有様に、また不幸な者は不幸な有様にとどまる。

モルモ9,15,そもそも、奇跡を行うことのできない神を想像したすべての人々よ。あなたたちに尋ねたい。私が今話したこれらのことはみなすでに過ぎ去った時のことであるか。もう終りになってしまっているのか。よく言うておくが、そうではない。また、神は奇跡を行う神の資格

モルモ9,15-1,資格をなくしては居りたまわらない。

モルモ9,16,神の爲したもうたことは私たちの目に驚嘆すべきことに見えるではないか。神の驚嘆すべき御業のこころが解る者が1人でもいるか。

モルモ9,17,神の御言葉のちからによって天地ができたこと、また神の御言葉のちからによって人が塵から造られたことを奇跡ではないと言い張り、また神の御言葉のちからによって奇跡が行われたことはないと言い張る者があろうか。

モルモ9,18,イエス・キリストが大きな奇跡を数多く行いたまわなかったと言える者が1人でもあろうか。使徒たちも大きな奇跡を数多く行った。

モルモ9,19,もしもその時神が奇跡を行いたもうたならば、そうして神が変ることなしに奇跡を行うことを止めたもうであらうか。よく言うておく。神は変りたもうことはない。変りたもうことがあれば、神は神である資格がなくなるけれども、神は神である資格を失わずに現に奇跡

モルモ9,19-1,神にまします。

モルモ9,20,神が世の人々の中で奇跡を行いたまわなくなるのは、世の人々が無信仰に陥って義しい道を離れ、その信頼する神を知らなくなるからである。

モルモ9,21,よく言うておく。何ら疑わずにキリストを信ずる人は、何でもキリストの御名によって御父に願う者を与える。この約束はあらゆる人々、すなわち世界の隅々に至一切の人々にひとしく及ぶものである。

モルモ9,22,ごらん、神の御子イエス・キリストは群衆の来いている所で、あの生きのこるはずの弟子たちとほかの弟子たちに次の通り言いたもうた“全世界を経めぐって一切の人々に福音を宣べ伝えよ。

モルモ9,23,信じてバプテスマを受くる者は救わるべし、信ぜざる者は救われず。

モルモ9,24,而して信ずる者には次のしるし伴わん。すなわちわが名によりて悪例を追い出し異語を語り、蛇を手にとり、毒を飲むとも害を受けず、病人に按手礼を施さばその人癒ゆ。

モルモ9,25,疑うことなくわが名を信ずる者にはわれはわが一切の言葉の確なることを証明す。こは世界の隅々に至る一切の人々に及ぶ約束なり”と。

モルモ9,26,ごらん、主の御業に反抗のできる者が1人でもあるか。神の言葉を否定できる者が1人でもあるか。主の全権全能に逆らう者があるだろうか。主の御業をいやしむ者があるだろうか。またキリストの子らをいやしむ者があるだろうか。主の御業をいやしむ一切の人たちよ

モルモ9,26-1,お前たちは疑いを抱いて亡びるのである。

モルモ9,27,それであるから、いやしんではならない。疑いを抱いてはならない。主の御言葉に聞き従いイエスの御名によってなくてはならぬものを御父に願い求めよ。疑ってはならない。信ぜよ。昔の時のように真心をもって主の御許へ来て、主を畏れかしこみ善い行いをして自ら

モルモ9,27-1,全うせよ。

モルモ9,28,この試しの生涯の間賢くせよ。自分の身からあらゆる汚れを払い去れ。情欲を満そうとして願い求めてはならない。むしろ何の誘惑にも負けずに生ける真の神に仕えろと言う固い決心をもって願い求めよ。

モルモ9,29,バプテスマを受ける資格のない中は慎んでバプテスマを受けてはならない。キリストの聖餐を受ける資格のない中は慎んで正餐を受けてはならない。慎んで、すべてのことを為す資格のある者となり、またこれを生ける神の御子イエス・キリストの御名によって行え。こ

モルモ9,29-1,このようにして終りまで忍ぶならば必ず断ち切られることはない。

モルモ9,30,ごらん、私はあなたたちがいつか確に私の言葉を菊はずであることをとうに知っているから、私がこのように話すのはちょうど墓から声を出して話すと同じである。

モルモ9,31,私、私の父または私の父の前にこの記録を作った人たちを、不完全な所があるからと言って批難するな。むしろ神が私たちの不完全な所をあなたたちに知らせて、あなたたちに私たちよりももっと賢い者になる道を学ばせたもう神のめぐみに感謝せよ。

モルモ9,32,さて私たちは、私たちのいわゆる変体エジプト文字を学んだ知識でこの記録を作った。この文字は代々私たちの間に伝わってきて、私たちの言語が変るにつれて変ったから変体エジプト文字と言うのである。

モルモ9,33,もし私たちの版が十分に大きかったなら、ヘブライ語で書いたであろうが、ヘブライ語も私たちのために変っている。しかし、ゲブライ語でこの記録が書けたならば私たちの記録には不完全な所がなかったであろう。

モルモ9,34,しかし、主は私たちが書き記したことを知たもう。そればかりでなく、私たちのほかに私たちの言語に通じている者のないことを知たもうから、この記録を解釈する方法と手段とをすでに備えておきたもうた。

モルモ9,35,そもそも、私たちがこの記録を書き記したのは、無信仰に陥っている私たちの同胞の血の責任が私たちの衣にかかってこないためである。

モルモ9,36,私たちが、私たちの同胞のために願い求めたこと、すなわちかれらに元通りキリストを知らせることは、この地に住んだ一切の聖徒らの祈ったことと同じである。

モルモ9,37,ねがわくは、主イエス・キリストが聖徒らの信仰に応じてその祈りを聞き届けたまわんことを。ねがわくは、父なる日mがそnイスラエルの家を立てたもうた誓約を忘れずにこれを果し、またイスラエルの家にはイエス・キリストの御名を信じさせ、この信仰によってとこ

モルモ9,37-1,これを主受く福したまわんことを。 アーメン。

イテル1,,イテル書

イテル1,*-*,モーサヤ王の代、リムハイの民が見つけた24枚の版からとつたジェレド人の記録。

イテル1,,イテル書 第1章

イテル1,*-*,予言者イテルの系図。大塔。ジェレドとろの兄弟。かれらの言語は乱されなかったこと。主の命令通り移住の用意をする。

イテル1,1,今私モロナイは、主がこの北の地でことごとく亡ぼしてしまいたもうた昔の民の歴史を書き始める。

イテル1,2,私はリムハイの民が見つけたあの24枚の版を短くまとめてこの歴史を書く。あの24枚の版に刻んである記録は”イテル経”と言う。

イテル1,3,その始めには世界の創造と、アダムが造られたことと、アダムの時から大塔に至までの歴史と、その間に世の人々の中に起ったことがみなっているが、私はこれと同じ記事がユダヤ人の所にもあると思うので、

イテル1,4,アダムの時から大塔の時に至るまでの記事はこれをのせない。それらのことはあの24枚の版にのっているから、その版を手に入れる者は版に刻んである記録を完全に知る能力を与えられる。

イテル1,5,私がここに書くのは完全な歴史ではない、ただ大塔の時からこの昔の民が亡びるまでの歴史の1部分であって、

イテル1,6,正に次の通りである。あの版に刻んだ記録の作者はイテルと言う人であって、コリアントルの息子である。

イテル1,7,コリアントルはモロン息子である。
イテル1,8,モロンはイーテムの息子である。
イテル1,9,イーテムはエーハの息子である。
イテル1,10,エーハはセツの息子である。
イテル1,11,セツはシブロンの子である。
イテル1,12,シブロンはコームの息子である。
イテル1,13,コームはコリアントムの息子である。
イテル1,14,コリアントムはアムニガダの息子である。
イテル1,15,アムニガダはアロンの息子である。
イテル1,16,アロンはヘツの子孫である。ヘツはヘルツホムの息子である。
イテル1,17,ヘルツホムはリブの息子である。
イテル1,18,リブはキシの息子である。
イテル1,19,キシはコールムの息子である。
イテル1,20,コールムはレビの息子である。
イテル1,21,レビはキムの息子である。
イテル1,22,キムはモリアントンの息子である。
イテル1,23,モリアントンはリップラキシの息子である。
イテル1,24,リップラキシはシェズの息子である。
イテル1,25,シェズはヘツの息子である。
イテル1,26,ヘツはコームの息子である。
イテル1,27,コームはコリアントムの息子である。
イテル1,28,コリアントムはイーメルの子である。
イテル1,29,イーメルはオーメルの子である。
イテル1,30,オーメルはシュールの息子である。
イテル1,31,シュールのキブの息子である。
イテル1,32,キブはオライハの息子である。オライハはジェレドの息子である。
イテル1,33,主が世の人の言語を乱し、怒ってかれらが全世界に散らされと誓いたもうた時、ジェレドとその1人の兄弟と、この2人の家族と、ほかの数人と、それぞれの家族とは大塔のある所から出てきた。その時に主の誓い通り世の人は散らされた。
イテル1,34,ジェレドはかれに“主が私たちの言語を乱して互いに通じ合えようになさぬよう主に祈れ”と言った。
イテル1,35,そこでジェレドの兄弟が主に祈ると、主はジェレドを憐れんでジェレドの言語を乱したまわなかったの
で、ジェレドとその兄弟とは言語が通じないようにはならなかった。
イテル1,36,それからジェレドはまたその兄弟に“また主に祈れ。そうすれば主はその怒りを私らの友だちから遠ざけて、その言語を乱したまわぬことがあるかも知れぬ”と言った。
イテル1,37,ジェレドの兄弟が主に祈ると、主はジェレドとその兄弟との友だちおよびこの友だちの家族を憐れみたもう
たから、かれらもまたその言語を乱されなかった。
イテル1,38,するとジェレドはまたその兄弟に“主が私らをこの国から追い出したもうかどうか、行ってこれも主にた
ずねよ。もしも追い出したもうみこころならば、私らはどこへ行くのかこれまたずぬよ。主は、私らを全世界の中で1
番善いところへ導きたもうかも知れない。も
イテル1,38-1,もしそうならば、私らはその地を代々受けつぐ地として保ことができるよう主に忠義をつくそうではない
か”と言った。
イテル1,39,そこでジェレドの兄弟はジェレドがたのんだ通り主に祈った。
イテル1,40,その時主はジェレドの兄弟の祈りを聞き憐れんで仰せになった。
イテル1,41,“いざ、汝のあらゆる家畜の牡も牝も集め、あらゆる種子も集め、汝の家族たちと汝の兄弟ジェレドとそ
の家族と、汝の友だちとその家族とジェレドの友だちとその家族とを集めよ。
イテル1,42,それより、これらの者をつれてこの地の北に当る谷まで導き行け。そこに於てわれは汝らに逢い、汝らを
導きて全世界の中最も勝れたる土地へ導かん。
イテル1,43,その地にてわれは汝と汝の子孫とを祝福し、汝の子孫と汝の兄弟の子孫と汝が伴い行く者の子孫とに
よいて、わがために偉大なる国民を起さん。全世界の中、汝らの子孫をもってわがために起す国民に勝る国民はな
かるべし。われがこのように汝のためにするは、汝がこ
イテル1,43-1,長くわれに祈りたればなり”。

イテル2,,イテル書 第2章

イテル2,*-*,ニムロデの谷に於て。デゼレト(蜜蜂)。主、再びジェレドの兄弟と語りたもう。約束の地に関する神の命令。モリアンキュメル(蜜)の地。数隻の舟を造る。

イテル2,1,ジェレドとジェレドの兄弟とこの2人の家族と友だちと友だちの家族とは、それまでに集めたあらゆる家畜の牡も牝も携え、一同つれ立って北の方にある谷間へ行つた。(その谷の名は名高い狩人の名をとってニムロデと言う)。

イテル2,2,かれらはわなをかけて空の鳥をとり、水の魚を運んで行く器を備え。

イテル2,3,数群のデゼレトも、さまざまの動物も、もろもろの草木の種子も携えて行つた。デゼレトとは蜜蜂と言うことである。

イテル2,4,ニムロデの谷に着くと、主は天から降ってジェレドの兄弟と話したもうた。この時、主は雲の中にましましたからジェレドの兄弟はその御姿を見なかった。

イテル2,5,主は、荒野の中でまだこれまでに人の住んだことのない所へ行けと1行に命じたまい、かれらに先立って雲の中に立ちながらかれらと語り、かれらの旅路を指し示したもうた。

イテル2,6,そこでかれらは荒野の中を旅し、数隻の船を造って水のある所を多くわたり、常に主の御手に導かれて行つた。

イテル2,7,主は海のかなたにある野の中にかれらがとどまることを許したまわず、かれらが約束の地まで渡ってくることを欲したもうた。約束の地とはほかのどのような土地よりも勝れてよい土地であつて、神が義しい民に与えようとして備えておきたもうた所である。

イテル2,8,それであるから、この約束の地が備えられた後いつであつてもこの土地を所有する者たちは、ただ1つの真の神に事えなければ主の烈しい怒りがかれらに下つてかれらは亡ぼし去られると言うことを、主は断乎としてジェレドの兄弟に誓いたもうた。

イテル2,9,これで約束の地について神が定めたもうたことが明らかに知れる。すなわち、この地は約束の地であるから、およそこの地を所有する民は神に事えなくてはならぬ。もし事えなければ、神の烈しい怒りを受ける時になつて亡ぼし去られる。神の烈しい怒りを受けて亡びる

イテル2,9-1,すなわち民の罪惡が極点に達する時である。

イテル2,10,この地はすべてのほかの地よりも勝っている地であるから、この地を所有する者が神に事えない時に亡びてしまうことは神がとこしえに定めたもうたところである。それであるから、この地に住む民はその罪惡が頂点に達しなければこのように亡びてしまうことはない。

イテル2,11,さて異邦人よ、私は神が定めたもうたことをあなたたちが知るように、またあなたたちに悔い改めをさせ、あなたたちが罪の極まで罪惡をつづけないように、またあなたたちに今までこの土地に住む民が自分の上に神の烈しい怒りを真似たようなことをさせないため

イテル2,11-1,歴史をあなたたちに伝える。

イテル2,12,ごらん、この土地はすぐれた土地であるからこの土地を所有する民はこの地に神に事えさえすれば、奴隷とならず自由を奪われず添加のどのような国からもすべて支配を受けることがない。この地の神とは私たちがすでに記した言葉によって明らかに示されるイエス・キ

イテル2,12-1,である。

イテル2,13,さて私モロナイは私の作る歴史の本筋を書きつづけよう。主はジェレドとジェレドに伴う者たちを大陸と大陸の間にある大海の岸まで導きたもうた。かれらは海の岸へきた時、天幕を張つてそこをモリアンキュメルと名づけた。そして4年の間天幕を張つて海岸に住んだ

イテル2,14,第4年の終りに主はまたジェレドの兄弟のところに降つて、雲の中に立ちながらかれと親く話したもうた。主は3時間ジェレドの兄弟と話して、かれが主に祈ることを怠つたのを懲しめたもうた。

イテル2,15,それでジェレドの兄弟がその罪を悔い改めて、一しよにきた者たちのために主に祈つた時、主はこれに答えて仰せになった"われは汝と、汝と共に来りし者たちの罪を赦す。されどこの後汝は再び罪を犯すべからず、わが"みたま"は必ずしも常に人をはげますものにあ

イテル2,15-1,ことを忘るな。故に、汝らの罪惡がその極に達するまでひきつづき罪を犯さば主の前より断ち切らる。われが汝らの受け嗣ぎの地として汝らに与えんとする地にかかわるわが意志は前に告げし如し。そはその地がいかなるほかの地よりも勝る故なり"と。

イテル2,16,また主は"いざ、汝らさきに造りし舟にならいてほかの舟を造れ"と仰せになったから、ジェレドの兄弟とかれと一しよにきた者たちは、さきに造つた舟にならい、また主の指図に従つて数隻の舟を造つた。その舟は小さくて水の上に軽く浮び、ちょうど水鳥の体が軽く

イテル2,16-1,浮ぶようであつた。

イテル2,17,そして舟にはすき間がなくて水のもらないことは皿のようであり、その屋根と底と腹とは密着して水のもら

ないことは皿のようであった。舟のへさきとともとはとがっていて舟の長さは1本の間と同じほどの長さで、入口はこれを閉じるとすき間がなく密着して、水のも

イテル2,17-1,もらないことは皿のようであった。

イテル2,18,そこでジェレドの兄弟は主に祈りを捧げて”主よ、主がわれに命じたもうたることをわれはみな為しとげたり。われは主の指図通りに舟を造れり。

イテル2,19,されど主よ、舟の中には光なし。われらは何れの方へ舟を向くべきか。また舟の中へ新しく入り来る空気なければ、われらは息絶えて死ぬるべし”と言った。

イテル2,20,すると主は答えてジェレドの兄弟に仰せになった”汝は舟の上にも舟の下にも穴を作り、空気悪しくて苦しむ時には穴を開けて空気を通せ。また水この穴より舟の中に入る時には溺れざるように穴を閉じよ”と。

イテル2,21,そこでジェレドの兄弟は主の命令通りに穴を作り、

イテル2,22,また祈りを捧げて言った”主よ、われはすでに主がなせと言いたまいし通りにして、共に来りし者たちのために舟を造りたるが、いまだその中に光なし、主よ、汝はわれらにこの大海を暗やみの中にて渡らせたもうべきか”と。

イテル2,23,するとこの時主はジェレドの兄弟に”汝らはその舟の中に光のあらんため、われに何をせられんことを願うか。見よ、窓はばらばらにこわるるによりつくることを得ず。火の光にては航海するを得ざるにより汝ら火を用うべからず。

イテル2,24,山の如き大波汝らの上をうちこえ、汝らはあたかも海の中の鯨の如くならん。されど、われはもろもろの風をわが口より吹き出し、もろもろの雨を降らし、もろもろの水を送る故に、われは汝らを海の深みより上げて波の上に浮すべし。

イテル2,25,風と雨と波とを避くるため、われは汝らによく準備をなさしめん。もしも海の波と吹き来る風とよせ来る水の山とを避くるため汝らに準備をなさしめざば、汝らはこの大海をわたることかなわず。故に、汝らが海の深みに沈める時に光あるため、汝らはわれに何を備えら

イテル2,25-1,願うや”と仰せになった。

イテル3,,イテル書 第3章

イテル3,*-*,主の指。イエス・キリスト、霊体でジェレドの兄弟に現われたもう。光る石。解訳器。将来現われる記録。

イテル3,1,(この時造られた舟の数は8隻であった)。さてジェレドの兄弟はシームレ山に行ったが、この山は非常に高かったのでジェレドの1行がシーレムと名づけたのである。ジェレドの兄弟はシーレム山へ言って岩から16の小さな石を溶し出した。その石は透明なガラスの

イテル3,1-1,澄んでいるものであった。ジェレドの兄弟はこれを持って山の頂上にのぼり、また主に祈って、

イテル3,2,”主よ、主はわれらが水に取りまかるべしと宣いしが、見たまえ、汝の僕は御前にて弱気ものなれどわが弱きことを怒りたもうな。主は聖きお方にて天にましませど、われらはその御前にて恵みを受くる資格のなき者なることを自ら知る。人類の始祖が墮落したる結果、

イテル3,2-1,われらの性質は常に悪し。されど主よ、われらが願うものを主より授かるために、われらは主に願い求むべしと主は命じたまえり。

イテル3,3,主よ、主はわれらが悪しきことをなしたるによりわれらを打ち、われらを追い出したまえり。よりて、われらはこの長き間あれのに住みたれど、汝はわれらを深く憐みたまえり。主よ、今もわれを顧りみて汝の民なるわれらより主の怒りを遠ざけ、この怒涛さかまく荒海

イテル3,3-1,中にてわたらせたもうなかれ。われが岩より溶し出したるこの石を見たまえ。

イテル3,4,主よ、主は全能をもちたもうて、何にてもみこころにかなう一切のことを人のためしたもうことをわれは知る。よりて、この石に主の指を触れて暗やみの中にて光を出す石となしたまえ。さらば、そはわれらの造りし舟の中にて光を出し海を渡る間われらの所を照す。

イテル3,5,主よ、汝はこれを為すことを得。汝が現わしたもうべき力は、人の目に小さく見ゆるも実は偉大なることをわれらは知る”と。

イテル3,6,ジェレドの兄弟がこう祈った時に主がそのてを伸して1つ1つの石にその指をさわりたもうと、ジェレドの兄弟の目から幕が取り去られて、ジェレドの兄弟は主の指を見た。その指は人間の指に似て血肉の指のようであったから、ジェレドの兄弟は恐怖に打たれて主の前

イテル3,7,主はジェレドの兄弟が地に倒れたのを見て”立て、何故倒れたるか”と仰せになった。

イテル3,8,そこでジェレドの兄弟は、主が血肉の指を持っていたもうとは知らなかったから、主の指を見て、主が私を打ちたまいはせぬかと思ったからであると答えた。

イテル3,9,すると主は”汝の信仰厚き故に、われはわれがこの後血肉を受くる事実を汝に見せたるなり。これまで汝の如き大いなる信仰をこめてわが前に来りし者なし。汝も、もしこれほど厚き信仰を持たざりせば、わが指を見ること能わざりしならん。汝はわが指のほかに見たる

イテル3,9-1,ありや”と仰せになった。

イテル3,10,そこでジェレドの兄弟は”主よ、指のほかには何も見ざりき。御姿をわれに見せたまえ”と願った。

イテル3,11,すると主は”汝はわれがこれより告ぐことを信ずるや”と言いたもうたから、

イテル3,12,ジェレドの兄弟は”主よ、汝は真実の満ちたる神なる故、偽りが言えず真実を宣うことを知る”と答えた。

イテル3,13,かれがこう言うと、主は現われてその姿をジェレドの兄弟の目に示して言い他もうた”汝はこれらのことを知る故に、もはや始祖は墮落より帰されてわが目のあたりにあり。ゆえにわれは汝に現われてわが体を汝に示す。

イテル3,14,見よ、われはわが民を贖うために創世の前より備えられたる者なり。われはイエス・キリストなり。父なり、子なり、わが名を信ずる一切の者はわれによりて永遠に光を受け、またわが息子わが娘となる。

イテル3,15,われはこれまで、わが造りし人間に現われてわが体を示したることなし。そは汝の如くわれを深く信ずる者のかつてなかりしためなり。汝らがわが形にかたどりて造られたることを今汝は見ずや。最初に一切の人々はわが形にかたどりて造られたり。

イテル3,16,見よ、今汝が見るこの体はわが霊体なり。われはわが霊の体にかたどりて人を造れり。われは今わが霊のまま汝に現わると同じ形の肉体を具えてわが民にもまた現われん”と。

イテル3,17,さて私モロナイは書き記されてあることをこまかに述べる事ができないと前に言っておいたから、次のことを述べて満足する。イエスはちょうど後にニーファイ人に現われたもうた時の体と態度に似た霊体と態度とを以てジェレドの兄弟に現われたもうた。

イテル3,18,またイエスはちょうどニーファイ人に導きと恵みとを与えたもうた通りに、ジェレドの兄弟にも導きと恵みとを与えたもうた。こうしたもうたのは、主がこれまでジェレドの兄弟に示したもうた多くの偉大な事によって、自らが神であることをジェレドの兄弟に知らせる

イテル3,18-1,ためであった。

イテル3,19,こればかりでなく、ジェレドの兄弟には深い知識があったから、幕の内を見ることを禁ずることができなかった。それであるから、ジェレドの兄弟はイエスの指を見てそれが主の指であることを知り恐れて倒れた。ここに於てジェレドの兄弟は信仰のみならずまた疑わず

イテル3,19-1,知る知識を得た。

イテル3,20,すでに神を知ると言うこのような完全な知識を得たのであるから、ジェレドの兄弟が幕の内を見ることを禁ずることはできなかった。従ってジェレドの兄弟はイエスを見て、イエスはかれに導きと恵みとを与えたもうた。

イテル3,21,さて主はジェレドの兄弟に命じて”汝が見聞きしたこれらのことは、われが肉体を具えてわが名の栄えを世の中に示すことを得たる後まで、汝は世の人々にこれを知らすべからず。汝はこれを大切に記憶すべきなれどほかの人に示すべからず。

イテル3,22,されど、汝はわが所へ上るびき時にこれらのことを書き留めよ。すなわち、これを解釈する者のなきように人々の読めぬ言葉もてこれを書き記して封ぜよ。

イテル3,23,見よ、ここに2つの石あり、これを汝に与う。何jはその記録と共にこれも封ずべし。

イテル3,24,そは、汝の書く時に使う言語はわれがすでにこれを乱したるにより、わがころにかなう時になりて、汝の書きたる記録をこの2つの石によりて明らかに人々に通ぜしめんとすればなり”と言いたもうた。

イテル3,25,主はこのように言うてから、世の始めからこの世に居た人々も、これから世の終りになるまで生れてくる人々もかくすことなくみな経れ度の兄弟に見せたもうた。

イテル3,26,主はさきにジェレドの兄弟が主を信じたならば一切のことを見せてやる、いや必ず見せてやると約束したもうたから、今ジェレドの兄弟が主は一切のことを自分に示す能力があると知ったので、主はどのようなことでもジェレドの兄弟に見せるのを禁じたもうことはでき

イテル3,27,主はジェレドの兄弟に向って、これらのことを記録して封ぜよ。われはわがころにかなう時になって、これを世の人に示すと言ひ、

イテル3,28,またジェレドの兄弟に授けたあの2つの石は、主がこれを世の人々に示したまわらない内は誰にも示さずに封じておくと、ジェレドの兄弟に命じたもうた。

イテル4,,イテル書 第4章

イテル4,*-*,ジェレドの兄弟、記録をせよと命ぜられる。モロナイの厳かな戒め。主の言葉に逆らう者は禍なり。人に説きすめて善を行わせるのは神から出る。

イテル4,1,主はジェレドの兄弟にその御前を去って山を下り、かれの見たことを記録せよと仰せになったが、その記録は主が十字架にかかりたもうた後まで、これを世の人に知らせてはならないと命じ他もうた。それで、モーサヤ王はこの命を守ってキリストがその民に現われたも

イテル4,1-1,これを世の人に知らせなかった。

イテル4,2,しかしキリストは本当にその民に現われたもうた後、これらのことを明らかにせよと命じたもうた。

イテル4,3,さて、キリストが降臨したもうてから後にその民がみな無信仰に陥ってしまつて、今やキリストの福音を拒

むレーマン人のほかに誰もいないから、私モロナイはジェレドの兄弟が見たことの記録をまた地の中に埋めて隠せと言う命を受けた。

イテル4,4,ごらん、私はジェレドの兄弟が見たことをさながらそのままこの版に写した。ジェレドの兄弟に示されたことより優れて大きなことはいまだかつて人に示されたことがない。

イテル4,5,それで主はこれを書けと私に仰せになったから、その通り私はこれを書いた。また主はこれとその解訳器とを封ぜよと私に仰せになったから、主の命令通り解訳器も封じておいた。

イテル4,6,主は私に次のように仰せになった”汝が封じておくこれらのものは、異邦人がその悪事を悔い改めてわが前に清くなるまでかれらに伝わらず。

イテル4,7,異邦人がわれによりて聖くさるるために、ジェレドの兄弟の如くわれを信ずる日來らば、われはジェレドの兄弟が見たることを異邦人にも示して、わがすべての啓示の意義をかれらに了解せしむべし。天地とそこにあるすべてのものの父たり、神の子たるイエス・キリ

イテル4,7-1,かくのごとく言う。

イテル4,8,わが言葉に背く者はのろわる。また封ぜずしてこの版にのせたことを否定する者はのろわる。かくのごとき者にはこれより大なること示されず。これを言う者は、われすなわちイエス・キリストなり。

イテル4,9,わが命令によりて天は開き、またわが命令によりて天は閉ず。わが言葉に従いて地は震い、わが命令によりてあたかも火に焼きはらわるごとくに世の人は亡び失せん。

イテル4,10,わが言葉を信ぜざる者はまたわが弟子たちを信ぜず。汝らはこれを主の言葉にあらずと思うも、終りの日になりてそがわが言葉なるを知るべし。

イテル4,11,わが宣べたることを信ずる者にはわが”みたま”の示しを与うるにより、かれは知る力と証を立つる力とを授かる。わが言葉は善を行えと人に説きすすむるものなる故に、わが”みたま”の示すところによりてわが言葉の真実なるを知ればなり。

イテル4,12,およそ残を行えと人にすすむるものはみなわれより出づ。われのはかには善の出る所なし。人を誘い導きて人に善き行いをなさしむるものは、すなわちわれなり。すべてわが言葉を信ぜざる者はわれすなわち”われあり”信ぜず。われを信ぜざる者はわれをつかわしたま

イテル4,12-1,信ぜず。なんとすれば、見よ、われは父なり。また世の生命と世の真理なり。

イテル4,13,異邦人よ、われに來れ、さらば今無信仰なる故に隠されたる知識、すなわちさらに優れて偉大なることを汝らに示さん。

イテル4,14,イスラエルの家よ、われに來れ。さらば御父が創世の前より汝らのために具えたまいし偉大なること汝らに示されん。汝らにそがいまだ示されざるは無信仰なる故なり。

イテル4,15,イスラエルの家よ。もし汝らが汝らをその恐ろしきよこしまなる有様とかたくななる性質と心の暗さとに留らしむる無信仰の幕を裂きやぶるとき、すなわち汝らが真にへりくだりたる心と悔いる精神とをもってわが名により御父に祈る時來らば、世の始めより隠して汝ら

イテル4,15-1,さりし大なる驚嘆すべきことと、御父が汝らイスラエルの家先祖に立てたもうたる誓約を忘れずにもはや果したることを汝ら知るを得べし。

イテル4,16,またその時に、われがすでにわが僕のヨハネに書き留めしめし示現の意義は明らかに万民に解るべし。ヨハネが受けたる示現の意義明らかとならば、汝らはその示現事実となりて現わるる時の近きことを知れ、このことを忘るな。

イテル4,17,故に、この經典が汝らに伝行行くとき、御父の事業はすでに全世界に始まりりと言うことも知れ。

イテル4,18,それ故に、世界の隅々に至る者たちよ。悔い改めてわれに立ち帰れ。わが福音を信じ、わが名によりてバプテスマを受けよ。信じてバプテスマを受くる者は救わる。信ぜざる者は救れず。またわが名を信ずる者にはしるし伴う。

イテル4,19,終りの日にわが名に忠実なりと認めらるる者は救いあげられて、創世の前よりそのために具えられたる国に住むを得る故にさいわいなり。見よ、これを宣ぶる者はすなわちわれなり。 アーメン”。

イテル5,,イテル書 第5章

イテル5,*-*、将来モロナイの記録を翻訳する者に与えるモロナイの言葉。

イテル5,1,さて、これで私モロナイは私に命ぜられたことを記憶するままに書き記した。また私が封じたものについてはもはやあなたに話してあるから、あなたは封じてある所を翻訳するために手をつけてはならない。それをするとは今あなたに禁じてあるが、後から神はこれを

イテル5,1-1,みこころによって許したもう。

イテル5,2,その時あなたは經典を世に現わす業を助ける者たちにこの版を見せることを許される。

イテル5,3,そして神はその御力によってこの版をほかの3人に見せたもうから、その3人はこの記録が真実であることを確に知る。

イテル5,4,これによって、3人の見証者の証言によってこの版とこの記録が確実であることが明らかになる。こうして御父と御子と聖霊とが証をしたもう神の権能と力と言葉とを示すこの經典は、終りの日に世の人々に体する証となる。3人の証言もまたその通りである。

イテル5,5,しかし、世の人々がもし悔い改めてイエスの御名によって御父の許に立ち帰るならば、神の王国に迎え入れられるであろう。

イテル5,6,そもそも、これらのことを宣べる権能が私んあいとあなたたちが思っても、あなたたちは終りの日に私を見て私と一しょに神の法廷に立つ時になると、私に権能があることを知るにちがいない。アーメン。

イテル6,,イテル書 第6章

イテル6,*-*,ジェレド人の物語(つづき)。奇跡によって舟の中が照される。海の深みを通して約束の地へ行く。民は王を欲する。その指導者は禍を先見したが一般の意志に服する。ジェレドとジェレドの兄弟の死。

イテル6,1,私モロナイは、ジェレドとジェレドの兄弟との歴史の本筋を書きつづけよう。

イテル6,2,ジェレドの兄弟が山の上へもって行ったあの石に主がその指をさわったもうてから、ジェレドの兄弟は山を下って、すでに造ってあった舟の中にその石を入れた。そして舟のへさきとともに1つずつ置いたところ、ごらん、その石は本当に舟の中を照らした。

イテル6,3,このようにして主は位所で石に光を出せて男、女、子供たちが暗やみの馬鹿で大海渡ることをないようにこれを照らしたもうた。

イテル6,4,このようにして、ジェレドの1行は海を渡る間に必要なあらゆる食物を容易し、またその家畜と携えて行くあらゆる獣と鳥に食わせる物も用意した。そして準備万端備ったから、主なる神の御守りに身を任せて舟に乗りこみ海の上へ漂って出た。

イテル6,5,主なる神が約束の地の方へ吹く烈しい風を海の上に起させたもうたので、舟は風のまにまに波に漂った。

イテル6,6,舟はその上に碎ける山のような波と烈しい風の生ずる恐ろしい暴風雨のために、たびたび海の深みへ沈んだ。

イテル6,7,しかしこのような時に、舟は皿のようにまたノアの箱船のように水が少しも洩らないよう密着して造ってあったから、水のあためにそこなわれることがなかった。水の中に沈んだ時に主に祈ると、主は舟を海の上に浮ばせたもうた。

イテル6,8,偉業が海にた間、風は止まずに約束の地の方へ吹いたから、かれらは風のまにまに走った。

イテル6,9,かれらは主に讃美の歌を唱った。ジェレドの兄弟は1日中主に讃美の歌を捧げ、主をあがめ、主に感謝をした。夜になってからもかれらは主を讃美することを止めなかった。

イテル6,10,こうしてその舟を走らせたが、かれらを害する海の怪物もなく鯨もいなかった。そして、海の上に浮いている時も、水の中に沈んでいる時も舟の中はいつも明るかった。

イテル6,11,このようにして1行は344日の間海の上を走り、

イテル6,12,とうとう約束の地へ着いたが、上陸するとすぐに地にへれ伏し、主の前にへりくだって主が自分たちに授けたもうた恵みが豊かなことを感じて喜びの涙を流した。

イテル6,13,それから、かれらは地の面に散って耕作を始めた。

イテル6,14,ジェレドには4人の息子があってその名をジェコム、ギルガ、メーハオライハと言った。

イテル6,15,またジェレドの兄弟も息子や娘をもうけた。

イテル6,16,ジェレドとジェレドの兄弟との友だちの人数はおよそ22人であって、まだ約束の地へ来ない内に息子や娘たちを生んだので、ジェレドの民は数多くなり始めた。

イテル6,17,かれらはみな主の前にへりえくだれと教えられまた天から教訓を授けられた。

イテル6,18,この民は地の面に散ってその数を増し、また地を耕して約束の地で強くなった。

イテル6,19,ジェレドの兄弟はよううあく年をとったので墓に入るのも遠くないと思ってジェレドに向って言った“われわれの民の人口をしらべるために、またわれわれが墓に入る前に民がわれわれに何をしたいと思っているか聞くために民を集めようではないか”と。

イテル6,20,そこで民を集めてしらべて見ると、ジェレドの兄弟の息子と娘は合せて22人、ジェレドの息子と娘は合せて12人、その中4人は息子であった。

イテル6,21,ジェレドとジェレドの兄弟は民の人口をしらべてから、自分らが墓に入る前に民は自分らに何をしたいかと言った。

イテル6,22,すると民は、ジェレドの兄弟の息子の1人、またはジェレドの息子の1人に油を注いでこれを民の王にして欲しいと言った。

イテル6,23,しかしこれはジェレドとジェレドの兄弟に心配であったから、ジェレドの兄弟は民に答えて“王を立てると確に自由を奪われる”と言った。

イテル6,24,ところがジェレドは“民に王があることを許せ”とジェレドの兄弟にすすめたので、ジェレドの兄弟にすすめたので、ジェレドの兄弟は“わが息子またはジェレドの息子の中から汝らの善いと思う者を1人王に選べ”と民に命じた。

イテル6,25,民はジェレドの兄弟の長男であるペーガグを選んだところペーガグは民の王になることをことわった。そこで民はペーガグの父に、どうしてもペーガグの父に、どうしてもペーガグを王の位に座らせてほしいと願ったが、父はこれを聞き入れず、王になることは誰もこれ

イテル6,25-1,強いてはならないと命じた。

イテル6,26,このようにして民はペーガグの兄弟を1人1人のこらず王に選んだが、かれらはみなことわった。

イテル6,27,ジェレドの息子もまたただ1人を除くほかみなことわった。そこでオライハは油を注がれてとうとう民の王となった。

イテル6,28,オライハが王の位について民は栄えまた大いに富むようになった。

イテル6,29,そしてついにジェレドとジェレドの兄弟は亡くなった。

イテル6,30,オライハは主の御前にへりくだって、主が自分の父のために偉大なことをなしたもうたのを忘れず、またその民に主が民の親たちのために偉大なことをなしたもうたことを教えた。

イテル7,,イテル書 第7章

イテル7,*-*,オライハは義しく民を治めた。後に謀叛が起り王は位を奪われ戦が起る。敵国、シュール国とコーホル国。悪事と邪神礼拝。予言者らが現われて民が悔い改める。

イテル7,1,オライハは一生の間義しく国を治めた。その一生ほ非常に長くて、

イテル7,2,もうけた息子や娘たちは合わせて31人であったが、その中23人は男であった。

イテル7,3,オライハは老年に及んで息子のキブを運だが、キブは父のあとを受けて民を治めた。キブはコラホルを生んだ。

イテル7,4,コラホルは32才の時、その父のキブに叛いてニーホルの地へ移り息子や娘たちを生んだ。この息子や娘たちはまことに美しかったから多くの民が誘われてコラホルの味方になった。

イテル7,5,ついにコラホルは軍勢を集めキブ王の住んでいるモロンの地へ軍を進めて王をとりこした。この事件によってジェレドの兄弟の予言、すなわち民が自由を奪われるようになるという言葉が事実となった。

イテル7,6,王の住んでいたモロンの地はニーファイ人がデソレションと言っている地に近かった。

イテル7,7,ギブ王は非常に年をつるまでその民と共に自由を奪われてわが息子であるコラホルの下に属していた。キブ王はとらわれの境涯に居たが、老年に及んでシュールを生んだ。

イテル7,8,シュールは生長してその兄弟コラホルに怒りを抱いた。シュールはようやく強くなってその体力は人にすぐれ、判断の力も大きかった。

イテル7,9,それでシュールはエフライの丘に行き、かねて誘って味方につけておいた者たちのために丘から鉄を掘り出し、これを溶して鋼としその鋼で刀をきたえてこれで味方を武装してからニーホル市に帰り、その兄弟のコラホルと戦ってこれに勝ち、その父キブを再び王の位に

イテル7,10,シュールがこれをしたから、父のキブはシュールに王の位をゆずった。よってシュールは父のあとを受けて民を治めた。

イテル7,11,シュールは義しい政事をしてその国を拡張し地の全体に及した。その民が非常に殖えたからである。

イテル7,12,シュールもまた息子や娘を数多く生んだ。

イテル7,13,コラホルはその行ったいろいろの悪事をすでに後悔していたから、シュールはコラホルに権力を与えて政府の職につかせた。

イテル7,14,コラホルには多くの息子や娘があつてその息子の1人にノアと言う者があつた。

イテル7,15,このノアはシュール王と自分の父のコラホルとに叛き、自分の兄弟のコーホルとほかの兄弟みな多くの民とを誘ってこれを自分の味方にした。

イテル7,16,そしてノアはシュール王と戦って、民が最初住んでいた地を占領しこの地を治める王になった。

イテル7,17,それからまたシュール王と戦って王をとりこにし、モロンの地へ引いて行った。

イテル7,18,シュール王がまさに殺されようとした時、シュールの息子たちは夜ノアの家へ忍びこんでノアを殺し、牢屋の門をこわして父シュールを救い出し、父の国へつれて言ってまた王の位につけた。

イテル7,19,それでノアの息子は父のあとを受けてその国を盛んにしたが、2度とシュール王に勝つことはできなかった。シュール王の治める民は非常に栄えて強大になった。

イテル7,20,この出来事によって国がわかれて2つの王国となり、1つはシュールの国、今1つはノアの息子のコーホルの国であった。

イテル7,21,ノアの息子のコーホルはその国の民にシュールと戦わせたが、その戦でシュールは敵に勝ちコーホルを殺した。

イテル7,22,コーホルにはニムロデと言う息子があつた。ニムロデはコーホルの国をシュールにゆずり帰してシュールの行為を得たから、シュールから大きな恵を与えられ、シュールの国でその心のままに行う自由を得た。

イテル7,23,シュールの治世の中に、主がつかわしたもうた予言者らは民の中に出て来て、民の罪惡と邪神礼拝のために地がのろいを受けること、また民が悔い改めなければ亡びると言うことを予言した。

イテル7,24,ところが民は予言者たちをののしりあざけた。しかし、シュール王は予言者らをののしる者をことごとく罰し、

イテル7,25,また予言者たちは行きたいと思う所へ自由に行ける権利を与える法律を全国に布いた。これによって民はついに悔い改めた。

イテル7,26,民がその惡事と邪神礼拝とを悔い改めたから、主は民の命を助けたまいかれらは再び地の上で榮えた。シュールは老年に及んでからさらに息子や娘たちを生んだ。

イテル7,27,このようにしてシュールの治世にはもはや戦争がなかつた。シュールは主がその先祖に大海を渡らせて約束の地へ導きたもうた偉大な御業を忘れることなく、一生の間義しくその国を治めた。

イテル8,,イテル書 第8章

イテル8,*-* ,善王オーメルの子ジェレド、イキシと共に叛いて王の位を奪う。争鬭と流血。殺人秘密結社。近代の異邦人がこのような兼書をつくることを警める。

イテル8,1,シュールはオーメルを生み、オーメルは父のあとを受けて国を治めた。オーメルはジェレドを生み、ジェレドはその息子や娘たちを生んだ。

イテル8,2,ジェレドはその父に叛いてヘツの地に移った。ジェレドは巧な言葉で多くの者にへつらい、国の半分までその味方にした。

イテル8,3,それから後その父と戦つてこれを取りこし、その自由を奪つた。

イテル8,4,そこでオーメルはその生涯の半分をとられの身で送つたが、かれは息子や娘を生み、その中にエスロムとコリアントメルと言う2人の息子があつた。

イテル8,5,この2人はその兄弟のジェレドが惡事をしたことを非常に怒り、軍勢を集めてジェレドと戦つた。2人は夜戦つて、

イテル8,6,ジェレドの兵を殺し、さらにジェレドもまさに殺そうとしたが、ジェレドはもし自分の命を許してくれたら父に王の位をゆずり返すと言って命乞をした。それで2人はジェレドの命を許した。

イテル8,7,さてジェレドはその王国や世の中の榮華に執着していたから、王の位を失うことを非常に悲しんだ。

イテル8,8,ところが、ジェレドの娘は非常に賢く巧な者であつたから、その父の悲しむのを見て再び父を王の位につかせる計ごとをめぐらそうとした。

イテル8,9,この娘は非常に美しかつたが、その父に話して言つた。父上はなぜこのように悲しみなさるか。あなたは、私たちの先祖が大海のむこうから持ってきた歴史をお読みにならなかつたか。昔の人たちがその秘密の計ごとで国をとつて大きな榮華を得たことが書いてあるでは

イテル8,10,それであるから父上よ。使をやつてキムノルの息子のエキシを呼びたまえ。私は美しいのでエキシの前で踊をおどり、エキシが私を妻にしたいと思うくらいエキシの心を喜ばせる。エキシがもし私を妻として与えたまえと父上にねがつたなら、エキシにわが父王の首を持

イテル8,10-1,きたなら私を妻として与えると約束をなしたまえ、と。

イテル8,11,オーメルはエキシの友であつた。ジェレドが使をやつてエキシを読んだので、ジェレドの娘はエキシの前で踊をおどつてエキシを喜ばせた。それでエキシはジェレドの娘を妻にしたいと思い、私の妻としてもらいたいとジェレドに願つた。

イテル8,12,するとジェレドは“お前がもしもわが父王の首を持ってきたなら娘を妻にやる”とエキシに答えた。

イテル8,13,そこでエキシはその親類をみなジェレドの家に集めてこれに言つた“あなたたちは、今私があなたたちにたのむことについて私に忠誠を誓ってくれるか”と。

イテル8,14,かれらはみな答えて、エキシの望む助けと相違する行いをする者はその首を切られる、またエキシが自分らに示すことを何ごとでも洩す者は殺されるとエキシに誓つた。この誓いをかれらは天の神と、天と地と、自分らの頭を指して誓つたのである。

イテル8,15,かれらはこのようにエキシに誓つたから、エキシは昔權力を貪る者共が用いた誓約、すなわち世の始めに人殺しを企てたカインから伝つた誓約をかれらに立てさせた。

イテル8,16,このような誓約は、惡魔がこれを民に立てさせてひきつづき民を惡の中に居らせ、權力を貪る者を助けてこれに權力を得させ、人に殺害、掠奪、虚言などをさせ、またあらゆる罪惡とみだらな行いとをさせるために、惡魔の力で代々伝えたものである。

イテル8,17,ジェレドにこれらの昔の誓約の方法を探し求める心を起させたのはジェレドの娘である。そしてジェレドは今エキシにも同じ心を起させたので、エキシはその親類と友だちとにこの誓約を立てさせて甘い言葉の約束で

かれらをまどわし、自分の心のままを行かせたのであ

イテル8,18,この者どもは昔の人々のように秘密結社をつくったが、このような結社は神の目から見て極めて憎むべきもので、ほかのどのようなものよりも悪い。

イテル8,19,なぜならば神は何事も秘密結社を以て行いたまわず、また人殺しをするを良しとなしたまわず、かえって人間が造られてからこのかた全くこれを禁じたもうからである。

イテル8,20,私モロナイはこのような誓約の方法と結社の組織とを書きしるさない。この同じ誓約と結社とが諸国の民の中にあることを私は示された。またそれがレーマン人の中にあることも私は知っている。

イテル8,21,私が今記録する民であるジェレド人はこの誓約と結社があったので亡びた。ニーファイの民もまたそうである。

イテル8,22,権力を奪い利益を得ようとして、このような秘密結社を助けて全国に拡がらせる国民は亡びる。それは秘密結社のために殺される主の聖徒らの血が、土の中から裂けんでその結社に報いたまわんことをいつもねがうのに、主がただこれを聞くだけで報いをせずにおきたも

イテル8,22-1,決してないからである。

イテル8,23,異邦人よ、これらのことをあなたたちに知らせるのは神のみこころにかなうことである。これを知るによって、あなたたちはその罪を悔い改めることができ、また権力を奪い利益を得るために起こされるこのような殺人結社を抑えて、あなたたちを支配させないようにす

イテル8,23-1,できる。これだけではなく、もしこの結社をあなたたちの中におく時にあなたたちが受ける滅亡、すなわち永遠の神の正義の剣が頭の上へ落ちてきてあなたたちを亡ぼすところの滅亡をまぬがれることができる。

イテル8,24,従ってこのような秘密結社があなたたちの間にできるのを見るときには、この結社のためにあなたたちが受ける境涯の恐ろしいことを思っ自ら警めなくてはならない。これは主が仰せになる命令である。この命令を守らないと、すでに殺された者たちの血が、土の中か

イテル8,24-1,秘密結社とこれを助ける者と共に報いたまえと主にねがい求める。から、その結社とこれを助ける者とは禍である。

イテル8,25,誰であってもこのような結社を弘める者は、すべての地とすべての民とすべての国の自由を奪い取ろうとする者である。また結社そのものは悪魔が作ったものですべての民に滅亡を来すのである。悪魔は一切の偽りを生む親であって私たちの始祖を誘ってまどわし、最初

イテル8,25-1,人殺しをさせ、人間の心をかたくなにして最初から人間に予言者らを殺させ、石でこれを撃たせ、これを追い払わせたあのいつわり者である。

イテル8,26,私モロナイは以上のことを書き記せと言われたが、これを書くわけは悪がなくなるため、またサタンが世の人々をまどわす力を失って、世の人々がすすめを受けてたえず善いことを行い、すべての義の源へきて救われる時がくるようにするためである。

イテル9,,イテル書 第9章

イテル9,*-*,オーメル、王の位を失ったが再び王の位を得る。イーメルの治世よく栄える。その時代の動物、クレロムとクモン。もろもろの王。飢饉と毒蛇。

イテル9,1,さて私モロナイはまたこの歴史の本筋を書きつづける。ごらん、エキシとそのともがらとは秘密結社で以てオーメルの国を覆した。

イテル9,2,国は破れたが、主はオーメルとオーメルを殺そうと企てない息子や娘たちを憐み、

イテル9,3,国を立ち退けと夢でオーメルに警めたもうたので、オーメルはその家族をつれて国を立ち退き、多くの日を旅に暮してシムの丘のあたりを通りニーファイ人の全滅した所まで進み、それから東の方へ向って海に近いアーブロムと言う所へ来た。オーメルとその息子や娘ら

イテル9,3-1,全家の人々とは、ただジェレドとその家族だけを除いてみなアーブロムに移ってそこに天幕を張った。

イテル9,4,このようにしてジェレドは罪惡により油を注がれて民を治める王になり、その娘をエキシの妻とした。

イテル9,5,ところがエキシはその妻の父を殺そうと思っていたので、昔の人々の誓約によって誓いを結んでおいた者どもの助けを乞うた。そこでかれらはエキシの妻の父がその王座について民の謁見を許していたときその首をとった。

イテル9,6,この悪い秘密結社は一切の民の心を腐敗させるほどすではびこっていたから、ジェレドはその王座についているまま暗殺をされてエキシは王の位についた。

イテル9,7,さて、エキシはようやく自分の息子をねたんでこれを牢屋に入れ充分の食物を与えずとうとう飢死をさせた。

イテル9,8,このようにして殺された子の兄弟は(その名をニンムラーと言う)父が自分の兄弟をひどい目に逢わせたから父を怒り、

イテル9,9,少数の人を集め、これをつれその国を去り、オーメンの所へ行行って一しょに住んだ。

イテル9,10,エキシはこのほかにも息子たちを生んだが、この息子たちは父の望みに従っていろいろの悪事をする
誓ったにもかかわらず民の歓心を得た。

イテル9,11,エキシの民は利益を貪る民であったが、これはちょうどエキシが権力を無さぼったと同じである。それ
で、エキシの息子らは民に金銭を与えると言って大部分を誘い自分たちの味方にした。

イテル9,12,そこでついにエキシの息子たちとエキシとの間に戦争が始まり長年の間つづいたから、国民はほとんど
皆亡んでしまった。すなわち30人の者と、オーメルと一しょにほかへ立ちのいた者たちのほかに生きのこつ
た者はなかった。

イテル9,13,この出来事によってオーメルはその受け嗣ぎの地へまた帰ってくることができた。

イテル9,14,オーメルは老年に及んでいたが、なおイメールを生み、これに油を注いで自分のあとをついで王となり
民を治める権能を与えた。

イテル9,15,オーメルはイメールに油を注いでかれを王と定めてから、2年の間その国が平和な様を見てついに亡く
なった。オーメルの生涯はまことに長かったが憂いと悲しみに満ちていた。イメールはその父の後をついで民を治
めその父の道を守った。

イテル9,16,主はまた地からのろいを取りのぞきたもうたので、イメールの家はイメールの治世によく栄えた。そして
62年たたない中に人民は非常に強くなり。まことに富んだ者となった。

イテル9,17,そしてあらゆる木の実、穀物、絹の布、良い質のリンネル、金、銀、貴重な品、

イテル9,18,ならびにあらゆる家畜、牡牛、牝牛、羊、豚、山羊そのほか人の食用に供するいろいろの動物をもって
いた。

イテル9,19,馬、ろば、像、クレロムおよびクモンもいた。これはみな人の役に立ったが、ことに像とクレロムとクモンは
役に立った。

イテル9,20,このように主はほかのどのような土地にも勝ったこの土地に祝福を与えて、すべてこの土地を所有する
者は主のみこころに従わなければならないと仰せになった。もし従わないと、その罪惡が頂点に達する時に必ず亡
びる。それは主が”かくのごとき者はわが烈しいき怒

イテル9,20-1,受く”と仰せになるからである。

イテル9,21,イメールは一生の間義しく国を治めて息子や娘を多くもった。イメールはコリアントムも運でこれに油を
注ぎ、自分の後を治めることに定めた。

イテル9,22,イメールはコリアントムに油を注いであとつぎに定めてから4年間生き永らえ、その間全国はおだやかで
あった。イメールはまた義の御子(イエス・キリスト)を見ることができてその降臨の時を思っ喜びまた誇りに思い、
ついにおだやかな死をとげた。

イテル9,23,コリアントムはその父の道を守り、また多くの大都市を建てて一生の間その民を義しく治めた。そして非
常に年をとるまで子をもたなかったが、

イテル9,24,その妻が102才になって亡くなったので、コリアントムは老年に及んで若い乙女をめとってこれにより息
子や娘たちを生んだ。こうしてコリアントムは104才まで生き永らえた。

イテル9,25,コリアントムはコームを生み、コームは父のあとをついで国を治め、その治世の第49年にヘツを生んだ
が、ヘツのほかにも息子や娘を生んだ。

イテル9,26,そのころ人民はまた地の全面に散在しておって、再び甚しい大きな罪惡が全国に始まった。そしてヘツ
は父を殺そうとして昔からあったあの陰謀をまた考え始めた。

イテル9,27,ヘツはついに自分の剣で父王を殺し王の位をとって自分で国を治めた。

イテル9,28,ここに於て、また予言者たちが国に現われて国民に悔改めをすすめ、また民が主の道を備えなければ
この地の面にのろいがある。すなわち、民が悔い改めないときに民を亡ぼす大きな飢饉があると予言をした。

イテル9,29,しかし民は予言者たちの言葉を信じないで、予言者たちを追いはい、その中のある者を穴の中に投
げこみそのまま捨てて置いて死なせた。これはみなヘツ王の命によって民がしたことである。

イテル9,30,そうすると地の面に雨が少しも降らず、ひどい飢饉になって住民は速に飢死をして行った。

イテル9,31,その上い毒蛇がその地に現われて多くの人がこれにかまれ毒にあたった。その時民のいろいろな家畜
の群は毒蛇から逃げてニーフアイ人のゼラヘムラと行った南の地へ行こうとしたが、

イテル9,32,その途中で死んだものが多かった。それにもかかわらず、よく逃げて南の地へ行ったものもあった。

イテル9,33,主は毒蛇をとめてもう家畜を追わないようにしたもうたが、道を通ろうとする毒蛇にかまれるので人が
通れないように毒蛇を置いて道を塞ぎたもうた。

イテル9,34,しかし、民は家畜のあとを追って行って、南へ行く途中で倒れた家畜の死骸を食いつくして1つものこさ
なかった。今や民は飢死をしなくてはならないことを覚ったので、その悪事を悔い改めて主に歎願しはじめた。

イテル9,35,そして民が充分に主の御前にへりくだったので、主は地の面に雨を降らせたもうた。それで民は再び生
きかえり、来たの地のどこにも実が成り始めた。このようにして主は民を飢饉から救って自分の力を示したもうた。

イテル10,,イテル書 第10章

イテル10,*-*,悪人リップラキシ。改革者モリアントン。そのほかの王朝ともろもろの戦。南の地は野に当てられる。来たの地を人の住む所とする。

イテル10,1,ヘツ王とその家族はシェズと言う1人の男を除いてみな飢饉のために死んでしまった。それでヘツの子であるシェズは亡びた国民の回復にとりかかった。

イテル10,2,シェズは先祖の亡びたことを忘れずに義しい王国を建て、主がジェレドとジェレドの兄弟とを導いて海を渡らせたもうた御業を思い起して主の道を歩み、息子や娘たちを生んだ。

イテル10,3,その長男の成をシェズと言ったが、シェzyは父に叛いた。しかしシェズは非常に富んでいたので強盗に殺され、そのため父王はまた平安を得た。

イテル10,4,シェズ王は地に多くの都市を建て、人民もまた地の全面に拡りはじめた。シェズ王は非常に年をとるまで生き永らえ、リップラキシを生んでから亡くなった。リップラキシはその父のあとを受けて国を治めた。

イテル10,5,リップラキシは主のみこころにかなう義しいことを行わなかった。かれは多くの妻や妾を持ち、民に堪え難い重荷を置かせ、重い税を民に課し、その税で多くの広大な建物を建て、

イテル10,6,自分のために非常に美しい玉座を造り、また1方に多くの牢屋を建てた。そして課税に服さない者や税を納める力のない者をこの牢屋に入れ、命をつなぐために常い労働をさせた。そして労働することを拒む者はみなこれを殺した。

イテル10,7,また牢屋の中ですべての精巧な品物を造らせ、純粋な金まで清廉させ、一切の見事な細工を営ませた。そして、そのみだらな行いと憎むべき行いで民をなやました。

イテル10,8,リップラキシが42年の間その国を治めた後、国民はかれに対して謀叛を起し、また国内に戦が始まった。そしてリップラキシは殺され、その子孫は国から追い出された。

イテル10,9,それから長年経ってモリアントンと言う人(リップラキシの子孫)が追放された者たちで軍隊を組織し、出て行って国民と戦多くの都市を占領した。そこでこの戦は非常に激しく長い年月つづいた。しかしこの戦によってモリアントンはついに全国を占領して自分で

イテル10,9-1,王となった。

イテル10,10,かれは王になってから国民の負担は軽くしてその歡心を得た。そこで国民はモリアントんに油を注いでかれを自分らの王にした。

イテル10,11,モリアントンは国民に対しては正義を行ったが、自らはいろいろみだらな行いをして自分の身を正しく保たなかったから主の御前から断ち切られた。

イテル10,12,しかしモリアントンは多くの都市を建てて、その治世の中に国民は建物、金、銀、穀物およびいろいろの家畜に富み、またすべて自分たちに回復された業に榮えるようになった。

イテル10,13,モリアントンは非常に年をとってからキムを生み、キムは父から位をゆずられた。そして8年の間国民を治めてから父モリアントンは亡くなった。キムは義しく国を治めなかったから主の恵みを受けなかった。

イテル10,14,そこでキムの兄弟は叛いてキムを捕えたのでキムはとらわれの身で余生を送った。しかしキムの息子や娘たちを生み、年をとってからもレビを生んでから亡くなった。

イテル10,15,レビはその父が死んでから42年の間自由を奪われた境涯を送っていたが、ついに国王に対して戦を平木王の位を得た。

イテル10,16,レビは王国をとってから主のみこころにかなう義しい事を行い、人民は地に榮えた。レビは年とるまで生き永らえ、年をとってからも息子や娘たちを生みまたコールムも生んだ。そしてコールムに油を注いで自分のあつを ついで王となる権能を与えた。

イテル10,17,コールムは一生の間主のみこころにかなう義しい事を行い、多くの息子や娘を生み長生きをしたが、ついにほかの人々のようにこの世を去った。あとはキシがこれを受けて嗣ぎ民を治めた。

イテル10,18,キシが亡くなるとリブが代って国を治めた。

イテル10,19,リブも主のみこころに背かずの良い事を行った。リブの時代にはあの毒蛇が亡ばされていたから、南の地には森の獣が1ぱい居て国民のために食物をとろうとして南の地へ行く者たちがあった。リブもまた名高い狩人になった。

イテル10,20,陸地が狭くなって北の地と南の地が海によって区分される所に近く大きな都市が建てられた。

イテル10,21,南の地は鳥や獣をとる広野に当てられ、北の地は全体に人が満ちていた。

イテル10,22,住民は非常に勤勉で物売り買いし、利益を得るために互に交易をした。

イテル10,23,そしてあらゆる鉱物を以て細工をし、また金、銀、鉄、真鍮およびあらゆる金属を作った。また金、銀、鉄、銅の鉱物を地の中から掘り出して得るために土を掘って高くこれを積み上げた。そしてすべての精巧な細工をした。

イテル10,24,民は絹の良い質のリンネルとを持ち、またはだかを覆うためにあらゆる種類の織物を織り出した。

イテル10,25,またあらゆる工作の道具を造り、地を耕す道具、種子を蒔く道具、また穀物をこなす道具があった。

イテル10,26,また家畜を使うに必要なあらゆる道具も造り、

イテル10,27,あらゆる武器もきたえ、またあらゆる非常に珍しい細工もした。

イテル10,28,それであるからこの国民よりも祝福に富んで主に栄えを受ける国民はほかにあるはずがない。またこの民の住む地はほかのあらゆる地よりもすげれた地であった。主がそのように言いたもうたからである。

イテル10,29,リブは長生きをして息子や娘たちを生み、またヘルツホムと言う息子を生んだ。

イテル10,30,ヘルツホムはその父のあとをついで王の位についたが24年間国を治めた後王の位を奪われた。そして長年の間自由のない境涯の中に余生を送った。

イテル10,31,ヘルツホムはヘツを生み、ヘツもまたとらわれの身で一生を送った。ヘツはアロンを生んだが、アロンもまたとらわれの身で一生を過した。アロンはアムニガダを生んだ。アムニガダもまたとらわれて生涯を暮した。アムニガダはコリアントムを生んだ。コリアントムも

イテル10,31-1,とらわれの生涯を脱することができずに一生を送り、コームを生んだ。

イテル10,32,コームは国民の半分を誘って自分の味方とし、そして42年間国の半分を治めることができた。コームはアムギド王と戦うために軍勢を出して長年の間戦ったが、その間にアムギド王に勝って国のほかの半分も治めることができた。

イテル10,33,コームの治世には再び国の中に強盗団が起り、昔の隠謀の方法を使って昔の人のように誓約を立て、国を覆えそうとした。

イテル10,34,そこでコームは大いにこの強盗と戦ったがこれに勝てなかった。

イテル11,,イテル書 第11章

イテル11,*-*,民が悔い改めなければ、ことごとく亡びるとジェレド人の予言者が予言する。この警めの言葉は聞かれなかった。

イテル11,1,またコームの時代には多くの予言者が現われて、この大きな国民が悔い改めて主に立ち帰り、人殺しと罪惡とをやめなければかれらが亡びると予言をした。

イテル11,2,しかし予言者たちは国民に拒まれ、国民が自分らを殺そうとしていることを知ってコームの所へ逃げて行って自分らを喪待ってもらいたいと頼んだ。

イテル11,3,この予言者たちはコームに多くのことを予言し、コームはその残っている生涯中祝福を受けた。

イテル11,4,コームは大そう年をとってからシブロムを生んだ。シブロンはコームのあとをついで国を治めた。ところがシブロムの兄弟がコームに叛いたので全国に烈しい大戦争が始まった。

イテル11,5,シブロムの兄弟は国民が亡びると予言をした予言者をみな殺させた。

イテル11,6,しかし予言者たちは、国民がもしその罪惡を悔い改めないといひどいのろいが国民とその地の上にくだつて、またこれまでに地の面にあったことのない大きな亡びが国民にくるから、国民は骨は山を成して地面につみ上げられると予言をしたが、その通りに地の全体に大き

イテル11,6-1,生じた。

イテル11,7,国民は悪い結社があったから、主の警めの声に聞き従わなかった。その結果として全国に戦争、不和、多くの飢饉多くの疫病が生じて、それまで地の面にあったことのない大きな滅亡を来した。これはみなシブロムの治世にあったことである。

イテル11,8,さて民がその悪事を悔い改めるようになったので、主は悔い改めた者をみな憐みたまうた。

イテル11,9,シブロムは殺されその息子のセツはとらわれの身となってそのまま一生を送ったが、

イテル11,10,その息子のエーハは王の位を得て一生の間国を治めた。エーハはその治世の間あらゆる悪事をして多くの人の血を流させたので、その命は短かった。

イテル11,11,イーテムはエーハの息子であつて王の位をついだが、生涯悪い行いをした。

イテル11,12,イーテムの治世には予言者が多く現われて民に予言をし、民が悪事をやめないと主は民をことごとく地上から亡ぼしてしまいたもうと言った。

イテル11,13,しかし民はその心をかたくなにして予言者の言葉に聞き従わなかったから、予言者らは悲しみながら民の中を去った。

イテル11,14,イーテムは一生の間よこしまな政事を行い、モロンを生んだ。モロンはその父の後をついで民を治めたが主のみこころに背いて悪事を行った。

イテル11,15,国の中には権力を奪い利益を得るために造ったあの秘密結社があったから国民の間に謀叛が起り、また悪に強い1人の男が出てモロンと戦い、国の半分を掠め取って長年の間その国を治めた。

イテル11,16,しかしモロンはどうとうその人を倒してまた全国を支配する主権を握った。

イテル11,17,ところがこのたびジェレドの兄弟の子孫で勢力のある男がまた1人出てきて、

イテル11,18,モロンを撃ち倒して王の位を奪った。それでモロンはとらわれの身となって余生を送り、コリアントルを

生んだ。

イテル11,19,しかし、コリアントルも一生をとらわれの身で送った。

イテル11,20,コリアントルの時に多くの予言者が出てきて、大きな驚嘆すべきことを予言して国民に悔改めをせよとすすめ、国民が悔改めない主なる神が裁きを下して全滅させたもうと告げ、

イテル11,21,また主なる神は、ちょうど昔この民の先祖をこの地へ導きたもうたように、後にその御力でほかの民をこの地へ送りまたは導いてこの地に住ませたもうと言った。

イテル11,22,しかし民はその秘密結社と悪い憎むべき行いとのために予言者たちの言葉をみな聞かなかった。

イテル11,23,さてコリアントルはイテルを生んだが、一生をとらわれの身で送って亡くなった。

イテル12,,イテル書 第12章

イテル12,*-*,予言者イテルとコリアントメル王。ジェレド人の言語とニーファイ人の言語。神は人がへりくだるように弱点を与えたもう。モロナイ、異邦人に別れを告げる。

イテル12,1,イテルは全国の王であるコリアントメルと同時代の人で、

イテル12,2,主が召したもうた予言者である。イテルは主の“みたま”に満たされてその促しを拒むことができず、コリアントメルの時代に出て行って国民に予言し始めた。

イテル12,3,イテルは朝から日の入るまで声をあげて、民が亡びることのないように神を信じて悔改めよとすすめ、またすべての事は信仰によって成るからして、

イテル12,4,すべて神をしんずる者はこの世よりも勝っている世、すなわち神の右手の場所を少しも疑わずに望むことができ、このような望みは信仰から生じて人の心の錨になるものであるから、この錨のために人はしっかりしてびくともせぬようになり、いつも多くの善い行いをし

イテル12,4-1,崇めるようになることができる、と民に告げた。

イテル12,5,イテルは大きな驚嘆すべきことを民に予言したが、民は親しくこれを見なかったのものでそれを信じなかった。

イテル12,6,さて私モロナイは少々言いたいことがある。私は、信仰とはまだ見ない物事を望むことであると世の人に教えたい。それであるから、あなたたちは自分がまだ見ていないからと行って疑ってはならない。信仰の度を試してからでないと証が得られないからである。

イテル12,7,キリストが死者の中からよみがえりたもうた後私たちの先祖に現われてその体をかれらに示したもうたのは、信仰がすでに先祖たちの胸にあったからである。すなわち、私たちの先祖がキリストを信じてから始めて先祖に現われたもうた。まだ信じない中は先祖に現われ

イテル12,7-1,たまわなかった。またキリストが始めて世に現われたもう前、すでにキリストを信じている者もあったにちがいない。

イテル12,8,確にこう言う人があったから、キリストはかれらの信仰に応じて世に現われ、御父の御名の栄えを申し、またほかの者に天の賜を受けることと、まだ見ない物事を望むことができるように道を備えたもうた。

イテル12,9,それであるから、あなたたちも信仰さえあれば望を得て天の賜を受けることができる。

イテル12,10,昔の人たちが神の神権に任ぜられたのはその信仰に由るのである。

イテル12,11,それで信仰によってモーセの律法が与えられた。しかし神はその御子を与えて以てモーセの律法に勝る道を備えたもうたが、その道の全うせられるのもまた信仰によるのである。

イテル12,12,由の人々の中に信仰がなければ神は人の間に奇跡を行うことができないので、人々が信仰してからでないと神は人に現われたまわなかった。

イテル12,13,ごらん、牢屋を倒したのはアルマとアミュレクとの信仰であった。

イテル12,14,レーマン人の心を改めさせてかれらに火と聖霊のバプテスマを受けさせたのはニーファイとリーハイとの信仰であった。

イテル12,15,レーマン人の間にあの大きな奇跡を行ったのはアンモンとその同僚たちの信仰であった。

イテル12,16,キリストが降誕したもうさきの者でも、キリストが降誕したもうたあとの喪nでも、奇跡を行った者はみなその信仰によって奇跡を行った。

イテル12,17,あの3人の弟子たちがいつまでも死の味を知らないと言う約束を得たのはその信仰によるのであるが、この約束は信仰をした後でなければ得られなかった。

イテル12,18,いつ何時でもまだ信仰のない中に奇跡を行った者はない、すべて奇跡を行った者はまず神の御子を信じた。

イテル12,19,キリストが降誕したもう前にも非常に信仰の深い人が多くあった。これらの人々は信仰が深いことによって幕の内を見ることを禁ずることができないので、すでに信仰の眼を以て見たものを肉眼で見ることができて喜んだ。

イテル12,20,それらの人々の中にはこの歴史で知られる通りジェレドの兄弟がある。ジェレドの兄弟はその信仰で得た神の御誓いがあったから、神はその指を出したもうたときジェレドの兄弟が神を信ずる信仰の深いのを見て、

ジェレドの兄弟にその指を見せずにおきたもうことはで

イテル12,21,そしてジェレドの兄弟が、すでにその信仰で得た神の御誓いがあったから主の指を目で見てしまっ
から、さらにその幕の内を見るのをとめることはできないので、主は約束の通りに一切のものをジェレドの兄弟に示
したもうた。

イテル12,22,私の先祖が、この經典は異邦人のてを経て自分らの子孫に伝わって行くと言う誓約を得たのは先祖
の信仰によるのである。それで主イエス・キリストはこれらのことを書き伝えよと私に言いたもうた。

イテル12,23,そこで私は主に答えて、主よ、異邦人は私たちの物を書く力が弱いのでこの經典をあざけるであろう。
主は私たちの信仰に応じて私たちの話す力を強くしたもうが、物を書く近rあはこれを強めたまわらない。主はこの民
に聖霊を授けてよく語らせたもうが、

イテル12,24,私たちの筆は拙いので多く書けるようになったまわらない。主はジェレドの兄弟の筆に大きな力を与えた
もうたが、私たちには与えたまわらない。主は主自身にあるような大きな力をジェレドの兄弟の書いた物に加えたもう
たので、ジェレドの兄弟の書いた物を読む人はその

イテル12,24-1,力に圧倒されてしまう。

イテル12,25,また主は私たちが口づから語る言葉にこれを書き表せないほどの力強さを加えたもうから、私たちが
物を書く時自分の力弱さを悟り、また言葉の用法を誤る。それで、おそらく異邦人は私たちの書きしるす言葉をあ
ざけるであろう、と言った。

イテル12,26,すると主は私に告げて“愚なる者はあざける、されど後になりて悲しむ。われが謙遜なる者に授くる恵
みは充分なれば、かれらは汝らの弱点に乗ずることなし。

イテル12,27,もし人われに來らば、われはかれにその弱点を認めさせん。見よ、われは人を謙遜にするために人に
弱点を与うれど、すべてわが前にへりくだる者には充分わが恵みを授くるにより、かれらがわが前にへりくだりわれ
を信ずる時にはその弱きを強き変えん。

イテル12,28,われは異邦人にその弱点を認めさせ、信仰と希望と愛との3つが人をすべての義の源なるわれに導く
ものなることを教え示さん”と仰せになった。

イテル12,29,さて私モロナイはこの言葉を聞くと慰められて主に言った。主よ、汝が由の人々の信仰に応じて働きた
もうことを私は知っている。それであるから義しいみこころのままになさせたまえ。

イテル12,30,ジェレドの兄弟はゼーリン山に向って、移れと言ったからその山は移った。しかし、もしジェレドの兄弟
に信仰がなかったならば山は決して移らなかったであろう。それで、人が信仰を得てから汝の働きが始まるのであ
る。

イテル12,31,たとえば汝が勢いを具えて汝の弟子たちに現われたもうたのは、かれらが信仰をし汝の御名によって
話した後であった。

イテル12,32,さて私は御言葉を覚えている。すなわち、御父の邸の中に人間のために住居を備えたもうたから、人
間はさらに善い希望をもつことができると言いたもうた。それであるから、人間は希望をもたなくてはならない。希望
をもたなければ汝が備えたもうた所に住むことがで

イテル12,33,また汝がよみがえって由の人のために住居を備えられるよう、由の人に代って生命を捨てるほど人を
愛すると仰せになったことも私は憶えている。

イテル12,34,汝が世の人を愛したもうこの愛は仁愛であると私は知っている。それであるから、もし人に仁愛がなけ
れば、その人は汝が御父の邸の中に備えたもうた所に住むことができない。

イテル12,35,そして、汝の御言葉によれば、異邦人がもし私たちの弱点を見るときに仁愛の心がないならば、汝は
異邦人を試み、かれらが得ているもんすなわちその能力を取り去ってもっと豊にもっている人々に与えたもうことを
私は知っている、と。

イテル12,36,私はこう行ってから、主に祈って主が異邦人を憐れんでかれらに仁愛の情を持たせたまえとねがっ
た。

イテル12,37,すると主は私に答えて“異邦人に愛情なくともこれにつきて憂うるに及ばず、汝は忠実なれば汝の衣
は清くせらる。また汝は己れの弱点を認むる故に、力を授けられてわが父の邸の中に備えられたる所に座すべし”
と仰せになった。

イテル12,38,私モロナイは、キリストの法廷でまた逢う時まで異邦人および私の愛する兄弟たちに別れを告げる。キ
リストの法廷で再会する時、すべての人はあなたたちの血の責任が私の衣にかからないことを知るであろう。

イテル12,39,またその時に私がイエスにお目にかかったことと、イエスが私と顔を合せて親しく話したまい、また人が
ほかの人に話をするように、普通の人のように私と同じ言葉で違法のことを仰せになったことがあなたたちに解るで
あろう。

イテル12,40,主が私に告げたもうたことは、私の書く能力が弱いから、ただその僅しか書かない、

イテル12,41,私は慎んであなたたちにすすめたい。父なる神と主なるイエス・キリストとknoお2人のことを示してそ

の証を立てたもう聖霊との恵みが、あなたたちと共にあって永遠にあなたたちから去らないように、あなたたちは予言者たちと使徒たちが書き記したイエス・キリ

イテル12,41-1,求めよ。アーメン。

イテル13,,イテル書 第13章

イテル13,*-*,モロナイ、ジェレド人の歴史を書きつづける。イテルとその予言。イテル、命をねらわれる。イテル、岩の洞穴に住む。夜出て、その民に下る災を見る。

イテル13,1,さて私モロナイは、これまで書きつづけてきたこの民の記録を結ぶに先立ってその滅亡の物語を書き終ろう。

イテル13,2,この民はイテルの言葉をことごとく拒んだ。イテルはまことに人間が始めて造られた時からこのかた起った一切のことを民に話した。洪水がこの地の面を去ってからこの地はすべてのほかの地よりも勝れている地、すなわち主の選びたもう地になったのであるから、主が

イテル13,2-1,住む一切の人々は主に事えよと要求したもうこと、

イテル13,3,またこの地が天から下る新エルサレムおよび主の聖殿の建つ地であることをイテルは民に話した。

イテル13,4,イテルはキリストの時代を先見し、この地にあるはずの新エルサレムと、

イテル13,5,イスラエルの家とリーハイの立去るエルサレムのこととを話した。エルサレムは破壊されてから再建され、聖い都として主に捧げられるのであるから、昔に1度あってからイスラエルの家の住む所として再建され、主の聖い都になるものであるから新エルサレムとは同じ

イテル13,5-1,イテルは解き明した。

イテル13,6,また新エルサレムはヨセフの子孫の残っている者たちよのためにこの地に建つと言った。

イテル13,7,ヨセフの父はヨセフにエジプト国へ招かれついにエジプトの土となったが、主はヨセフの父を憐れんで飢死をさせたまわなかったと全く同じに、このたびヨセフの子孫の1部を憐みこれを亡ぼさないようにエルサレムの地から連れ出したもうた。

イテル13,8,それであるから、ヨセフの家の残りの子孫はこの地でふえ、この地はかれらの受け継ぎの地となる。かれらは主のために昔のエルサレムのような聖い都を建てて大地が過ぎ去る終りの時までにはや散り乱れない。

イテル13,9,このようにして新天新地があるが、それは古い天と地に似ている。ただ古いものが過ぎ去ってすべてが新しくなるだけである。

イテル13,10,その時に新エルサレムが成る。ここに住める者は子羊(イエス・キリスト)の血によってその衣を潔白にされ、イスラエル之家に属するヨセフの子孫の残りの者の中に数えられるからさいわいである。

イテル13,11,またその時に昔のエルサレムも新に建てられる。ここに住める者はすでに子羊の血によって洗われているからさいわいである。その者たちは1度散り散りになったが、その後世界の隅々および来たの国々から集められて、神がその先祖アブラハムに立てたもうた誓約を果

イテル13,11-1,ときにその恵みにあずかることのできる者である。

イテル13,12,これらのことが事実となる時”先なる者たちの中にて後となる者もあり、後なる者たちの中にて先となる者たちもあらん”と言う聖文は必ず成就する。

イテル13,13,私モロナイは、なおひきつづき書こうとしたがとめられた。イテルの予言はまことに大きく驚嘆すべきものであったが、民はイテルをないがしろにしてかれを追い出した。そこでイテルは昼間岩の洞穴に身を隠し夜は民に下る災を見ると出て行った。

イテル13,14,このようにして岩の洞穴に住んでいた間に、夜の間出て行って民に下る破壊を目にし、その作る記録の終りの部分を書いた。

イテル13,15,イテルが民の中から追い出された年に、さきに述べたあの秘密の悪計を以てコリアントメルを亡ぼうとした力のある者どもが多く起ったから、国内に大きな戦が始まった。

イテル13,16,コリアントメルは自分で努力してあらゆる先日および世の中に行われるあらゆる悪だくみを研究した人であるから、自分を殺そうとした者どもと戦った。

イテル13,17,しかしコリアントメルもその美しい息子や娘たちも、コーホルの美しい息子や娘たちも、またコラホルの美しい息子や娘たちもその罪を悔い改めなかった。すなわち、全地の面にある美しい息子や娘たちの中にその罪を悔い改めた者は1人も居なかった。

イテル13,18,それであるから、イテルが岩穴に住んでいた第1年に、王の位をとろうとしてコリアントメルと戦った秘密結社の者どもの剣にかかって命を落とした民の数は少なかった。

イテル13,19,コリアントメルの息子たちはよく戦ったがまた多くの血を失った。

イテル13,20,イテルが岩穴にいた第2年に主の命令がイテルに下り、コリアントメルの所に行ってかれに予言をし、次のように言えと仰せになった。すなわち、コリアントメルとその全家の者たちがもし悔い改めるならば主はかれにその国を保たせまた国民の命を助けたもう。

イテル13,21,しかし悔い改めない、コリアントメルただ1人をのこしてその全家のmnoと全国の民とは亡びてしまう。またコリアントメルはただ1人生きのこり、他国からきてこの血をその受け嗣ぎの地とする他国の民に関する予言が事実となるまで生き永らえて、ついにその民

イテル13,21-1,葬られる。なおまたコリアントメルのほかに一切の人々が全部滅亡すると。

イテル13,22,ところがコリアントメルもその家族もその国民も悔改めをせず、戦争はやまなかった。民はイテルを殺そうとしたがイテルは逃げてまた岩穴に身を隠した。

イテル13,23,ついにシェレドと言う人が起ってこの人もコリアントメルと戦い、戦に勝ったので第3年にコリアントメルをとりこにした。

イテル13,24,しかし、第4年にコリアントメルの息子たちがシェレドに勝って王の位をその父に返した。

イテル13,25,やがて地の全地に戦争が始まって人はみなそれぞれの味方を率い、各々の望みを遂げようとして戦った。

イテル13,26,こればかりでなく、その地には強盗も居る。1言で言えば、あらゆる罪悪が全国に行われた。コリアントメルは非常にシェレドを怒って、軍勢を率いシェレドに向って進んだから両軍はギルガルの谷で猛烈な怒りを以て戦い、その戦闘は非常に烈しくなった。

イテル13,27,シェレドは3日の間コリアントメルと戦いつづけたが、コリアントメルはどうとうシェレドに勝ってヘシロンの平原までかれを追って行った。

イテル13,28,そしてヘシロンの平原ではシェレドがまた懲り案と目と戦い、今度はシェレドがコリアントメルに勝ってこれをギルガルの谷へ追い返した。

イテル13,29,しかし、ギルガルの谷でコリアントメルはまたシェレドと戦って勝ちシェレドを殺した。

イテル13,30,しかしコリアントメルはシェレドのために股を傷つけられたから2年の間戦場に出なかった。しかしその間全国の人々とはとめる者がなかったから互いに戦って血を流し合った。

イテル14,,イテル書 第14章

イテル14,*-*,地が受けたのろい。引きつずき争いと流血がある。コリアントメルは剣によって倒れない。

イテル14,1,国民の悪事のために、地の全体はおそろしいのろいを受けた。人がもしその器具または剣を棚の上またはいつも置いておく所へ置くというと、翌日これを見つけないことができなかったほどのろいがひどかった。

イテル14,2,それであるから人はみなその品物を固く手に持って、借りようとも貸そうともせず、自分の財産生命および妻子たちを護るためにたえず右手に剣のつかを握っていた。

イテル14,3,2年たってから、すなわちシェレドが死んでからシェレドの兄弟が出てきてコリアントメルと戦ったが、その戦でコリアントメルはシェレドの兄弟に勝ちこれをエキシの野まで追撃して行った。

イテル14,4,今やシェレドの兄弟はエキシの野でコリアントメルと戦い、その戦は非常に激しくなって剣にかかって命を落とした者は何千人とあった。

イテル14,5,コリアントメルはエキシの野をとりかこんだが、シェレドの兄弟は夜の間に野を出てコリアントメルの軍の1部で裂けに酔っていた喪Nどもを殺し、

イテル14,6,それからモロンの地へ進んで行って、自分からコリアントメルの王座へのぼった。

イテル14,7,それでコリアントメルは自分の軍隊と一しょに2年間野の中で暮し、その軍を非常に強くした。

イテル14,8,シェレドの兄弟はその成をギリエドと言ったが、ギリエドもまた秘密結社によってその軍の力を非常に増した。

イテル14,9,しかしギリエドがその王座に就いていたとき、かれの大祭司が出てきてギリエソを殺した。

イテル14,10,その後秘密結社に属する1人の者が、秘密の道路でこの大祭司を暗殺して王の位を奪った。この男はリブと言う名で、全国の誰よりも高い身のたけがあった。

イテル14,11,リブの治世第1年に、コリアントメルは軍を率いモロンの地へ進軍してリブの軍と戦った。

イテル14,12,そしてリブとわたり合ったが、リブはコリアントメルの腕に傷を負わせた。しかしコリアントメルの兵が前へ進んでリブに迫ったのでリブは海岸にある国境まで逃げて行った。

イテル14,13,そしてコリアントメルがこれを追ってきたときリブはコリアントメルを海岸で迎えて、

イテル14,14,その軍をうち破ったのでコリアントメルの兵はまたエキシの野へ退いた。

イテル14,15,リブはこれをエゴシの平原まで追って行ったが、コリアントメルは逃げながらかれが通った土地の人々を悉く引きつれて自分の軍に加えたから、

イテル14,16,エゴシの平原に着くと、リブと戦ってリブの死ぬまでこれを撃った。しかしリブの兄弟はリブの後を受け、コリアントメルと戦おうとして出撃してきたからその戦はまことにひどい戦となり、コリアントメルはついにリブの兄弟の軍から逃げた。

イテル14,17,リブの兄弟はその名をシズと言った。かれはコリアントメルを追って道すがら多くの都会を亡ぼし、女子供を殺し、その町々を焼き払った。

イテル14,18,これによってシズを恐れる恐怖は全国に伝わり”シズの軍に向って堪えられる者があるか。見よ、シズは地を荒して通って行く”と言う叫び声は全国にひびきわたった。

イテル14,19,そこで国民は全国のあちこちに集って軍隊を組織した。

イテル14,20,しかしかれらの心が一致していなかったから、ある者はシズの軍に加わり、ある者はコリアントメル軍に加わった。

イテル14,21,戦は大きくまた長くつづいてその流血と殺戮が久しくやまなかったから、全地の面に市街が満ちみちた。

イテル14,22,そして戦の経過が急速であったから死者を葬る者をあとに残さないで、殺戮の場から殺戮の場へ進んで行き、男女子供の区別なくその死体を地に倒れたままに捨てて置きこれを食いつくすのに任せた。

イテル14,23,そしてその臭気がひろがって全国に満ちたので、人民は夜昼その臭気になやまされた。

イテル14,24,しかしシズは殺された兄弟の仇をコリアントメルに必ず返すと言う誓いと、主が”コリアントメルは剣にかかりて死すべからず”とイテルに仰せになった御言葉を必ずむだにするとする誓いとを立てたから、コリアントメルを追いかけををやめなかった。

イテル14,25,これによって、主がすでにその烈しい怒りを民に下したもうたことと、民の罪惡と憎むべき行いとによって、民の永遠の滅亡の道が備えられたことが明らかにわかる。

イテル14,26,シズは東の方へコリアントメルを海岸に近いところまで追いかけたが、そこでコリアントメルは逃げるのをやめて3日の間シズと戦った。

イテル14,27,この戦でシズの軍が受けた損害はひどくてその兵士が畏れてコリアントメル軍から逃げ出したほどであった。その兵はコラホルの地まで退却したが、その途中味方になって軍に加わることを拒んだ民をみな殺し、

イテル14,28,コラホルの谷に陣を張った。一方、コリアントメルはシャルの谷に陣を取った。シャルの谷はコムノルの丘に近いのでコリアントメルはコムノルの丘にその軍を集めてシズの軍に向ってラッパを吹きならしこれに戦をいんだ。

イテル14,29,やがてシズの軍が進んできたが追い払われた。かれらは再び進んできて再び追い払われた。3度目にせめてくるとその戦はまことに残酷な戦になった。

イテル14,30,この戦でシズはコリアントメルを撃って思い傷を多く負わせたので、コリアントメルは血を失って気絶し、死んだ者のようによそへかついで行かれた。

イテル14,31,さて両方の軍はどちらも男、女、子供の死者の数が非常に多かったので、シズはコリアントメル軍を追跡するなど自分の軍に命じた。そこでシズの軍はその陣へ帰った。

イテル15,,イテル書 第15章

イテル15,*-*,ラマの丘、すなわちクモラの丘。大戦争の準備。何百人が死ぬ。コリアントメル、シズを殺す。イテルの結びの言。ジェレド人の記録終る。

イテル15,1,コリアントメルはその傷がなおった時にイテルが自分に言った言葉を思い出した。

イテル15,2,そしてすでに剣にかかって命を落とした同じ国の人の数がほとんど2百万人に及び、2百万人の力がある男ばかりでなくその妻子もまた一しよに命を落した有様を見て歎き悲しみ、

イテル15,3,自分の悪い行いを悔い改めまたすべての予言者が告げた事を思い出して、これまでその予言が全く当たっているのを認めて心に悲しみ、慰めを得ることができなかった。

イテル15,4,そこでコリアントメルはシズに手紙を書いて人民の命を助けてほしい、もし助けるならば自分は人民の命を助けるために王の位をシズに譲ると言った。

イテル15,5,シズはこの手紙を受け取り、コリアントメルに返事を書いて言った。もしもコリアントメルが自分から公算してきてわが剣のために殺されてもよいならば、人民の命は助けてやろうと。

イテル15,6,ところで民はその悪事を悔い改めなかった。コリアントメルは味方は扇動されてシズの味方に対し怒りを抱き、またもシズの民はコリアントメルと戦った。

イテル15,7,コリアントメルあさに負けようとする形勢を見て、またシズの味方から逃げ、

イテル15,8,リップリアンクムの湖へ行った。リップリアンクムと言う名は大と言う意味がある。もしくはすべてに優ると言う意義がある。かれはそこへ着いて陣を張った。シズもコリアントメル軍の陣の近くに屯していたから、両者は翌日にまた戦を交えた。

イテル15,9,そして烈しく打ち合ってコリアントメルはまたも負傷をし血を失って気絶した。

イテル15,10,しかしコリアントメル軍はシズの軍に迫ってこれをうち破り退却させた。シズの軍は南の方へ逃げてオーガツと言う所に陣を取った。

イテル15,11,コリアントメル軍はラマの丘に近い所にその天幕を八田。ラマの丘は私の父のモルモンがあの神聖なもろもろの記録を隠して主の御手に託した所である。

イテル15,12,この2箇所ではコリアントメルとシズとは、イテル1人を除いてまだ殺されない民を全部集めた。

イテル15,13,さてイテルが国民のすることをすべて見ると、コリアントメルの方を善いと思う者はコリアントメルの軍へ集り、シズの方を善いと思う者はシズの軍へ集った。

イテル15,14,そこでこの2人は全国のあらゆる人を集めて、誘いよせられるだけの人々を自分の方へ誘いよせ、なるべく自分の軍勢を強くする仕事に4年を費した。

イテル15,15,やがて国民はことごとくみなその妻子を伴って自分で善いと思う軍へ入った。ここに於て男も女も子供もみな武器を持ち、楯と胸当とかぶととを身に着け、完全な武装を整え相對して出陣した。そして1日中互いに戦ったが勝敗はなかった。

イテル15,16,その夜になるとかれらは疲れて各々その陣に帰り、その味方の死者を非常に悲しみ歎き、甚しく泣き叫ぶ声の大きいことは空を引き裂いて響きわたるほどであった。

イテル15,17,両軍は翌日また出て戦、その日は非常に残酷な有様で過ぎたが勝敗はなかった。そして夜になると死んだ味方をまた悲しみ悼む歎きの声が空を裂いて響きわたった。

イテル15,18,ここに於てコリアントメルはまたシズに手紙を書いて、シズが再び戦に出てこず、コリアントメルのゆずる王の位を受けて民の命を助けてほしいと言った。

イテル15,19,しかし主の“みたま”はもはや国民を導き励まさないようになり、また人民はもはや亡びるに足るほどのその性質をかたくなにしその心を暗くしたのでサタンは全く民の心を支配する力を得た。それで民はまたも出て行って戦った。

イテル15,20,かれらは1日中打ち合って夜になると武装のまま眠った。

イテル15,21,翌日になるとまた夜になるまで戦った。

イテル15,22,夜その有様を見るに怒りに酔っていることはあたかも葡萄酒に酔っている人のようであって、また武装をつけたまま眠った。

イテル15,23,その翌日も両軍相戦ったが、このたびは日暮れになってコリアントメルの味方で52人とシズの味方で69人とを除くほかは、みなもはや剣にかかって命を落した。

イテル15,24,そしてその夜も武装したまま眠って夜が明けるとまた戦い、剣と楯とを以て一日中力かぎりに撃ち合った。

イテル15,25,その夜になって数えるとシズの方には32人、コリアントメルの法には27人の者が残り、

イテル15,26,食事をすまして明日は死ぬ用意に眠りについた。この残りの兵はみな身体が大きく力の強い者たちであった。

イテル15,27,さてそれから、かれらは3時間相戦ったがあまり多く血を失ってついに気絶した。

イテル15,28,この時コリアントメルの味方は起って歩く力を回復するや、命が惜しくて逃げ出そうとしたが、シズはその味方と共に起ってコリアントメルを必ず殺す、この志が遂げられなかったなら、自分の剣で死のうと怒りながら誓った。

イテル15,29,それで、シズはコリアントメルの味方を追いかけて翌日これに追いつきまた剣で打ち合った。その結果コリアントメルとシズとの2人を除いてそのほかの者はみな剣にかかって命を落した。見よ、シズはあまり多く血を失ったから気絶してしまっていた。

イテル15,30,そこでコリアントメルはその剣によりかかってしばらく休んでからシズの首を打ち落した。

イテル15,31,この時シズはその首を打ち落されながらも1度は手をついて身をもたげたがまた倒れて、息をつこうと身をもがきながら最後を遂げた。

イテル15,32,コリアントメルもまた地に倒れてまるで死んだ者のようであった。

イテル15,33,ここに於て主は出て行けとイテルに命じたもうたから、イテルは出て行き主の御言葉がみな事実になっているのを見てその記録(私モロナイはその100分の1さえも書いていない)を書き終り、これを隠しておいて。その隠し方がよかったので後になってリムハイの民

イテル15,33-1,見出したのである。

イテル15,34,イテルの書いた最後の言葉は次の通りである。すなわち“主がわが体を変えて死の味を知らしめずに天に移したもうとも、またわれにこの肉体のまま世に生き永らえて主のみこころをなさせたもうとも、もしわれが神の王国に救われることだにあらばあえて心にかくるに

イテル15,34-1,アーメン”と。

モロナ1,,モロナイ書 第1章

モロナ1,*-*,モロナイの独りで淋しい状態。レーマン人の救いを望んで筆をとる。

モロナ1,1,私モロナイは、ジェレドの民の歴史を短くまとめてからもう筆をとらないと思ったが、私はまだ命がある。それでレーマン人が私の命をとらないように、レーマン人には私の居る所を知らせない。

モロナ1,2,ごらん、レーマン人が互に戦う戦はまことに烈しく、またそお怨みの心が強いからおよそキリストを否定しないニーファイ人は1人のこらず殺す。

モロナイ1,3,私モロナイは決してキリストを否定しない者であるから、私の命が安全な所を求めてさまよっている。

モロナイ1,4,そこで前にもう筆をとらないと思ったにもかかわらず、今僅のことをつけ加えて記す。私はこれが主のみこころによっておそらく将来いつか私の同胞であるレーマン人の役に立つために記すのである。

モロナイ2,,モロナイ書 第2章

モロナイ2,*-*,ニーファイ人の12弟子によって聖霊が授けられること。

モロナイ2,1,キリストが選んだもうた12人の弟子に按手をしたもうた時、これらの者に仰せになった言葉は次の通りである。

モロナイ2,2,始めに、弟子たちの名を呼んで仰せになった“汝らひたすらわが名によって御父に祈るべし。かくして後、汝らは汝らがその手を按く者たちに聖霊を与うる権能を受く。されどわが使徒たちはわが名によりて与うるなれば、汝らもこれと同じくわが名によりて聖霊を与え

モロナイ2,3,キリストが右の言葉でその弟子たちに仰せになったのは、キリストが最初に現われたもうた時である。しかしそこに居た群衆はこの言葉を聞かず、ただ弟子たちだけがこれを聞いた。そして弟子たちが按手礼を施した者にはみな聖霊が降った。

モロナイ3,,モロナイ書 第3章

モロナイ3,*-*,祭司および教師を聖任する方法。

モロナイ3,1,教会の長老と呼ばれる弟子たちが祭司たちと教師たちを聖任した方法は次の通りである。

モロナイ3,2,長老はまずキリストの御名によって御父に祈り、それから聖任を受ける者に按手をしながら、

モロナイ3,3,“われはイエス・キリストの御名によりて汝を祭司とし(もし教師であるなら、汝を教師とし)、また悔い改むべきことと、人が終りまでイエス・キリストの御名を信ぜば、イエス・キリストによりて罪の赦しを浮くことを宣べ伝うる職に任ず、アーメン”と言った。

モロナイ3,4,長老たちは神が人々に授けたもうそれぞれの職と召に従って、また自分らにある聖霊の力をもって祭司たちや教師たちを聖任した。その聖任の方法はすなわち以上の通りである。

モロナイ4,,モロナイ書 第4章

モロナイ4,*-*,聖餐式のパンを分け与える儀式の方法。

モロナイ4,1,教会の長老たちと祭司たちが、教会員たちにキリストの肉(のしるしであるパン)とキリストの血(のしるしの葡萄液)とを分け与える儀式は次の通りである。キリストが命じたもうた通りかれらはこの儀式を執り行ったから、私たちはこの方法が正しいことを知ってい

モロナイ4,1-1,この儀式を執り行う者は長老かまたは祭司であった。

モロナイ4,2,儀式を執り行う者は、会員たちと共にひざまずきキリストの御名により御父に祈って言った。

モロナイ4,3,“永遠の父なる神よ、われら御子イエス・キリストの御名によりて願いたてまつる。ここにこのパンをいただくすべての人々が、御子のからだの記念にこれをいただくよう、また喜びて御子の御名を受け、御子を常に忘れず、またその下したまえる誠めを守ることを永遠

モロナイ4,3-1,御前に証明し、かくして御子の“みたま”常に一同と共にましますよう、このパンを祝いきよめたまえ。アーメン”と。

モロナイ5,,モロナイ書 第5章

モロナイ5,*-*,聖餐式の葡萄液を分け与える儀式の方法。

モロナイ5,1,葡萄液を分け与える方法は次の通りである。儀式を執り行う者は杯をとって言う。

モロナイ5,2,“永遠の父なる神よ。われら御子イエス・キリストの御名によりて願いたてまつる。ここにこの葡萄液をいただくすべての人々が、かれらの為に流したまいし御子の血の記念にこれをいただくよう、また御子を常に忘れぬことを永遠の父なる神の御前に証明し、かくして

モロナイ5,2-1,“みたま”一同と共にましますよう、この葡萄液を祝いきよめたまえ。アーメン”と。

モロナイ6,,モロナイ書 第6章

モロナイ6,*-*,バプテスマの条件と様式。教会の紀律。

モロナイ6,1,さて私はバプテスマについて話をする。ごらん、長老たち、祭司たちおよび教師たちはバプテスマを受けたが、まずバプテスマを受ける資格が充分にあることを証明する実を結ばなかったならばバプテスマを施されなかった。

モロナイ6,2,また誰であっても真にへりくだった心と悔いる精神とも以て来て、すでに一切の罪を真に悔い改めたことを教会に証明した者でなければバプテスマを施されなかった。

モロナイ6,3,またすでにキリストの御名を受けて終りまでキリストに事えると堅く決心をした者のほかには、誰もバプテスマを施された者はない。

モロナイ6,4,人々はバプテスマを施され、聖霊の力で清められてから、キリストの教会の会員の中に数えられ、その名を書き留められた。それはこの人々を忘れてなおざりにせず、神の善い教えでこの人々を養いたえず善い道をふ

ませ、たえず慎んで祈ることをつとめさせ、またこの

モロナ6,4-1,信仰のもとであり信仰を完全になしたもうたキリストの功德にだけ頼らせるためである。

モロナ6,5,教会の会員たちは断食と祈りをし、また身も霊も救われることについて互いに語るためにたびたび集った。

モロナ6,6,また主イエスを記念してパンと葡萄液をいただくためにたびたび集った。

モロナ6,7,この人々はその中に悪事がないように注意してきびしく取り締った。そして悪事をしたと認められる会員は、教会員である3人の証人によって罪あることを長老たちの前に確められる時に、もし悔い改めてその罪を告白しなかったならばその名前を削られてもはやキリス

モロナ6,7-1,聖徒の中に数えられなかった。

モロナ6,8,しかし悔い改め真心から罪の赦しを願うときには赦された。

モロナ6,9,教会員の集会の責任で“みたま”の導きに従い、また聖霊の力によって行われた。それであるから集会の時かれらは聖霊の力が導くままにあるいは道を説き、あるいはすすめ、あるいは祈りあるいは乞いねがい、あるいは讃美の歌を唱った。

モロナ7,,モロナイ書 第7章

モロナ7,*-*,モロナイ、信仰と希望と愛に関するモルモンをの教えを宣べる。

モロナ7,1,さて私モロナイは、私の父モルモンが信仰と希望と愛について宣べた言葉を少々ここに記す。私の父は民が礼拝のために建てた会堂で民に教えを伝えて言った。

モロナ7,2,“私モルモンは、私の愛する兄弟であるあなたたちに今話をする。しかし、今あなたたちに話をするこの機会は、私がすでに主イエス・キリストから召を受けているから、父なる神と私たちの主イエス・キリストの恵みによるものであり、またそのみこころにかなうもの

モロナ7,3,そこで教会に属してキリストに従うおだやかな人々であって、今から天に於て主と共に安息を得るようになるまで、主の賜うた安息に入れると言う充分な希望をもっている人々に私は言いたい。

モロナ7,4,私の兄弟たちよ。私はあなたたちがほかの人々とおだやかに交っているのを見て、右のような望みがあなたたちにあると思う。

モロナ7,5,それは“その行いによって人の善悪が知れる。その行いが善ければその人も善い”と言う神の言葉を思い出したからである。

モロナ7,6,また、もし悪い人であるならば全を行うことはできないと神が仰せになった。このような悪い人は捧物をしても神に祈っても、もし真心からこれをしないなら何の役にも立たない。

モロナ7,7,その行いが義しい認められないからである。

モロナ7,8,もし悪い人であるなら、捧物をしても惜み惜みするので、捧物をしないと同じことであるあらその人は神の前に悪い人であると認められる。

モロナ7,9,またこれと同じであって、人が真心でなく祈る時は悪い事と認められる。神はこのような祈りを聞き届けたまわぬから何の役にも立たない。

モロナ7,10,それであるから、もし悪い人であるなら善を行うことができず、また善い捧物もしない。

モロナ7,11,苦い泉から甘い水は出ないし、甘い泉から苦い水は出ない。それであるから、人が悪魔の僕である間はキリストに従順であることはできないし、人がキリストに従順である間は悪魔の僕になることはできない。

モロナ7,12,それで善いものはみな神から出るし、悪いものは悪魔から出る。悪魔が神の敵であってたえず神に背き、人を誘惑してこれに罪を犯させいつも悪い事をさせようとする者であるに反して、

モロナ7,13,神から出るものはいつも人を善い行いに誘い導いて善いことをさせようとするから、すべて善い行いに人を誘い導いて善いことをさせ、神を愛させ神に事えさせようとするものは、神のみこころがこもっている。

モロナ7,14,それであるから、私の愛する兄弟たちよ。慎んで悪いものを神から出たと思ってはならない。また善いもので神から出たものを悪魔から出たと思ってはならない。

モロナ7,15,私の兄弟たちよ。あなたたちは善悪を判断する自由と権利を与えられているばかりでなく、その判断の方法は真昼と暗夜とを区別するように、過りなく完全に知れるほど明らかである。

モロナ7,16,すべての人々はみな善悪の区別を弁えるためにキリストの“みたま”を授かる。さて今私は判断の方法をあなたたちに教えよう。善を行えとすすめ、またキリストを信ぜよとすすめるものはみなキリストの権能によってその賜として来るのであるから、それが神から出た

モロナ7,16-1,疑いもなく充分確に知ることができる。

モロナ7,17,これに反して悪をせよと説きすすめ、またキリストを信ぜずこれを否定し神に事えるなど説きすすめるものは何でも御名悪魔から出たと言うことは、何の疑いもなく充分確に知ることができる。なぜならば、悪魔とその使者たちまた自分から悪魔に従う者たちは、このよ

モロナ7,17-1,誰1人にも決して善いことをせよとすすめないからである。

モナ7,18,さて私の兄弟たちよ。あなたたちは判断をするに用いて力ある光、すなわちキリストの光を知っているから判断を誤らないように注意せよ。あなたたちがほかの人を見る時と同じ判断であなたたちも判断をされるからである。

モナ7,19,それであるから兄弟たちよ。私はあなたたちが善悪を弁えるためにキリストの光をもって熱心に探すことを乞い願う。あなたたちがもし一切の善いことをつかんでこれを拒まなければ必ずキリストの子となる。

モナ7,20,しかし私の兄弟たちよ。あなたたちはどうして一切の善いことをつかむことができるか。

モナ7,21,ここで、私が言いたいと言った信仰に話がくるから、私は今あなたたちにどうして一切の善いことがつかめるかをあなたたちに教えよう。

モナ7,22,ごらん、神は無限の過去から無限の未来に亘ってましますから、あらゆることを知ったもうて、キリストが降臨したもうことと、一切の善いことがキリストによって来ることを預め示して恵みを施すために天使たちを世の人々につかわした。

モナ7,23,また神は口づから親しくキリストが降臨したもうはずであることを予言者たちに示したもうた。

モナ7,24,なおまたこのほかに、神はさまざまの方法で善い事を世の中の人に示したもうた。善いことはみなキリストによって来る。もしそうでなければ、人はすでに墮落した者であるから、何の善い事も人によって来ることはできない。

モナ7,25,それであるから、キリストが降臨したもうまでは、人々は天使たちが現われて伝えて教えた導きと恵みと神の口から伝えられたすべての御言葉とのためにキリストを信仰するようになり、こお信仰によって一切の善いことをつかんだ。

モナ7,26,キリストが降臨したもうてからもまた、人はキリストの御名を信仰するによって救われ信仰によって神の子となる。キリストが私たちの先祖に次の言葉を仰せになった‘何ごとにも汝らが為されんと信じ信仰堅固にわが名によりて御父に乞い求むることは、それが正し

モナ7,26-1,汝らに為さるべし’と。キリストがこのように仰せになったのはキリストが生きてまします通り確である。

モナ7,27,それで、私の愛する兄弟たちよ。キリストは世の人に憐みを与える正統の権利を御父に乞い求めようと、天に昇って神の右に座したもうが、キリストがこの通りこの世を去りたもうたからと言って奇跡は果して止んだのであるか。

モナ7,28,キリストはすでに律法が要求するところに応じたもうから、キリストを死にするすべての者をキリストに属く者と主張したもう。キリストを信仰する者は一切の善い事を固く守る。従って、キリストは世の人のためにとりなしをしたもう。キリストは永遠に天にまします

モナ7,29,私の愛する兄弟たちよ。キリストはすでにこのようなことを為しとげたもうたから、奇跡はもはや止んでしまったと言えるか。よく言うておくがそうではない。また天使らが世の人々に現われて導きと恵みとを受けることも止んだのではない。

モナ7,30,天使らはキリストに服従してキリストが命じたもう通り導きと恵みとを受け、また神を敬うことに於てどちらから見ても確固たる精神と厚い信仰とをもつ者に現われる。

モナ7,31,天使の導きと恵みを与える務めは人に悔改めをすすめ、御父が世の人々に立てたもうた誓約を果し、またこの誓約にかかわるいろいろの働きをするだけでなく、また主が選ぴたもう者にキリストの御言葉を伝え、その者たちにキリストの事を証させることによって世の人

モナ7,31-1,備えるにある。

モナ7,32,主なる神がこのように天使らを使いたもうによって、右の選ばれた者以外のすべての世人も、キリストを信じてその心に聖霊を受けることのできる道が備えられるのである。このようにして御父は世の人に立てたもうた誓約を果したもう。

モナ7,33,キリストは‘汝らもしわれを信ずるならば、わがこころにかなう何事にても為す力を与えらる’と仰せになった。

モナ7,34,また‘世界の隅々に至る者たちよ。汝らは救わるるためにわれを信じ、悔い改めてわれに來り、わが名によりてバプテスマを受けよ’と仰せになった。

モナ7,35,さて私の愛する兄弟らよ、私があなたたちに述べたこれらの事が真実ならば、神は終りの日に勢いと大きな栄光とでそれが真実であることをあなたたちに示したもう。もしこれらのことが真実であるならば奇跡の時代はすでに過ぎ去ったと言えるか。

モナ7,36,天使たちはもはや世の人に現われないということが言えるか。神はすでに聖霊の力を人々に与えることを止めたもうたと言えるか。時が存在するかぎり、大地があるかぎり、または救うべき人が1人でも地上にのこっているがぎり、神は聖霊の力を与えることを止めたも

モナ7,36-1,あろうか。

モナ7,37,よく言うておく、そうではない。奇跡は信仰によって行われ、また天使が現われて人に導きと恵みとを伝

えることもまた信仰によるのである。それであるから、もしこのようなものが終ってすでに無い時がくるならば、それは不信仰の結果であってすべては空しいから

モロナイ7,37-1, まことに禍である。

モロナイ7,38, キリストの御言葉によれば、キリストの御名を信ぜずに救いを得る者はない。それであるから、私は以上述べた奇跡、天使の導きと恵を与えることなどがすでに無い時は信仰もまた絶えたのであって、世の人は恐ろしい有様、すなわちあたかも贖いがないかのような有様

モロナイ7,39, 私の愛する兄弟たちよ。私はあなたたちがこの恐ろしい有様にあるとは思わない。かえって、あなたたちの柔和である有様を見てあなたたちがキリストを信じていると思う。もしキリストを信じないならばキリスト教会の会員に数えられる資格がない。

モロナイ7,40, また私の愛する兄弟たちよ。私は希望についてあなたたちに話したい。あなたたちに希望がなかったならどうして信仰ができるか。

モロナイ7,41, あなたたちは何を望むべきか。よく言うておく。あなたたちはキリストの身代りの贖罪とその復活の力とによって、自分たちがよみがえって永遠の生命を得ることを望むべきである。このような希望はあなたたちがキリストを信ずるから生ずる。また信ずるのはあなた

モロナイ7,41-1, 約束があるからである。

モロナイ7,42, それであるから、もし人に信仰があるならばその人に希望もまたなくてはならない。信仰がなければ希望もまたないからである。

モロナイ7,43, よく言うておくが、その人の心が謙遜であって柔和でなければ信仰も希望も持てるはずがない。

モロナイ7,44, たとえ持てても、その心が謙遜で柔和でないから神のみこころにかなわないのでその信仰と希望とは空しいものである。人がもしその心が柔和であってへりくだり、また聖霊の力によってイエスをキリストであると認めるならば、その人に愛がなくてはならない。人に愛

モロナイ7,44-1, 愛がなければその人は何ものでもない。従って人は愛がなくてはならない。

モロナイ7,45, 愛は永く堪え忍び、親切であって、ねたまず誇らない、また自分の利益を求めず、容易に怒らず、悪いことを考えず、不正なことを喜ばないで真理を喜び、すべてを負い、すべてを信じ、すべてを望み、すべてを忍ぶ。

モロナイ7,46, それであるから私の愛する兄弟らよ。愛はいつまでも消え失せることがないから、あなたたちにもしも愛がないならあなたたちは空しい者である。ほかのものはみな消えてなくなるものであるから、すべてにまさる愛を固く守れ。

モロナイ7,47, この愛はキリストの純粋な愛であって永遠にずっとものである。従って終りの日にこのような愛を持っている人はさいわいである。

モロナイ7,48, それであるから、私の愛する兄弟らよ、あなたたちは、神が御子イエス・キリストに真に従う者たちに1人のこらず与えたもうたこの愛で自分たちの胸を満たすためにありたけの心をつくして御父に祈れ。これはまた、あなたたちが神の子らとなるためである。神の現わ

モロナイ7,48-1, 時には神をそのありのままの姿で見にちがいないから、その時には神に似た者になることができるためであり、また私たちも神のように清められると言う望みを持たんがためである。アーメン”。

モロナイ8,, モロナイ書 第8章

モロナイ8,*-*, モロナイにあてたモルモンの手紙。幼児は悔改めのバプテスマの必要がないこと。

モロナイ8,1, 次にあげるのは、私が教導の職に任ぜられて間もなく父モルモンが、私モロナイにあてて送った手紙である。その中で父は、

モロナイ8,2, “私の愛する子モロナイよ。私はお前の主イエス・キリストがお前に心を留めて、その御教導の職と神聖な事業にお前を召したもうたことを非常に喜んでいて。

モロナイ8,3, 私は祈るたびにいつもお前を心に留めて、父なる神がお前のいつも御名を信ずることを認めたもうて、その限りない恵みでお前に終りまで忍び得させたもうよう神の聖い御子イエスの御名によって祈っている。

モロナイ8,4, 私の子よ、私は非常に私を悲しませる事についてお前に話そう。お前たちの中に論争が起るのは悲しいことである。

モロナイ8,5, もし私の耳に入ったことがうそでなければ、お前たちは自分らの幼児にバプテスマを施すことについて互いに論争をした。

モロナイ8,6, 私の子よ、私はお前がこの大きな過ちを改めてお前たちの中からこれを取り除くことに力をつくしてもらいたい。私はこの目的でこの手紙を書くのである。

モロナイ8,7, お前たちの中にこの論争があると言うことが耳に入ると、私はすぐこのことについて主にお伺いをした。すると聖霊の力によって主の御言葉が私に伝わってきた。そして、

モロナイ8,8, “汝の贖い主たり、汝の主たり、汝の神たるキリストの言葉を聞け。わがこの世に降りしは義人に悔改めを

働むるためなり。医者助けを必要とするは健康なる者にあらずして病なり。幼児は罪を犯すこと能わざれば健康なる者なり。従ってアダムの受けたるのろいは

モナ8,8-1, 幼児より取り去られてもはやかれらを如何とする能わず。また割礼の律法もわれにより廃されてもはやなしと。

モナ8,9, 聖霊がこのように神の言葉を伝えたもうたから、私の愛する子よ、私はお前たちが幼児にバプテスマを施すことはかえって甚しく神を朝弄しているだけであることを知っている。

モナ8,10, よく言うておく。お前たちは罪を犯すことができ罪の責任を負うことができる者に悔改めとバプテスマとを教えよ。すなわち、親たる者に悔い改めてバプテスマを受けなくてはならない、またその幼児のようにへりくだらなくてはならないと教えよ。かれらがそうするな

モナ8,10-1, 幼児と共に救われるにちがいない。

モナ8,11, しかしその幼児には悔改めのバプテスマは一切不要である。バプテスマは人がすでに悔い改めたことを証明した確めるため、また罪の赦しを得るための神の命令を守るために施すものである。

モナ8,12, 幼児は世の始めからすでにキリストにより救われている。もしもそうでなければ神は不公平な神であり、変ることも人をかたよって見ることもある神である。なぜならば、バプテスマを受けないで死んだ幼児の数はいかに多いではないか。

モナ8,13, 従って幼児がバプテスマを受けなければ救われまいと言うならば、死んだ幼児は永遠の地獄に行ったにちがいない。

モナ8,14, よく言うておく。バプテスマが幼児に必要であると思う者は、罪の縄目に縛られて苦汁を飲まされている者である。この者には信仰も希望も愛もなく、もしその考えを革めない内に死ぬ者は地獄に行かなくてはならない。

モナ8,15, この幼児はバプテスマを受けたから神に救われるが、あの幼児はバプテスマを受けないから必ず亡びると思うことは甚しく恐ろしい悪事である。

モナ8,16, このように主の教えを曲げる者は悔い改めないと亡びるから禍である。見よ、私は神から授かった権能を持っているから恐れずに勇しく話す。完全な愛はすべての恐怖をなくするから私は人のすることを恐れない。

モナ8,17, 私は永遠の愛が胸に満ちているからすべての幼児は私の目に等しく見える。私は完全な愛で幼児を愛する。幼児はみな等しく救われている。

モナ8,18, 私は神が不公平な神でなく変りたもう神でもなく、無限の過去から無限の未来にわたって同じにましますことを知っている。

モナ8,19, 幼児は悔改めをすることができない。それであるから、神の純粋な恵みを幼児が受けないと信ずることは恐ろしい悪事である。幼児はみな神の深い憐みによって救われている。

モナ8,20, そして、幼児はバプテスマを受けなくてはならぬと言う者はキリストの憐みを拒み、キリストの身代りの贖罪と救いの効果とを否定する者である。

モナ8,21, 従って、このような人々は死と地獄と永遠のせめくを受けようとしているから禍である。これは神が私に言えと仰せになったから恐れずに勇ましく言うのである。お前は注意してこの言葉に聞き従え。そうしなければお前がキリストの法廷に立つときにこの言葉はお前

モナ8,21-1, 証詞となる。

モナ8,22, すべての幼児と律法のないすべての者はキリストによって救われている。贖いの効力は律法を与えられないすべての者に及んでいる。従って、罪があると認められない者は悔改めをすることができない。それであるからこのような者にはバプテスマの必要がなくまた利

モナ8,23, むしろ、このような者にバプテスマを施すのは神の朝弄し、キリストの憐みとその聖い“みたま”の力とを否定して役に立たない形式にたよるのである。

モナ8,24, それであるから私の子よ、このようなことがあつてはならない。悔改めは罪があると認められる者、律法に背くのろいを受けなくてはならぬ者にかなうのである。

モナ8,25, そして悔改めの結ぶ最初の実はバプテスマである。バプテスマは人がすでに信仰があるから、また神の命令をなしとげるために行い儀式である。この命令をなしとげると罪の赦しを受け、

モナ8,26, 罪の赦しを受けると柔和謙遜な心を生じ、柔和謙遜な心があると聖霊が降る。この“慰め主”は希望と完全な愛とを人の胸に満す。完全な愛は人が怠らず熱心に祈ることによって、すべての聖徒らが神と共に住める終りの日まで人の胸に宿るのである。

モナ8,27, さて私の子よ。私がもしすぐとレーマン人に向って戦うために出て行かなかったならまた手紙を書こう。この民であるニーファイ人は悔い改めないとその高慢のためにみな亡びるにちがいない。

モナ8,28, 私の子よ、ニーファイ人が悔い改められるようかれらのために祈れ。しかし見よ、おそらく“みたま”はすでにニーファイ人を励まさないようになって居りたもうと思う。この地方では人民が、神から受けた権能と勢いをみな亡ぼそうとし聖霊を否定している。

モロナ8,29,私の子よ、人民は1度あの偉大なことを知ったにもかかわらず今はそれをことごとく否定しているから必ず速に亡んで、予言者たちが述べた予言と私たちの救い主が親しく告げたもうた言葉とが事実となって現われるにちがいない。

モロナ8,30,私の子よ。また手紙を書く時まであるいはまたお前に逢う時まで、さらばである。アーメン”と書いている。

モロナ9,,モロナイ書 第9章

モロナ9,*-*,モルモンがその息子モロナイにあてた第2の手紙。レーマン人とニーファイ人の残酷な行い。最後のしかも愛情に満ちた父の戒め。

モロナ9,1,”私の愛する子よ。亜他紙は、私がまで生きていることをお前に知らせるためにまた手紙を書くが、このたびは悲しいことを多少筆にする。

モロナ9,2,ごらん、私はレーマン人とひどい戦をしたが勝利を得なかった。アルケアントスとルラムとエムロンとが剣にかかって命を落したばかりでなく優秀な兵も多く倒れた。

モロナ9,3,私の息子よ、この人民は悔改めをせず、サタンがいつも扇動して互いに怒らせるから私はおそらくレーマン人がこの民を亡ぼすかと思っている。

モロナ9,4,私はたえずこの民を戒めているが、烈しく神の言葉をかれらに伝えるとふるえおののいて私を怒り、また烈しく語らないと神の言葉に対してその心をかたくなにする。従っておそらく主の”みたま”がすでにかれらを励まさないようになって居たもうかと思う。

モロナ9,5,人民は非常に烈しく怒るので少しも死ぬことを怖れていないようである。かれらはすでに互いの愛を失ってしまっていていつも地を流すことと仇を返すことを渴求めている。

モロナ9,6,しかし私の愛する子よ。民が強情であるにもかかわらず私たちは熱心に努めようではないか。私たちは一切の義しいことに敵する者に勝って神の王国で私たちが安息につくために、この肉体を持っている間になさねばならぬ務めがあるから、もしその務めを怠るならば罪

モロナ9,6-1,されなくてはならない。

モロナ9,7,今私はこの民が受けている苦難について少々書く。私がアモーロンから聞いたところによると、レーマン人がシェライザの塔からよそへつれて言ったとりこは多くある。その中に男も女も子供もあるが、

モロナ9,8,レーマン人はこのとりこである女の夫と子供の父とを殺して、女にはその男の肉を食わせ、ただ少ししか水を飲ませなかった。

モロナ9,9,レーマン人はこのようにひどい憎むべき行いをしたが、それでもモリアントムで私の味方のした憎むべき行いに比べればひどくはない。ごらん、私の味方はレーマン人の娘を数多くとりこにして、その娘たちから最も貴くまたほかのあらゆるものよりも重んずべきものを

モロナ9,9-1,すなわちその貞淑を汚してから、

モロナ9,10,非常に残酷なやり方でこれをなぶり殺しにした。そしてなぶり殺しにしてから、その心がかたくなである故に自分らが殺したレーマン人の娘たちの肉を野獣のように食って自分らが勇敢である証拠にする。

モロナ9,11,私の愛する子よ。どうしてこのように野蛮な国民に、

モロナ9,12,(わずか数年前までは文明で喜ばれる国民であったが)、

モロナ9,13,このようにひどい憎むべき行いをたのしみとする国民に、

モロナ9,14,神がその手をひかえて裁きを下したまわないと、どうして思えようか。

モロナ9,15,ごらん、私の心の中にこの民は禍なるかな。神よ裁きを下してこの民の罪と悪事と憎むべき行いとを御前より除きたまえ’と言う祈りがある。

モロナ9,16,また私の子よ。シェライザに残ったやもめらやその娘たちは多くある。レーマン人が掠めて行かなかった食料はゼニーファイの軍がこれを掠め取って行ったから、やもめらやその娘たちはそのまま捨てておかれて食料をあさってここかしこにさまよっているが、道が気が

モロナ9,16-1,死で行く老婆も多くある。

モロナ9,17,しかし、私の率いている軍勢は力が弱い上に、レーマン人の軍はシェライザと私の軍との間に居る。私の味方から脱走してアロンの軍に降参をした者たちはレーマン人の恐ろしい残忍な手にかかって死んだ。

モロナ9,18,ああ私の民のなんと墮落したことよ。かれらには秩序もなく慈悲の心もない。私はただの人であってただの力を持っているだけであるから、もはや私の命令を行わせることはできない。

モロナ9,19,民はあくまでその悪い強情を張ってみな同じように残忍であるから、老人も若い者も区別をせずに誰の命も助けず、善い事はしないでそのほかのあらゆる事を喜ぶ。それであるから、全国の子供の艱難は何よりも残酷で筆にも言葉にも表しにくい。

モロナ9,20,さて私の子よ。私はもはやこの身の毛のよだつ恐ろしい光景については述べない。お前はこの国民の罪悪を知り、またかれらが道を守らず慈悲の心のない者であって、その罪悪はレーマン人の罪悪よりも大きいこと

を知る。

モナ9,21,私の子よ。私がもしもこの国民を神に推薦するならば、神が私を打ちたもうこととおそれる。

モナ9,22,しかし私の子よ。見よ、私はお前を神に推薦してお前が救われることをキリストによって望み、また神の民であるこの民があるいは神に立ち帰るかあるいは全滅を遂げる所をお前が親しく見るまで、神がお前を生き永らえさせたもうよう、私はこの民が悔い改めて神に立

モナ9,22-1,帰らないと必ず全滅することを知っている。

モナ9,23,もし全滅するならば、その全滅はジェレド人が全滅した通りであって、それは強情を張って血を流すことと仇を返すことを喜んで求める結果そうなるのである。

モナ9,24,私たちの同胞であってレーマン人の方へ移った者が多くある。これからレーマン人の方へ移る者が多くあるであろう。私はこれを知っているから、この国民が全滅に際してお前1人生きのこるならばいささか記録をして

おけ、私はお前に逢わないで死ぬかも知れぬが、

モナ9,24-1,渡して頼みたいと思う神聖な記録があるから、じきにお前に逢えると思っている。

モナ9,25,さて私の子よ。キリストに忠誠であれ。願わくは、私が書いたことのためにお前が悲しみのあまり死ぬようなことがなくキリストがお前を慰さめ励ましたもうように、またキリストの苦しみとその死と、私たちの先祖にその御姿を現わしたもうたことと、その憐みとその

モナ9,25-1,その栄光と、永遠の生命を授ける希望とは、お前がいつまでも記憶に留めておくように。

モナ9,26,天の高い所に御座を置きたもう父なる神と、すべてのものを自らに従わす時まで神の全権全能である位の右に座したもう私たちの主イエス・キリストの恵みがお前と共にあって永遠に去らないように祈り奉る。アーメン”。

モナ10,,モロナイ書 第10章

モナ10,*-*,モロナイ、レーマン人に別れを告げる。モルモン経の真実である証を各自が得る条件。モロナイ、その民の記録を封じて隠す。

モナ10,1,私モロナイは、私が善いと思うことをいささか私の兄弟であるレーマン人に書きのこす。私はキリスト降誕のしるしが現われてからもはや420年あまりが過ぎ去っていることをあなたたちに知らせたい。

モナ10,2,さて私はあなたたちに少しすすめてからこの記録を封じて隠す。

モナ10,3,ごらん、私はあなたたちにすすめたい。あなたたちがこの記録を読むことを神が許したもうならば、あなたたちはこの記録を読む時に、アダムが造られてからあなたたちがこの記録を受けるまで、主が世の人々にどれほど憐みを垂れたもうたかを重くして心の中に深く

モナ10,3-1,ほしい。

モナ10,4,またこの記録を受ける時、それが真実なものかどうかをキリストの御名によって永遠の父なる神に問え。

もし誠心誠意でその上キリストを信じながら問うならば、神は聖霊の力によってこの記録が確なものであることをあなたたちに示したもうにちがいない。

モナ10,5,そして聖霊の力によって一切の事の実であるかどうかあなたたちに解る。

モナ10,6,善いものはみな正しくて真実であるから、善いものは必ずキリストを否定しない。かえってみなキリストがましますことを認めるのである。

モナ10,7,あなたたちも聖霊の力によってキリストのましますことが知れるから、私はあなたたちが神の御力を拒まないことをすすめる。神は今日も明日もいつまでも世の人の信仰の強い弱いに応じて御力をもって働きたもう。

モナ10,8,私の兄弟らよ、私はまたあなたたちにすすめる。神の賜物は大いが同じ神が授けたもうからこの賜物を拒んではならない。この賜はさまざまに授けられるが、どの賜物もこれを授けて働かせたもうのは同じ神である。この賜物は人に与えるためであって神の”みたま”の

モナ10,8-1,伴う。

モナ10,9,神の”みたま”によって智慧の言葉を教える能力を与えられる人もあり、

モナ10,10,同じ”みたま”によって知識の言葉を教える能力を与えられる人もあり、

モナ10,11,同じ”みたま”によってある人は非常に厚い信仰を、ある人は病を医す力を、

モナ10,12,ある人は大きな奇跡を行う力を、

モナ10,13,ある人はあらゆる事について予言する力を、

モナ10,14,ある人は天使と使いの霊を見る力を、

モナ10,15,ある人はいろいろの異語を語る力を、

モナ10,16,またある人は外国語およびいろいろの異語を訳する力を与えられる。

モナ10,17,これらの賜物である力は、みなキリストの”みたま”から与えられ、キリストのみこころに従って分けられてそれぞれの人に来るのである。

モナ10,18,私の愛する兄弟らよ。私はまたあなたたちにすすめる。一切の善い賜物はキリストから授けられることを忘れるな。

モナ10,19,キリストが昨日も今日もいつまでも同じにましますことと、私が以上述べた“みたま”の賜物が皆世の人の信仰が足りないのではなければ世界のあるかぎり決してなくなることを忘れるな。

モナ10,20,それであるから信仰がなくてはならない。信仰がなくてはならないならば、希望もまたなくてはならない。希望がなくてはならないならば愛もまたなくてはならない。

モナ10,21,あなたたちに愛がなければ決して神の王国に救われない。進子のない場合もまた神の王国に救われない。希望のない場合もまたそうである。

モナ10,22,希望がなければ必ず絶望するほかはない。絶望は悪い行いから来る。

モナ10,23,キリストはまことに“汝ら信仰さえあらば、わがこころにかなう何事にも為すことを得”と私たちの先祖に仰せになった。

モナ10,24,さて私は世界の隅々に至る人々に告げる。あなたたちの中に神の権能と神の賜である能力とが絶える時が来るとすると、それはあなたたちの不信仰のためにそうなのである。

モナ10,25,もしその時が来るならば、あなたたちの中にただの1人も善いことをする物がないから世の人々は禍である。しかし、あなたたちの中に1人でも善いことをする物があるならば、その1人は必ず神の権能とその賜である能力をもって働くにちがいない。

モナ10,26,この権能とこの賜である能力を絶やして死ぬ者は、罪があるまま死んで神の王国に救われないから禍である。私がこのように言うのはキリストの御言葉通りである。決して偽りではない。

モナ10,27,私はこれらの事をあなたたちが忘れないようにすすめる。なぜならば、あなたたちが神の法廷で私と逢う時が速に来て、その時主なる神が“この人の書きしわが言葉は、われが墓の中より叫ぶ者、または土の中ゆおり声を出して語る者と同じくこれを汝らに宣べ伝えしに

モナ10,27-1,とあなたたちに仰せになるので、あなたたちは今私が偽を言っているのではないことが解るからである。

モナ10,28,ごらん、私がこれらのことを話すのは予言が成就して事実となるために言うのである。またこの予言は永遠の神の口から出て神の御言葉は代々にひびきわたるにちがいない。

モナ10,29,さらに神は私の書いたことが真実であることを確にあなたたちに証明したもう。

モナ10,30,さて私はさらにあなたたちにすすめる。あなたたちはキリストの御許へ来て一切の善い賜物をつかめ。悪いたまものまたは汚れたものにかかわってはならない。

モナ10,31,エルサレムよ、目を覚して塵の中から立ち上れ。シオンの娘よ、汝は再び散り乱れないよう、また永遠の御父がイスラエルの家に立てたもうた誓約が果されるよう、その美しい衣を着、そのくいを強くし、またとこしえにその界を広くせよ。

モナ10,32,キリストの御許に来てキリストによって全くなれ。すべて神のみこころに背くことを捨てよ。もしこのようにして勢いと心と力とをつくして神を愛するならば、神があなたたちに与えたもう恵みが充分ならばあなたたちはこの恵みを受けてキリストにより全くなる。もし

モナ10,32-1,受けキリストにより全くなるならば、決して神の能力と権能とを否定することができない。

モナ10,33,もしあなたたちが神の恵みを受けキリストにより完全な者となって、神の能力と権能とを否定せぬならば、神の恩恵を蒙りキリストにより聖められ、御父の誓約の中にあること、すなわちキリストが血を流したもうことによりあなたたちは罪を赦しを受けて汚れを除かれ

モナ10,34,さらば、すべての人たちよ。私はじきに行って私の霊と私の体とが再び相合するまで神のパラダイスで安息に就く。私は勝利を得て空を飛んで来て、生きている者と死んでいる者との永遠の裁判官である偉大なエホバの楽しい法廷であなたたちに逢う。 アーメン。